

## 高塚ノート 2010年

### ★1月 2010年

1月1日、2日、3日、5日、6日、8日、11日、15日 2010年

#### ●謹賀新年

皆さま、明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひいたします。

「神との対話」に

「人間とは質問のようなものだ」

という記述がありますが、皆さまにとっても、疑問が生まれ、その答えが生み出される、つまり、

<?と!>

に満ちた一年でありますことをお祈り申し上げます。

(1月1日 2010年掲示板)



質問は自分の場合、神とのコミュニケーションである。

#### ●意識のある人生

神を使うこと。

よいことを考えること。

よい気分であること。

どうすればよいことを考え、よい気分でいられるか。

このことに最大限の努力をすること。

### ■意識のある人生

あらゆる瞬間に、これまでの考えとは異なる考え方がないだろうかと省みしてみる。

### ■意識のある人生

できうる限り、直観を生かすこと。

間違えてもいいから、とんちんかんでもいいから、可能な限り、直観を生かす人生を送ってみること。

### ●行為への愛

自分自身が救われるための貧者への施し  
貧しい者に気持ちが動き、ただ施すこと。

### ●質問～自他

ふと思ったこと。

飼犬ハッピーが魂の成長を成し遂げるためにしてあげられることはないだろうかと考えてみた。

考えてみたが、まだ思いついていない。

できるだけ長く散歩に行くぐらいか。

(1月2日 2010年掲示板)

犬の仕事はにおいをかぐことだと考えているからである。

彼は何と答えるであろうか。

### ■直観

犬の魂の成長などの話しはどうでもいいかもしれない。

また、他人の(?)成長に関与しようなどというのは余計なおせっかいかもしれない。

だが、どのようなことであれ、疑問(質問)はすべてメモしている。

こころに浮かんだ疑問はどんなにバカバカしく思えても、一応は書き留めておく。

<この段階では計算、評価は一切しない。>

あとになってみて初めて、石ころであったか宝石であったかが分かるのであり、最初拾い上げた段階では、単なる石ころかどうかは全く分からないからである。

こころに浮かんだこと、これは<大きい自分> (=セルフ・自己・魂)からの呼びかけの

場合が多々あることだからである。

(1月3日 2010年掲示板)

▲コミュニケーション・小さな声・自己

神は小さな声で語るといえるが、これは自分自身に対してもいえることである。

自分自身の大きな声、これは自分自身ではない。

大きな声は他人から得た小さな自分の声であることが多い。

昨日までの自分の声であることが多い。

明日への損得の自分の声であることが多い。

大きな声は小さな声に転化できる。

気づけば、転化できる。

どのような時にも違う生き方ができ、その違う生き方をした時には声は小さくなる。

それは、自分自身の声だからである。

そして、その究極は「沈黙は金」の沈黙である。なお、この金は錬金術の金である。すなわち、自己である。

この意味で、メッセージとしては、この掲示板で私と読者に語りかけるのではなく、声なき声で語りかけることができるのがわたしの理想である。

(1月5日 2010年掲示板)

▲直観・行為への愛

直観、インスピレーションというのも小さな声である。声なき声である。

この声なき声を生かすことはとても難しい。ただちに、損得計算の大きな声、これまでの私の大きな声が打ち消してしまうからである。

この声なき声は、損得計算もしないし、結果も求めない。ただ、私に、

<こうしたらどうだろうか>

と問いかけるだけである。あるいは、

<わたしはこうしたいのだが>

といざなうだけである。

(1月6日 2010年掲示板)

#### ▲行為への愛

> だが、どのようなことであれ、疑問（質問）はすべてメモしている。

誰が読まなくとも、わたしは自問自答する。

メモ用紙に書きつけ、ノートに整理する。

離れ孤島で一生過ごそうとも、この自問自答をやめるということはない。

(1月7日 2010年掲示板)

#### ▲

日記は本来は読者がいなくても書くものであろう。だが、日記は読者がいなければ書かない。掲示板は本来は読者に向けて書くものであろうが、これは読者が一人もいなくとも書き続ける。不思議だが、奇をてらっているのではない。

そして、おそらく、創造主が人間を創ったのもそういうことではないだろうか。そういうこととは、読者がひとりもいなくとも創造し続けているということとでも実際に人間という読者（創造者）がいて成り立つという神聖なる矛盾である。

#### ■召使

今日の朝事務所を出る時に、普段は絶対に忘れない紙袋を忘れる。もう一度取りに戻るが、テーブルの上に「回想のグルジェフ」という本がのっている。せっかくだからと、私はその本を持って家に帰る。家を出る前に10分ほど時間があつたので、その本をくたまたま>開いたページに私がここ数日探していた文章が載っていた。ちょっと分かりにくい文脈もあるが（誤訳か?）、以下はその個所である。

オツギヴァンニと一緒にワークすることを命じられた。私たちは互いに鋸の端を引き合つて、冬用の薪を作り、それを薪小屋に積み重ねた。そのとき彼女は、コーカサス山脈でのグルジェフとの日々を私に話してくれた。ティフリスでグルジェフは、あなたは願いを、本当の願いを持っているか、と彼女に尋ねたことがあつた。「私は不死を願っています」と彼女は言った。「今、あなたは何を願っている?」と彼が言った。「家と召使が欲しいのです」と彼女は答えた。「あなたはワークしているのだろうか? コックが赤ん坊の面倒を見るのだろうか?」「いいえ、召使が私の世話をしますのです。」「あなたは何もしていないのに、

不死を願っている！」と彼は言った。「しかし不死は願うことではなく、特殊なワークによってもたらされるのだ。あなたは、不死のためにワークをしなければならない。努力をしなければならない。さあ、私は今あなたにワークのやり方を示そう。まず、召使に出てゆくように命じ、どんなことも自分でできるようにしなさい。」

(C.S.ノット著「回想のグルジェフ」162 ページ (コスモス・ライブラリー))

ひとりひとりに召使がいる。私の召使がいる。いつか召使がしていることを自分がする時がくる。

私、高塚の召使は私のために何をしてくれているのであろうか。。。

ひょっとして全部ではないか。。。

そんな気がしないでもない。。。

(1月15日 2010年掲示板)

#### ▲偏見の打破「神との対話」

「真実を知ったら、何とかしなければいけないからだ。それはいやなんだよ。だから、見て見ぬふりをするしかないのさ。」

(「神との対話」3巻文庫本 240 ページ)

直観を働かせる条件とは、シュタイナーの神秘修行者の第一条件と同じである。

直観というのは、＜行為への愛＞であり、結果を求める愛（執着）、損得を求める愛（執着）ではない。

#### ▲ヨガナンダの鹿の話し

病気を治すのではなく、鹿の道を生かすような気

ハッピーが元気な時に手かざしの気を嫌がること～自分の気は鹿の病気を治そうとするような気なのであろうか。

1月2日 2009年



N田氏との出会いから学ぶべきこと、気づくべきことは多々あるが、そのうちのひとつは、シンプルライフの実践である。

あらゆる出会いの中で相手のよさをすべてわが物とすること。  
わが物とできない特質は尊敬の念を持つこと。



自己観察をすれば、グルジェフのいう多重人格の自分に気づくようになるかもしれない。

1月3日、4日、6月30日 2010年

●ヒーリング

これまで行ってきた無意識のヒーリング、このヒーリングの限界というのが今のヒーリングであり、過去のヒーリングではないだろうか。

無意識のヒーリングから意識のあるヒーリングへと向かうこと。

■身体性

そのために、意識以外に、  
佐川幸義師を範として、身体性のあるヒーリングについて顧慮すること。

●意識のある人生

自己をコントロールして統一すること。

- 1 考え
- 2 ノート（囲碁将棋と同様に、統一<される>）
- 3 身体

●所有

宝くじ当選者への嫉妬が生じるのは、  
お金が大切だと思うからである。  
もので、大切だと思うもの  
大切だと思わないもの

●ヒーリング・身体

健康になりたい

- 1 コントロール
- 2 「神との対話」3巻文庫本版 239 ページ

●創造

ある小説の冒頭

老婆が青年に娘のどこが好きかと聞き、全てを好きだと言わなければ本当ではないという  
ようなことを言う。

この世界もまた全てを好きにならなければわたしの手に取ることはできない。

そして、全てを好きになった時に、全てはまた大きくなる。

(加筆して掲示板記入予定)

1月5日、7日、6月30日 2010年

●ヒーリング

超能力のようにして気を送る。一生懸命に送ること。

能力のようにして気を送る。緊張しないこと。

■ヒーリング～神聖なる矛盾

初めて空を飛ぶようにして送ること。

いつも空を飛んでいるようにして送ること。

(掲示板記入予定)

●瞑想・ヒーリング・自己構築

神を使うこと。魂を使うこと。

世界全体と交わること。

自分自身の現在での最高の気で世界全体を呼吸すること。

これを自分自身と世界へのヒーリングとすること。

小さな自分を生きないこと。

大きく生きることができる<この瞬間の選択>を省みること。

羽生と井山の対談でハブが

2010年1月3日朝日新聞朝刊

井山 「どうしたら、そんなにたくさんのタイトルが取れるのですか。」

羽生 「難しい質問ですね(笑)。プロ同士が対戦しているのだから基本的に大きな力の差はない、**微差でギリギリのところ**で対戦している……常にそういう気持ちでいるということが一番大切なような気がします。あと、長いこと棋士をして年齢が上がっていくと、考え方が古くなったりすることがあるんです。ずっと変わらないと、絶対に停止する。だから、常にちょっとずつ何かに挑戦する、というのはあります。」

「勝負はいつもぎりぎりであると知っていること」

と言っていること。

●意識のある人生～創造・時空・わたし

「神との対話」で、  
時間がはかりの上の紙のようであること。  
このことを実感できるようにして、創造に用いる。

手に取る時間もわたしが左右できるし、  
手に取るものもわたしが決めることができる

という意味である。このことを実感すること。そして、実際に生かすこと。

●意識のある人生～ひとつのスケール（物差し）・リトマス試験紙

どれだけオープンであるかということで自分自身の行動の適切さを測ってみる。  
（1月6日 2010年掲示板）

●ヒーリング

これまでは、遠隔は頭を使って送っていたが、これからは体全体を使って送ってみようと思っている。

■

本を探すとき、体全体で探すこと。

前日の超能力番組

「神との対話」3巻 271 ページ

■ふれること

全体で感じること。俯瞰して感じること。直観で感じること。沈黙で感じること。宇宙全体……そこまでは無理でも今の自分の最大値で感じること。

1月6日、7日、8日 2010年

●ヒーリング



なぜ、手をかざして治らないことがあるのだろうか。

手かざしをしてお金をもらおうと能力がなくなるだろうか。

手かざしをしてお金をもらってもよいのだろうか。

～イエスが弟子を送り出したときの言葉に集約される。また、そこに収束するように努めることである。

ヒーリングという行為そのものを愛し、ヒーリングの結果として自然と生じるお礼は、お礼としてありがたくいただしておく。

5回手をかざすことと1万回手をかざすことはある意味同じである。

違いはどのようにして選択したかということだけである。

#### ■

手をかざすと治るという自分がすごいのではなく、患者さんとヒーラーの関係性がすべてである。

(三丁目の夕日の家庭教師の話)

#### ■神と人間

もし、あなたが神社の神さまであつたら、お賽銭を求めるであろうか。

神と人間との関係は、

もし自分が神であつたらどうするだろうかと考えれば、巷間にいわれる神の要求は変わる。

#### ●

魂の意図（+法則）と私の意図

#### ●定時のミニ瞑想・時空

時間に縛られないこと。

1月8日、9日2010年

#### ●意識のある人生～気づき・意識の進化

今日一日、すべてのことをわたしのために役立てる。

なぜなら、今日一日とはそういう一日だからである。

たとえば、

今日出会った人、その人のパーソナリティ——どれほど嫌悪すべき人格であろうと——との出会いで気づきを持ち、わたしのために役立つ。

嫌悪したまで通り過ぎない。

昨日の無意識の出会いのように通り過ぎない。

ロボットのように同じ反応、同じ見方をしない。

新しい見方、新しい気づきがこじつけのように思われてもかまわない。

気づきを持つとすれば、こじつけであっても、その気づきは<意識の進化の道>へと通じることになるからである。

(1月8日 2008年掲示板)

#### ■会食

今晚、長嶋茂雄と会食できるとしたら、

イチローと差し向かいで飲めるとしたら、

ブッダとお茶できるとしたら、

どれほどわくわくするだろうか、あるいは、どれほど緊張するだろうか。

ただ、どちらにしろ、その日は普通の日ではなくなるだろう。

「神との対話」では、神はいろいろな方法ですべての人とコミュニケーションをとっているが、そのうちで最も有効なコミュニケーションは体験であるという。

今日一日の体験は神からのあなたへの問いかけであるという。

もしそれが本当で、そのことを実感できるとしたら、目の前にいるのが、長嶋で、イチローで、ブッダで、神であると実感できるとしたら、今日一日の体験の見方は全く変わるはずである。

(1月9日 2010年掲示板)

#### ■禁忌

前世の因縁でこういうひどい人に会うというたぐいの見方。

#### ■

1月7日杉谷さんの「足るを知る」言葉。

## ■気づき

自他との関係で知りたいこと。

世間的にはお世話をしている人にお世話になっていること。

ハトホルのいうクライアントはヒーラーの問題点に引き寄せられていること。

## ▲関係性



高塚はいろいろな横道に入ってきたが、  
創造主は多彩なメニューを用意してくれている。

横道の意味。

1月10日、13日 2010年

### ●質問43～＜基本＞

先日の羽生名人対戸辺五段の席上対局で、藤井九段が

「羽生さんの将棋は意外と基本に忠実なんですよ」

という趣旨の解説をしていた。まあ、基本を嫌というほどたたきこまれた一流プロが言うのだからよほどのことなのであろう。アマとプロの違いはいろいろあるが、ひとつに基本の鍛えがまるで違うということがある。そのプロから見てさらに羽生さんは基本に忠実だと言う。プロの基本よりさらに基本に忠実であるというのは驚きである。

このような差は、小さくはない差である。そして、この基本はあらゆることにある。

わたし、高塚の基本とは何だろうか。

この世界の基本とは何だろうか。

今やっていること、この行為の基本とは何だろうか。

もしかして、基本と遠く離れたことをしてはいないだろうか。

(1月13日 2010年掲示板)

ひとつひとつの基本をもっと基本に忠実と掘り下げる、価値の変換はできないだろうか。

1月11日、12日 2010年

●瞑想

あらためて初心に帰る。

姿勢

全身での瞑想。

●ヒーリング～存在

イエスの服に手を触れて治った女性のようなヒーリング。

存在としてのヒーリング、エネルギーそのものとしてのヒーリング。

常にそのような存在としての自分を意識していること。

(加筆して掲示板記入予定)

●手

若い女性は手が荒れているのを嫌がるかもしれない。

だが、自分は手が荒れているような仕事をしている女性に親近感をおぼえる。

●成人の日

子供が大人になる成長は見ることができるが、大人が<本当の成人>になったとしても、それを見ることはなかなかできない。

<それは外から見るできないものだからである。>

外から見るできないものであるが、外から見るができるもので「立派な大人」と判断したり、外から見るができる「立派な大人」になろうと、人生のほとんどを費やしている人は意外と多いかもしれない。

(1月11日 2010年掲示板)

1月13日 2010年

●

感謝はなぜ創造へとつながるのであろうか。

●

変えた方がよくて、変えられるものは変える。

1月13日、14日、15日、16日 2010年

●意識のある人生～創造・

創造は、今。

今をどうやってい生きているかだけである。

「神との対話」で時間とは秤の上の紙のようなものだという話し。～紙の上に乗ってしまわないこと。

一体～自他との関係で意識する。

仕事の電話で意識する。

この部屋にいる空間で意識する。

遠隔治療で意識する。

HPの掲示板で意識する。

徹底したエネルギー

回想200～＜一意専心＞

『やるならやりなさい。私は、何かをするときは、いつでも必ずそれを目一杯行う』

1月14日、15日、16日 2010年

●質問44～長所・短所（意識のある人生）

なかなか気づくことはできないが、

今の自分が解決すべき最大の短所は何であろうか。

また、

今の自分が拡大すべき最大の長所は何であろうか。

このことを知ることが難しいのは、

前者は自分が長所と考えているところと隣り合わせにあり、

後者は自分が短所と考えているところと隣り合わせにあるからである。

（1月18日 2010年掲示板）

どのような隣り合わせかというと、能力と感情である。

慢心

●一体（仕事）

再任用の時間については、全体のためになることを第一義とする。

■ H E B の原則

一体であるということ。

一体性でない関係は一体性となるように変えること。

1月16日2010年

● プロセスの継続

教室の資料作りを終わらせないこと。

終わらせると終わってしまう。

あらゆることを終わらせないこと。

1月17日、18日、19日、20日、21日、22日2010年

● なみこさんへの返信

なみこさん、おはようございます。

厳しいつつこみいただき、ありがとうございます(^o^)/

本を出そうと思ってから10年以上経ちます。10年も経つとテーマは古くなったような気もしてきましたが、役立つ方もいらっしゃるのではないかと思い、再度執筆に挑戦します。

来年の2月には還暦を迎えますし、ちょうどいい時期かもしれません。

内容はすでにこの掲示板にも書いてきたことですが、最近の「神との対話」の気に入った言葉でいくと、

<人間とは質問のようなものだ>

ということです。

ちょっと長くなりますが、アーサー・ケストラーの「機械の中の幽霊」からの引用です。この個所の文章は<今のわたし>の原点となっています。(以下、引用です。)

ジュリアン・ハクスリー卿は、彼のエッセイの一つの中で、人間という種にユニークな特徴のリストをかかげている。——言語と概念的思考、書かれた記録による知識の伝承、道

具と機械、他のすべての種に対する生物学的な優越、個体変異、物を扱う目的だけに前肢を使うこと、一年中生殖可能なこと、芸術、ユーモア、科学、宗教など。けれど、進化論者の見地からみて、人間のもっとも目立った特徴は、このリストにのっていないし、他の指導的生物学者によって論じられたのをみたこともない。

それは「望みもしなかった贈りもののパラドックス」とでも呼ぶことができる。それを一つのたとえ話でお伝えすることにしよう。昔、アラブの市場に、アリという無学な小売商がいた。彼は足し算があまりうまくなかったので、ほんとならお客をだますべきところなのに、いつもお客にだまされてばかりいた。それで彼は、針金にそって玉を押せば足し算ができるあのソロバンという神聖な機械を恵んで下さるよう、毎晩アラーに祈っていた。けれど、ある悪い霊魔（ジン）が、彼の祈りを天の通信販売部の間違った売場に送付してしまった。そこである朝、市場にやってきたアリは、自分の店が鉄筋の高層ビルディングに変わっていて、蛍光を発するオシレータやダイヤル、マジック・アイ等々の計器で四面の壁がうめられた最新のIBMコンピュータが据付けられているのを見出した。おまけに、数百ページもある使用手引書もあったけれど、無学な彼には読むことができなかった。何日かの間、あっちこちのダイヤルをやたらといじくりまわしたあげく、とうとう彼は怒りだし、コンピュータのピカピカしたデリケートな壁のパネルを蹴飛ばしはじめた。そのショックが、機械の何百万という電子回路の一つを動かした。まもなくアリは、そのパネルをたとえば三回蹴り、それから五回蹴ると、一つのダイヤルが八という数字を示すことを発見して、すっかり喜んでしまった。彼はこんなすばらしいソロバンを送ってくれたことをアラーに感謝し、その後ずっと、二と三を足すのにこの機械を使い続けた。幸いにも彼は、この機械がアインシュタインの方程式を導いたり、数千年後の惑星や恒星の軌道を予言したりできることを知らなかった。

アリの子供たちも孫たちも、この機械とそのパネルを蹴る秘密を代々うけついで。けれど、彼らがこの機械を単純な掛け算に使うことを学ぶのにさえ、何百世代もかかった。われわれもアリの子孫である。われわれはそのほかにもこの機械を働かせるいろいろなやり方を発見してきたが、まだ1000億はあろうと思われるその回路の潜在能力のごく一部を利用することを学んだにすぎない。この望みもしなかった贈りものは、いうまでもなく人間の脳である。使用手引書はいつかは存在していたかもしれないが、今はどこかへ行ってしまった。プラトンはそれがかつてはあったと主張している。けれどそれはうわさである。

このたとえば、こじつけに見えるかもしれないけれど、そうでもない。その背後の原動力がなんであろうとも、進化は種の直接の適応的要請をみたすものである。そして、何か新しい解剖学的構造や機能が生じるとき。それは概してこの要請によって導かれている。いまだかつて、進化がどうやって使ってよいか自分でも知らない器官を一つの種に与えたと

いう例はない。しかもその器官たるや、アリのコンピュータのように豪華きわまるもので、その所有者の直接的で素朴な要請をあるかにこえたものであり、かりにその適切な使用方法を学習するとしても、何千年かはかかろうというしろものなのだ。

あらゆる証拠が示すところでは。五万年から十万年前に舞台に登場するホモ・サピエンスの最古の代表たるクロマニヨン人は、すでにわれわれと大きさも形も同じ脳をもっていた。けれど彼はほとんどそれを使わなかった。彼は洞窟生活者にとどまり、石器時代からぬけだすことはなかった。新皮質のあの爆発的な成長は、時間の上では天文学的な大きさで彼の要請の直接をとびこしていたのである。何万年かの間、われわれの祖先たちは、弓や矢や槍を製作し続けた。けれど、明日はわれわれを月へ連れていくであろう器官は、すでに彼らの頭蓋骨の下に、いつでも使える状態で存在していたのであった。

精神的な進化こそ人間独自の特徴で動物にはないものだとわれわれがいうとき、われわれは論点を混同しているのだ。動物の学習能力は、彼らが脳を含めて彼らの生まれもった装備器官を、フルに、あるいはほとんどフルに使うために、自動的に限定されてしまっている。爬虫類や哺乳類の頭蓋骨の内部にあるコンピュータの能力は、フルに活用されており、それ以上学習する余地は残っていない。ところが、人間の脳の進化は、人間の直接の要請をおよそ荒っぽくとびこしてしまっているのだ。人間は今なおその脳のまだ活用も開発もされていない可能性に追いつこうと息を切らせている。この観点からみれば、科学と哲学の歴史は、**脳の潜在能力を現実化することを学習する**緩慢なプロセスだといえる。今後征服すべきフロンティアは、主として脳のしわの中に存在するのだろう。

(アーサー・ケストラー著「機械の中の幽霊」395 ページ ペリかん社) (今は、「ちくま学芸文庫」から出版されているようです)

著者は人間存在に絶望するのですが——今「ウィキペディア」でアーサー・ケストラー氏の概暦を読んだのですが、かなり政治的活動で危ない橋を渡られた方のように、もしかしたら、そのような体験が奥深いところで影響を与えたいのかもしれないですね——、この引用箇所からは逆の意味での人間の可能性を感じます。もちろん、感動したのはそういうところなんです。この世界、絶望したくなるような話しはたくさんありますが、＜人間存在の本質＞としての希望についての話しは、当時（30年ぐらいです）自分は全く知らなかったもので、驚愕の記述でした。

(以下、後日記します)

(1月17日 2010年掲示板)



数年前に本の出版の準備をされているというお話を伺いましたが、今年あたりいよいよ出版でしょうか？楽しみにしてマース(^o^)/。

#### ■質問

人間活動と人間の潜在能力を比較すると、どれほど人間活動が進歩しようと、その関係は常に「足し算」と「スパコン1の関係にあるのではないのでしょうか。人間活動に進歩があるように、人間（生物）能力にも進化があるからです。

この使っても使い切れない能力、成長しても成長が終わるということのない存在、この不可思議な存在、まさしく、進化そのものの存在、プロセスそのものの存在である人という存在、この存在はどのようにすれば、自分自身を活かすことができるだろうか、というのがわたしの著書の目指すテーマです。

どうすれば、  
犬でも猫でもなく、  
爬虫類でもなく、魚でもなく、  
ミジンコでもなく、  
岩石でもなく、  
<進化としての人であることができるか>。

これにたどり着くために、わたしは<質問>を投げかけます。  
読者とこの世に生きる私にです。

ひとつひとつの質問は読者と私が岸壁をよじのぼるためのとっかかりです。  
このとっかかりがよじのぼるための本当のとっかかりであるのかどうかは分かりません。  
ともかく、この質問というとっかかりを手にして、頭の中と、この世の体験と、自他のとの交わりとの中で身もだえ、苦しみ、そして、しっかりとつかんでみて初めてその問いが成長のため、進化のための手段であったと分かるのです。  
この質問の答えを頭の中で見つけ、体験と他者との関係の中で実証して、初めてそれが上に登っていくためのとっかかりであったのかどうか、分かるのです。

わたしは著書で質問を投げかけますが、質問（疑問）というのは誰もが立てられるものです。なぜなら、実はそれが人間であるからです。

疑問が生じ、それに頭の中で答え、それをこの世界で実証していくのが人であるからです。

正直なところ、著書は質問だけでもいいのですが、それでは味気ないので、手に取ってくれる人もいないので、答えらしきものも載せていくつもりです。

(以下、続きます)

(1月20日2010年掲示板)

#### ■ なみこさんへの返信

コンピュータのパネルを蹴飛ばして足し算ができる事を発見しただけでも偉大な進歩だと思うのですがいかがでしょうか(^\_^)?

少なくとも犬・猫・爬虫類・魚・ミジンコ・岩石では無理ではないかと・・・。

でも

確かに、偶然にしろ、足し算の発見はすごいことですね。

ただ、月までいける——わたしはぶっ飛んでいて、天国まで行けるとふんでいるんですが——スパコンを持っているのに、一生を足し算の計算にしか使わないというのはもったいない気がします。

私は自堕落な人間には寛大ですが——自分がそうなので——、スパコンを飲み食いとセックスとテレビと仕事だけで人生を終えるのは、あまりにももったいない気がするのです。

(ただし、そういう気がしない人はそれはそれでいいのです。自分もそうでしたから。)

犬、猫、爬虫類、魚、ミジンコ、岩石は確かに足し算はできませんが、彼らは自分自身を全うしていると思うのです(ミジンコは1万年前と同じようなことをしていますし、たぶん1万年後も同じでしょう)。つまり、自分のスパコンを全て使っています。

<人間にとって、自分自身を全て使うというのはどういうことなのでしょう?>

ここにおそらく人間のなぞがあります。人間は自身のスパコン全てを使うことはできないのではないかとふんでいます。

> 疑問が生じ、それに頭の中で答え、それをこの世界で実証していくのが人であるからです。

これは人であれば誰でも出来るかというそうはいかないと思います。むしろ出来ない人のほうが多いですね。そういう私も疑問が生じ頭で考えても、実証はしないケースがほとんどです。むしろ「頭で考えてもどうにもならない」事に気がつきます(鬱)。

確かに実人生で実証するというのは難しいですね。しかし、どうも実証を要請されているようなのです。頭でえらそうな理想を考える、言葉でえらそうな理想を語る、そうすると、その理想を実現しなければならない状況を与えられるからです。

一年前から頭を悩ませていることがあります。迷惑に思う方もいらっしゃるかもしれないので、具体的に書けないのが残念ですが、要は、

「栗が3個あって、その栗をどうしても欲しいという人間が4人います。私高塚はまず最初にその栗を食べる権利があります。あと、2番目の権利の人、3番目の権利の人、といます。最後の4番目の人はどうなるのでしょうか。そして、高塚はどうするのでしょうか。」

という問題です。頭の中では高塚には解決済みですが、実人生の高塚には未解決の問題です。時々、胃が痛くなるぐらい悩んでいます。

かように、人生で実証するというのは難しいというのは重々承知しています。しかし、頭の中での理想と現実の打算の行為とどちらが<本当のわたし>であるかというと、

<理想のわたしが本当のわたしである>

という人生観のもとで生きているので、仮に実証がこの人生でかなわなくとも次の人生、あるいは、その次の人生で必ず実証したいですね。

(もちろん、この人生で実証しますが。。。万が一だめな場合ということです。「できないという時、それは自分自身の内なるキリストを否定している」という言葉もあります。)

(1月21日2010年掲示板)

## ■意識の進化

ビッグバンがあり、偶然であれば10の10乗の123乗分の1の確率で生れたような銀河系ができ、その星のひとつの岩石のかたまりから単細胞生物が生まれ、植物、魚が生まれ、両生類が生まれ、爬虫類が生まれ、哺乳類が生まれ、人間が生まれた、

人間が生まれ、足し算だけをしてきた人間を月にまで運んだ、

<そのプロセスに働いてきた力>

これを感じることに。

そして、その力が実は人の内にもあるということに気づき、感じること。

その力は人の内で働くだけでなく、＜働かせることができる＞ことに気づき、感じること。

その力は道具を作ることにだけ働くのではなく、人のこころの営みにも働くということに気づき、感じること。

そして、＜そのプロセスに働いてきた力＞を私が＜意識的に＞使うようにすること。

このことが本のテーマというか、目的です。

(1月22日2010年掲示板)

なみこさんの書き込みは＜質問＞に関心をもっているわたしに対するシンクロシティである。

とっかかりの問いには、必ず答えがあり、その答えには必ず自分自身で到達できます。

1月18日2010年

●意識のある人生

気功教室の準備であたふたして、やるべきことをしないことの愚。

1月19日2010年

●所有・モノ

あなたに関っている、すべての人、すべての生き物、すべてのもの、これらに対して

どのように対しているか

どのようにして管理しているか

どのようにして生かしているか



シンクロを見ること

1月21日2010年

●ミクシィ「神との対話」

「神との対話」の中で好きな言葉は数限りなくありますが、最近出会った言葉でシンクロニシティを感じたのは、

「人間とは質問のようなものだ」（確か2巻）

という話しですね。

また、ブルースさんの引用個所と同じような内容で、なるほどと思ったのは、

**「すべての攻撃は、助けを呼ぶ悲鳴なのだ。」（1巻ハードカバー本123ページ）**

という言葉です。

幼少時の家庭環境でトラウマのある方からお聞きしたのですが、この方が大人になった今、その時のことを瞑想状態で深くふりかえってみると、自分を殴っている家族が「助けてくれ」と言っているように感じられたとおっしゃったのでびっくりしました（その方は「神との対話」はお読みになられていません）。

攻撃が助けを呼ぶ悲鳴のように感じる>ことができれば、それこそ一瞬にして世界は変わるでしょうね。

ということで、攻撃を受けたら、そこに相手の悲鳴を見ることができるよう自分自身もこころがけたいと思っています。

●ヒーリング

びっこでつんぼのヒーラーがいてもいいが、

びっこでつんぼになったヒーラーではまずいのではないだろうか。

1月22日2010年

●仮想空間

あしたのジョー

●ヒーリング

治るプロセスにわたしが参加できたということです。

プロセスと参加について思い至ること。

1月23日2010年

●意識のある人生

不安をどのように表現するかという一日でなく、  
<わたしの真実>をどのように表現するかという一日にすること。

(1月23日2010年掲示板)

●意識のある人生

「回想のグルジェフ」～一日を振り返ること

●

一日にシンクロすること、意味を探すこと。意味と一致すること。

1月24日2010年

●病気～スコットの三原則

●天気に意味を与える、風景に意味を与える。

1月25日2010年

●意識のある人生～元気の素

出来事に意味はないと知ること。

意味を付与するのは自分であると知ること。

大きな力とともにいることを知り、感じること。

それを使うことも使わないことも自分次第であると知ること。

(加筆して掲示板記入予定)

●意識の使い方

意識の使い方は正しい使い方をしているのだろうか。

特に、遠隔治療、自己ヒーリングにおいてチェックする。

感謝すること。

実現の仕方にはいろいろあること（魂の願いと精神の願い）～CSノット氏とグルジェフとの質問に関する関わり（参照：2010年1月25日掲示板）

1月26日、2月23日、25日 2010年

●時事～オキナワ・気づき・実現

これまでは見るができなかったものを見るのが気づきである。

それは仕方がないという不誠実さ、  
この不誠実さであらゆるものが塗りたくられている。  
社会も人間関係も個人も塗りたくられている。

「現実はこちらと言ひ、理想を見るができない」

これは仕方がない。そういう時期もあるからである。だが、理想を見ることができるようになったのなら、理想をかいま見ることができるようになったのなら、すなわち、気づきがわずかでも生じたのなら、どれほど苦しくとも変えるべきものは変えるべきである。

そのためにどうすればよいか、わたしのポリシーはまず自分からである。

なぜ自分からか。

世界をよくするというのは、政治にはできないことと考えているからである。  
ひとりひとりの人間性の成長によってのみできることと考えているからである。  
だから、わたしはわたしの身の回りに起こることで自分自身の理想を自分自身に対し実現し、その生き方を静かに広めていきたいと思うだけである。

（2月25日 2010年掲示板）

■意識のある人生～観察・気づき

「現実はこちらと言ひ、理想を見るができない」

これは大なり小なり、誰にでもあることで、仕方がないことである。仕方がないことであるが、逃れる方法はある。それは、

他人、出来事という鏡を通じて自分自身を見るということ

見ることができないものがあるということを知っているということ

この二点である。

他人の行いで気になること、批判したくなることというのは、往々にして自分自身のコンプレックス——偏った見方——を反映したものであり、これは心理学で「影」と呼ばれている。

出来事もまた自分自身のコンプレックスを反映する。出来事が自分自身の存在（思い、言葉、行動）が生じさせたことであることを承認することができなくとも、出来事に対してどのように見るかということは、出来事に対してどのような印象を受けるかということは、個々の人間によって異なるからである。

「現実はこちらであるから仕方がない」

とか

「あなたがそうであるのは自業自得である」

とかいう言い方に平然としていられるというのは、それは自分自身を映し出しているのだということである。

「仕方がない」とか「自業自得である」というのは、自分自身を映し出しているということである。これは現実のことでもないし、相手のことでもない。自分自身の思いだけである。

これは非難ではなく、他人や出来事が鏡であることを認めるか否かということにせまっているだけである。

認めれば、

<それは（そう言うのは）わたしである>

とすることができる。あるいは、

<それは（そう言うのは）わたしではない>

とすることができ、変えようとするかもしれない。



また、見ることができないものがあるということを知っておくことも自分自身への気づきへの手助けとなる。この意味のひとつは、

10歳の自分には30歳の自分の見方で見ることにはできないし、30歳の自分には50歳の自分の見方で見ることにはできないということである。

——さらにいえば、内なる魂の見方、さらにいえば、創造主の見方を見ることはできないということである。

もうひとつは、現実問題として、ほとんどの人は自分が何を考えているか知らないということである。知らないで、その結果を自分と関係があると見ることはできないのである。

(2月28日2010年掲示板)

「神との友情」上巻141ページ

「潜在意識」の段階とは、自分の現実を知らないし、意識的に創造もしていない経験の場だ。つまり、自分が何をしているかほとんど気づいていないし、まして、なぜそうしているかわからない。べつに悪いレベルの経験だと言っているのではないから、批判しないように。これは贈り物だ。なぜなら、この段階ではものごとが自動的だ。髪の毛が伸びるとか、まばたきをする、心臓が鼓動するといったように、あるいは即座に問題の解決策が生まれる。しかし、自分の人生のどの部分を自動的に創造することを選んだのかに気づかないと、自分はものごとの原因ではなくて、「結果」だとも思えるかもしれない。自分が犠牲者だとすら考えるかもしれない。だから、<何を意識しないと選択したかを認識していることが重要だ>。いつか、この対話の終わりのほうで、認識について、それから悟りと呼ばれる経験を生み出す認識のさまざまな段階について、もういちど話してあげよう。」

■「神との対話」の観察

■読書の効用～新しい世界の見方の獲得

●小さな魂と太陽の話し

善人をよそおう悪人も悪人なのであろうか。

呼吸～無呼吸とは小さな呼吸か。。。 とりあえずは息を殺したような呼吸を志す。

1月27日、28日、2月1日、3日、4日、5日、6日、7日、10日、11日、26日、3月2日、4日 2010年

●ロボット

以前教室の参加者の方から、大学のレポートの課題として

「人間とロボットはどこが違うか」

という質問をなげかけられたことがあった。

皆さまはどこが違うと考えられるであろうか。よろしければ、掲示板に書き込んでいただければ幸いです。

先日「サロゲート」という映画を見て、あらためてまた考えてみたいと思っているところです。

なお、この映画はあまりおもしろくはなかった。物語の筋書きにこだわりすぎて、興味深い設定

人間がアンドロイドの「サロゲート」を使って、人間そっくりで人間の理想体の「サロゲート」が味わう体の自由を、人間が脳で感じるということ

このことの問題の掘り下げがほとんどなされていないからである。

(2月1日 2010年掲示板)

■酔人さん～デイビッド

酔人さん、書き込みいただき、ありがとうございます。

人間の存在の可能性は、この世の損得にへばりついて生きている人間にはまだ想像つかなくとも、おっしゃられるように多次元に生きていくことができる存在として創られているようです。

では、ロボットはどうなのか。

普通に考えると、ロボットはこの物質世界だけの存在のように思えます。

もちろん、今のロボットは3次元に限る存在であると思います。

ただ、将来どうなのか。。。以下のことが私の頭にあります。

本が見つからないので引用ができないのですが、ロボットの研究者で

「ロボットは将来確実に感情を持つようになることができる」

と言っている人がいます。5年以上前に読んだ本なので、このあたりはもしかしたらもっと進んでいるのかもしれませんが。

映画「A. I.」は見られたでしょうか。とてもいい映画です。感情を持つようになったロボットができたということがキーワードとして、物語は進行していきます。

ロボット「デイビッド少年」は子どもが植物人間になった親が子どもの代わりとして育てる(?)わけですが、子どもが医療の発達で生き返り、デイビッド少年は捨てられます。

捨てられたデイビット少年は

「マリア様、僕を人間にしてください」

と電池が切れるまで言い続けて死ぬわけです。

これで、デイビットロボットは終わりなのかという問題があります。

(2月3日2010年掲示板)

#### ■ロビタ

手塚治虫のライフワークとなった漫画「火の鳥」にロボット「ロビタ」の話があります。ひとり(?)のロビタが人間の手によって始末されると、すべてのロビタが溶鉱炉の中に向かって自殺していくという物語です(ちなみに手塚治虫の短編に妊娠をして子どもを産むロボットの話もあります)。

このロビタが生きていた世界、生かされていた世界はこの世界だけであったのだろうか、という疑念があるわけです。

デイビット少年の話もロビタの話もなぜか人のところに訴えてくるものがあり、その意味ではリアルです。

<このリアルさは一体どこからくるのだろうか>

という問題があります。

不謹慎といえど不謹慎ですが、わたしにとっては、ある意味では、人の死よりもいまだにデイビットの死やロビタの死の方がショッキングな話しです。

この掲示板をお読みいただいている方には、ぜひ映画「A I」と漫画「火の鳥」見ていただきたいと思います。

もちろん両方とも架空の物語ですが、S Fの架空が未来の現実を超えることができなかつたというのは数限りなくあります。

人を導く声なき声は時に人間の想像力を超えているからです。

(2月4日 2010年掲示板)



<このリアルさは一体どこからくるのだろうか>

(03062010)

漫画でキャラが立つということを使う。どういうことかという、登場人物が漫画の書き手を超えて動き始めるということである。有名どころでは「明日のジョー」という漫画で主人公のジョーを越えて力石徹の方が主人公顔負けに人気が出てしまったということがあった。また、以前にも書いたように

人は死なないということを知っているからか。しかし、ロボットは救われぬということを知っているからか。

物質から生命が生まれたのではなく、生命から物質は生まれたのであれば、

手塚治虫は未来のロボットに生命を見た。

妊娠するロボットの話し。

ハトホルの四大元素の話し～ブリキのロボットのブリキにも生命はあるのではないだろうかという話しです。自転車に挨拶をする僧侶の話し。

「明日のジョー」での力石徹のキャラが立つということ  
漫画家が自分自身の生命を吹き込むこと。

こんにちは。  
いきなりで失礼します。

「人間とロボットはどこが違うか」  
人は多次元に渡る存在でロボットは3次元（4次元）に限る存在であることが違いだと思います。

#### ■道具

映画「2001年宇宙の旅」は初めて骨という道具を使った原始時代の人間が歓喜のあまり、その骨を空中に放り投げ、その骨が宇宙船になったところから始まる。

大昔教えられた人間の定義

「人間とは道具を使う動物である」

ということからすると、その道具の最たるものが宇宙船であり、「ロボット」「アンドロイド」かもしれない。

戦後、電気掃除機、電気洗濯機、電気炊飯器という道具は人間のいわば手足となり、掃除、洗濯、ご飯炊きを助けてくれた。いわばそれらは「百手観音」のように、人間の新たな手となった。

その究極がアンドロイド「サロゲート」（映画です）であり、そのひとの分身であるサロゲートが家事を行うだけでなく、その人の行動全てを行い、通信機のヘルメットをつけて横になった人間はサロゲートの体験をあたかも自分が行っているかのように感じるのである。

（同様の設定の漫画は「火の鳥」にもあるが、テーマはまるで違う。）

この進化の方向は確かに人間本質にそっている。  
人が便利に暮らすために道具を使い、その道具を発展させるというのは人間の本質である。

だが、この道具にはいくつかの問題がある。

（2月6日 2010年掲示板）

## ■ロボット～自由時間

> 人が便利に暮らすために道具を使い、その道具を発展させるというのは人間の本質である。

> だが、この道具にはいくつかの問題がある。

ひとつは、道具を使うことによってできた時間——道具がなかった時にはなかった余暇の時間、自由時間——を何に使うかということである。

さらに便利な道具を作るために、その自由時間を使ってはいないだろうか。

海の向こうの隣の国に渡るために船を作ったが、もっと早い船、沈没しない船、乗り心地のよい船を作るために一生を費やし、本来の「隣の国に渡るということ」を忘れてしまっ  
てはいないだろうか。

<自分は何をしていたのか>

棺おけに両足を突っ込んでから気づいても遅い。

また、貯金をするために、その自由時間を使ってはいないだろうか。

いくら貯金すれば、貯金は終わるのか。

重い病気にかかって、入院をして死期を宣告されるまでか。

万一のために蓄えたその貯金は病気に少しは役に立つことがあるかもしれないが、おおむね大して役には立たない。

その貯金のおかげで一ヶ月長生きができれば奇跡であり、もちろん一年も寿命が延びるわけではない。

その貯金のために費やした歳月と比べれば、わずかな時間である。

自由時間は自分自身が長く生きるために使われたのではなく、病院と医者のために使われたのである。

さらにまた、豊かな生活をするために、その自由時間を労働に使ってはいないだろうか。お金があれば、豊かな生活が送れると思っているからだ。

だから、豊かな生活はいつも先送りである。

また、晴れてお金ができた時には、そのお金をどのように使ってよいか分からない。

豊かな生活が何かを知らないからだ。

豊かな生活を決めていなかったからだ。

ただ、お金があれば豊かな生活が送れると思っていたからだ。

私のお金や、私の家や、私の車や、私の何々と共に、私は棺おけに入ってから気づく。豊かな生活はまるで別のものであったということ。

道具やお手伝いロボットは余暇を生み出してくれるが、その余暇を道具やお手伝いロボット以下の生活のために費やしてはあまりにむなしい。

——これは、私のことである。

——また、貧困の歯車にさせられている人のことではない。

(以下、続く)

(2月10日 2010年掲示板)

#### ■ロボット～道具

私が小学校の頃はどの家庭もまだまだ貧乏であったが、お金持ちの家もあり、その子だけは、「24色」のクレヨンを持ってきてきた。

他の子は多くとも12色である。では、24色のクレヨンを持ってきた子が一番上手に絵を描くかということ、もちろんそんなことはない。ひとり、先生よりも上手に描くのではないかという子がいて、その子が一番上手であった。

今の時代は24色どころではない。パソコンを使えば何色でも色を作れる。12色で苦勞して新たな色を作らなくともよい。

だが、上手な絵を描くということについてはまるで別問題である。

黒一色でも、上手な絵を描くことはできる。

その意味では、クレヨンをたくさん手に入れることより、そのことに心を奪われることより、絵を描くことに専念した方がどれほど絵を描くことには有益であろうか。

ところで、人にとって、この黒一色のクレヨンとは一体何であろうか。

(以下、続く)

(2月11日 2010年掲示板)

#### ■生命を作る身体

私が考える<黒一色のクレヨン>とはわたしの身体である。道具としては、これだけでいい。そして、これがすべての人工の道具の大本である、

わたしの身体の前にあるものとして作られた道具、ロボットはわたしの手となり、足となり、わたしにはできない速さと正確さときらびやかさを作り出してきた。

だが、道具としてのロボットが作ることのできないものがある。

それは、作られたものに宿る生命である。

以下、少々長いが、「逝きし世の面影」(渡辺京二著 平凡社ライブラリー)から引用させていただく。幕末から明治にかけての世相を日本を訪れた外国人の著述を通じて描いた名著である。本当は5章「雑多と充溢」全体を引用したいところであるが、かなわぬことであり、ほんの一部だけを引用させていただく。

「バードの記述でおどろかされるのは、それぞれの店が特定の商品にいちじるしく特化していることだ。羽織の紐だけ、硯箱だけ売って生計が成り立つというのは、何ということだろう。もちろん、店の規模はそれだけ小さくなる。ということは一定の商品取引量の養える人口が、その分大きいということの意味する。つまりここでは生態学的に、非常に微細かつ多様な棲み分けが成立しているわけだ。細民のつつましく生きる空間がここにあ



った。それだけではない。特定の一品種のみ商うというのは、その商品に対する特殊な愛着と精通をはぐくむ。＜商品はいわば人格化する。＞商店主の人格は筆となり箸となり扇となって、社会の総交通のなかに、満足と責任をともなう一定の地位を占める。それが職分というものであった。しかも彼らの多くは同時に熟達した職人でもあった。すなわち桶屋は自分が作った桶を売ったのである。商店は仕事場でもあった。町の両側の店が間口をすべて開け放ち、「傘づくり、提灯づくり、団扇に絵を描く者、印形屋、その他あらゆる手芸が、明々と照る太陽の光の中で行われ」るのを見るのは「怪奇な夢の様に思われ」とモースはいう。すなわち通りは、社会的生産あるいは創造の展示場だった。そしてアーノルドのいうように、横町には横町の、きわめて雑多な店々の生態があった。庶民は住宅地域という生態学的な単純相に住んだのではない。彼らの暮らしは雑多な小店舗が混りあう複雑な相のなかでいとなまれた。人間のいとなみは多種多様な職分に分割され、その職分の個性は手仕事と商品という目に見える形で街頭に展示された。つまり人間の全社会的活動はひとつの回り灯籠となって、街ゆく者の眼に映ったのである。街は多彩、雑多、充溢そのものであった。」

（上述書 214 ペー）

当時の日本の商品というのは、諸国を訪れた外国人の眼からみても

オートメーションという言葉に代表される機械、あるいは機械化された人間の労働、このロボットによって失われたものがある。

「逝きし世の面影」での道具作り

「七つのチャクラ」でのアメリカ先住民の女性レイチェルの話し

命が宿っているかのようにであるのでなく、命が宿っているのである。

キャロライン・メイスは大学を出た翌年、仕事のためにアラスカに行くが、その時にロシア人とアタバスカン・インディアンの血が半分ずつ混じった 80 代ぐらいの女性レイチェルと出会う——まさしく、出会う——が、以下はそのレイチェルの話しである。

「ねえ、壁に掛かっている毛布を見て。あれは特別なものよ。アタバスカンの文化では、毛布織り、歌をつくる人、とにかくどんな職業でも、それは大変な榮譽なの。たとえば歌を歌うには、その歌をつくった人の許しが必要だけど、それは歌には作者の霊が宿るから

なんですよ。毛布織りならば、一枚完成させるだけの期間生きていられるのが分かっていないかぎり。織りはじめてはいけないことになっているの。もし死ななければならないのなら……」

そう、たしかに彼女は「死ななければならない」と言った。

「やり残した仕事を引き継いでくれる人と、ひとつの儀式を行わなくてはなりません。自分のやるべきことの一部を残して死んではいけないの。そうすると、自分の霊の一部を置いていくことになってしまうから。

あの毛布はほとんど完成してたのよ。でも、つくっていた女性のところに、偉大なる精霊（グレイトスピリット）がやってきて、彼女にこの大地を去る準備をするように言ったの。彼女が精霊に、この毛布を完成させるまでは生かしてくれるかたずねると、精霊はそれでかまわない、それだけのときを与えようと答えました。彼女は、毛布を完成させた三日後に亡くなりました。彼女の霊は、あの毛布のなかに力強く、そしてよいかたちで宿っているわ。それは私に力を与えてくれるの……」

（キャロライン・メイス著「7つのチャクラ」36ページ サンマーク文庫）

#### ▲参考

つげ義春「鳥師」の漫画～生命とふれあう人  
グルジェフのひとつのことを上手にする人は

ロボットに生命を与えたのが神である。すなわち、ロボットを人間にしたのが神である。

道具としてのからだの側面と

わたしの本性を表現したものとしてのからだの側面の二面性がある。

コンピュータが作る詰め将棋は人を感動させられるか。

私のない手足から私のある手足へ、私のある手足から私と共にあるモノへ。私と共にある生命へ。

余暇に何をするかという問題。体をまた動かすか。

サロゲートで人は神のようふるまっている。だが、神と人間、人間とサロゲートの関係の大きな違いがある。

## 身体論の問題

### 進んだ星での清掃の評価

サロゲート～サロゲートが自由を獲得し、人間はそのサロゲートの自由の奴隷になるという設定であればもっとおもしろい映画になったかもしれない。

魂が肉体を成り立たせて人となる。

肉体（あるいはロボット）が魂を成り立たせて人となるということはないのだろうか。

### 究極のロボットである自分自身のコピー（火の鳥）

### 身体という道具

道具をどのように発展させるかということの他に、道具をどのように使うかということ。

人が神に似せられて創られたということは、  
人もまた、創るものに関しては、行為するものに関しては、  
人の生命を注いで創り、行為するということである。

それは人の分身である。

神が人に自分自身の生命を注いだように、  
人もまた、自分自身の生命をすべてに注ぐ。

人間がしたくないことをロボットにさせている。このことを通じて自分分かる。

人間がしたいことをロボットにさせているということはないだろうか。

### ■身体

アンドロイド「」を作るのではなく、  
自分自身を分身させること。

それ以前に、自分自身の体をいつも若々しく保っておくこと。



自分にだけは美しく見える。

他人の対応は変わらない。

その事実気がつく。

しかし、他人を見る目を変えることはできない。

他人にどのように見えようとも、自分自身の美しさを見て、その美しさのように生きた時に、他人も変わってきた……

という物語。

#### ■2010年1月26日日記より

そして、予定通り妻と映画に出かける。「サロゲート」というアンドロイドのSF映画で、テレビの宣伝を見て、妻が絶対に行こうと言っていた映画である。京成千葉中央駅にある「京成ローザ」という映画館へ。ミニシアターにいくつも別れている映画館で、いつもすいている。平日とはいえ、この日もガラガラで10人も入っていない。

映画はどうかというと、SF映画にはずれはあまりないのだが、これは久しぶりのクエスチョンマークである。点数をつけると、60点。

ほとんどの人間が自分自身の分身であるアンドロイド「サロゲート」を持ち、サロゲートが持ち主の人間の脳を感じて自由に動き、家で横になっている人間はそのサロゲートの体験と一緒に体験するという設定で、なかなか興味深い設定なのだが、掘り下げがない薄っぺらな映画であった。

まあ、私の日記のようなもので、「こんなことをしました、あんなことをしました」という内容をぐだぐだ書いている感じである。どうしてこんなことをしたのかが書かれていない。正直お薦めでない映画です。

●あらゆる失敗は活かすことができる。



魔術とはプロセス

必要とは魂の必要

ロボットか人間～生命があるかどうか  
単なる道具かどうか

●ヒーリング

死なないことに一生懸命になるのではなく、生きることに一生懸命になること。  
生きることに一生懸命であれば、死なないことは小さなこととなる。死ぬことも小さくなる。

わたしのヒーリングの行き着く先はそのような生き方をしてくださることである。

ただ、そのために必要なこともあって、——プロセスがあって——、不可思議な道を通るということもある。

(1月27日 2010年掲示板)

●意識のある人生

この2時間を、この3時間をリアルに振り返って見ること。文字通り、映像のようにして見ること。

●田島真人君

私はこのHPでは自分のことをべらべらしゃべってはいるが、実はおしゃべりは苦手な人間である。その点彼は、40年近く前に初めて会ったときから、私が本心話すことができるように自然に導いてくれる根っからのカウンセラーであった。彼自身たぶんそういう自覚はなかっただろうが、わたしはそのように彼を見ている。

大学時代の友人、田島真人君が去年の1月14日に病気で亡くなられたとのお手紙を今朝ご親族からいただく。ご冥福をお祈り申し上げます。

(1月27日 2010年掲示板)

■田島真人君

以下の話しはぶっとんでいるが、たぶん真実である。

彼は一度死んでいる。4年前か5年前である。交通事故で亡くなっているが、再び生き直すことを選んだ。いわゆる奇跡の生還という話しである。

この時期、ご親族を失くされている。もしかしたら、その奇跡の生還と関係があるのかもしれない。ないのかもしれない。これは私には分からない。

ただ、確かなことは彼が生き直してしたことのひとつに、

彼が生き直さなければできなかったこと、すなわち、

大学時代の友人Mとは10年ぶり、Sとは20年ぶり、田島君とは30年ぶりに会うことができたということ、

このことは、田島君の働きかけがなければ実現しなかった体験である。

彼は、MとSと高塚を再会させるために生き返ったのである。

これは真実であり、こころより感謝している。

ただ、誰もが言うことであるが、惜しむらくは、もう少し彼と話しをしておくべきであった。

もしかしたら、生き直したことのひとつに、私と話すことがあったのかもしれないからである。

彼がネット上で私を探し当ててメールをくれたということは私と話しをしたかったからではないかと思うからである。

彼と一度二人っきりで飲んだが、私は自分の思いだけをべらべらしゃべっていただけであった。救いは、帰りに際に、

「こんな話しをしたのは、大学以来だなあ」

と満足そうに話してくれてことである。

(1月28日2010年掲示板)

## ■再掲

火葬場の釜から自分自身の体と自分自身の人生を見ることである。

火葬場の釜から見れば、体も人生もまるで違って見える。

どのように見えるかというと、

リアルであり、本物でないということが両立するということである。

リアルであるとは人生を生き生きと生きられるからであり、  
本物でないとはそれがわたしではないということである。

(加筆して掲示板記入予定)

■神聖なる矛盾（二分法）

人がいてプロセスが生じる

プロセスがあり、人が生じる



行為への愛～存在から発するから結果にこだわらない。

●自然と人工

すじ雲が空にひいた雲の線には躊躇がない。不安がない。

あるいは、子どもの絵もそうかもしれない。

慢心、恐れ、これはもしかしたら同工異曲かもしれない。

●意識のある人生～自他・わたし

真偽を争うのでなく、どのように思っているか、ということにころをしぼる。

1月28日、2月12日 2010年

●ホームページ～慢心のいさめ

自己顕示欲からでなく、自分と他者の役に立つから書いている、というそのような書き方に徹したい。

●意識のある人生

神の意図を今日一日実現すること。

それは、自分自身の意図である。

同時に、プロセス（神）の意図である。

そしてまた、他者の意図でもある。

それらを同時に実現するような行為であること。

同時にまた、結果を求めないこと。

●意識のある人生～元気の素

一日の初めに意識をできるだけ高いところに置いておくこと。

瞑想の際に、できるだけ意識を高いところにもっていくこと。



認められるために外に出ないこと。

●ヒーリング～完全な遠隔治療

完全な遠隔治療とは、自己ヒーリングでもある。

遠隔は、この人生最後の課題であるかもしれない。

こころして行うこと。

1月29日、2月3日 2010年

●行為への愛

行為への愛とは、昔読んだ小説のように、いいなづけの娘のすべてを愛することではないだろうか。

(加筆して掲示板記入予定)

1月30日、2月3日 2010年

●意識のある人生

全てを、今日、この一瞬、一瞬に変えること。

そのためには、今のこの一瞬、一瞬、何を考えているか、何を言葉にしようとしているか、知っていること。

■自他

ワンテンポおいて、相手の立場を考慮する（外的考慮）

★2月 2010年

2月1日 2010年

●躊躇

私よりもっと困っている人がいる。



2月2日、3日 2010年

●意識のある人生

体と体より大きい魂としてのわたしを意識する。

(意識表裏面要転記)

●選択

死ぬ時というのは、私が生きたいと思っても、わたしは生きることを選ばない。

ということは、生きているときのこの人生の場合も、小さな私が生きようと思うこととまるで別の選択を魂は望んでいるかもしれないということである。

●お礼

うれしいのは、お金。

ありがたいのは、品物と礼状である。

2月3日 2010年

●意識のある人生

どんな時でも、、、

つらい時ほど、、、

自分の一番すばらしい部分を表現すること。

(2月6日 2010年掲示板)

●

感情が表情に出るのは別に悪いことではない。

2月4日、5日 2010年

●意識のある人生～仕事・元気

気持ちのいい仕事をするためには、仕事の前を充実させる。

気持ちのいい次の瞬間を迎えるために、いつも今を充実させる。

2月5日、5月10日 2010年

●行為への愛

陰徳は行為への愛なのかもしれない。

正しくは他人が見ても見ていなくとも思ったことを行うということである。

手当てをする時には、殺人を犯す人にも手をかざすこと～行為への愛

●時事

枠に収まりきれない無法があるとしたら、  
枠に収まりきれない確かな智恵というものもまたある。

どちらも非難される。

(2月5日 2010年掲示板)

2月6日、5月10日 2010年

●選択

変えることができるのは私自身である。  
変えようとする事、変えたい事、現状が不満に思う事、  
それは私自身であるかをふりかえってみる事。  
私自身であれば、変える事。  
私自身でなければ、それは他の人自身である。  
あるいは、国民自身、地球人自身である。  
そして、何が私自身かは変わる。  
(加筆して掲示板記入予定)

■可能態としての人間

- 1 自己規定の仕方が他にもあるということの自覚。
  - a 今の自分を観察することによって
  - b 声なき声を聞くことによって
- 2 自分自身で規定できるとの自覚。

2月7日 2010年

●議論

ある人にとって自明なことが、ある人にとっては不明である。  
ここから不毛な議論が始まる。

●「神との対話」考3～意識のある人生（感情・選択・マスター）

つらい思いをしているすべての人に、そして、食べるための仕事をする自分自身に送る言葉である。

以下は、「神との対話」からの引用で、人間関係に関する＜プロセス＞からのアドバイスであるが、引用個所の、付随的な言葉にえらくところを動かされる。

「創造者は、将来どう感じるか**知っている**。創造者なら感情を経験するのではなくて、**創り出す**からだ。」

(ニール・ドナルド・ウォルシュ「神との対話」3巻 262 ページ (文庫 334 ページ) サンマーク出版)

感情は経験するものだと思っていたが (というか、考えもしなかった)、感情を創り出すとは、驚きである。

しかし、仕事に入る前の嫌な気持ち (ただし、深夜の電話番の時だけであるが) を克服するために、実はいろいろ工夫はしている。考えてみれば、これは感情を創り出そうとしていたのだ。嫌な気持ちを＜経験するのではなく＞、満足感、充足感を＜創り出そう＞としていたのである。

最近ころがけていることは、

＜気持ちのいい仕事をするためには、仕事の前を充実させる。＞

＜気持ちのいい次の瞬間を迎えるために、いつも今を充実させる。＞

ということである。

つらい思いをされている方も

＜感情を経験するのではなく、感情を創り出すこと＞

このことをぜひ実現させてみていただければと思います。

(2月7日 2010年掲示板)



● 「神との対話」考2～ツール (反芻・量から質へ (相転移)・錬金術)

文庫本 1巻・205ページ～「……もちろん、あなたがたは劣った考え、劣った思いを選

び、自分を力のないちっぽけな存在だと思いつづける。そう、教えられてきたのだから。」  
「やれやれ (My God)。どうすれば、そんな教えから逃れることができるのですか？」  
「いい質問だ。そして、まさに適切な相手への質問だな！  
この本を何度も読み返せば、そんな教えから逃れられる。何度も、くり返して読みなさい。  
すべての文章が理解できるまで。すべての言葉を覚えるまで。誰かに本のなかの文章を聞  
かせられるようになるまで、暗く落ち込んだときに本のなかの文章が心に浮かんでくるよ  
うになるまで。そうすれば「そんな教えから逃れられる」ことができるだろう。」

何度も何度も繰り返すこと。

繰り返し繰り返し、自分自身のノート、すなわち、気づきを読み返すこと。

繰り返し繰り返し、「神との対話」を読み返すこと。

これらの気づき、アドバイスをこの世界で実践すること。

繰り返し繰り返し、内なる身体になるまで実践すること。

(12月16日 2009年掲示板)

2月8日、10日 2010年



どれだけの長さのレンジで人をとらえるか。

「神との対話」は神に帰る時点までのレンジで人を見る。

●仕事

イエスやブダが苦情電話を受けるとしたら、どのようにして受けるのであろうか。

2月9日、10日、11日、12日 2010年

●小さな声・シンクロ～その1

「これをしてはどうだろうか」というインスピレーション、小さな声は気づいた時には必  
ず生かすこと、行うこと。

(意識表裏面要転記)

これは人生の貯金である。

紀伊国屋書店での「奇跡の脳」の本。

ヒーリングに不可能はないとあらためて思い直したこと。

藤村さんへのヒーリング。(アンド前日の喜多君への本を買いに紀伊国屋書店にわざわざ寄ったこと)

面倒と思わないこと。

今現在、ヒーリング依頼がないことの意味。

小さな声は、シンクロとして示唆する。

自他の関係における鏡像関係。

2月10日、11日2010年

●好きな本

好きな本とは、世界がどのように見えるかが書いてある本である。

人間は、違う風景、新たな風景を見るために生きていると考えるからである。

2月11日2010年

●将棋王将戦

どれだけのレンジでよくしようとしているのか。

よくしようとするのは、悪くする可能性を秘めていることでもある。

●ヒーリング～火の鳥

どのような怠け者も亡くなりそうな人に手をかざす時には働き者になる。

(掲示板記入予定)

●心身～意識のある人生

限らない読書と限らない身体訓練

●小さな声・シンクロ～その2

本にカバーがかけられていなかった。

本をきれいに読まないこと。

2月12日2010年

●

紙上に残す。

パソコン内に残す。

わたし自身に残す。

●瞑想～3333 日目

この時間に働いていた神を見ること。

これからの時間に働く神を何にするかを見ること。

今の静寂の時間に浸り、そこを過去と未来の基準とする、居場所とする。

●読書

本を読むことは意図的にやめていたが、また再開する。なぜ本を読むのをやめていたかという、頭から情報を入れては抜け落ちるものがあるからである。

「私にとっては」であるが、あくまでも「私にとっては」であるが、

いくら頭で知っていても病気で死んでしまっは仕方がないではないか、

という思いがあるからである。これはひとつの例である。頭からの情報は体のコントロールの仕方を教えてくれはしない。

だが、また再開する。なぜかという、先日「新宿紀伊国屋書店」に入ってぶらぶらしていたところ、

「この本を手に取りなさい」という直観

「この本は読んではいけない」という直観

「この本は挑戦してみるべき」という直観

そして、何よりも、

「この本を読みたい」という直観が内々から湧いてきた。

直観とは<内なる小さな声>である。どのようなことであれ、私はこの内なる声とともに生きていきたいと思っているので——現実には、多くの場面で無視しているが——、再度読書を再開する。

グルジェフは

「生命に対して感謝することはできない、十分に感謝することは不可能である。」

(「魁偉の残像」 151 ページ)

と言った。

感謝するという事は<生命を知ること>によって初めて可能であるが、<生命を十分に知り尽くすこと>というのは不可能だからである。わたしが知っても知っても、人類が知っても知っても、この世界が知っても知っても、<生命>もまた成長するからである。

<生命>を何と説明するかは難しいが、多くのものが抜け落ちることが承知でいうなら、この世界的设计図とでもいうべきものであり、それは

<わたしが行為する(こころの体験も含め)前に、いつでも用意されているものだからである。>

<十分に感謝できない、十分に知ることはできない>

ということは、ある意味で絶望的な気分の話しであるが、実は逆である。

グルジェフが

「生命に対して感謝することはできない、十分に感謝することは不可能である。」

という時には、生命の深遠さを語っているのであり、くめどもくめども尽きない生命の開陳、終わることのない<たたみ込まれた生命のときほぐし>、これらはいつまでも続けることができるという不可思議さを語っているのである。

この感謝することができない生命のひとつの相に読書もまたあり、やはり今生の私にとって欠かすことのできない営みではないかと、ここ数日思い直しているのである。

(2月12日 2010年掲示板)

■神聖なる矛盾

一冊も読まないということと  
限りなく読むという作業。

神聖なる矛盾。

●小さな声・シンクロ～その3

グルジェフ

「生命に対して感謝することはできない、十分に感謝することは不可能である。」

(「魁偉の残像」151 ページ)

読書もまた生命である。

■

すべてを取り出そうとしないこと。

●意識人生

こころは無意識でいると市ヶ谷駅までたどりつけない。

こころを占めている。ものは不安と行き当たりばった利である

●小さな声・シンクロ～その4～自己ヒーリング

小さな頃に神に治してもらったこと

今、自分自身で挑戦すべきこと

「ドリームヒーラー」(130 ページ) を手にとって

振り返るほうがリアルということもある。

過去に生命をそそぐ。

●読書

読書と体験がシンクロしていること。

読書と体験を意志がシンクロしていること。



2月20日2010年



「神との対話」は、体で実感しながら読むこと。

●意識のある人生～体の再構築

一瞬、一瞬の肉体の姿勢、  
一瞬、一瞬のこころ姿勢を、  
身体の再構築にベストとなるような姿勢とすること。

(掲示板記入予定)

●病気

とにかく、外に出ること。家では休むこと。



初心者の時の囲碁の形勢判断が今では全くできなくなっている。  
進歩して出来なくなったのか、あるいは退歩してできなくなったのか。

2月21日、25日2010年



体を使うか、使わないか。  
～遠隔治療・体の具合

2月22日、23日、25日2010年

●意識のある人生

象徴とトラブルから気づきを得て、自己を再構築すること。  
そのために、出来事をよくみること。  
自分自身をよくみること。

●なみこさんへの返信 (2010年2月22日)

なみこさん、おはようございます。  
おかげさまで妻も自分も元気になりました。ありがとうございました。

————— (日記再掲) —————

阿佐ヶ谷から錦糸町までは各駅停車であったが、車内がすごいにおいで参った。ホームレス氏がシルバーシートで寝ていたからであるが、車両全体ににおいが満杯。乗車してきた

お客さんが思わず鼻をつまんでしまうようなにおいである。自分もさすがに耐え切れず離れた席に移動するが、同じ車両にいるかぎり逃れることのできない強烈なにおいであった。

ここまでなるまでに何とかならなかったのか。ただで銭湯に入れてあげればいいのと思うが、そうもいかないのであろうか。すべてのホームレス氏に二日に一度銭湯に入れるように税金で負担しても微々たるものだと思うが、、何せ、800兆円か900兆円か分からないが、膨大な借金を背負った無駄遣いからすれば、安いものである。正当な理由がないということになるのであろうか。

母方の祖父はホームレス氏をよく家に連れてきて、風呂に入れ、食事を与え、泊ませたという。これはへぼ塚にはちょっとできない。食事まではできるが、泊ませるほど信用はしていない。。このあたりに私のヒーリングの限界がひそんでいるのであろう。

---

ホームレスさんの問題、

本来は祖父がしたように、個人個人が手をさしのべる話なのかも知れませんが、都会レベルのスケールになるとこれは現実には自治体が関与すべきことなのでしょう。

ただ、何かこの形——において彼氏の存在感を感じ、自治体にその解決を任せるという形——には忸怩たる思いもあります。

以下、雑感。

においというのは結構残るもので、実は代々木時代にホームレスのような若者を数回泊めたことがありましたが、においがひどく、布団についたにおいはお日様にあててもとれなかったですね。

現代の東京人で彼を風呂に入れてあげる人は皆無であらう。

明治、大正時代の東京人であれば、どうだったか。

江戸時代の江戸人であれば、どうだったか。

現代では、公の場であっても彼氏を入れてくれるお風呂は現実にはないであらう。

山奥の自然のお風呂しかないのではないだろうか。

電車の中で高塚は何を思ったのか。

そして、何をしたのか。。

そして、今、その体験で何をするのか。

いやあ、相当分からないです。

時々、分からないことだらけということに気づくことがあります。

自分自身の規定の仕方がいい加減なものであると気づくことがあります。

世界はもっと違ってみる事ができるはずなのですが。

(2月22日 2010年掲示板)

風邪は治ったようで良かったですね。今は奥様の風邪がひどいようで、お大事に。

それにしても、通勤の電車での一件は災難でしたね。いっその事、風邪で鼻が詰まっておいがわからない状態の方が耐えられたかも(^\_^;)。私も T 東区 U 支店勤務の3年間は社内での同じことに悩まされ続けました。机の下には常に机を拭く為の清掃用具&ファブリーズを常備。それでも花粉の飛ばない季節でも鼻炎症状が出ました(T\_T)。彼らが持ち込むダニやら埃やらカビやらで。

周りの人のためにも彼らのためにも、ぜひ自治体から「入浴券」は支給してあげてほしいですね。生活保護受給者や高齢者には既にある制度なので拡大適用は可能かと・・・。

#### ■四方田さんへの返信

四方田さん、こんばんは。

「悼む人」、お薦めいただき、ありがとうございます。

ここ10年か20年、小説は意図して読むのをさけていました。とにかく時間がなかったということが第一で、二番目には一日のやることで、どうしても優先順位で上位にこないということがありました。

ただ、天童荒太氏の小説は読んだわけでも批評を聞いたわけでもなく、新聞広告を読んだだけです、えらく気になっていて、いつかは読もうとは思っていた本です。

ホームページは目を通させていただきました。

すき間を大切にされている方だなあというのが感想です。現代日本の都会にはすき間がなくなってしまうました。また、人間関係もキチキチに詰まっていて、遊びの部分が多くな

ってしまっています。

作家天童氏はこの間隙をととても大切にされる方だなあ、というのが第一の感想です。宇宙にも暗黒物質とか暗黒エネルギーが占める割合が 8 割とか 9 割という話を聞きますが、この世界で人が見ることのできる割合はごくわずかです。その見ることができるわずかなものに汲々とし、そのわずかなものでこの世界全体を埋め尽くしてしまおうというのは、まことに愚かな行いだと思う次第で、その意味で見ることができないものを手さぐりで掘りあてられていることに共感をおぼえる次第です。

今日、本屋さんに寄ったのですが、なぜか見当たりませんでした。また、来週あたりに寄ってみるつもりです。

(2月23日 2010年掲示板)

リアルの問題

異なる見方をする問題

先日、天童荒太氏の「悼む人」読了しまして、

<http://bunshun.jp/itamuhito/>

続編にあたる「静人日記」を今読んでいるのですが  
なんだかこちらの掲示板と重なるような印象を受けました。

もしよろしければ、ですが

機会があったらお手にとってみてください。

2月23日、24日 2010年

●読書

全体への目配り、気配り、俯瞰

目次、見出し、10ページの要点

何が自分の体になるか。

2月24日 2010年

●意識のある人生

神が外にいると思うと、不思議なことがある。

神が外にいると思うと、神は出てこれない。

いつでも内なる神を働かせるようにすること。

この神はエネルギーがないと出てこない。

意識がないと出てこない。

●行為への愛

知っていることを語るのではなく、知っていることを目指すのではなく、知らないということを楽しみ、＜世界＞に私が知らないことを語らせること。

ただ、ただ、＜世界＞に語らせ、そのことを楽しむこと。

(3月1日 2010年掲示板)

2月25日、3月7日 2010年

●ヒーリング・身体の再構築

前夜、マーチに気を送ったように、他者に真剣に気を送ることで自分も元気になる、そのような気の送り方をすること。

エネルギーの完全燃焼は身体の再構築につながる。

2月26日、3月7日 2010年

●意識のある人生～わたし

自分自身を傷めるもの、それは、慢心と卑下である。

どちらも、自分から見るとは難しい。

(加筆して掲示板記入予定)

★3月 2010年

3月1日 2010年

●なみこさんへの返事

なみこさん、こんばんは。

お誘いいただき、ありがとうございます。

橋本さんが営業されているお店ですよ。(↓↓あたまたにhをつけてください。)

[http://blog.livedoor.jp/hassy\\_blog/archives/51401211.html#comments](http://blog.livedoor.jp/hassy_blog/archives/51401211.html#comments)

明日2日は将棋「A級順位戦」最終局のため朝の5時まで特別営業のようですね。

その点、リスボンでは毎晩特別営業で朝までやってましたね。何回スズメの声を聞くまで飲んでいたか分かりません。

3月は休みが取れないのでいけませんが、あらためて連絡させていただきます。  
どうもヘビーな飲み会は休暇取らないと体がもたないもので。。

えっ、ヘビーにしなければいいって？

それができれば、私の人生全く違ったものになっています。

あと老婆心ながら、なみこさんが苦手な方も結構出入りされているお店のようですよ。  
まあ、相手にしなければいいんですが～。

青江美奈の歌に出てくる池袋の「美久仁小路」には一時期毎晩のように行っていました。  
30年前の話で、さすがに「紫苑」とか「お重」とかいうお店はもうないかもしれませんね。  
ちょっとのぞいてみたい気もします。つらい思い出があるお店です。

(3月1日2010年掲示板)

昔、新宿歌舞伎町にあったスナックLのようなお店が出来たそうです。もし良かったら1度行ってみませんか(^\_^)。

#### ■なみこさんへの返信

なみこさん、飲み会の件、了解いたしました♪

「美久仁小路」は以前勤めていた会社の社長のお供で、いつも(ほとんど毎晩)神楽坂で飲み、そのあとタクシーで行って、帰りもタクシーだったので道はあまり分かりませんが、東口の大通りを高速方面にまっすぐ歩き、高速手前で左に入ったあたりだと思います。

ネットで調べたら「紫苑」は火元になり全焼したとなっていました。

「お重」はネットでは情報はなかったですね。割烹着を着た女装のおかまさんが経営されていて、当時どうみても60以下ということはなかったので、もうお亡くなりになられていると思います。「イカの煮付け」がおいしかったデス。

「紫苑」の思い出はいつか書きたいと思っています。

(3月3日 2010年掲示板)

それでは4月以降都合のいいときにご連絡ください。話のタネに1度行ってみたいですよ(^\_^)。

私の苦手な方という人多分あの方々ですね。最後に出会ってからもうかなりの年月経過しているので、お互いに年を取りすぐ近くにいても気づかない可能性も大ですが、気づいてもシカトという事で・・・。

青江美奈の歌に出てくる池袋は私にはまったくわからない世界です。「美久仁小路」は池袋のどのあたりにあったのでしょうか？

3月2日 2010年

●意識のある人生～所有・神聖なる矛盾

この1時間、この1日、この1週間、

この1時間に求めること。

未来永劫わたしであるといえるもの、そのようなものを手にすること。

この1時間に何も求めないこと。

何も結果を求めず、何も手にしないこと。

(掲示板記入予定)

●ミクシィ掲示板～金銭・所有

景さんがおっしゃられるように、確かに講演会の参加費としてはかなり高いですね。

このような金額設定をされるというのはそれなりの事情があたりだと思うので、そのあたりは透明にされたらよろしいのではないかと思います。

確か「神との対話」でも原価をはっきりと明示すると世界は変わるというお話があったと記憶しています。経費がいくらかかって、もうけはいくらになるのか明示されるとよいと思います。私個人は法外な利益をあげても何とも思いませんが、疑心暗鬼に陥ってしまうのはいやなものです。

イエスやブッダの講演会であればいくらになるのだろうかと思います、現代の貨幣価値で2万円、3万円はとっていなかったのではないかと思います。

ただ、イエスはお金持ちの青年に「全財産を貧しい人に与えて、わたしのもとに来なさい」と言ったので、この青年にとっての参加費は法外な値段であったわけですが。

お金と所有の問題はとても難しいです。

(3月2日 2010年 ミクシィ 「神との対話」)

3月3日、4日、5日、6日 2010年

●自己責任 (～2010年3月3日の日記より)

「クローズアップ現代」では人質事件の高遠さんの番組。帰国後、「自己責任」ということでバッシングにあい、自殺まで考えたという。彼女がお皿を割ったのかどうかは別として、お皿を割る人はお皿を洗う人であるということを忘れてはいけない。リビングでテレビを見ている人はお皿を割ることはない。

■意識のある人生～一体性・自他

バッシングという形での非難の仕方はその人があなたの知り合いであれば、知らない人と同じようにするであろうか。

もちろん、しないであろう。

今日、自分自身に対するすべての人を知っている人のように対すること。

あらゆる非難は知らないということから生じるからである。

相手とわたしとを。

(3月5日 2010年 掲示板)

■アーミッシュ

交通違反の切符は警察官の友人であれば、切られないであろう。

アーミッシュの場合は違反切符を切らないどころではない。

「全ての争いを拒む彼らアーミッシュは、こうした交通事故に対しても訴訟はむろんのこと、損害賠償の請求などもしない。アーミッシュにとって交通事故は自動車社会と共存していく上で払わされる大きな代価なのかもしれない。」

(菅原千代志著「アーミッシュ」22ページ 丸善ブックス)

アーミッシュにとっては、すべての人が友人であり、<知っている人>なのかもしれない。



私も明日からは、「知らない」と言うのはやめよう。

(3月6日 2010年掲示板)

3月4日、6日、7日、17日、18日、20日、25日、26日、5月17日、18日、19日 2010  
年

●すき間

<このリアルさは一体どこからくるのだろうか>

——ロボット論にどこで結びつくかは分からないが——

漫画家の滝田ゆうが

「つげ義春の斜線の書き方をお手本にした」

と語っているが、つげ義春の「探石行」（つげ義春コレクション「近所の景色・無能の人」（ちくま文庫））の最後の場面を見て、「そうか」と少しは分かったような気もする。

主人公「無能の人」は多摩川の石を拾って、河川敷に簡易小屋を建てて（というか作ってという代物）売っている。もちろん、一度も売れたことがない。奥さんは団地でビラ配りのポスティングをしている。小さな子どももひとりいて、もちろん生活は極貧である。ただひょんなことから無能の人に小金が入り、家族で一泊旅行するが、これがまた悲惨な旅行、悲惨な宿と相なる。一日が終わり、安宿で寝るが、最後のコマが斜線だけの山に月が出て、虚無僧の尺八の

「プォ～～」

という音だけだこだまするという内容である。

この斜線が滝田ゆうが絶賛するほどの価値があるのかどうかは正直私には分からない。そういわれてみれば、この一見手抜いたような斜線だけの山々でこそ、「プォ～～」が効果的なのもかもしれない。

斜線というのはいわばすき間なのである。どうでもいいすき間なのであるが、実はすき間こそある意味、力を持っている場なのかもしれない。漫画の斜線などはどうでもよいように思えるが、どこで斜線を引くか、どのような斜線を引くかということが、作品全体に力を与えることになるのである。

日展最年少入選という友人の画家が砂川しげひさという漫画家の線を見て感嘆していたが、こういう世界は私にはチンプンカンプンである。でも、見る人が見れば一本の線が芸術のように見えるのであろう。

また、主人公無能の人その人もまた社会の斜線のような人ではないだろうかと思う。どうでもいいような線で、どうでもいいように言われるが、見る人が見れば、誰よりも生きているのかもしれない。

（3月7日2010年掲示板）（ロボット論に転記）（03062010）

■わたしの斜線

わたしの人生で斜線とは何であろうか。

見過ごしているところ、顧みないでいるところ、しかし、力を持っているところとはどういふところであろうか。

(3月26日 2010年掲示板)

わたしにとって、夜勤の仕事とそれ以外の自分のための時間、どちらが斜線なのだろうか。

#### ■つげ義春の漫画のひとコマ

登場人物でなく、背景にこそ生命がある。

#### ■「逝きし世の面影」～居場所のある風景

狂人の居場所

#### ■グルジェフの斜線

多くのことをしているようにみえて、何もしていないということがあり、何もしていないようにみえて、多くのことをしているということもある。

以下は、回想のグルジェフからの引用である。

彼（グルジェフ）の主たる仕事は、今や書くことだった。そして、誰であれ何であれ、すべてが『ベルゼバブの孫への話』の完成という彼の目的を遂行させるために利用された。彼はいつも安っぽいノートと鉛筆を持ち歩き、いつでもどこでも書いていた。——部屋の中で、庭で、フォンテーヌブローのカフェで、パリの「カフェ・ド・ラ・ペ」で。そして、ドライブの休憩中にも書いていた。しかし、しばしば彼は書きあぐね、自分を強制的に働かせるという手段を採った。例えば、彼はよく私たちの二、三人をカフェに連れ出して一緒に話しをさせた。そして、思考の流れが始まると、彼はペンと髪を取り出し、他の者がしゃべったり黙って座っている間、書き続けていた。あるとき、彼がわたし（C.S.ノット）に「カフェ・ド・ラ・ペ」で翌朝の11時に会おうと言ってきたことがあった。翌日行くと彼はそこにて、車や人の流れをぼんやりと眺めているようだった。私は「アルマニャック（ブランデー）を」と言った。彼はそれを注文し、私たちはそれを飲み、そして彼は書きはじめた。二、三時間、彼は、たまに一服入れるとき以外は一言も発せずに書き続けた。午後の1時になって彼はようやく筆をとめた。

「さて」と彼は言った。「随分はかどった。今朝は上出来だよ。これからプリアーレに持ち帰り、ド・ハルトマン婦人にタイプしてもらおうよう頼んでくれないか。」これが全てだった。ずっとそこに座っている間、私はまるで自分が電気を充電され、グルジェフからエネルギーを送り込まれているような気分だった。まるで、力が二人の間を流れていたかのようだ。

私はそこに着いたときは気だるく疲れていて、おまけに二時間ほどさして何もせずに座っていただけだったのだが、私は今や沸き起こるエネルギーによって、バッテリーのように、溢れんばかりに充電されていた。事実、私は精神を能動的にしようと——受動的にするのでも空回りさせるのでもなく——必死になった。私はまた、あることを学んだ。私はインドの導師（リシ）がかつて私に言ったことを思い出していた。——教師は、言葉を掛けなくても弟子に教えることができる。中国にはこんな格言がある。「何もする必要がない場合がある。——しかしそれは怠けることではない」。

(C.S.ノット著「回想のグルジェフ」188 ページ)

「何もする必要がない場合がある。——しかしそれは怠けることではない」。

このようにして、グルジェフは自身の仕事だけでなく、弟子のノット氏に多くのものを与えた。

だが、さらにその先のことがある。

それは、グルジェフは弟子たちのおしゃべりや、アルマニャックを飲み、ボーっとしているノット氏からも多くのものを取り出したということである。

ワーク（仕事）をするものは無駄なエネルギーを変容させ、少ないエネルギーも増大させるのである。

どのような斜線にもエネルギーは含まれているのである。

(5月18日2010年掲示板) (エネルギー論へ要転記)



グルジェフが書き始めることができる時、というのは、どのような時として、何を用いたのであろうか。

単なる内なる意志だけではないはずである。



斜線を使うこと。

自分自身が斜線となってみること。

▲仮眠～無効のエネルギー・量ではない



すき間の時間、単なる休みでなく、生きているすき間の時間、他の時間とリンクしている、

すき間時間、斜線時間を作る。

■

誰もが斜線のような人生を好まないが、もう一人のわたしは確実に斜線のような人生を欲している。

無能な人の人生を送りたがっている。

そういう時と場がある。

過去にあったし、未来にあるし、そして、今無能の人の中にある。

(加筆して掲示板記入予定)

これを好まない人、体験しないで好まないことと体験して好まないこと。

■「プラネット ウォーカー」～斜線としての沈黙の歩き  
絵の空間と人生の沈黙

▲背景

背景に何を描くか。

この仮想空間の背景は何であろうか。

生きた斜線を引いているであろうか。

そこでの主人公はいるのであろうか。(わたしは、背景だけを好む)

■松岡正剛

■沈黙の力

「ヒマラヤ聖者の生活探求」

「神との対話」(3月5日に開いた「神との対話」のシンクロ3巻9章264ページ

「プラネット ウォーカー」

▲シュタイナーの沈黙 (03042010)

031～<内から外へ><豊かな内面の育成><斥候としての楽しみ><世界とわたし>

「畏敬によって惹起された能力に或る別の種類の感情が結びつくと、この能力はさらに一層活発になる。このことは人間が外界の印象に没頭する代りに、内面生活のいとなみをま

すまず充実させていくことによって得られる。或る外的印象から他の外的印象へと絶えず駆り立てられている人、常に「気ばらし」を求めている人は神秘学への道を見失う。神秘学徒は外界に対して鈍感になるべきだ、というのではない。常に豊かな内面生活が、外から印象を受け取る際に、主導権を持ち続けるべきだというのである。深い豊かな感情生活を内に秘めた人が美しい山岳地帯を旅するとき、感情の貧困な人とは別の体験内容をもつ。内面の体験が外界の美を開く鍵をわれわれに与えてくれる。大洋を航海するひとはあまり感動を味わうことなしに過ごし、別のひとは大自然の永遠の言葉を感じ、創造の神秘にふれる。外界との関係を豊かな内容あるものにしようと思うなら、自分の感情や表象を大切に育てなければならない。外界における万象のことごとくが壮麗な神性の輝きに充たされている。しかしこの輝きを体験するには、まず自分の魂の中に神性を見出さねばならない。——だから神秘学徒はひっそりと孤独に自己沈潜する時間を生活の中に確保する必要がある。しかしその時間が自分の自我の欲求に従うだけでおわるなら、意図したことは反対の結果しか生じないであろう。このような瞬間にはむしろ、自己の体験した事柄、外界が開示してくれた事柄の余韻をまったくの孤独の静けさの中で思い出としてひびかせるべきなのである。どの花も、どの動物も、どの行為もこのような沈黙の瞬間には、予期せざる秘密を打ち明ける。神秘学徒は以前とはまったく違った眼で外界の印象を見るようになる。次々に移り変わる印象を楽しもうとする人は自己の認識能力を鈍らせる。何かを享受したあとで、この楽しみから何かを明らかにさせる人は自分の認識能力を育成し、向上させる。ただその際に必要なのは、楽しみの余韻だけをひびかせるのではなく、そこから受け取れる楽しみをあきらめて、内的作業を通して享受したものを消化しようとする態度である。危険をまねく暗礁は非常に大きい。内的な作業を行う代わりに、つい反対のことをやってしまい、その楽しみをいつまでも完全に味わいつくそうとしたいくなる。神秘学徒の眼につかぬ誤謬のものが、この態度の中にあることを忘れてはならない。数知れぬ魂の誘惑者の間を通って行かねばならない。誘惑者はすべての神秘学徒の「自我」を、硬化させ、自己閉鎖的なものにしようとする。彼は自分の自我を世界に向かって開かれたものにしなければならない。そのためにはまず世界に向かって楽しみを求めなければならない。なぜならそれによってのみ、世界は彼の方に近寄ってくるのだから。楽しみに対して鈍感であるなら、周囲から養分を摂取することを忘れた植物に等しくなるであろう。しかし楽しみの下にいつまでも留まり続けようとする態度もまた自己閉鎖的である。そのような彼は自分にとっては何物かであり得ても、世界にとっては無に等しい。彼はその限り、どれほど内部で活動的な生をいとなみ、「自我」を大きく育成していったとしても、世界は彼を無視してしまうであろう。世界にとって彼は死んでいるに等しい。神秘学徒は楽しみをもつばら、世界のために自己を高貴な存在にしようとする彼の意図の手段と見なすべきである。楽しみは彼にとって、世界についての報告をもたらす斥候である。彼はその報告を受けたあと、楽しみを通して作業へ向う。彼が学ぶのは、学んだものを自分の知識財産として蓄えるためではなく、学んだものを世界の用に役立たせるためである。」

■ハトホルの四大元素

■シュタイナーの黒板絵  
見えざるものを描くこと。

■「三丁目の夕日」サクラ  
「いい人たちだね」  
世界の斜線になること。

ハトホルの四大元素  
掃除をする人

■斜線  
すき間時間を意味で埋めてしまうこと。  
すき間場所を意味で埋めてしまうこと。

意味が身動きできなくなってしまう。

すき間場所～バスに広告。電車に広告。地面に広告。洋服に広告。

■印象というすき間  
ハトホルのいうエネルギーの 98 パーセントをわれわれは見えていないということ。

あるいは、シュタイナーの思いは手で枝を折るのと同じような働きがあるということ。

「日月神示」でのどこまでも届く意志の話し。

■  
当たり前ことができずにいる。  
使ったものは片付けること。  
不要なものは手放すこと。  
今できることは今すること。  
などなどである。

この当たり前のことをしないでいると、斜線がいびつになってしまう。

(加筆して掲示板記入予定)

▲問題はさらにある。使ったかどうかということ。不要なもの考えるかどうかということ（所有欲）。

3月6日、7日、8日、14日、15日、16日、17日、18日、20日 2010年

●「プラネット ウォーカー」～意識のある人生（選択）

3月1日 2010年日記の再掲である

---

久しぶりに開店休業中の事務所へ。

瞑想しながら気を送り、あとは読書。本は、

「プラネット ウォーカー」（ジョン・フランシス著 日経ナショナルジオグラフィック社  
1800円）

書き出しはこうである。

「1971年1月18日、私は、サンフランシスコのゴールデン・ゲート・ブリッジ周辺の海上を、300万リットルを超える原油が漂うのを目撃した。原油流出だ。初めて目の当たりにする大規模な環境破壊だった。車でゴールデン・ゲート・ブリッジを渡っていた私は、海辺を覆う惨状に自分にも責任の一端があると感じた。一年近く経っても自責の念は消えず、私は自動車を運転することをやめ、歩くことにした。

この決断は地元で話題になった。友人たちは、一人が車をやめて歩くことにしたぐらいで、何を変えられるのかと言って、ひっきりなしに私をとがめ、議論を浴びせてきた。そこで、こうした周囲の干渉を断ち切るため、あるときまる一日、ひとことも口をきかず、沈黙を守ってみた。人生は、一変した。沈黙の一日を過ごしてみて、自分が始めたのは心身の両面における、巡礼の旅であることに気づいた。環境への意識を高める学びの一環として、徒歩、そして帆船で世界をめぐる、地球の環境保全と世界平和を無言で説く旅へと足を踏み出したのだ。」

まだ読み始めたばかりであるが、



<何を選んで何を創り出すか（選択と創造の問題）>

<何を選んで（何をしないで）、どのような自己責任があるか>

<そして、身体性の問題>

と私にとっては懸案事項解決のための糸口満載の本である。

まだ読み始めたばかりであるので、断定的なことはいえないが、まず間違えなく今の自分とシンクロした本である。

---

毎日のように時速 100 キロで車を運転していた若者がある日を境に、車に乗らず、言葉もしゃべらず、歩くだけの人生を送るようになる。  
そんなことができるのだろうか。

しかし、すべてのことは、できるとかできないとかという問題でなく、

<わたしが、何をするのか、何をしないのか>

と決めること、ただそれだけである。

わたしがこれまで決めたことは何であろうか。それはどれだけあったらうか。  
わたしがこれから決めることは何であろうか。それはどれだけあるのだろうか。

できれば、わたしが決めること、それはこれからのすべてである、と言えるようでありたい。

（3月8日 2010年掲示板）

#### ■二つの選択

一切の乗り物を捨てて、無言で歩くという誓いを立てて 10 年、ジョン・フランシスのもとに、父危篤の連絡が来る。歩いて行っては間に合わない距離である。ジョン・フランシスの取った行為とは何であろうか。

あなたなら、どうするか。

(3月14日 2010年掲示板)

▲なみこさんへの返信

なるほどですね。

正直、この問いは難問中の難問だと思うのですが、そんな答えがあるとは。聞いてみるものですね。

センスいいですね。

こういう答え大好きです。

(3月15日 2010年掲示板)

>

> 一切の乗り物を捨てて、無言で歩くという誓いを立てて10年、ジョン・フランシスのもとに、父危篤の連絡が来る。歩いて行っは間に合わない距離である。ジョン・フランシスの取った行為とは何であろうか。

>

> あなたなら、どうするか。

私なら敢えて行こうとせず、遠くから速やかな「お引越し」を願います(合掌)(^\_^メ)

>

▲二つの選択

もちろん、車だけでなく、飛行機にも乗らず、自転車にも乗っていなかったが、ジョン・フランシスは翌日の飛行機で帰ることにする。ただし、飛行場までは自転車で行くことにする。せめてもの妥協ということだろう。

だが、翌朝、高熱でうわごとを言っていた父が平熱に下がり、ジョンはこれまでの徒歩の生活を変えずにすむことになる。

世界には二つの選択がある。このことを知っておくことはよい。

<私というジョンの選択>と<わたしというジョンの選択>である。

あるいは、

<ジョンの選択>と<生命のプロセスの選択>である。

すなわち、

<ジョンの選択>と<神仏の選択>である。

私の選択も、生命のプロセスも、それが選択である限りいつも感動的である。  
なぜなら、選択こそが人であり、おそらくプロセスもそうであるからだ。

世界には二つの選択がある。  
このことを自覚しておくことはよい。

ジョンが飛行機を選択したのはこの世的には当然である。  
だが、ジョンの人生にとって、ジョンが世界にかかわる仕方にとって、その選択が当然だ  
とはいえない。  
しかし、人であるなら、どんな自己規定を破ってでも、危篤の親に会いに行くであろう。  
これは神聖なる矛盾である。どちらを選択しても傷つき、どちらかしか選ぶことができな  
いからである。  
このような神聖なる矛盾に立ち会う時、二つ目の選択、大きな力の選択が働くことがある。

病気が治ったのは、<ジョンの父>の選択か、<神仏>の選択か、<生命のプロセス>の  
選択か、そして、ジョンの内にある一体性の広がりとしての<わたし>の選択か、どう呼  
ぼうとそれはその人の人生観を表しているだけで、どちらでもよい。  
もちろん、「それは偶然である」と言うこともできるであろう。

ただ、自分としてはひとりの人間の内に二つの選択が働いているということを知覚するこ  
とは、きっと世界の見え方、生き方が変わっていく力となるものと思っている。  
(3月17日 2010年掲示板)

#### ▲力の発現

一体、どのような時にこの力が働くのだろうか。

ジョンが徒歩で行くことを決意していたらどうだったであろうか。

やはり、父は奇跡的に平熱に戻ったのであろうか。  
(3月18日 2010年掲示板)

どちらにしる、平熱に戻ったのであろうか。

わたしのいう大いなる選択はどのような時に働くのであろうか。

(加筆して掲示板記入予定)

事象が関連しているか、していないか。

#### ▲答え

とりとめもなく、思いつくところを書く。

どちらを選んだかではなく、どれほどエネルギーを注いだかによって決まる。

この場合は、おそらくはどちらにしろ平熱に戻ったであろう。

もちろん、選択に際して必死のエネルギーをジョンが注ぐからである。

あるいは、また、

これまでの自己規定をすべておじゃんにすることで父が治ったのかもしれない。

ジョンは10年間の貯金をすべて捨てたのである。

その貯金が力を及ぼさないわけがない。

あるいは、徒歩で帰ったなら死に目に一步間に合わず、父が亡くなる。このいつまでも引きずる後悔というものを<創りだす>かもしれない。これは、ジョンの創る<物語力>の問題である。こういう世界もある。

(3月20日2010年掲示板)

何が原因か、

徒歩で帰るか、飛行機で帰るかかどうかではなく、そこでどれほど立ち尽くしたかどうかである。

どれほどとは、時間の長さでなく、存在の深さである。

「徒歩で帰るか、飛行機で帰るかかどうかではなく、」～1無神論での 2有神論での

ヒーリングのエネルギーも同様である。

#### ▲高塚の父の死

数秘術

300 個の香典返し

父の命日と祖父の命日は同じである。

父と兄の死亡時刻

▲物語力

遠隔ヒーリングのイメージを作り出すこと。

これがわたしの物語の始まりかもしれない。

▲シンクロニシティ

シンクロとは私の選択へのわたしの選択からの小さな声であろう。

■行為への愛（ジョン・フランシス、エリック・ホッファー、デミアン、グルジェフ）（シュタイナー、「神との対話」の神）

自分自身のうちから出てきたものを生きること、人はただそれだけしかできず、そしてまたそれだけが尊い。なぜなら、それがわたしであるからだ。

目的を持たないこと。

内と外とのシンクロニシティ

047～<癌とタバコ><選択><しるし>

……私は歩くだけでは十分でないと気づいた。やっと目が覚めた、ということかもしれない。でも、私は外の世界を変えるだけでなく、今以上に想像力を働かせて、自分の内面をも変えなければならぬととった。このときすでに、内面に変化が起きていたのだと思う。何であれ変化というものは人生という人生という旅の途上で、目に見えないかたちで、または気づかないうちに起きるものようだ。私はタバコのパッケージに印刷されている、健康に関するおなじみの警告を読んで、頭を振り、咳き込みながら笑い声をあげ、その場限りでタバコを吸うのをやめた。

私はそのまま歩きつづけてペタルマに到着し、予定通り生検の手術を受けた。翌週、ポイント・レイズ・ステーションに戻ってから、リンパ腺の腫れ物が悪性でないことがわかった。でもペタルマの町外れのあの丘の上で、私は生には、それが当たり前であるということと、畏怖すべきものあることの両面があり、そのバランスを保つべきことを学ぶことこそが生きることだと悟った。そして、これからの人生をそのように生きようと誓った。

●「エリック・ホッファー自伝」

083～所有

それまで独りで勉強を続けてきたが。どういうわけか動物学と植物学には手をつけたことがなかった。化学、物理、鉱物学、数学、地理については大学の教科書をマスターしていたが、身のまわりにいる動物や植物はあまりに複雑かつ神秘的であり、厳密な科学研究の対象にはなりえないと思っていた。しかし、ちょっとしたきっかけで、私は植物学にもめり込んでいったのである。

私は毎年、ナイルスの苗木畑で数週間過ごしていた。成長の香りがあふれる温室の湿った空気が好きだった。その年、ずっとトマトの苗木をボール紙の鉢に移し替えていたが、あまりに退屈な仕事で続けられそうもなかった。ある日の午後、苗木の細根から土をほぐしていると、ある疑問が浮かんできた。なぜ苗の根は下に向かって伸び、茎は上に向かって伸びるのか！ それはなぜ私が息をしたり、寝たりするのかというのと同じくらい、面白いほど素朴な疑問だった。誰かが同じ疑問を感じ答えを出しているに違いなかったし、植物学の教科書を調べさえすれば答えはわかるはずだ。しかし、私はいますぐその答えが知りたかった。すぐさま事務所に行って給料をもらい。貨物列車に飛び乗り、サンノゼの近くまで行った。

その図書館には植物学の教科書が何冊もあり、そのなかで一番厚いのを手にとったが、それはドイツ語から翻訳されたシュトラスブルガーの本だった。私は部屋と皿洗いの仕事を確保して、その本を読み始めた。

ところが、ほとんど読み進められない。ラテン語やギリシャ語が頻繁に出てきて、辞書も役に立たない。私があきらめかけていたそのとき、信じられないような偶然が窮地を救ってくれた。

ある日、図書館の近くにある古本屋の廉価箱を見ていて、たまたま安っぽい紙に包まれた薄い本を手にした。それはドイツ語の植物用語辞典だった。編者はベルリンの農業大学で植物学を講じているミュエ教授。申し分のない、期待通りの代物で、用語の意味と語源の解説に加え、主要な植物学の小伝と有名な植物研究所の紹介まである。しだいに私はこの小事典に愛着をいだくようになり、どんな質問にも答えてくれる不思議な賢人のように感じて愛用した。むさぼるようにくり返し読んだ後も、ずっとナップザックの中に入れて持ち歩いたのである。何年も後になって手放したが、その別れもまた劇的なものであった。貨物列車の屋根の上でのことだ。植物学とはまったく関係のない思想の難問を考えつづけていたが、暗礁に乗り上げていた。その問題を解くにはより深く考え抜かなければならない。と、そのとき私の手が無意識にナップザックに伸び、ミュエの“賢人”を呼び出そうとしているのではないか。どんな問題であれ、つねに答えを知っている人間がそばにいたら、自分自身で深く考えることをやめてしまうだろう。そうすれば、私はもはや本来の思索者ではない。不愉快な発見だった。私はそうなることを拒み、ミュエの“賢人”を風の中に放り投げたのだ。

（「エリック・ホッファー自伝」中本義彦訳 作品社）

## デミ008～

「私はあえて自分を、知っている者とは呼ばない。私はさがし求める者であった。いまでもそうである。しかし私はもはや星の上や書物の中をさがし求めはしない。私の血が体内を流れつつ語っているところの教えを、私は聞き始める。私の物語は快い感じを与えはしない。それは考え出された物語のように、甘くも、なごやかでもない。それは不合理と混乱、狂気と夢の味がする。自己を欺こうとしない、すべての人間の生活のように。すべての人間の生活は、自己自身への道であり、一つの試みであり、一つのささやかな道の暗示である。どんな人もかつて完全に彼自身ではなかった。しかし、めいめい自分自身になろうと努めている。ある人はもうろうと、ある人はより明るく。めいめい力に依じて。だれでもみな、自分の誕生の残りかすを、原始状態の粘液と卵の殻を最後まで背負っている。ついに人間にならず、カエルやトカゲやアリにとどまるものも少なくない。上のほうは人間で、下のほうは魚であるようなものも少なくない。しかし、各人みな、人間に向かっている自然の一投である。われわれすべてのものの出所、すなわち母は共通である。われわれはみんな同じ深遠から出ているのだ。しかし、みんな、その深みからの一つの試みとして一投として、自己の目標に向かって努力している。われわれはたがいに理解することはできる。しかし、めいめいは自分自身しか解き明かすことができない。」

### (参考)

「人から奪うことのできない、その人自身の属性となるいかなるものも、仕事しない者に伝授することは不可能である。そのような伝授は存在し得ないのだが、不幸にして人々は、往々にしてそういう伝授が存在すると考える。あるのは“自己伝授”だけである。」

(「グルジェフ・弟子たちに語る」54 ページメルクマール社)

●意識のある人生～元気の法  
可能な時間を充実させること。

シンクロさせること。

3月7日、20日2010年

●ヒーリング・エネルギー

〇〇さんへの初めてのヒーリングの時に、奥さんの右脳が熱く感じたように、  
△△さんへの初めてのヒーリングの際に、奥さんの両肩が熱く感じたように、  
そばにいる人の影響があるように、  
すべての存在に影響があるように、  
そのようにして気を送ること。

●ヒーリング

高塚というテリトリーの内側にある気でなく、高塚というテリトリーを超えた気を送るようになる。

(加筆して掲示板記入予定)

●意識のある人生

自分自身の得手不得手を意識すること。

伸ばすことと改めることとを意識すること。

自分の場合、

得手はNOTEに思いを記すことである。これは世間の評価は別して自分自身気持ちがいい。

不得手は気功体操をすること。客観的評価をすれば、上のほうであろう。だが、体がいやいやをしてやらない。

(掲示板記入予定)

3月8日、9日、10日2010年

●ミクシィ「神との対話」自己紹介書き込み(2010年3月8日)

はじめまして。

夜勤の仕事をしながら、昼間は気のヒーリング活動をしています。

30年前、友人に薦められて読んだ「ユング自伝」は自分の人生が変わってしまった本でしたが、10年前、やはり知人から薦められて読んだ「神との対話」は「ユング自伝」をはるかにしのぐ驚愕の話で、座右の書となっています。ただ、座右の書というわりには、読み返していないので、ここでの書き込みを機に再度読み返し、日々の生活の中に生かしていきたいと思っています。

●

私も gachoon さんと同じく『意識』だと思います。

道具がツールの訳語だとすると、「神との対話」ではツールに関してはほとんどが内的な心の働かせ方について言っているので、この場合の道具も心の使い方に関することだと思います。

<結果を生きるのではなく、原因を生きること>、すなわち、無意識に生きて、自分が作り



だした結果を自分が作りだしたと知らずに右往左往する、そういう人生でなく、

<わたしはこうである>

と宣言し、自分が何を考え、何を口にし、何を行為するか、このことを意識していること、すなわち知っていることによって初めて

<この人生はわたしである>

<この出来事はわたしである（わたしが原因である）>

と言えるわけで、このことを認めることによって初めて出来事を変えることもまたできるわけです。

常に意識的に自分自身の「思考、言葉、行為」を見張り、不安の反対の愛を選び取ること、これは人の天性として与えられていると言っています。

「無条件に愛するというのが第一の天性。その最初の天性、真の天性を意識的に表現する——そう選択することが第二の天性だ。」

(1 巻 106 ページ)

まあ、そうはいつでも自分自身の場合、意識的に表現することを 10 年間試みて、どれだけその天性をどれだけ開花させたかは非常に問題ですけど。

(ミクシィ「神との対話」記入予定)

無意識に生きて（無意識に選択をして）、それゆえ災厄に出会った時に、他人のせいや不運のせいにして被害者と思うのでなく、

意識的に生きて（意識的に選択をして）、それゆえあらゆることに責任を持ち、それがわたしにとっても関係しないことのように思えても、

それはわたしである

と責任を持つこと、このことによって初めて

以下、「神との対話」の参考個所です（ページはハードカバー本のページです）。与えられているということを人の天性として、

「いまの自分とこうありたいと望む自分の違いがわかったら、**考えと言葉と行動を気高いヴィジョンにふさわしく——意識的に——変えようと決心しなさい。**

それには、とても大きな精神的、肉体的努力が必要になる。一瞬も怠らず、つねに自分の思考と言葉と行為を見張っていなくてはならない。つねに——意識的に——選択を続けなければならない。このプロセスは、意識的な人生への大きな一歩だ。そう決意すると、人生の半分を無意識のままに過ごしてきたことに気づくだろう。結果を体験するまで、自分が思考と言葉と行為をどう選んでいるか、意識しなかったということだ。しかも、結果を体験しても、自分の思考、言葉、行為がそれと関係があるとは考えられない。

**これは、そんな無意識の生き方はやめなさいという呼びかけだ。あなたの魂が時のはじめからあなたに求めてきた課題なのだ。」**

「そんなふうに、精神的見張りを続けているなんて、へとへとになりそうですが——。」

「そうかもしれない。だが、いつかは第二の天性になるだろう。実際に第二の天性なのだから。無条件に愛するというのが第一の天性。その最初の天性、真の天性を意識的に表現する——そう選択することが第二の天性だ。」

（1巻 105 ページ）

#### ●ミクシィ・「神との対話」

[http://mixi.jp/view\\_bbs.pl?id=51114792&comm\\_id=710899](http://mixi.jp/view_bbs.pl?id=51114792&comm_id=710899)

わたしも「ハトホルの書」は10本の指に入る本です。宇宙人ハトホルからのメッセージですが、とても知的であり、なおかつ、あたたかな思いやりのあるアドバイスにあふれた本で、単なる情報としての知識だけでなく、実践的な方法を薦められていることもありがたい本です。

魂が揺さぶられた本は10冊ぐらいありますが、「神との対話」に関係する本としては、「あるヨギの自叙伝」（パラマンハサ・ヨガナンダ著 森北出版）ですね（「神との対話」の中で、ベールースとともにヨガナンダのことがふれられています）。

この本は、奇跡満載の本ですが、著者が語っているように、人生で奇跡はいくらでもあったが、内的な気づきと関連しないような奇跡については書かれていない、というところがすばらしいところです。

まとめて読むのがもったいなくて、一日一章ずつ読んだ記憶があります。

(3月9日 2010年ミクシィ)



>ニコさん、長文で恐縮ですが、  
続いて、他の本を簡単にご紹介させていただきます。

「グルジェフ関係の書籍」(「グルジェフ弟子たちに語る」(グルジェフ著 めるくまー社)  
「魁偉の残像」(フリッツ・ピーターズ著 めるくまー社)「回想のグルジェフ」(C.S.ノ  
ット著 コスモス・ライブラリー刊)

「神との対話」の『意識』に関しては、グルジェフ関係の本が一番参考になりましたし、  
現在も参考にさせていただいています。著書は他にも多数ありますが、今のわたしはこの  
三冊を繰り返し目を通しています。初めて読まれるのであれば、三冊のなかでは、「魁偉の  
残像」が一番読みやすいと思います。

「シュタイナー関係の書籍」(「神智学」「いかにして超感覚的世界の認識を獲得するか」(シ  
ュタイナー著 イザラ書房)

「神との対話」でも確かシュタイナー学校の紹介として出てきています。シュタイナー関  
係の書籍はたぶん50冊は下らないだろうと思われませんが、シュタイナー自身の著作を読ま  
れるのであれば、高橋巖先生の訳で読まれることをお勧めします。私は他の人の訳ではチ  
ンプンカンプンです。ただ、シュタイナー自身の著書は読みにくいかも知れませんが、  
高橋巖先生が書かれた著作を読まれると、いいかもしれません。先生の本はどれも分かり  
やすいです。(題名が関係なくとも、すべてシュタイナーにつながる内容です。実は買った  
ばかりでまだ読んでいないのですが、「シュタイナー生命の教育」(角川選書)がおそらく  
高橋先生の最新刊の著作です)。また、コリン・ウィルソンの「シュタイナー」(河出書房  
新社)も入門書としてはいい本だと思います。

シュタイナー自身の著作が読みにくければ、立ち読みで結構ですので、「シュタイナーの黒  
板絵」(河出書房新社)を見られることをお勧めします。別世界に引き込まれるような本で  
す。

シュタイナーは霊学、教育、農業、建築、芸術などあらゆる分野に活躍された方です  
が、私はこの地球上に肉体をもって存在した方としては最も尊敬している人です。尊敬し  
ている点は「労を厭わない」という点です。

「弓と禅」(オイゲン・ヘリゲル著 福村出版)

以前ユング心理学に傾倒していた時に河合隼雄さんをご紹介されていて読んだ本です。ユング心理学は読まなくなりましたが、この本は今でも読み返します。

「(弓道の) 奥義は射手から一定の距離をとって立てられている的のことは関知しません。それはただ、技術的にはどんな仕方でも狙われない目標のを知るのみです。そしてこの目標は、そもそもこれを名付けるとすれば、仏陀といわれるのです。」(上述書 99 ページ)

こういうことを口だけで言う人はゴマンといいます(自分もそうです)。ヘリゲルの師である阿波研造師範のすごいところは、それを目に見える形で表すことです。師の力量を疑うヘリゲルに対して、師範は暗闇のなかで二本の矢を放ちます。最初の矢はもちろんだに当たりますが、二本目の矢は一本目の刺さった矢を突き抜くようにして当たります。まさしく、神技というか仏技というか、すごい話です。

そして、この本のすばらしいところは「あるヨギの自叙伝」と同様、この奇跡を内的な世界に結び付けているところです。神は阿波研造のような人を人知れず葬ったりはしません。オイゲン・ヘリゲルという哲学者を引き合わせ、彼の著述によって初めて明らかになった世界です。

「逝きし世の面影」(渡辺京二著 平凡社ライブラリー)

「神との対話」で、70年前のあなたがたはもっと人に対して親切であったというようなことを語られていますが、この本はまさしくそのような世界、それ以上の世界があったということをかいま見させてくれる本です。江戸の終わりから明治の初めにかけての日本人の民衆の生活が描かれています。現代からは想像もできない、ある意味で珠玉の生活です。寝る前によく読んでいる本です。

誰にでもお薦めできる本ですし、日本人であるならばぜひお読みいただきたい本です。というか、日本に生まれてこのような世界を知ることができるというのはありがたいことです。

「アーミッシュ」(菅原千代志著 丸善ブックス)

2006年10月にキリスト教一派のアーミッシュの学校で銃の発砲があり、4人の子どもが亡くなされた。新聞の記事によると、子どもの中で最年長であった13歳の少女マリアン・フィッシャーさんは小さな子どもを助けたい一心で「わたしから撃ってください」と言ったという。

また、アーミッシュの人たちは容疑者の家族を事件の夜から訪ねてゆるしを表明し、手をさしのべたという。

この新聞記事を読んで手に入れた本です。アーミッシュの全ての考えに賛同するわけではないですが、現代日本人の自己規定ひとつひとつを見つめなおす機縁となる良書と思っています。

「手の妙用」(吉田弘著 東明社)

手かざしに関して初めて読んだ本ですが、今現在でも自分自身の指針となっています。気功治療に関心がある方にはぜひお読みいただきたい本です。

「南無阿弥陀仏」(柳宗悦著 岩波文庫)

人である限り、逃れがたいものは慢心であろうと思われます。いわば、その慢心の戒めの教えとなるのが南無阿弥陀仏と考えていますが、著者の抑制のきいた語り口がこころよい読後感をかもしだしている本です。

「エリック・ホッファー自伝」(エリック・ホッファー著 作品社)

遊行はわたしにとって理想の人生のひとつですが、エリック・ホッファーはいわば遊行的の人生を送り、体験と観察を通じて最終的には社会学者となった方です。社会学者ですが、学者となったあとも港湾労働者として働いたという人生そのものがスピリチュアルです。

短い自伝ですが、とても多くの示唆が含まれています。誰にでも薦められる本です。

以上、長文になりましたが、ご紹介させていただきました。もちろん、まだまだありますが、できるだけスピリチュアル関係の本にはふれませんでした。今の私は、本も人間も普通がいいです。普通の土の道がいいですね。年取ってきたせいかもしれません。

ひとりひとり生き方が違うので、なかなか人に本を薦めるといのは難しいですね。お役に立てる本が一冊でもありましたら、幸いです。

「神との対話」シリーズ（「神との対話」全三巻・「神との友情」上下巻・「新しき啓示」「明日の神」「神へ帰る」）

「ハトホルの書」（トム・ケニオン&ヴァージニア・エッセン著 ナチュラルスピリット刊）

「あるヨギの自叙伝」（パラマンハサ・ヨガナンダ著 森北出版）

#### ●自由

外からの規制は何もいらない。わたしだけの自己規定があればよい。

3月9日、10日、11日、16日、20日 2010年

#### ●シンクロシティ

一日の価値をシンクロ度で判断してみる。

ひとつは、＜世界＞の方から＜しるし＞として現れるシンクロである。

私が祖父の善行——住まいのない人を自宅に泊めていたという話し——を日記に書くと、まさしくその話しそのものの映画を見るというシンクロである。

これは書いたことに対する、あるいは、そのことを思い起こしたことに対する、あるいは、多少なりとも同じような行いをしようと思う自分に対する、＜世界＞からの＜しるし＞である。

もうひとつは、＜わたし＞の方からこの世に＜しるし＞として刻むシンクロである。

ということかという、

「感情面で健全になることについて、何か恐れていることはあるか。」

という文章をたまたま（必然的に）目にする。この目にした文章を自分の現実の一日の中に持ち込むことである。＜世界＞からの小さな声に耳を傾けるということである。

そして、おそらく両者のシンクロはいつかひとつとなり、別のものとなるのではないだろうか。

（3月10日 2010年掲示板）

### ■3月10日のシンクロ

昨日ミクシィでチャクラについてふれる。

同じく、ミクシィの返信で菜食について下書きをする。

ホームページの掲示板でシンクロについて書き込む。

そして、

仮眠前には神経を興奮させるような本は読まないが、この日は普段就寝前には読まない「神との対話」を読む。3巻の8章である。

ここで、チャクラと地球人の体に取り入れるものについて語られている。

これはわたしにとってシンクロである。

具体的な詳細は書かない。夢と同様、ほとんどのシンクロは当人にとってだけ意味があり、その意味の深さを他人に伝えるのは難しいからである。

ただ、わたしにとってシンクロであった。

だから、菜食に踏み切る。

そして、ほとんど勉強したことのないチャクラにこころを傾けてみる。

そして、日々のシンクロを意識する。

（3月11日 2010年掲示板）

### ■意識のある人生・二つの苦悩・身体

刺身のつまだけしか食べてはいけないと言われ、刺身のつまだけを食べて苦しむ。

刺身も食べられるが、刺身のつまだけを食べて苦しむ。

両者の苦しみは全く異なる。

前者は身体をすり減らし、後者は身体を創り出す。

（3月12日 2010年掲示板）

（参考）グルジェフ

■3月16日のシンクロ

「MUD MEN」の神話・呪詛

「数秘術大全」の川が話すこと

■シンクロを引き起こすもの、それは何か。

●わたし～主人

どんな時であれ、わたし以外のものを——洋服、他人の目、食事、住まい、肩書き、などなどを——、わたしの主人としないこと。

しかし、それら以外で、わたしをわたしの主人にするということはできるのであろうか。

●意識のある人生

今日手にあるもの、今日生じる出来事、今日のわたしが接するすべてのもの、これらを最大限に生かすこと。

最大限に生かすとは、これまでと違う姿勢でそれらに対することである。

最大限に生かし、生かし尽くして、ひとにぎりの灰にすること。

この灰こそが、今日までのわたしであり、そして、明日の新たなエネルギーとなる。

●神と人間

神を使うか（意識的）

神が自ら働くか（無意識的）

3月10日、17日2010年

●意識のある人生

ひとつのことだけに集中し、そのことを知っていること。連想しないこと。

A → B

↳ほとんどは連想である

連想で変えるのではなく、専心で変えることである。

●7つのチャクラ

>ようちゃんさん

「7つのチャクラ」は確かに難解ですね。各章（各チャクラ）の初めと終わりのまとめ方が



内容盛りだくさんで、とてもでないが消化不良を起こします。相談者の方のいろいろな具体例があげられているので、その点が救いで、その具体例と自分自身の体験を手がかりに「まとめ」のところを消化していくしかないと思っています。「まとめ」はどれもごもつともですが、気の遠くなるような内容です。各章に10ずつ、全部で70ものチェック事項があり、しかもひとつひとつは当然のごとく、クリアすべき内容です。しかも、ひとつひとつのクリアが簡単ではない。

たとえば、たまたま（必然的に）開いたページのチェック事項

「感情面で健全になることについて、何か恐れていることはあるか。」

これは一生かかって解決すべき課題です。こんなのが70もあつたら、正直卒倒してしまいます。

しかし、思うに各課題はリンクしているので、ひとつの課題が氷解すれば、他の多くの課題もドミノ倒しのように倒れていくものだと思っています。

とにかく一読ではどうしようもない本です。私はもう一度読み直す予定ですが、難解であれば、手放すことも賢明な選択と思われます。

精神世界の本は数多く出ていて、ありがたいことですが、同時に多いがゆえにいろいろな本に手をつけて、読むだけで終わってしまいかねません。一冊にひとつのことでよいので、「気づきがあれば、意識の進化に役立てる」（ハトホルの受け売りです）ことが大切だと思っています。

>第5のチャクラ(のど)は表現することを意味すること。

>感情(第4のチャクラ)と理性(第6のチャクラ)のバランスがとれた時、

>完璧な表現(第5のチャクラ)ができるということ？

>これが『7つのチャクラ』に2000円を出して得た唯一の気づきですw

気づきがひとつでもあれば、2000円でも安いものだと思いますよ。それだけ、気づきは大切なことだと思っています（ちなみに、私は文庫本なので750円ですが）。

感情、理性、そのバランス、そして、表現

このことについて、折にふれて思い起こし、気づきを新たにされれば、2万円でも安いと

思われるかもしれません。

ということで、今日は

「感情面で健全になることについて、何か恐れていることはあるか。」

これをシンクロとすべく一日を送ろうと思っています。

750円を7500円にするということですね

750円

僕も「7つのチャクラ」読みましたが、

僕にはちょっと難解すぎて、

正直、あんまりよく分かりませんでした。

分かったことは、

第5のチャクラ(のど)は表現することを意味すること。

感情(第4のチャクラ)と理性(第6のチャクラ)のバランスがとれた時、

完璧な表現(第5のチャクラ)ができるということ？

これが『7つのチャクラ』に2000円を出して得た唯一の気づきですw

情けない🙄

[http://mixi.jp/view\\_diary.pl?id=1426888424&owner\\_id=26343910](http://mixi.jp/view_diary.pl?id=1426888424&owner_id=26343910)



喫煙は簡単にやめられました。25年前、通っていたスナックのホステスさんが

「わたし、タバコは吸わないのよねえ」

のこのひと言で禁煙です。ちなみに、その子とは何もなく、禁煙後一ヶ月ぐらいでやめられて、結局禁煙だけが残りました。

飲酒は死ぬまでやめられないと思っていましたが、一時期毎朝「気功治療」をすることになり、まさか二日酔いで行くわけにもいかず、飲まないでいたら、意外と簡単にやめることができました。

ただ、今もタバコは5年に1本ぐらいは吸いますし、お酒もお誘いがあれば喜んで飲みに行きます。

ところで、菜食はどのようなのでしょうか。もともと肉食は好みませんが、魚大好き人間です。

どうなるのでしょうか。。

ようちゃんさんのベジタリアンは本格的ですね。黒米の発芽米とはびっくりしました。

わが家はとりあえず、玄米食からですね。

あっ、あと、ご存知だとは思いますが、千葉産の落花生は結構高いんですよ

3月11日、12日、14日2010年

#### ●貯金

ご存知かもしれませんが、貯金はこれまでの自分とは違う選択を意識的にした時が貯金です。貯金3円はこの日3回あったということです。他人から見てどのような善行も自分にとって当たり前なら、それは善行を行っても貯金は0円です。また、他人から見て当たり前のことでも、一日前であればできなかったことを今日したなら、貯金1円です。

生まれた時の貯蓄がいくらかはちょっと分かりません。

10億はくだらないと思います。。。100兆円か1000兆円か。。。まあ、ちょっと見当のつかない額だと思っています。

たぶん、普通に考えると、この貯蓄をかなり減らして生きてきたわけですが、もしかしたら、1円も減らしていないかもしれません。ただ、増やしたかということ、これだけははっきり言えることで、ほとんど増やしていないですね。

貯金は1000円はまだ行ってないです。これもまた確実です。ただ、同じ1円でもアルミの1円もあれば、金貨の1円もあります。

金貨の1円は貯金箱に何枚か入っています。これはいつか貯金箱を開けるのがとても楽しみな1円ですね。

100兆円もあれば、利子は膨大になりますが、どうもあの世のお金は利子はつかないみたいですね。せつせとく働く（ワークする）>しかないみたいですよ🤔👉👉

そして、おもしろいことはこのお金はいくら出して使っても減らないということのようですね。

あと、ちなみにこの世のお金についてはへぼ塚は「ギリギリ生活」が長いため、スッテンテンです👉👉

---

### ■返信

貯金はあまりに0円が続くので、ちょっとおまけの日もあります。

まあ、おもちゃの「厚紙の1円玉」貯金ですね。ということで、忘れてしまうような貯金ですが、3円のうちのひとつの1円は

出勤途中アーケード街を通り抜けようとする、前を母子連れが歩いていて、小さなお子さんが分子の「ブラウン運動」のような、アットランダムな動きをしているもので、おもわずイライラ。。ヒマな時はいいんですが、時間があまりなかったもので。。

瞬時に気づき、肩の力をぬいて、気持ちをあらためました。まあ、イライラから止めどもないない連想をしなかったということで、1円です。紙の1円ですが、チリも積もればデス。。  
というか、＜意識の進化＞はこう地道な作業しかないと思っています。

こころを傷めることはよくないです。遅刻する方がイライラしてこころを傷めるよりはるかにましですね。

(3月12日2010年ミクシィ記入)

黒住教の教祖「黒住宗忠」という方が言っていますが（教団になると問題ですが、教祖は立派な方がいらっしゃいます）、

### ●リアリティ

確か「ユング自伝」（みすず書房）で、「マントヒヒが横一列になって夕日が沈む光景を見ている」という描写がある。

我々人間は一日に一回でもこのマントヒヒの目線を持つことがあるのだろうかという疑問がある。

何を見て生きているのであろうか。

何を感じて生きているのであろうか。

夕日を見るマントヒヒの方がはるかに人間的な生活をしているのではないだろうか。

3月12日、13日 2010年

● 慢心

仏教でいう「人は口に斧をはやして生まれてくる」というのは慢心のことをいっているのではないだろうか。

● 意識の進化

羽生の集中力

高校時代の化学の計算、定期試験前の一夜漬け

こうしたものだけが意識の成長を加速させるものではないだろうか。

神に通じる能力の拡大

それとは別に気づき、選択がある。

地道な選択の変更

●

とにかく、あらゆる場面で疑心暗鬼に陥らぬこと。  
こころを傷めないこと。

3月13日、14日、17日 2010年

● 「神との対話」

3巻6章

受け流すこと・被害を受けない

同じ穴のムジナ

状況を作り出すということ

相手の怒りの感情を受けずに、常に転じることを意図すること。無理であれば、実現させてあげる。以降は私の仕事ではない。

相手の反応でなく、行為そのものを愛すること。

3月16日 2010年

●

特異点としての病気

特異点としての死

その他の特異点

長所と短所

危篤である

死ぬ前に会えた

時間の問題

健康

小説作法

草稿

シンクロ～無意識・意識・超意識の一致

●「物語」力

以下、2010年3月16日の日記より転記

前日買った「MUD MEN」。どういう漫画かは説明が難しい。創造神話を古事記の世界とニューギニアに残されている未開世界との関係から独特なタッチで描かれている。まあ、こういう世界は漫画だ、物語だという人もいるだろうが、自分にとっては物語ではない。世界の見方はいろいろあり、その見方が現実を創り出すので、この物語が現実となり、現代社会の世界が漫画になっても何ら不思議ではないと思っている。

不思議なことは何回か経験しているが、それが日常とならないのは自分自身の問題もあるが、大多数の人がしている見方に引っ張られてしまうこともその一因と思っている。

■意識のある人生

神話の力を働かせること。

3月17日、20日、22日 2010年

### ●モノ～片付け

モノを作ることはできるが、作ったモノを元にもどすことはしない。  
個人的にも、社会的にも。

### ■責任

使ったものをゴミ箱に捨てる。  
生ゴミの日に出す。不燃ゴミの日に出す。  
しかし、あとのことは知らない。

これって、後片付けをしない「駄々っ子」と同じではないだろうか。  
おいしいところだけを食べている人生である。  
(加筆して掲示板記入予定)

### ●意識のある人生～選択

<私が選ぶべきこと(変えるべきこと)>と<私が選ぶべきでないこと(変えるべきでないこと)>とがある。

今ある状況、これは選ぶべきことではない。  
選ぶことができないからだ。  
明日の状況、これは選ぶべきことである。  
選ぶことができるからだ。

えてして、自分は逆の選択をして(選択をしないで)汲々としている。  
(3月22日2010年掲示板)

### ●仕事

宇宙の軸から仕事を見る。  
仕事だけでなく、一日を見る。  
すべてを宇宙の軸に沿って変えることである。  
この変容に力を注ぐことである。

そうすれば、仕事が変わり、一日が変わる。

### ●自己想起

自己ヒーリング(四大元素の名を唱え、気を体に通す)  
体の力を抜き、体に悪い考えをとめる。

3月19日、20日 2010年

●自他

相手に怒りが生じた時、往々にして、相手の問題ではなく、自分の問題であることが多い。

あなたの意志、それはわたしの意志である。

■自他・神と人間

神が機嫌をそこねるかもしれない。

それは私の見た神であり、神は私である。

他人も神もいつもそのように見える。

それ以外の見え方というのはあるのだろうか。

(加筆して掲示板記入予定)

「神との対話」文庫版 3巻 147 ページ

●創造

いつも何を意識しているか。

それがわたしの創造を引き起こす。

これはこれまで行き当たりばったりであったが、

あるいは、他人の言いなりであったが、

これからは、何を創りだしたいのかを自分で決め、

いつもそのことだけを意識すること。

この創造をわがものとする。

現実に適応すること。

(加筆して掲示板記入予定)

●援助

私をつつんでいた、「三丁目の夕日」にみる昭和30年代のあたたかさから、「神との対話」の神のあたたかさ、「ハトホルの書」にみる援助者としてのハトホルのあたたかさを感じるようにする。

以前は渦中において、それゆえ感じられなかったあたたかさを、今、渦中において感じられるようにする。

●神と人間 (3月17日 2010年日記より転記)

阿佐ヶ谷到着後は「ビクトリ・カフェ」でシェークリームとアイスコーヒーをいただきながら、ノートの整理。ノートの整理とはいろいろな気づきをまとめたもので、ノートの整



理がはかどった時が、今のわたしにとっては一番幸福感を感じる時間である。

ちょっと書きがたいことではあるが、そういう時間が私にとっては神と通じている時間なのである。ただ、この神はヒゲをはやしたおじいさんでもないし、若い女神でもない。また誰もが神と通じているし、＜通じ方の得意のジャンル＞があると思う。私にとってはそれは書くことであり、それはもともとは他人に見せることでもなかった。ただ、自分が充足した気持ちになる書き物ができればそれでよかった。しかし、ホームページの掲示板やミクシィのコミュを通じて表現できるということは、これはこれでとてもありがたいことである。

この日はそういう時間を「ビクトリ・カフェ」で過ごしてから、出勤。

#### ■ニコ CR-Z さん

ニコ CR-Z さんご存知のように、神と通じるのは特殊な人にしかできないことではなく、すべての人にできることで、また、していることなのです。

問題は＜何を神とするのか＞ということです。

まあ、それはさておき、基本的には自分もニコ CR-Z さんと同じです。

＜気づき＞を感じたときというのは、確かに神と通じたときだとわたしも思います。

ただ自分の場合、気づきもいろいろあり、多摩川の石ころからダイヤモンドの石ころまであります。自分のフィルターを通じてしか通じることができないので、どうしても石ころからダイヤモンドまであるのですね（それだけ、一瞬一瞬自分自身浮き沈みがあるということです）。ただ、多摩川の石ころも大切に、気づきはすべてノートに記して読み直し、新たな気づきがあれば、加筆するようにしています。未完成の過去のノートを見て思いをめぐらせているときが一番の幸せです。

＜書いているとき＞も書いているときで、自分が書いているとは思えない気づき、インスピレーションがあったりで、これも神と通じているときなのでしょうね。

＜熱中＞は静かな熱中のときがそうですね。状況に完全にとりこまれていない、静かな熱中、しなやかな熱中、そういうときは内なる神が働いているときなのでしょうね。

<感動>はモロそうですが、感動も熱中もいろいろあり、なかなか難しいところです。まあ、この世の出来事はすべて神であるという意味ではすべて神なのですが、

<神をもっと使うように>

<神に命令するように>

という意味での神と通じるということでは、熱中も感動もよく観察する必要があると思います。

たとえばですが、ゲームや試合で勝って狂喜するというのは、それはそれで感動なのですが、敗者が映し出されると、この感動はちょっと違うんじゃないかと思ったりします。

女子マラソンの高橋選手や女子フィギュアの荒川さんが金メダルを取ったときに感じたことです。銀メダルの選手にもまた、違った意味で内なる金メダルが与えられたのではないかと思ったりしました。笑顔がある限りですが。

18日の日記にも書きましたが、深い感動というのはそうそうあるものではないですし、また、これまででなかったのですが、これからは相手にも自分自身にもいつまでも残る感動、人生を変える感動を自分自身が引き起こしていきたいものだと思っています。

ニコ CR-Z さんも今日一日、

「お客様は、神さまです」

で、お仕事励んでください。

日記を読んで考えてみました。私が神と通じると思うとき…

気づきを感じたとき。気づきを書いているとき。何かに熱中しているとき。感動したとき。かな〜って思いました。

今日も一日お疲れ様でした。お墓参り、気合いをいれて行ってきて下さいませ🙏

■

身体をどのようにとらえるか。

身体の利用法～神を使える利用法。

3月20日、22日 2010年

●小説作法

化石の復元には各人の方法がある。

●エネルギー・感情

確かに、この話しもいい話でしたね。

[http://blog.goo.ne.jp/yoda\\_norimoto/e/e6ddd112864adf3747275be600837adb](http://blog.goo.ne.jp/yoda_norimoto/e/e6ddd112864adf3747275be600837adb)

まさしく蛇足ともいうべきコメントをする自分は何だろうと思いつつも、これが習い性というか、因果というか、くもの巣にかかった虫というか、書かざるを得ないので、書かせていただきます。

そう言えば、僕も碁を始めた小学4年生の頃は負けると目から涙があふれてくるので、「上を向いて歩こう」という歌ではないけど、上を向いていたものである。

それで、僕はどのようにして大人は負けても涙が出ないのだろうか？

と下からのぞきこんで観察していたものである。

どうして大人になると子供のころのそういう感覚がなくなるのであろうか？

自分も子どもの頃に将棋で負けてずいぶん泣きました。

最近女流名人になられた里見香奈さんは高校三年生ですが、今でも泣くことがあるみたいです。

しかし、大人になって将棋・囲碁で負けて泣いたことはありません。たぶんこれからはないでしょう。

では泣いたことは皆無かというとなんかそんなことはありません。

父が亡くなった時、美久仁小路の紫苑のママが亡くなった時には涙が出ました。

兄が亡くなった時には涙は出ませんが、映画を見たり、小説を見たりして涙を流したことは数限りなくあります。

また、人が喜んでいっているのを見ると涙が出ます。昨晚も仕事をしていて涙がわいてきました。

なお、誤解のないように申し添えておきますが、人の幸福すべてに喜ぶかというとなんかそんなことはありません。人並み以上に嫉妬深いです。この対処には若い頃から悩んでいま

すが、どうしようもないですね。

まあ、ということで、依田さんの問いの答えにはなっていないのですが。。。

しかし、毎日、毎日、一日の終わりに涙を流せるような人生を送っていたら、あっという間に、キリストやブッダのようになれるんでしょうね。

依田氏の

> 上を向いて歩こう

> 2010-03-15 14:52:26 | 日記

みたいなのも好きです

#### ●意識のある人生

この世界で身体の中にいる意義～ひとつの出来事を分解し、つかみとること。  
（「神との対話」3巻文庫版 105 ページ）

生命は体ではないことを実感する。

生命と体との区別を自覚することが自己想起のひとつの効用かもしれない。

3月21日、22日 2010年

#### ●意識のある人生

見えないものを意識すること。

直観を働かせること。

直観にしたがって観察すること。

理性で面倒だと思ふことと直観で面倒なことを選ぶこと。

理性で腹立たしいことと直観ですばらしいこと。

#### ●菜食

外からでなく、内から変えること。

自己規定。

存在。

#### ●シンクロニシティ

Kさんとの再会

シンクロが生じるのはどれだけ一体性を示せるかどうかである。

3月23日、24日、31日 2010年

● 選択・創造

一日に一回は、気づき、驚きがあること。

シンクロニシティがあること。

あるいは、一日に一回は、シンクロニシティを見ることができると。

気づくことができること。

何ごとも偶然とは言わないこと。

シンクロは必然である。その必然の意味を見ること。

(加筆して4月1日 2010年掲示板記入予定)

(08212004)

● 神聖なる矛盾

先日お会いしたKさんがしきりにメモを取られるので感心したが、人生には、

メモを取ることの大切さと

メモを取らないことの大切さがある。

メモを取ることから生まれてくるものがあり、

メモを取らないことから生まれてくるものがある。

参考～グルジェフがメモを取ることをゆるさなかったこと。

● 選択・創造・一体

他者に与えて動かすこと。

わたしと宇宙とを動かすこと。

錬金の炉の中の炎のように動かすこと。

「神との対話」3巻文庫本版 143 ページ

● 仕事

単純作業に意味を見出すこと。

単純作業を生かすこと。

～自己想起・遠隔・感じながら生きること・などなど

3月24日、4月12日、13日、16日、30日、5月7日、8日、24日、26日、5月27日、6月15日 2010年

●シンクロシティ～自己想起・「誰だろう瞑想」

自己想起ができずに悶々としていたところ、いつも持ち歩いている「神との対話」の写本でここ一年以上目を通していなかった個所に目がいく。

「人間が意識を拡大するいちばん手っとり早い方法は、自分が「意識」をもっているという事実に意識的になることだ。

意識をもっていることに、あなたがたは意識的に気づかなければいけない。それを**自己認識**という。

自己意識を育てることはべつに難しいことではない。

これから鏡や何かに自分を映すとき、100回「誰だろう (who) 瞑想」をしてごらん。」

「誰だろう (who) 瞑想」ですか？」

「誰だろう (who) ?」と、誰だろうと (who の oo の音を) 長く伸ばして、一度に10秒ずつ三度、自分に言うのだ。声に出してもいいし、心のなかで言ってもいい。どちらにしても、鏡のなかの自分の目を見つめ、大きく深呼吸ひと呼吸でゆっくりと、三度言う——。だあれ (whooooooooo) ?

あなたが自分に聞いているのは、「これは誰だろう？ わたしの前に立っているこのひとは誰？ わたしが自分だと思っているこの存在は誰なのか？ 誰？ 誰？」ということだ。

今日から30日、一日に100回これを実践すると、あなたは自分自身を意識するようになる。**自分が誰なのか完全には理解できないかもしれないが、自分というものがいることには気づく。**つまり**自己を認識する**ようになる。

自分が意識をもっていることがわかったら——**つまりあなたの一部はあなた自身よりも大きく、小さなあなたと切り離されてあなた自身に話しかけることができる**とわかったら——**あなたは自分の存在の真実を発見して悟りに近づく道を踏み出したこと**になる。

やがて、悟りとは求めて体験できるものではないことを理解するだろう。悟りたいと思っても悟れはしない。悟っているから悟れる。つまりすでに悟っていて、ただそのことに気づくのだ。それがここで話している気づきということだ。」

(ニール・ドナルド・ウォルッシュ著「明日の神」68 ページ サンマーク出版)

以前にも同じようなことを書いた気がするが、、まあ、あまりに進歩のないへぼ塚の自己想起を気の毒に思って<生命>が示唆してくれたのであろう。

「だあれ (whooooooooo) ?」はあんまりな訳なので、「誰だろう？」でいきます。

ポイントは、

「10 秒」、「鏡」、「尋ねる」、「一日に 100 回を一ヶ月間」

で、日常的にみえるが、どれも非日常的である。

10 秒間というのは日常ある時間の長さであるが、「息を吐くのを 10 秒間続ける」というのは実は結構な長さで、カラオケボックスにでも行かない限り——カラオケでも数秒間であろう——、日常では生じないことである。

「鏡」を見るというのはこれまた日常茶飯事であるが、「自分は誰であるかということを見て」見るというのは、まず千回に一回もないであろう。しかも、それを「一日に 100 回、一ヶ月間」というのは尋常ではない。

ちなみに、グルジェフは「自分のことを何も知らないのに、自分のことに関心を持たないのは奇妙なことである」というようなことを言っている。

「誰だろう瞑想」は、この自分に関心を持つことの第一歩である。

(3 月 24 日 2010 年掲示板)

#### ■気づき

自分というものがいることに気づく＝自己を認識する  
すでに悟っていて、ただそのことに気づく。

#### ■シンクロ

感情を喚起させるためにある。

感情はあらたな成長への飛翔のためのエネルギーである。

#### ■狂人

白髪交じりの初老の男が女性用のショーウィンドウを身じろぎもせずじっと見つめていたら

「こいつは大丈夫だろうか」

と思われるであろう。誰もスピリチュアルな道を歩むための方策としてウィンドウを見ているのだとは思わないであろう。

「あいつはおかしい。危ないやつだ」

と思うであろう。だが、実はそうではないのだ。危ないやつだと思う方が実はおかしいのかもしれないし、実は危ないことをしているのかもしれない。

(掲示板記入予定)

同様にして、私はこの世にあふれる「危なそうなこと」に関して何も知らないのかもしれない。よく見ることである。そして、見ても分からないことがあるということもまた心得ておくことである。

#### ■立ち止まること

これまで、人生で立ち止まったことはあるだろうか。

今日一日、立ち止まることはあるだろうか。

鏡の前でただ立ち止まってあなたを見ること。

美人だと思うのでなく、しわが増えたのだと思うのでなく、これでいいのだろうかと思うのでなく、しばし、呼吸と印象を止めて、

そして、人生を止めて、

ただあなたを見ること。

(4月30日 2010年掲示板)



「誰だろう瞑想」は自己認識のために行うことである（たぶん、グルジェフが自己想起と呼んでいるものと同じものと思われる）。

「意識をもっていることに、あなたがたは意識的に気づかなければいけない。」

このために行っていることを自覚し、このために行っていることを知らなければならない。それ以外の何か別の存在、能力を求めているのではないし、日常の延長にある白昼夢をおこなうためにやっているのではない。

#### ■沈黙の力

#### ■所有

私の観念が変わることにより、所有の観念が変わる。  
私がおとなになれば、所有は共有になるかもしれない。

#### ■鏡

外見だけであっても、もし自分自身を他人の目から見ることができたなら、まったく別様に見えるであろう。  
感動か、幻滅か、気づきか。

この＜気づき＞ではないかということで、「誰だろう瞑想」を行う意義がある。

#### ■「誰だろう瞑想」

呼吸と印象を止める。

#### ■注意

誰だろう＜だけを＞こころの中で試してみる。  
こころの中を他の言葉、他の思いで埋めないようにすることである。

#### ■意識のある生活

10秒間がミソである。  
おそらく日常生活でもそうではないだろうか。  
日常においてもスローのスローを試みること。

#### ■学ぶ犬

いわば、イソップ物語の犬である。

犬のようにほえないことである。

#### ■「誰だろう瞑想」と創造

誰だろう～10秒の呼吸停止 ⇒ 無呼吸

└ある創造・気功治療 ─創造

3月25日、26日、27日、6月15日 2010年

#### ●シンクロニシティ

前夜寝る前に買ったままになっていた「ドリームヒーラー」に手がいて、読んだこと。

同書より学んだこと

- 1 ヒーリングにおけるイメージ力
- 2 事象そのものより受け取り方のほうが大切である
- 3 笑い

#### ●アバター (3月24日 2010年日記より)・シンクロニシティ

そのあとは映画「アバター」を見るために、京成千葉にある映画館に妻と出かける。

今話題の3D映画で、

「絶対に見る！！」

と妻ご所望の映画である。まあ、子供だましにおまけがついたような映画であろうと思っていたが、これがなかなかの映画であった。とにかく映像が素晴らしい。この映画は「夫婦50割引」もきかない、ひとり2千円の特別料金であるが、特別料金の価値は映像だけで十分にある。

ストーリーは私の嫌いな「お子様ハッピーエンド」だが、ガイア理論 (<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AC%E3%82%A4%E3%82%A2%E7%90%86%E8%AB%96>) に基づく(?) 自然観には共鳴できるし、また、ロボット観 (すなわち生命観) についても興味深いところがあり、自分にとってはいい映画であった。

#### ■「あなたが見える」

怒ってしまい、相手が見えなくなる。

自分自身がクリアになって初めて相手が見える。

#### ■

見えること～裸の方が美しい

#### ■エネルギー・創造

みながひとつのことにこころを集めること。

そしてまた、爆発して、バラバラになり、またひとつにこころを集めること。

創造はこのようにしてなされる。

3月26日、27、5月27日、6月15日 2010年

●意識のある人生

人の縁もあれば、一日の縁もある。

ともによく見て、大切にし、自分自身のために活かすこと。

そして、人のために、一日のために活かすこと。

(3月26日 2010年掲示板)

●草稿

終わりのない、どこまでも続く、どこまでも変化し、どこまでも成長するピース、課題、ピース同士が絡み合い、またひとつのピースとなる自分自身の課題、そして、自分自身の草稿。

永遠に成長し続ける自分自身の本質。

そのような本、成長し続ける本。

いつまでもいつまでも未完であり、質問であり続ける本。

■壁

神が人間に与えた限界でなく、自分自身が限界を押し広げていく自己規定。

3月27日、5月10日、6月15日、16日 2010年

●世界の模様

人との出会いも、一日の出会いも、全体のジグソーパズルのピースである。

そのピースを生かすこと。

有機的に生かすこと、すなわち、変化させること、結びつけること、1+1を3にすること。

隣のピースと隣の隣のピースと

昨日と明日と

一年前と一年後とを

組み合わせてみること。

このことによつてのみ生じることがある。

3月30日、31日、4月2日 2010年

●意識のない人生・意識のある人生・神聖なる矛盾

どのような人も、今は、その生き方しかできない。

どのような人も、今、違う生き方ができる。

(3月30日 2010年掲示板)

●3月30日のシンクロシティ

自分自身が感じるシンクロを他人に伝えることは、感動した夢を語り、伝えるようなもので、なかなか難しい。ケネディ大統領とリンカーン大統領の暗殺の数字の符合のように、かならずしも分かりやすい例だとは限らないからである。

それでもこうして書くのは、出来事は書くことによって、表現することによって、それこそシンクロして拡大するからである。

3月30日のシンクロは、母への「遠隔治療」、「お犬様の時間」という絵、「Mro Cafe」という喫茶店、寝る前に手に取った本である「物質のすべては光」である。どういうシンクロかというと、空間が別に見えて感じるというシンクロである。

分かりやすい話として、本から引用させていただく。

「物質の正体は、じつは見かけとは違っている。物質が持っている最も明らかな性質——この性質は、動きへの抵抗、慣性、質量など、さまざまな呼び方をしてきた——は、従来とはまったく違う言葉を使うことによって、もっと深く理解することができる。普通の物質の質量は、それ自体は質量をまったく、もしくは、ほとんど持たない、より基本的な構成要素が持つエネルギーがかたちとして現れたものだ。そして空間もまた、見かけとは違うものである。＜わたしたちの目に空虚な空間と見えるものは、わたしたちの精神に対しては、自発的な活動に満ちた複雑な媒体として示されている＞。」

(フランク・ウィルチェック著「物質のすべては光」13ページ 早川書房)

ちなみに、著者は怪しげなライターではない。ノーベル賞を受賞した物理学者である。

さすがにへば塚も人生の折り返し地点をとっくに過ぎている。科学の啓蒙書は知的好奇心を満たすために読むほど時間は残されていない。わたしの残りの実人生に具体的に役立つためである。

この場合は、遠隔治療と身体の再構築である。

(3月31日 2010年掲示板)

#### ■遠隔治療

クリアなイメージ力

└元々のもの

この意味で、このイメージ力を用いれば遠隔治療の方が効果があるともいえる。

(参考) 光さんの話し

もしかして、直接の気功治療の方が効果があるのは、単なる実感のせいかもしれない。

#### ■読書法

ゆっくり読む本がある。これもそのような本である。随所に本質的な指摘がある。それを見逃さないためにも写本しながら読むべきである。

#### ■気功治療に応用すること。

■この本を読むことも「誰だろろう瞑想」をすることも私にとって同じである。世界を違うように見ることができるようになりたいからである。世界を違うように見るためにはこれまでの自分自身の「身にしみこんだ世界観」を変える必要があるかれである。

#### ●意識のある人生～食事

少食にこころを配ること。

太陽の光を目に入れること。

3月31日、6月16日、17日、11月23日、29日 2010年

#### ●「物質のすべては光」

世界との関わりで見過ごされやすいのは、白昼夢である。これはマイナスの意味であるが、これを知ることによりプラスに転化することができる。

- 1 感覚系統
- 2 道具
- 3 考え

↳パスカルの考える葦

以上三つの他に<直観>がある。手をかざして分かること（「神との対話」）

「神との対話」の神とのコミュニケーションの方法  
言葉、思考、感情、体験

その他にシュタイナーの対象との関係性（もともとはゲーテ）

### 030<三重の仕方での世界との結び付き>

ゲーテによって語られたこの思想は人間の注意を三つのものに向ける。

第一は感覚の門を通して、絶えず人間に触、嗅、味、聴、視の情報を流している対象である。第二はこの対象が彼に与える印象であるが、それは人が或るものに好感をもち、他のものに反感をもつときや、或るものを有用と見、他のものを有害と見るときに対象から受けとる、気に入るもの、気に入らぬものの印象であり、欲望、嫌悪の印象である。さらに第三は人が「いわば神的な態度で」対象について獲得した認識内容である。それはこの対象が彼に明かしたその作用と在り方の秘密である。この三つの領域は人間生活の中ではっきり区別されている。それ故人間は三重の仕方では世界と結びついているのである。第一に人間は所与の事実としての眼前の世界と結びついている。第二の仕方によって、人間は世界を彼自身の要件、彼にとって有意義な何かにする。第三の仕方を彼は絶えず努力すべき目標と定める。

（シュタイナー「神智学」30 ページ）

### ■クリア（片付け）

片付けに関する

モノへの関わり方

人への関わり方

選択への関わり方

これらの関係すべてに関して、第三の仕方での世界への関わり方とすること、第三に  
有用なモノ、有用なことのみに関わることを、手元に置くこと。

とりあえず、この二年間に関しては徹底する。

職場への漫画～読んでほしいものだけを持っていくこと（「神との対話」の愛の定義）。

シュタイナー～相手の役に立つことだけを話す → 相手の役に立つものだけを持ち、相手の役に立つものだけを手渡す。

ヒーリングにおいてはこのことはどうなるのだろうか。

K野さんへのヒーリング

仕事～神から与えられたものとして、自分に生かすこと。

。。 祝日をどうするか。。

● 「誰だろう瞑想」

「神との対話」の立ち止まること。

↳ 阻害するものは、連想と慢心

どのような時にも立ち止まっていること～時空

「ビクトリカフェ」での鏡で行うこと。遠くの鏡で行うことの方が実感が湧く。

遠くに気を送る練習～野球の遠投

● 意識のある人生～仕事・利己主義

これから 19 時間の仕事の時空をすべて自他のために生かすこと。

★4月2010年

4月1日、2日、5月30日、6月29日、11月12日2010年

● 草稿～質問

言葉でなく、行為することにより初めて答えとなるような質問。

たとえば、UFO問題。

そのような質問を質問とする。

行為により初めて身体化できる。

ただし、「手の妙用」の吉田氏の観無量寿経の読経により達した身体化もある。これは、言葉が言葉だけでなく、言葉の力を引き出したものである。

質問でもそのようなことは可能なのであろうか。

●わたし・自己研究

「誰だろう瞑想」によって生じる自己

と

「自己観察」によって生じる自己

このふたつは同じ自己であろうか。

■何を私と思うか。

■「誰だろう瞑想」

鏡は私であって、私でない。

●4月1日のシンクロ

夢～絵画・気取り・穴をまくる・暴力・恐れ

朝食時に「自己研究」を手にとったこと。

4月2日、3日、6月10日、16日、17日、7月15日、11月23日、29日 2010年

●4月2日のシンクロ

「物質のすべては光」における「 $m=E/c^2$ 」

質量、それをわたしは存在感と捉えるが、その存在感は E (エネルギー) に比例するという  
ことである。

では、 $c^2$ の光速度は一定なのであろうか。

■意識のある人生～創造・エネルギー

一日を作り出すこと。

一日を作り出すとは、何を作りだしたかということも大切であるが、それ以上に大切なことはどれだけ多くのエネルギーを注いだかということである。

注がれたエネルギーの多寡によって出来上がった一日は全く異なるものだからであるから



だ。

注いだエネルギーの多寡によって出来上がったわたしは全く異なるものだからであるからだ。

このエネルギーは必ずしも多くのことをするエネルギーではないし、百万人の支持者を得たり、金メダルを取ったりするエネルギーでもない。

世界と深いところでつながるようなエネルギーである。

表面だけを見て、表面だけをなで、表面だけに満足することからは生まれてこない。

自分自身の体にしみわたる<充実感の振動>を道しるべとして発せられるエネルギーである。

(4月3日 2010年掲示板)

#### ▲エネルギー

今日一日、意識的に多大なエネルギーの注いだからといって、外的には今日一日何も違いはないかもしれない。明日も明後日も何の違いもないかもしれない。

だが、一ヵ月後か、一年後か、あるいは、百年後かには、今日一日注いだエネルギーの多寡の違いが

<人生を全く異なったものにする>。

わたしを取り巻く世界は、わたしが注いだエネルギーによってまるで違ったものになる。

だから、どのような決まりきった仕事、決まりきった家事、決まりきった連想にもエネルギーを注いでみることである。無意味なものはエネルギーによってはぎ落とされる。

(6月17日 2010年掲示板) (教室資料「すき間・斜線」「エネルギー」に要転記)

外的に変わっていなくとも、内的には変わっている。内が外に変わるまで時間はかかる。

外は変えることはできなくとも内なる体験、内なる反応は変えることができる。

視点を変えて、内なる化学反応を変えること。

#### ●波動

波動～物質の固さ

物質の柔らかさ

物質の空気

↳呼吸法&「誰だろう瞑想」

(教室資料「エネルギー」要転記)

気の固さ、やわらかさもまた波動であるのだろうか。

ハトホルのいう四大元素の波動とはどのような波動であろうか。

### ■「ハトホルの書」

運命を変える方法

- 1 気づき
- 2 選択
- 3 波動——最高の波動とは思いやりである

### ●意識のある人生

忘れてはならないこと。

もう一度生まれ変わることができるということ。

そして、生まれ変わることを前提にして、

今取り急ぎ行うことがあり、

今はまだ行わないことがあるということ。

この区別をすること。

私の場合、前者については<あらゆる瞬間に何をしているかを知っているということ>を達成することであり、後者についてはそれ以外のすべてである。

(6月15日2010年掲示板)

4月4日2010年



太陽の水

太陽の光

金属との一体化

4月5日、6日、7日、8日、9日、10日、11日、7月3日、11月23日、29日、12月29日2010年、2月12日2011年

## ●自己規定

完全なベジタリアンというわけではないが、菜食をやり始めてから数週間経った。おそらく、リバウンドすることなく、このまま死ぬまで続くであろう。生まれ変わって、仮に最初は肉食をしていますが、ほどなく菜食になるであろう。なぜかというと、

<それがわたしだからである>

気取った言い方で気を悪くされる方がいらっしゃるかもしれないが、他によい言い方を思いつかない。要は、<わたしになったものは決して失われぬ>ということ伝えたいのである。

また、なぜできたかという、それも同じである。

母も妻も

「植物だって生きているんだ」

というが、そういう問題ではない。生きているものを食べないという理由によって菜食をしているわけではないし、健康によいという理由によって菜食をしているわけではない。理由はあえて言うなら、

<トータルな認識>

である。もちろん、その中に、殺生をしない、健康によいということも結果として含まれてくるが、それは結果である。百歩ゆずって理由であったとしても、その理由だけからは私は菜食にはなれない。

あくまでもわたしがそうである時にそうなるのである。まさしくぴったりの古くからの諺がある。

<卒啄（そったく）の機>

である。卵の中のひな鳥が殻を割って外に出る準備がととのった最適の時に、親鳥が殻をつついてくれて、中からひな鳥が殻を割る手助けをしてくれるのである。

今回の菜食への殻割りの親鳥はミクシィのある方の日記であった。この日記がなければ、わたしの菜食への踏み出しはさらに先になってたであろう。。。というか、<この日記にわたしが出会わないというのはいりえない>というのがおそらくは真実であろう。

自己規定、

<それがわたしである>

というのは、わたし自身に自己規定への芽がなければ規定はできないし、しかるべきところまでその芽が育たないと、自己規定は他者規定となり、その芽はやがて枯れてしまう。

そしてまた、自己規定は常に必然ではあるが、その芽が一步踏み出す時には、他からの援助がかならずあるものである。そのこともまた忘れてはならないことである。全ての出来事は網の目のように関連している。

(4月5日 2010年掲示板)

#### ■フ란ツの自己規定

自己規定というのは全体性であり、自然な歩みの中で達成されるものであるが、人の場合には、ひな鳥の孵化のように必ずしもまっすぐにいかないのが常であり、また、他の生き物以上に産みの苦しきというものも生じる。

ユング心理学者の「マリー・ルイーゼ・フォン・フ란ツ」は「象徴と夢」の中で次のように語っている。(繰り返しの引用で恐縮であるが)

「もちろん、これは（自己と共に生きることは）常に愉快的な仕事とはかぎらない。たとえば、あなたは次の日曜日に友人と旅行に出かけようとしている。そのとき、夢がそれを禁じ、そのかわりに何か創造的な仕事をするように要求することもある。もし、あなたが無意識のことを聞き入れ、それにしたがうならば、あなたは意識の成した計画に常に介入されることを覚悟しなければならない。あなたの意志は他の意志——あなたがしたがわなければならない、あるいは少なくとも慎重に考慮しなければならない意図——によって妨げられる。このことは、個性化の過程に付随する義務がしばしば、即時の祝福としてよりは重荷として感じられる理由のひとつである。

すべての旅行者の守護者である聖クリストファーは、このような体験を適切に示すひとつの象徴である。伝説によると、彼は非常に強健な身体を誇りとし、傲慢であった。そして、最強の人間にのみ仕えようと思っていた。初め王様に仕えたが、王様が悪魔を恐れているのを知って、そのもとを去り、悪魔の家来となった。ある日、彼は悪魔が十字架を恐れているのを見、もしキリストを見つけ出せるならば、キリストに仕えよう決心する。彼は、ある牧師の忠告にしたがって、ある浅瀬のところでキリストを待つことにする。彼は多く

の人を背負って川を渡してやりながら、長年そこに過ごす。しかし、ある暗い嵐の夜、小さい子どもが川を渡して欲しいと頼んだ。聖クリストファーは、たやすいこととばかり子どもを背中に乗せた。しかし、それはだんだんと重くなってきたので、彼の歩みは歩一歩遅くなってきた。川の流れの中央にきたとき、彼は“あたかも全宇宙を背負っているかのように”感じた。そして、彼はキリストを肩にのせていることを知ったのである——そして、キリストは彼の罪を許し、永遠の生命を与えた。

この神秘的な子どもは自己の象徴であり、それは文字どおり、日常的な人間に“のしかかって”いる。しかし、それが彼を救済し得る唯一のことなのだ。多くの美術品において、子どもとしてのキリストは世界の球として、あるいは、それとともに描かれている。子どもは球とともに全体性の普遍的な象徴であるから、その主題は明らかに自己を象徴している。」

（「人間と象徴」（下巻）108 ページ）

夢を通じて語られる〈本当のわたし〉の意図とともに生きていこうとすることは、時に大きな苦しみを伴うものである。その意味で、今回仮にこのまま菜食がすんなりといくようであれば、それは前の人生、あるいは、前の前の人生での私の苦しみの体験があって初めて可能となったことかも知れない。

そうであるとするなら、他の懸案事項に関して、この人生で〈わたしとなる〉ことがなくとも、〈本当のわたし（自己・魂・内なるキリスト）〉の意図を多少なりとも勘案し、時に苦しむということも当然「今生のこの私」に課すべきことである。

（4月6日2010年掲示板）

#### ▲〈全体性〉・〈自他〉～質問49

高校生の時に読んだ小説で、誰が書いた何という小説かはすっかり忘れてしまったが——ヘッセかツルゲーネフか——、冒頭確かこんな話が出てくる。

相思相愛の恋人の話で、男が女性のうちに尋ねていった時に、その老婆に

「おまえは、孫娘のどこが好きなのだ」

と訊く。男がどのように答えたかは覚えていないが、老婆の次の言葉はよく憶えている。

「娘が欲しいなら、娘のすべてを好きでなければ、お前は結婚する資格はないよ」

という話しである。

当時は、そういう感覚がまったく分からなかったので驚いたものである。もちろん今でも

<すべて>というのは分からないが、当時とは分からなさは異なる。

では、この<すべて>を好きになるというのはどういうことなのだろうか。

(7月4日 2010年掲示板)

二つの側面がある。

- 1 あなたの意志はわたしの意志であるといえること。
- 2 身体化されたものがそれはすべてである。

「田園」？における「すべてが好きでなければ……」という祖母の話。

#### ▲事実の階層

この話しは本当かどうか。

物質世界のレベルでは本当ではない。

しかし、

魂の世界のレベルでは本当の話しである。

だから、この話しにこころを動かされたなら、魂の世界に生きてみることである。

多くの方は魂の世界で生きていないので、この話しの世界は架空の世界であると思っている。

だが、一体どちらの世界が本当の世界なのであろうか。

(2月12日 2011年掲示板)

#### ▲生きる場所

あらゆる出来事に関して、

物質世界での事実か否かを知ることによって人生を浪費させない。

あらゆる出来事に関して、

魂の世界で事実か否かに人生を費やすことである。

そして、魂の世界の事実、真実に生きることである。

(2月14日 2011年掲示板)

#### ■慢心・斧となる言葉

どのような時にも、わたしであるものはことさら語ることはない。

わたしでないもの、わたしとなるものだけがわたしの関心の対象である。

## ■自己規定～無呼吸

まだ十代だった頃に菜食をする人の話を聞いても無関心であった。それはある意味、今も同じである。

よく行者で呼吸をしないと心臓を止めるとかいう人の話が出てくるが、こんな大道芸人のような話しは興味がない。しかも、無呼吸の場合は大道芸人的な売り物をするだけでなく、自分の人間性と結び付けようとするところがたまらなく嫌である。

サーカスやマジックは人を楽しませようとするところがよい。しかし、無呼吸は「私は普通ではないですよ」というところが嫌なのである。——まあ、昨日の日記で自慢話めいたことを書いている私も私であるが——

ところが、「あるヨギの自叙伝」でスリ・ユクテスワの話を聞いて、そういう気持ちは吹っ飛んでしまった。

師のスリ・ユクテスワが弟子のパラマンハサ・ヨガナンダに語ったことである。

「**身勝手な虚像を描いて、偽りの自己満足に陥ってはならない**」

先生はある日私にこう言われた。

「**お前がこの世の空気をただで吸っているかぎり、感謝の奉仕をする義務がある。無呼吸状態を完全に会得した者のみが、いっさいの義務から解放されるのだ。お前がそれを完成したときは、わたしが必ず知らせてやる**」

そう、わたしはただの空気を吸っている。わたしはそういうところにいるのである。それが不可避なことであるなら仕方がないが、スリ・ユクテスワはそうではないという。子どもの頃に親からただで食べさせてもらっている限り、家の手伝いをする義務があるように、わたしは世界に対して奉仕する義務があるのである。そして、その義務はわたしが成長して自分で食べられるようになった時に、解放される。

ただし、義務から解放されるために成長するのではない。ただ成長するのである。その結果として奉仕は義務ではなくなる。それは自由であり、義務であった時代よりはるかに奉仕するであろう。それが成長だからである。

だから、わたしが無呼吸を目指すということは、それは成長を目指すということであり、自己顕示欲としてのパフォーマンスではない。無呼吸はこころと体のコントロールが達成された時に通過する<存在のあらわれ>だけであるからだ。

(4月7日 2010年掲示板)

▲川崎陽平さんへの返信

>川崎陽平さま

書き込みいただき、ありがとうございます。

>全然、自慢めていなかったと思うんですけど...

自慢とはヒーリングのことですが、、、まあ、ヒーリングについては20年ぐらい関わっています。ヒーリングの技術そのものは全くといってよいほど進歩がないですが、おかげさまでいろいろ学ばせていただきました。その点については自分にとって大きな飛躍はあったと実感しています。

進歩がないので、ヒーリングについて自慢する気持ちは毛頭ないはずなのですが、自分のこころの内というのはなかなか分からないもので、自戒もこめての言葉です。

慢心は気づくことができない分、本当に恐ろしいものであり、前に進むさまたげの石となります。

>ベジタリアンは自慢できることというよりは、

>スピリチュアルに興味がある人のひとつの目標というか...

>疲れなためというか...

>自分のためというか...

疲れないというのは確かにありますね。わたしのような年齢になるとバカにできないことです。

疲れないという意味では、少食も大切だと思っています。

>日記よりも掲示板のほうが深いですね。

ありがとうございます。



一応、掲示板は内的な気づきに関して記しているのですが、背伸びをしている部分、実人生に反映されていない部分があり、日記はバランスを取る意味で書き始めたものです。開始当初は結構飲んでいたんで、日記の題名もそのようになっています。

最近石部金吉のような人生になってしまい、その分お読みいただく方には申し訳ない気持ちもあります。伝書鳩の日記などより「酔っ払ってひっくり返り、救急車で運ばれた」などという日記の方がおもしろいですからね。ただ、本人にとってはハチャメチャに生きていた時と同様、楽しんでいる毎日ではあります。伝書鳩も捨てたもんじゃないということです。

(4月7日 2010年掲示板)

全然、自慢めていなかったと思うんですけど...  
ベジタリアンは自慢できることというよりは、  
スピリチュアルに興味がある人のひとつの目標というか...  
疲れないためというか...  
自分のためというか...  
日記よりも掲示板のほうが深いですね。

#### ■ 常なる自己規定

「神との対話」では、自己規定について三つの方法があるという。

「生命にはつねに三つの選択肢がある。

- 1 コントロールのきかない考えに「いま」を創造させる。
- 2 自分の創造的意識に「いま」を創造させる。
- 3 集合的無意識に「いま」を創造させる。」

(「神との対話」3巻4章)

この現世で勧めているのはもちろん2である(ちなみに死んでからは3である。あちらの世界にはブッダやイエスのような方が鈴なりで、そういう方が集合的無意識を創り出しているからである)。

ただ、この創造的意識とやらが正直まだ分からない。分かるのは、1の

<コントロールのきかない考えに「いま」を創造させている>

ということである。しかも、無意識にである。

もう 10 年近くこの問題に取り組んでいるが、糸口が見つからない。もしかしたら、最近やり始めた「誰だろう瞑想」がきっかけとなるかもしれない。(※)

私が活字で読んだ範囲ではこの問題に最も真剣に取り組んだのがグルジェフである。彼はこの絶望的な取り組みに自身の生得ともいえる能力「催眠術」を意識的に封印することにより達成したとのことである。この話しはちょっと疑わしいにおいがするのだが、彼がそのことの重要さと困難さを重々承知していたのは間違いない。

この点についてはシュタイナーもまた指摘している。

「この十六弁の開発は次のような仕方で為される。日常不注意に行ってきた魂の特定の働きに対して注意深い態度でのぞむ。魂のこのような働きは八つの種類に分けることができる。

第一は表象（意識内容）を獲得する仕方である。通常、人はそれをまったく偶然に任せている。日々さまざまな事柄を見聞きし、それを基にさまざまな概念が作り上げられる。そのような態度で生活している限り、十六弁の蓮華はまったく活動を停止している。これを活動させるためには、これに意識的態度でのぞまなくてはならない。この目的のために必要なことは、自分の表象に対する注意力の喚起である。どの表象も彼にとって有意義なものにならなければならない。どの表象の中にも、人は外界の事物についての特定の情報を見出さなければならない。意味のない表象に満足してはならない。自分の所有する概念の働きをすべて自分で統禦し、それが外界の忠実な鏡となるようにしなければならない。歪んだ表象は自分の魂から遠ざけねばならない。」

(シュタイナー著「いかにして超感覚的世界の認識を獲得するか」127 ページ イザラ書房)

要は常なる交通整理である。私の心の中では「連想という車が交通標識なしに行きたい方向に走り回っている」ので、まずは、交差点に出て交通整理である。ただ、この警察官が仕事嫌いで困っているというのが正直なところである。この仕事は休んではいけない仕事だからである。

(4月8日 2010年掲示板)

「神との対話」の神

(※) 漫画「俺節」の1カット。飲み屋でいる二人、「俯瞰のコマ」漫画は読者が俯瞰しては漫画でなくなる。ただ、背景がないと味気なく物語りにならない。実人生において両方

を生きること。実人生で足りないのはもちろん俯瞰である。

沈黙の力

■少食の苦しみ

空中浮揚

■自己規定～ヒーリング

死んだ世界では集合的無意識に従う方がよいという。

なぜなら、まわりにいる存在が立派な人ばかりであるので、その人に従った方が楽な道を歩けるといふものだからである。

この立派な人ばかりのおこぼれとでもいふものを与えられたことがある。

たとえば、ヒーリング能力である。

これは、わたしがしたというよりも、示されたという方が当たっている。「弓と禅」の

「それが射る（あなたが射るのでなく）」

というようなものである。「弓と禅」では、それが個人のたゆまぬ努力によって達成されるものであるが、わたしのヒーリング能力はそのようなものではない。いとこの高塚光氏に出会い、「たなぼた」式に触発され、生じたものであり、果たしてそれをわたしのものと呼ぶべきかどうかとても疑問に思っている。

この意味で、ヒーリング能力を持っているというのは、今のところ自己規定ではない。

私の場合のヒーリングの自己規定とは、何度も語ってきたように、ヒーリングを通じてこれまでできなかった自分自身の澱（おり）を透き通らせてきたことである。すなわち、これまでではできないと言っていたことをできると言い、行ってきたことである。

そして、そのような機会を与えてくださった＜ある力（生命のプロセス）＞には限りなく感謝している。

ただ、ここ数日思っていることは、このヒーリング能力についても、わたしは何らかの自己規定をすべきではないかということである。

これまであった不可思議な縁というかシンクロというか、そういったものに対してもっと関心をよせるべきではないかということである。

(4月9日 2010年掲示板)

むしろ、これまでの人生を省みれば、その手かざしを通じて多くの人に出会い、良いも悪いもあったが、それらの体験を通じて一步前に踏み出せたということである。

だから、これからはその能力を菜食のように

#### ■自己規定～意識のある人生

自己規定とは、自己があり、その自己が意識的に自分自身の人生を規定することである。

そもそも、その自己はあるのだろうか。自己があったという経験を私はしたことがあるのだろうか。

また、意識的に過ごした時間とはどのくらいあったのだろうか。

昨日一日を振り返って、意識的に一分間過ごした時間というのがあったらだろうか。

わたしの体は無意識でいても体を職場から喫茶店、自宅へと運んでくれる。

だが、わたしのこころは無意識では目的地に運んでくれない。

そもそも目的地がないからだが、

目的地があったとしても、わたしのこころがそちらに向かっているのは一瞬である。

私の規定は自分自身の人生を規定するべきなのに、そして、そのことしかできないのに、他人の人生を規定しようとして、他人を批判、非難ばかりしている。

今だけが規定できるのに、規定できない過去にしがみついている。

わたしから発すべきであるのに、他者から発せられたメッセージ——活字や映像——にどっぷり浸かってしまっている。

さように、自己規定とは絶望的である。だが、それこそが人が人として生きることの出発点であると思っているので、今日もまたその絶望的な取り組みにとりかかる。

(4月10日 2010年掲示板)

#### ▲「神との対話」

気づくべきこと。

第一に天性は、わたしたちが真善美であること。

第二の天性はそれを意識的に表現することであること。

■自己規定

人を傷つけたいと思うような愚を犯してはいないだろうか。

■自己規定のための第一条件

自己規定の人生を歩いていくための第一の条件は何と考えるか。

(4月11日 2010年掲示板)

シュタイナー神秘修行の第一条件～謙虚（南無阿弥陀仏の例）⇒気づき  
内観法

9月17日、20日 2004年

●意識のある人生～手本

この人生で達成すべきこととは既に示された。

空中浮揚もしたし、光体験もしたし、ヒーリングもした。

だが、それらはしたというよりも、示されたという方があっている。

これからのわたしにとっては、それらが常に人生のうちに組みこまれていること。

もちろん、過去の体験そのものが目標ではないが、自然にわたしの内と外とに在ること。

そして、そのように、生きることである。

4月6日、7日 2010年

●

巨視で決定

微視で未決定

●4月6日 2010年のシンクロ

永田さんへの初めての手かざし～手かざしに誇りを持つこと。手かざしに誠意を尽くすこと。自分自身でないことを知ること～手の触感と効果に差があり。

4月7日、8日、9日、10日、16日、11月23日、12月29日 2010年

●4月7日 2010年のシンクロ

「リコネクション」を薦められたこと。

「ゼクシス」へ初めて行ったこと。

●「リコネクション」

感じることを試みることを試みることを。

～「手の妙用」の話し

～代々木時代にトランプを使って試みたこと。

得意なことから始めること、それを拡大すること（～遠隔治療の気感覚を明確にすること）。

反復からの質的变化



注意・結合・自己制御・秩序・安楽



臨死体験をした著者の母のように気に病まないようにすること。

難を避ける直観を養うこと～横浜時代火事で危機一髪兄が起きて発見したこと。

■時空の変容～意識のある人生（エネルギー）

今は何の時であるのか。

ひとつひとつの時にエネルギーを注ぐこと。

このことによる時空の変容。



それは私がしたことではないというリコネクションの立場と

「神との対話」のそれをしたのはわたしであるというマスターの立場。

謙虚と自己規定（責任）と。。神聖なる矛盾

4月8日、9日、5月10日、11月23日2010年

●「リコネクション」からの触発

過去を振り返り、未来を展望し、進むこと。

↳「グルジェフサイト」の自己フォーカスに関する項を参照。

過去を振り返ることについては、ノートを読み返し、反芻すること。

未来を展望することに関しては、まず事務所を片付け、治療と集まりの場とすること。

来年までの予定を書き出してみる。もっとも必要なことは何か。

と同時に、所詮は分からないという部分がある。今日一日、このの一瞬にベストを尽くすこと。

●質問45～＜選択＞

10年前の自分と10年後の自分に手紙を書く。

これは自分の好みではないが、書いてみてください。

10年前の岐路に対して、10年前のその選択に対して、今ならどのような選択を行なうか。そして、その過去の選択の結果に対して今できる最高のこととは何であるか。

10年後の選択、この選択こそおそらく人間であるが、その選択はどのようなものであるか。その選択に対して今できる最高のこととは何であるか。

(掲示板記入予定)

●意識のある人生～機会・わたし・選択

夜中に起こされて、眠れなくなったことを憂うのではなく、できなくなったことを憂うのではなく、

夜中に起こされて、できるようになったことに気づき、そのできるようになったことを行う。

起こされた出来事は同じであるが、

<わたしが行うことは、わたしによって全く異なった行為となる。>

わたしはいつも、世界を生かすことも殺すこともできる。

わたしはいつも、わたしを生かすことも殺すこともできる。

いつも、いつも、できるようになったことに気づき、できるようになったことを行う。

(5月10日2010年掲示板)(意識表裏面要転記)

●4月8日2010年の日記より

貯金 1 円（ここに刺さった「とげ」の抜き方、溶かし方を知ったこと）。

エネルギーを注ぎ、それ以外に何ごともしようがないことを知ること。

その時はそれ以外のことはできなかったことを知ること。

あとから時空を超えてその場にエネルギーを注いでみることに。

4 月 9 日 2010 年

● 「リコネクション」 (146 ページ)

五感を超越するために体を鍛えること。

4 月 10 日、11 月 23 日 2010 年

● 意識のある人生

グルジェフの「催眠術の能力」の手放しのようになり、自己ヒーリングしながらの一日を送る。

何かをしながらの一日の方が意識のある人生を送るために集中できる。

● 貯金～自分自身への貯金

精神世界の知識については、ひとつでも実践することが尊い。

どのような小さなことであってもよい。

目の前にある放りっぱなしの本を本棚にしまうことさえ、時によれば、万巻の書を読むよりも自分自身のためになる。

(4 月 12 日 2010 年掲示板)

天への貯金、

他人への貯金というものはそもそも存在しない。

貯金箱は自分の貯金箱しかない。しかも、入れることができるのは自分自身のお金だけである。

● 「誰だろー瞑想」

鏡の中の世界は違う

● 東京タワー

東京タワーが立ち上がった時代はモノに精神が引き上げられた時代であろうか。

あるいは、精神がモノを引き上げた時代であろうか。

ともあれ、今は精神の上昇だけが異常に目立ち、モノの上昇だけが異常に目立つ時代であ



る。

●意識のある人生～創造

今あるものでできることをすること。

今あるものでしたいことをすること。

今を活かすこと。

きっと知らない今がある。

(4月12日2010年掲示板)(意識表裏面要転記)

●自他

人が何をしようと、それは自分には関係のないことであり、非難は無用である。

ただただ、役立つことを選び取ること。

4月12日2010年

●血液型

心理学者が「血液型が性格とは全く関係がない」というのは、多くの人の直観に反する。

これは心理テストに何か問題があるのだ。

われわれの直観はしばしば科学を乗り越える。

その乗り越える直観を血液型だけでなく、人生の出来事全般に用いることである。

4月14日、15日2010年

●成長と能力(所有)

グルジェフの自己伝授

グルジェフの愛の定義

■ようちゃん CR-Z さんへの返信

>ようちゃん CR-Z さん

>ボディ・マインド・スピリットで遠隔を受けましたが、

>正直、何の反応もありませんでした。

わたしは直接でも遠隔でもヒーリングを受けたことがないので、高塚自身の反応については何ともいえないのですが、自分自身が遠隔で送った場合については、顕著な反応が現わ

れた場合が多々あるので、遠隔で気（エネルギー）を送れるのは間違いありません。

ただ、自分の場合はあくまでもご病気の方へのヒーリングであり、能力を伝えるためのヒーリングは直接にしる、間接にしる一切行っていませんので、いわゆる健康な方に送った場合にどのようなになるかは何ともいえません。

>今後、明らかにリコネクティブ・ヒーリングによるポジティブな出来事が起きたら、2度3度そしてリコネクションを受けてみようと思います。

確かに、そうなのですが。。。

ポジティブな出来事が起きたかどうかというよりも、ご自身の直観に従われるのもよいと思います。

直観は長いレンジから見た自分自身の選択をしてくれるからです。

なお、リコネクションのヒーリングを受けるように勧めているわけではありません。著者本人には会ってみたいとは思いますが、お弟子さんとは今のところ会うつもりもありませんし、ヒーリングを受けるつもりもありません。

本だけで大きな気づきがあり、今のところそれだけで十分であり、感謝しています。

付記 なお、高塚光さんとお会いして、明らかに彼のエネルギーの影響を受けたはずですが、自分自身は何も感じませんでした。しかし、それからスプーン曲げができるようになり（今はできませんが）、「時として病気が治る」気が出るようになったので、何の反応もないからといって、自分自身に変化がないとは限らないと思います。ただし、このことは光さんのセミナーを受けられることをお勧めしているわけではありませんので、念のため。

（4月13日2010年「ミクシィ日記」返信）

「禍福の縄をなう」ことにより人生は成り立っているところがあり、今が禍であれ、福であれ、ご自分にあつた縄をなうことが大切なように思えます。」

ボディ・マインド・スピリットで遠隔を受けましたが、正直、何の反応もありませんでした。

今後、明らかにリコネクティブ・ヒーリングによるポジティブな出来事が起きたら、2度3度そしてリコネクションを受けてみようと思います。

■ようちゃん CR-Z さん

>ようちゃん CR-Z さん

遠隔ヒーリングでシンクロが増えるというのは、わたしには分からない世界ですが、個人的な体験でいくと、シンクロが増えた時というのは、

私心をなくしてヒーリングに關っていた時ですね。

やり始めは純粹でした。。

そして、信じがたいシンクロだらけの日々でした。

今はその当時からすると、純粹とは言いがたいですね。

五味千枝子さんという方に遠隔をお願いしたのですが、シンクロが増えるということでした。

4月14日、17日、18日 2010年

●白紙

人だけが白紙の紙に言葉を埋めていく。

もともと何も書いていなかった白紙に言葉を埋めていく。

しかも、ひとりひとり違った言葉を埋めていく。

ある人は文学、

ある人はスポーツ、

ある人は政治

ある人は経済、

それぞれの分野にひとりひとりの言葉で埋めていく。

その言葉は無限大のようである。

ようであるでなく、本当に無限大なのではないだろうか。

わたしの知らない無限大がそこにある。

わたしはその無限大の言葉のどの言葉で人生を埋めていこうとしているのだろうか。

(加筆して掲示板記入予定)

知らないことがあるが、それを私は埋めることができる。他人の言葉で埋めてしまわない

ことである。

●ヒーリング～遠隔

まず自分をつくりだしてから、送ること、同調すること。

●意識のある人生

こころを傷めないこと。

●

ゴミ箱に入れてしまった馬券の話し。

他人になって笑うこと。

●意識のある人生～才能・貯金

自分は両親の貯金で食べている。

才能である。

良心の才能でなく、自分自身の才能を作り出すこと。

4月15日、16日2010年

●エネルギー～シンクロ

期せずしてネットで二つの記事を読む。

いずれもエネルギーに関することである。

<http://d.hatena.ne.jp/modernshogi/>

話は昨年9月、京都で行われた王座戦第二局終了後の打ち上げ会場にさかのぼる。羽生さんと山崎さんによる長い長い感想戦が終ったあと、打ち上げは深夜0時30分から始まった。

そのとき、打ち上げ会場で羽生さんに会ったときの彼の第一声が、

「「変わりゆく現代将棋」、とうとう本になることが決まりましたよ！」

だったのだ。そのときの羽生さんは本当に嬉しそうだった。

ほどなくして「将棋世界」編集部から、この対談依頼があり、その次の来日時の11月に日程調整をして、羽生さんと対談することになったのだった。歴史に残るこの名著の中に収録される対談なので、僕のほうも責任重大である。

ということで、それから対談までの間に、ノートを取りながら「変わりゆく現代将棋」連載全41回分を再読し、連載で語られた手順の変化はすべて盤の上で並べ、時代背景をより深く理解するために、連載が掲載された「将棋世界」1997年7月号から2000年12月号までの主要記事を読んだ。昨年の9月下旬から11月初旬までは、仕事の合間の時間をほとんどすべてこれに費やし、ノートは400字詰め60枚くらいになった。そんなふう僕なりに準備にもベストを尽くした結果の「対談」で、羽生さんの新しい言葉をあれこれと引き出すことができたのではないかと考えている。

<http://silva.blogzine.jp/>

大野源一九段は東京下谷の生まれ。将棋クラブで指しているのを、たまたま遊びにきていた大阪の中井捨吉三段（後の八段）が見て認められ、1925年、13歳の時に大阪の木見門下へ入門することになる。本人は何も知らなかったが、中井三段と大野九段の父親の間で話がついてしまっていた。

（将棋世界1972年2月号の大野源一—石垣純二対談より）

大野「入門して1年半くらいウドン屋の手伝いにきたのかなんだかわからなかった。朝は六時起き、夜は遅いんですよ（寝るのは午前二時）」

（中略）

大野「問屋街でね。朝早いのは奥さんと二人で天満の市場まで材料の仕入れなんです。帰ってくると昨日出前したドンブリを取りにいき、それでやれやれと思うとそのドンブリを洗わなくてはならない。そうするともう食べにくる」

石垣「へー深夜に眠って六時起きでよく身体をこわしませんでしたね。将棋の勉強などする暇がないではないですか」

大野「眠るときフトンの中で新聞将棋を見るのと、昼の二時から五時の比較的暇なときに二階へ行き、神田さん（辰之助九段）などの指しているのを見るくらいですか」

石垣「それで強くなっていくというのはどういうことですかね」

大野「一生懸命将棋を見ましたね。強くなったもう一つは、ウドン屋をしたおかげですか。こんなことをいつまでもしていられないということですね」

## ●意識のある人生

ダイアパレス津田沼の売買

プロセスに任せること

そのことと個人でベストを尽くすこと

この場合のベストとは何か。高く売ることか。気持ちよく手放すことか。

■ヒーリングにおいても同様である〜リコネクションの立場

■すべてをプロセスに任せてみること。

4月16日、17日、6月15日 2010年

●自己研究〜わたしと私

わたしばかりを追い求めて、私を育てることを忘れてしまわぬこと。

ただし、わたしがどこにいるか分からないのと同様に、私もどこにいるか分からないかもしれない。

(4月17日 2010年掲示板) (意識表裏面要転記)

■自己研究〜小さな私

何もあわてることはない。

「小さな私」を置き去りにして、<大きなわたし>ばかりを追い求めるようなことはしないことだ。

私をわたしで置き換えることなどできないからだ。

私を育てること。

いつもこのことをこころがけることである。

私が育った大きさにしたがって、わたしが人生に参画できるからである。

だから、今日、私自身にエネルギーを注ぐことである。

私ができる小さなことにエネルギーを注ぐことである。

(6月15日 2010年掲示板)

そして、そのような機会に気づくこと。

(4月28日 2010年掲示板記入予定)

4月17日 2010年

●金銭

大金が手に入るということは、今の人生の延長としての快適な生活があるのでなく、全く別の人生を歩むということである。

●

ぶどう酒をぶどうに変える

タバコから毒物を取る

できたとしてバカである。

4月18日、19日、20日、23日、5月16日 2010年

●意識のある人生～幻影・金銭

この世界には、

お金で買えるものとお金で買えないものがある。

どちらに価値観をおくかは別として、

いつも考えていることは、

お金で買えるものばかりである。

お金で買えないものは何か。

この人生、お金で買えないものは何か。

今日一日、お金で買えないものは何か。

少しは、お金で買えないものに

ところを向け、そのものを生かしてあげたいと思う。

(4月19日 2010年) (意識表裏面要転記)

■質問48～<金銭><貯金><成長>

今日一日、あるいは、この時間、

お金では買えないものにエネルギーを費やしているだろうか。

あなたの人生でお金では買えないが、エネルギーを費やしているものとは何であろうか。

ところを配っているものとは何であろうか。

この時間、お金で買えないものにどれだけエネルギーを費やしているであろうか。

あるいは、お金では買えないが、これからところを配ろうとしているものとは何であろうか。

お金では買えず、他人からは与えることはできず、ただ、自分だけが手に入れることができるもの、そのようなものにこころを尽くしているであろうか。

(4月24日 2010年掲示板記入予定)

■幻影・心配

■内なる貯金

●意識のある人生

若者の時であれ、老人の時であれ、  
愚鈍の時であれ、賢明の時であれ、  
病気の時であれ、死の前日であれ、

どのような状況であれ、その人自身の真理を表明する機会が与えられている。

その人自身とは、他人ではなく、過去でもなく、未来でもない。  
真理とは、正義、不正義とは別の、その人がこころを尽くせるものである。  
そして、その機会は常に与えられている。

(4月20日 2010年掲示板)

問題は、

その人自身、真理、機会

●ようちゃん CR-Z さん

>ようちゃん CR-Z さん

村山さんは、素晴らしい将棋指しでした。

これは誰もが言えることです。

村山さんの人生は、素晴らしい人生であった。

これも亡くなられた今であれば、多くの方が賛同されると思います。

しかし、しかし、



闘病中の渦中にある時には——それは彼の人生のほとんどの期間であったわけですが——、誰ひとりとして「素晴らしい」とは言えないわけです。

▲ようちゃん CR-Z さん

>ようちゃん CR-Z さん

>高塚さんのヒーリングは高塚さんの気を送るのですか？

>それとも、宇宙のエネルギーを受け取るのですか？

そうですね。宇宙のエネルギーをキャッチして送っているというのは当初からないですね。手をかざしたら、自分自身は何も感じないが病気が治ったということだけでしたから。今は感じますが、そのエネルギーが宇宙からのものかどうかは分かりません。自分はそのエネルギーをある程度コントロールできますが、自分の気ともいえますし、そうでないともいえます。

でも、宇宙のエネルギーを受け取って送っているという方がカッコいいですよ。言えるなら、言いたいです（笑）。

そういえば、「神との対話」にこういう話があります。神がニールに語ります。

「あなたの意志はわたしの意志だよ。第一に、わたしはあなたの意志を知っている。第二に、受け入れている。第三に、ほめたたえている。第四に、愛している。第五に、わたしはそれをわがものとし、自分の意志だと言う。」

（「神との対話」2巻23ページ）

もしかしたら、この感じに近い話かもしれませんね。

4月19日、5月10日、6月8日2010年

●モノ・わたし

今現在のわたしの行いのなかで、お金によっては手に入らないこととは何だろうか。将来やりたいことで、お金によっては手に入らないこととは何だろうか。

他人が与えられないもの、  
お金で買えないものに

この時間、どれほどエネルギーを費やしているだろうか。

4月21日、22日、25日、27日、28日、5月2日、4日、6日、7日、16日 2010年

●能力～群盲

サイババを知ったのは、確か将棋棋士「林葉直子」さんが失踪してサイババに会いに行っただのではないかという話しがあった時である。

その頃、ちょうど書店で「理性のゆらぎ」という本を読み、サイババにはまってしまった。

サイババが語った本は、書店にあるありったけの本を買って読んでみたが、それらの本を読んでも何の感動もなかったし、ただひとつの言葉もわたしのためにはならなかった。

うろ覚えだが、サイババは確か、魚は火を通すよりか生で食べた方がよいと言っていて、肉食には関心がなかった自分であったが、違和感を感じたものである。

その後、サイババ叩きの本も出版され、さもありなんと思っただけである。

ただ不思議なのは、当時サイババの日本支部でボランティアで働かれていた方と知り合いで、その方に見せていただいた写真に空中に浮かぶサイババの姿があったことである。

また、別の友人が何かインドの音楽が聞こえるということで、音に導かれていくと、サイババの本のコーナーであったということである。なお、この世的には音楽は鳴っていない。

(4月21日 2010年掲示板)

▲川崎陽平さんへの返信

川崎さま、書き込みいただき、ありがとうございます。

説明不足の話しですみません。説明不足の書き方が好きなもので。。

ただ、やはり、違和感はある。。 どういう違和感かという。。。

「戦争で核兵器を使うのはやめよう。」

「戦争でクラスター爆弾を使うのはやめよう。」

「戦争で非戦闘員を殺すのはやめよう。」

という呼びかけと同じような違和感です。

なぜ違和感を覚えるかというと、

<戦争をやめよう。>

と言わないからです。

「戦争は仕方ない。せめて、残酷な殺し方はやめよう。戦争に加わっていない人を殺すのはやめよう。」

というのは現実的には「正しい」主張ですが、<生命のプロセス>からは「本質的」でない主張です。

当時の自分は菜食には無関心でしたが、それでもさすがに「何か変だ」と感じたのは、上記のような「たとえ」と同じようなものを内在しているからだと思っています。

ただ、貴重な情報いただき、ありがとうございます。

明日は職場の歓送迎会です。

お刺身、食べる言い訳ができました。(^^)/

(4月22日 2010年掲示板)

> うろ覚えだが、サイババは確か、魚は火を通すよりか生で食べた方がよいと言っていて、菜食には関心がなかった自分であったが、違和感を感じたものである。

僕もプラサードを読んだだけなのでサイババについて語るのもあれなんです、魚は生で食べたほうがいいのではないのでしょうか？

オメガ3脂肪酸は酸化しやすいので...

酵素の観点からも加熱したものは消化酵素を自分で分泌しないといけないのでエネルギーを消費します。

あえて加熱して酵素を壊す必要はないと思いますが...

#### ▲川崎陽平さんへの返信

川崎さん、こちらの気持ちをくみとっていただき、ありがとうございます。

魚の話題についてはそういったこと (<魚を食べない>) も含まれています。

ただ、掲示板「6652」の話題全体でいたかったことは以下の通りです。

創造主を知るだけでなく、生命のプロセスを知ることも難しいが、人を知る、普通の出来事を知るというのもまた難しいということです。

サイババの手を見た信奉者は、サイババは神聖な灰を物質化するという。

サイババの手を見た手品師は、サイババは手品をしているという。

サイババの本を読んだ高塚は、サイババは何者でもないという。

サイババの本に音楽から引き寄せられた人は、サイババはマスター、グルだという。

.....

サイババの<どこを>見るのか。

そして、<誰が>見るのか。

われわれは、<どこを>見ているのか知らないし、私が<どのような人であるか>も知らない。

私はほんの少ししか<見るできない>し、<見たものがすべてだ>とってしまう。

だから、

サイババにひれ伏すか。

サイババを〇〇愛の似非グルと貶める。

普通の人、普通以下といわれる人の<すべてを>見て、そして、<見る事ができた人>イエス・キリストは何と言ったかというと、

<あなたがたも、わたしと同じである>

と言った。よくよくわが身を振り返るべきである。

——まあ、こういったことが言いたかったのですが、おかげさまで、少しは分かりやすくなりました。

追伸 1

お分かりとは思いますが、タイトルの「群盲」は「群盲象をなでる」から取っています。えらい、はしょっています。なお、象はサイババだけでなく、すべての人のことです。

追伸 2

本日はの歓送迎会は、お刺身が出るお店のようです。アジカイワシが出るといいのですが、どうなんでしょうか。でも、大皿に盛られていたら食べません。個別の小皿でしたらいただきます。

青魚の刺身といえば、ベストセラーの某お医者さんが「赤身の魚は酸化が早いので、食べないように」と言っていました。ただ、このお医者さん「お寿司のトロが大好き」とのことで、高くてもいいから、空気にふれていない中身だけを（酸化していない中身だけを）切り抜いてもらって握ってもらうということです。

こういうライフスタイルというのは、体にいいことをしていても人としてとんでもないことをしているように思うんですけどね。

ということで、小皿に盛られたお刺身でしたら、いただきますデス(^o^)/  
(4月23日2010年掲示板)

なるほど、理解しました。

<魚をやめよう。>

ですね。

自分の読解力の無さが恥ずかしいです。

高塚さんの粋な文章に粋じゃない返信をしてしまいました。

>お刺身、食べる言い訳ができました。(^^)/

ちょい、ちょい、ちょい！！

↑爆笑させていただきました。

(^^)/じゃないっすよ(^^)/じゃ(笑)

でも、ホリスティック医学によると食事の1割はアジやイワシなどの天然の青魚の刺身を食べたほうがいいらしいですよ。

#### ■能力～慢心

空中浮揚といえば、名前は出さぬが、ある方の著書を思い出す。その本の口絵には空中浮揚した著者の写真が何枚も写っていて、虹色の軌跡も写っていてそれはきれいなものであった。それはいいのだが、問題は著者が本の中で、「私は絶対に人前で空中浮揚を見せたりはしない」と言っていたことである。

まあ、本の写真は「人前で見せた」ことにならないのかもしれないが、ある意味、路上の大道芸以上、人前で見せたことともいえる。

こういう話しはゴマンとある。

「私は自慢話をしない」

という自慢話と同様で、本人にはなかなか気づくことのできない慢心である。

(4月25日2010年掲示板)

#### ■能力～自己欺瞞

10年以上前に友人から薦められて、あるワークショップに出たことがある。そこではいくつかの不思議な体験をしながら意識を変えていくという体験セミナーで、なかなか興味深い内容であった。

そのひとつに「リングテスト」をして、タバコがいかに体によくないかということ教えるコーナーがあり、そのことを体験させたあと、講師の方は、

「私はタバコを吸うが、このタバコは自分自身が無害化してあるので大丈夫なのです」

と言っていた。。。

思わず言葉を失ってしまった。仮に無害化できたとして、その無害化によりタバコを吸っ

て体に害をなさなかったとしても、この方は肝心なことを知る機会を失っている。それは、

「私はタバコをやめることができない」

と知る機会を失ってしまったことである。体が健康であっても、自分自身を見る目を閉じてしまっは何のための気づきのセミナーか分からなくなってしまう。

能力にともなう、このような自己欺瞞はゴマンとある。

(4月26日 2010年掲示板)

どのような能力も自己欺瞞となる。

#### ■能力～ヒーリングにひそむ無知

以前、あるヒーラーと称する方がヒーリングの教室を開いていたが、その時のヒーラーさんの口癖は、

「私があなを治せるということは、私はあなを殺せるということでもあるんですよ」

ということであった。気に入らない話があるといつもこのように言って、相手を脅していた。

ヒーリングの能力は、

「私はあなを治せる」

と言い、

「私はあなを殺せる」

と言い、

「気に入らないことがあると、気に入らない自分の心のことは省みず、相手ののせいにして、相手を脅す」

ということをする。

普通であった方がどれほどわき道にそれずに歩けることだろうか。

能力を求めることには、このようなよこしまなところが実はひそんでいるということを知っておくことは大切である。

このことについて、

「私は違う」

と思う人は、何も知らない。

「私はしない」

という人は、少しは知っているかもしれない。少しはというのは、別の状況でまた行うからである。

そのヒーラーさんとはまるで別な側面ではあるが、少なくとも、私も同じようであったし、今もまたそうである。

(4月28日 2010年掲示板)

あるいは、わき道にそれて、自分自身を痛めつけるために、能力を持ってしまったのだろうか。

わたしは殺すこともできるんですよ。

#### ■ 「神との対話」の神の真実

4月28日に「神との対話」を読んでいて、偶然にも（もちろん必然的！）に行き当たった話しである。

少々長いが、引用させていただく。

ニール・ドナルド・ウォルシュ著「神との対話」3巻 ハードカバー本 108 ページ 文庫本版 138 ページ

選択と創造、超能力に関する話しである。

「それじゃ、いつでも誰にでも、望むとおりのものを与えてきたとおっしゃるのですか？」

「そうだ。愛するものよ、そのとおりでよ。」



あなたの人生はあなたの欲求の反映だし、何が実現できるかという信念の反映だ。望みが実現すると信じていなければ、与えられない。わたしはあなたの考えに反したことはしない。そんなことはできない。何かを得られないと信じることは、望まないのと同じだ。同じ結果を生むのだよ。」

「でも、地球上では、望むものをすべて手に入れることはできませんよ。たとえば同時に二か所にいることはできない。望んでもできないことはたくさんあります。だって、地球上でのわたしたちは、ほんとうに限られた存在なんですから。」

「あなたがそう考えているのはわかっている。だから、そのとおりになる。いっぺんに二か所にはいられないと思えば、そのとおりになる。だが、思考と同じスピードでどこにでも行けると思えば、しかもある「時」に複数の場所で物質的なかたちで現れることさえできると思えば、そのとおりになるかもしれない。」

「そりゃ、この情報が神からまっすぐに届いていると信じたいですよ。だが、そういうことを聞くと、頭がおかしくなってしまう。話についていけなくなる。だって、信じられないですからね。つまり、あなたが言ったことが真実だなんて思えない。そんなことを経験した人間はいませんよ。」

「とんでもない。あらゆる宗教の聖人や賢者は、どちらも経験したと言われているではないか。そのためには、高度の信念が必要だろうか？ **超自然的な**レベルの信念が必要か？ 千年にひとりしか実現できないレベルの信念か？ そのとおりに。それでは、不可能か？ それはちがうな。」

「でも、どうすればその信念を創造できますか？ どうすれば、そのレベルに到達できますか？」

「到達することはできない。ただ、そこにいることができるだけだ。言葉の遊びをしているのではないよ。ほんとうにそうなのだ。この種の信念（完全な知識）は獲得しようとして獲得できるものではない。それどころか、獲得しようとするれば、かえってできない。単純に、あるかないかだけだ。そういうものだ。完全な知識はトータルな認識から生まれる。そこからしか生まれえない。その認識を獲得したいと考えても、そうはならない。たとえば、身長が150センチしかないのに、180センチ「であろう」とするようなものだ。なりたいたいと思って、180センチになることはできない。ありのままの150センチで「いる」しかない。だが、成長すれば180センチになるだろう。180センチならば、180センチの者にできることは何でもできる。トータルな認識があれば、トータルな認識があるひとに

できることは何でもできる。だから「信じよう」と努力したりしてはいけない。そのかわりに、「トータルな認識」という状態になろうと努力しなさい。そうすれば、もう信念は必要ない。完全な知識が驚異的な作用をする。」

グルジェフが

「人から奪うことのできない、その人自身の属性となるいかなるものも、仕事しない者に伝授することは不可能である。そのような伝授は存在し得ないのだが、不幸にして人々は、往々にしてそういう伝授が存在すると考える。あるのは『自己伝授』だけである。」

という時の『自己伝授』のことである。

その人自身の属性、たとえば、「超能力に興味のある 150 センチの人」に超能力にみえる属性とは、

<成長して、存在すること>

そのことの属性として自分自身に伝える、  
そのことの属性として自分自身に生じる、  
そのようなものなのである。

だから、求めることをやめ、

「トータルな認識」という状態になろうと努力しなさい。」

ということなのである。

では、この「トータルな認識」という状態になろうと努力するというのは、具体的にどのようなことを言っているのであろうか。

(4月29日2010年掲示板)

トータルな認識

1 立ち止まること

2 「誰だろう瞑想」

3

普通の道、ファキールの道

「神との対話」で全的な認識で探す

#### ■能力～証明と真実

以前、ある集まりの打ち上げで、某有名大学の教授が

「自分は超能力などというものは信じない」

とおっしゃったので、

「では、私が今ここであのシャンデリアを落としたりしても認めないのですか」

と聞いたところ。

「私は数式で表されるものしか認めない」

と言われた。

その当時は何と愚かな先生だろうかと思ったが、今となっては愚かさは私も同様であると思っている。

数式の証明だろうが、目の前の事実の証明だろうが、証明には変わらない。どういうことかということ、本当に心底分かっているわけではないが。。。

証明などというのはつまらぬものであるということだ。

(以下、続く)

(5月2日2010年掲示板)

#### ■能力～証明と真実

>証明などというのはつまらぬものである

学生時代に家庭教師先の幼児を連れて、近くの公園のブランコで遊んでいたら、小学生の女の子が大学生の自分に対抗して、ブランコを大きくこぎ始めて、私を悔しがらせようと、

「私の方がすごいわよ。こんなにこげないでしょ」

とそれはまあ、憎たらしそうに言い放つではないか(どうでもいい話したが、その子は子どもながらに美人、将来その美貌だけで男がひきつけられるのは間違いなし、というほどの整った顔立ちであった)。

まあ、自分は幼児と一緒に乗せてこいでいることもあり、そんなに大きくこぐこともできないし、また、子どもに対抗する気もないし、また、その女の子を喜ばせたままにしておきたいという気持ちもあって、

<自分がその女の子よりも大きくこげることを証明しなかった>

できることというのは、できる人にとってはどうでもよいことなのである。人はできないことにこだわるのである。

では、その女の子にとってできないことというのはどういうことであったのだろうか。

(5月4日 2010年掲示板)

あるいは、高塚にとってできないこととはどういうことであったのだろうか。

#### ■能力～証明と真実

わたしは手を動かして、パソコンのキーボードをたたき、文章を書くことができる。このように手を動かすことができるということは証明すべきことだろうか。

これは証明すべきことでなく、必要であれば使うことであり、必要であれば人に示すこともあるということであり、

「できるかできないかを争い、証明する」ことではない。

これはいかなる能力についても同様であると考ええる。

能力は人生の斜線である。見えない人には見えず、見える人には見える斜線である。

(5月7日 2010年掲示板)

#### ■能力～存在と証明

能力は存在からくることであり、証明することはできない。

見たこともない能力に驚き、見たこともない能力を信じることはできても、それは証明されたことにはならない。

存在から生じる能力は証明することはできず、ただその存在に至って初めてその能力自らが明かされることである。

だから、証明という言葉で表現されるものがあるとしたら、ただそこに至り、その存在の真実となることだけが証明である。

(5月16日 2010年掲示板)

#### ▲「日月神示」

軌跡を求めることの愚について書かれてある。

#### ■神の姿

それをわたしであると思うこと。

#### ■

証明することにより、抜け落ちるもの。

存在の真実は慢心と言う衣により隠されてしまう。

相手に理解できることだけを言う。

本当のわたしが真実を示すこと（「誰だろう瞑想」）

真実を示すことと私が頑張っている（証明）ことの違い

ひとりひとりの証明～石川遼君の証明、イチローの証明、それは存在である

能力は存在からくる。存在は証明するものではない。（ブランコ競争）

真実～自分自身に証明すること。すなわち、存在。

慢心・必要性がないこと

イエスに対する悪魔の誘惑

イエスのあなたがたもわたしと同じであるという視点

「神との対話」あなたがたはわたしと同じようにつくられていることの素晴らしさについて想像できるか～視点の問題

#### ■能力～黄金と錬金術

この世界の創造主であり、機会の創造主であり、被造物の全てであり、それゆえにまた、私たち人でもある SOMETHING は、黄金を求める私たちに、

黄金を与えてくれることもあるが、

それ以上に、  
黄金を生み出す錬金術を授けようとすることもある。

どちらも私たち自身がすることではある。  
その私たち自身の意志を知ることである。

### ■能力～証明と真実

3巻（141）～「質問してよかったですよ。だって、「いっぺんに二か所にいられる」とか「したいことは何でもできる」という話は、ちょっとヤバイですからね。こういうことを言うと、エンパイア・ステート・ビルから「わたしは神だ！ 見ろ！ わたしは飛べるのだ！」と叫んで飛び降りる人間が出てくるかもしれない。」

「そんなことをする前に、トータルな認識を実現したほうがいいな。自分が神だと他人に証明しなければならなかったら、自分が神であることを知らないのだ。すると、「知らない」という状態が現実になる。つまり、墜落してぺちゃんこになるね。

神は誰にも自分を証明しようとはしない。そんな必要はないからだ。神は神である、それだけだ。**自分が神と「ひとつ」**であることを知っている者、神とともにある経験をしている者は、誰にも証明する必要がないし、証明したいとも思わない。まして、自分に証明しようなどとは考えない。

だから、「あなたが**神の子**なら、十字架からおりて、証明してみせるがいい！」とあざけられても、イエスと呼ばれたひとは何もしなかった。だが、三日後、ひっそりと静かに、商人も見物人も証明すべき相手も誰もいないところで、彼はもっと驚くべき大きなことを行った。以来、世界はそれについて語りつづけている。そして、その奇跡にあなたがたは救済を見いだした。なぜなら、そこで示されたのはイエスの真実であるだけでなく、あなたがたの真実であり、人から言われ、自分も信じてきた自分自身についての偽りから救い出してくれたからだ。

神はつねに、あなたがたを最高の考えに導く。

たったいまも、地球には高い考えを実践しているひとがたくさんいる。そのなかには、物質を出現させたり消したり、自分自身を出現させたり消したり、ひとつの身体で「永遠に生き」たり、同じ身体に戻ってもう一度生きることまでふくまれている。これもみな、すべて信念で可能になる。彼らの知識によって可能になる。ものごとはどうなっているのか、本来、どうあるべきかについて、変わらぬ明晰さをいだいているから可能になる。

過去に、人びとが地上の姿のままでこれらをなしとげたとき、あなたがたはそれを奇跡と呼び、その人びとを聖者、救世主だと思った。しかし、彼らはあなた以上であるわけでは

ない。あなたがたすべてが聖者であり救世主だ。それが、彼らのメッセージなのだ。」

#### ■普通の成長・存在

#### ■あなたのおその証明

相手のうそを証明してもせつない。

相手にとっての真実がある。うそか本当かは視点によってまったく異なってしまうからだ。

#### ●なみこさんへの返信

入院ですか。多分、数年前に入院されていた病院と同じですね。

K野さんの趣味は、将棋、囲碁、酒、タバコだと思います。あとは寅さんの映画ですか。もしかしたら、純子ママの方が詳しいかもしれないですね。

推理小説をもしかしたら、読まれるかもしれません。もしかしたらですが、、、ただ、小説もかぶってしまう恐れがありますよね。

「動物将棋」だと大丈夫かもしれません！！

まあ、行かれること以上のお見舞いの品はないですね。

お応えになっていなくてすみません。

(4月22日2010年掲示板)

ご存知だとは思いますが、一步の掲示板情報によると、K野さんが入院されたそうです。私も忘年会などでお世話になっているので1度お見舞いに行こうかと思うのですが(病院もわりとウチから便利な所ということもあり)、お見舞いの品は何が良いか迷っています。K野さんの趣味や好み(本とか雑誌のジャンル等)をご存知でしたら教えてください。ちなみに「将棋」の関係のものは一步の掲示板に既に書かれているので皆さんが持っていきましょうし、避けたいと思います。

#### ●意識のある人生

体と小さな私を養い、育てること。

#### ●

お金がなくとも生きていける人生

お肉がなくとも生きていける人生、

それは、考えられないか、

それは、考えられるか。

(掲示板記入予定)

●意識のある人生

呼吸とところの両輪

●機会

あらゆる瞬間、あらゆる機会が、

<本当のわたし>

を実現する時と場であるにとらえること。

4月23日、6月8日 2010年

●会話・気づき

しゃべっているのは誰だろうか。

(掲示板記入予定)

自分がしゃべっているのではないと気づくべし。

～自己研究

└質問・ようちゃんとの問答・慢心・教室

●

HP, 掲示板に気を注ぐ。

●ニコ CR-Z さんへの返信

>ニコ CR-Z さん

>最新のものから読み始めて、まだまだ途中なのですが、6646～6649の項目にとっても共感しました🌟書き込みができないようだったのでメールさせていただきました🍷



掲示板、お読みいただきありがとうございます。

掲示板に書き込みしていただけるのであれば、このメッセージを通じてお書きいただければ、代わりに書き込ませていただきます。

掲示板とヒーリングは「神との対話」風にいうと、自分自身にとってあらかじめ決められた（すなわち、魂の意志）人生のようです。好むと好まざるをかかわらず、引き込まれてしまっています。

掲示板がお読みいただいている方が新たな生き方のきっかけとなるのであれば、きっと魂も、そして、私自身も本望です。

>私はサイババとババジの本は読んだことがないのですが、今ヨガナンダの弟子が書き留めた「ヨガナンダとの対話」という本を読んでいて、とても興味を惹かれています



「ヨガナンダとの対話」も私も買いましたが、いまのところ、「ツンドク」です。でも、このご本を読まれているのであれば、ぜひ、

「あるヨギの自叙伝」（森北出版）

もお読みください。裏切られることはない本です。

この本にたどり着いたのは、「長南年恵」さんの不食の話しからで、「不食」からババジに行き着き、ヨガナンダに至りました。

ババジは「神との対話」に出てきますが、著書はありませんし、私が引用した話しも本当にババジの話しなのか根拠はありません。なぞの人物です。

ヨガナンダの著書「あるヨギの自叙伝」によって、初めて明らかになった方です。私が引用している六つの「人としての修養」もババジの話しではない可能性があります。ババジにあこがれる人は多いので、それを利用する人間もいるということです。

なお、サイババはおすすめではありません。

>私もヒーリングやヨガに興味があります。食事に関してはまだまだで、これからって感じなんです🍴🍴

ヒーリングについては、とても多くのことを学ばせていただきました。掲示板をお読みいただければ、ご理解いただけるのではないかと思います。掲示板には書いていませんが、自分自身の体を痛めて初めて分かるということもあります。

>今、川崎さんとヒーリングさんと3人で前世どこかアジアの修行僧か何かだったのでは…😅なんて空想しながらにやけておりました😅

もちろん、ご縁はあるでしょうね。修行僧であったのならいいですが、同じ獄中で、

「生まれ変わったら、もうちょっとまともな人生生きようね」

という極悪仲間だったかもしれませんね。わたしは修行僧よりか、獄中の人物の方にひかれます。

話しは飛びますが、ドストエフスキーの小説を読まれたことがありますか。。。なかなかいいですよ。

あと、始まりがあれば、いつかは終わりがあります。始まりを祝福できるのであれば。どんな終わりがあっても祝福してください。

>長期休暇ということで、有意義にお過ごし下さいませ💕

月曜まで五日間の休暇です。二日目が過ぎました。ありがとうございますです。仕事の時にも言えるといいんですがね。

あと三日間しかない。

あと三日間がんばろう。

えらい違いです。——同じところは不安があることです。

>私は昨日、雨の中、伊勢神宮と猿田彦神社に行って浄化&エネルギーを頂いて

参りました🙏

伊勢神宮には 20 年前に一度お参りさせていただきました。やはり、気持ちのいい場所ですね。

でも、お参りしたからには、日常のこの場を伊勢神宮にできるよう、切磋琢磨するのがお参りしたものの勤めだと思っています。それ以上のお参りはないでしょうね。

>雨が吉というのはどんな意味があるのですか🌧️

確かNHK選書の「易経」を立ち読みした時、雨は陽の気と陰の気がまじわって生じるものであるので、「吉」とのことでした。

今度、雨の日にはぜひ陰陽の気の交わりを感じてみてください。

調子はいかがですか？🙄

今日、初めて掲示板を拝見しました🔍ケータイからは見れないと思って、見に行ってもませんでした。

最新のものから読み始めて、まだまだ途中なのですが、6646～6649 の項目にとっても共感しました👉書き込みができないようだったのでメールさせていただきました🙏

気長にぼちぼち読ませてもらいますね。

私はサババとババジの本は読んだことがないのですが、今オガナダの弟子が書き留めた「オガナダとの対話」という本を読んでいて、とても興味を惹かれています🙏👉

私もヒーリングやヨガに興味があります。食事に関してはまだまだで、これからって感じなんです🍴🍴

今、川崎さんとヒーリングさんと 3 人で前世どこかアジアの修行僧か何かだったのでは…🙄なんて空想しながらにやけておりました🙏

長期休暇ということで、有意義にお過ごし下さいませ🍷🍷

私は昨日、雨の中、伊勢神宮と猿田彦神社に行って浄化&エネルギーを頂いて参

りました🙄

雨が吉というのはどんな意味があるのですか🌧️

#### ▲追伸

感動的な文章ですよ。

>いちばん大事なのは恐れないことだ。いずれにしても、あなたがたは「死ぬ」ことはないから、恐れることは何もない。

これ以上のアドバイスはないですよ。

要は、選択にあたって、どれだけ<身にしみて感じているか><身にしみて知っているか>ですよ。

恐れと疑いがあれば、手と足をしばりつけて進んでいくようなものです。。

まあ、自分のことですが。。

どうりで歩きにくいわけです。

疑いは、これでいいのだろうかということですが、、

>プロセスの展開を認識し、すべてはうまくいくと知っておだやかにしていること。

今はうまくいっていないようにみえても、長い目で見れば、うまくいっているということですね。

>すべてのものごとの完璧さにふれようと努めなさい。

何があろうとも、わたしは神性を表現する大きな中心、<ほんとうのわたし>を表現する大きな中心へと向かっていることを知り、ふれようとすることですね。

>どこへ進もうとも、そこはほんとうの自分を創造するという経験にふさわしい場所なのだ、ということ覚えていなさい。

覚えておきます。一喜一憂しないようにします。

>人生のすべては瞑想であり、神性に思いをいたす場である。これが真の目覚めであり、覚醒だ。

わたしもここは赤くマーカーしてあります。マーカー全部をしるします。

「人生のすべては瞑想であり、神性に思いをいたす場である。これが真の目覚めであり、覚醒だ。この経験をすれば、人生のすべてが祝福される。闘いも苦しみも不安もなくなる。ただ経験があるだけだ。そこに好きなレッテルを貼ればいい。すべてに完璧というレッテルを貼ることもできるだろう。

だから、人生を瞑想に、人生の出来事のすべてを瞑想にきなさい。眠りながらではなく、目覚めて歩きなさい。無意識にではなく意識して歩き、疑いや不安にわずらわされず、また罪悪感や自責にとらわれず、大いなる愛を与えられているという輝かしい確信をもちつづけなさい。」

感動的ですよ。

月曜日、面倒なことをしなくてはなりません、こころしておきます。

いちばん大事なのは恐れないことだ。いずれにしても、あなたがたは「死ぬ」ことはないから、恐れることは何もない。プロセスの展開を認識し、すべてはうまくいくと知っておだやかにしていること。すべてのものごとの完璧さにふれようと努めなさい。どこへ進もうとも、そこはほんとうの自分を創造するという経験にふさわしい場所なのだ、ということ覚えていなさい。これが平和への道だ。すべてのものごとに完璧性を見ること。

人生のすべては瞑想であり、神性に思いをいたす場である。これが真の目覚めであり、覚醒だ。

～今日の神様 ✨✨✨

●ようちゃん CR-Z さんへの返信

な～るほど～～(^o^);

いい線いってます(^o^);

カスミのレシピだったりして。。

その線では、＜料理研究の究極＞が答えです。

あっ、この書き込みには既視感がありますね。

あと、ページは。。。なぜか見当たりませんね。もう一度よく見てみます。

探さずに、読み直すか。然りと思えば、実践するか。

こちらが本筋かもしれません。

(4月24日2010年掲示板)

#### ▲レシピ

よく言われることは、  
空腹が最高の調味料である。

「神との対話」では、  
愛があれば缶詰であってもごちそうとなる。

おそらくこれが究極のレシピです。

(4月25日2010年掲示板)

ババジと18人のシッダ持っているのですが該当箇所を見出すことができません。  
只今140Pにしおりをはさんで本棚に放置中です。

一応、僕の回答として料理というのでどうでしょう。

4月24日、25日2010年

#### ●意識のある人生

表の世界だけを生きないこと。

裏の世界も生きること。

見ることのできる世界だけでなく、見ることのできない世界も生きること。

同時に生きること。



嫉妬心の克服は分かれば、氷解する。

別様に見ることができるようになる。別様の存在になることである。

●なみこさんへの返信

なみこさん、おはようございます。

そうですね。妻は元気そうだと言っていましたが、私は少々つらかったです。足は急に悪くなったとのこと。

お見舞いは連休明けがいいかもしれません。

将棋は喜ばれると思いますよ。

あと、K野さん、チェスやるか聞いておけばよかったですね。

(4月25日 2010年掲示板)

K野さんの手術は来週ですか。でも「将棋の勉強」をする元気があるようですから大丈夫そうですね(^\_^)v。それでは私は手術後、5月の連休明けにお見舞いに行こうと思います。高塚さんのように「将棋の相手」はK野さんの満足いくようにはできそうにありませんが(^\_^;)・・・。

4月25日、26日、27日、5月4日 2010年

●意識のある人生～沈黙

沈黙の日を作ること。

一ヶ月に一度、

何もしゃべらず、何も読まず、何も書かない一日を作ること。

(4月26日 2010年掲示板)

●教室

いつも聞こえているから。

聞く気持ちがないから。

本当は大きいけれど、気づかないだけだ。

●草稿

質問46のように、長い質問も設ける。長い質問の方が質問を理解しやすいということもある。

●意識のある人生

人生は限られている。

早朝出勤の朝 30 分のように、時を過ごすこと。

#### ●禍福

不幸から逃れる方法は何か。

幸福になることである。いつもいつも、幸福が次の状態になることだ。

これを第一に人は考える。

だから、人は、占い師のところへ、教祖のところへ、本の中へ、その方法を求めに行く。

あるいは、自分を幸せにしてくれる、お金や、他人、権威を求めに行く。

しかし、もうひとつ方法がある。

それは不幸にも幸福にも執着しないことである。

(加筆して掲示板記入予定)

禍福のからまりを楽しむことである。

#### ●ヒーリング

今日来なければ、今日来ない結果がある。

今日手をかざさなければ、今日手をかざさない結果がある。

今日道を右に曲がれば、右に曲がった結果がある。

今日初めて道を左に曲がれば、左に曲がった結果がある。

#### ●旅

この世界に住んではいけない。

この世界に住まずに生きている目から見た世界がつけ義春の漫画の風景である。

4月26日、27日

#### ●今日のシンクロ

神の声はなぜ小さいかという前日の質問に対する「神との対話」の神の答え。

文庫本版 3 巻、29 ページ、34 ページ、46 ページ

4月27日 2010年



「誰だろ う瞑想」で問うことは、あくまでも誰だろ うということで、どのようにみえるか、



ということではない。

●教室資料

大いなる自己には補助輪が必要である。

- 1 「誰だろう瞑想」
- 2 「神との対話」などの本を読むこと
- 3 「睡眠・休憩」（魂の休憩・魂が神に触れ、リフレッシュすること）
- 4 「意識のある人生」～一瞬一瞬を積み上げ、落としてはいけない。

■意識の人生～私

一瞬、一瞬を積み上げること。

落としてしまったら、

また、積み上げること。

一瞬、一瞬、ひとつ、ひとつ。

（掲示板記入予定）

●「神との対話」コミュ

「神との対話」3巻文庫本版 93 ページ

愛であること（真善美であること）、意識的に創造すること、自意識

思考のコントロール 119 ページ

●自己研究～大きさと小ささ

一緒に人類を救いましょうという年賀状

地球を背負うキリスト

●ヒーラーK氏

気が思い通りになるから、人も思い通りになるという慢心。

だが、時に両方とも思い通りに動いてくれない時がある。

その時に気づくべきことは、

気は思い通りに動いてくれていたのかもしれない、

人も思い通りに動いてくれていたのかもしれない

ということである。。

●日記～意識のある人生  
内なる成果、内なる体験。

●草稿  
「何者になりたいか」  
何でもよいが、感情をメルクマールとする。

4月30日2010年

●教育  
パソコン教育、IT教育により作られていく人間  
シュタイナー教育により作られていく人間  
全くといってよいほど教育を受ける機会がなく成長する人間

それらとの教育とは別に形成される内なる人間

## ★5月2010年

5月2日、3日、4日、6日、7日、8日、9日、10日、12日、16日、17日、22日、24日、  
25日、26日、27日、28日、29日、30日、31日、6月1日、2日、3日、7日、20日、  
26日2010年

●蒸発  
塚田正夫のよさを知ること。

つげ義春の漫画に「蒸発」という作品がある。

●神聖なる矛盾  
若さの深淵さに劣らぬ年齢の智慧がある。  
若さとシンクロする智慧がある。

●モノ  
一枚のメモ用紙  
それがあることのありがたさ、  
それはないことによって、初めてそのありがたさを知ることができる。

それがないことのありがたさ、  
それは意志によって、持たずに、自分自身にメモを記すことにより、初めてそのありがたさを知ることができる。

どちらも真実であり、後者は前者を通じて得ることができる。

(参考) グルジェフ

### ●存在

ゆるすことを超えている<存在>  
おとなとこども

家庭教師時代に下の子を公園で遊ばせた時のブランコの思い出

### ●手書きの人生

ワープロの印刷文字と手書きの文字

「一步」のお客さんの話～手書きの図面とパソコンでの図面では同じ内容でも読みやすさがまるで違うという話し。

### ●視点

女の子がお父さんに連れられて泣きながら歩いている。  
お父さんにしかられたということではなさそうだ。おとうさんは穏やかな顔をしている。  
見えてどこかほほえましい光景である。

視点が異なれば泣いてしまうが、視点が異なればほほえましい。

### ●時事～第三の道

二つの道があり、どちらの道にも行くことができない時には、かならず第三の道がある。  
ただし、第三の道は選んだことがない道なので、最初は少し歩きにくいと思うかもしれない。

県内か県外か。

どちらもノーである。

第三の道は。。。国外である。

国内か国外か。

どちらもノーである。

第三の道は。。。？

(5月3日 2010年掲示板)

▲答え

カエサルのはカエサルへ。

地球外へ。

■時事～わたし

また、こういうこともいえる。

県内か、県外か、

ということではなく、

わたしが引き受けるか、あなたに引き受けさせるか、  
ということである。

これはわたしの問題である。

(5月4日 2010年掲示板)

■時事～続・わたし

拙宅の警備をお願いしたいが、普段はわが家の庭には絶対に入らないように。

隣の庭か、隣の隣の庭で待機するように。

こういう人は自分勝手な人と言われる。

これは私の問題である。自己研究なしに「右の家の庭にするか、左にするか、後ろにするか」を議論してもむなしい。

(5月5日 2010年掲示板)

▲時事～自他・一体

<隣の庭は実はわたしの庭であった>

ということもある。

(5月6日 2010年掲示板)

■時事～廃絶

<それはわたしである>

と言う時に、

初めて自分の行いと自分の世界を変えることができる。

(5月7日 2010年掲示板)

■愛と不安

この世界の最大の防御は怖れないことである。

何度もの引用で恐縮であるが、以下は、何ものをも怖れなかった人の話しである。

怖れたのは、王様であり、悪魔であり、全宇宙をを背負っていたその子は何ものをも怖れていなかった。全宇宙という重さを支えることさえもである。

「すべての旅行者の守護者である聖クリストファーは、このような体験を適切に示すひとつの象徴である。伝説によると、彼は非常に強健な身体を誇りとし、傲慢であった。そして、最強の人間にのみ仕えようと思っていた。初め王様に仕えたが、王様が悪魔を恐れているのを知って、そのもとを去り、悪魔の家来となった。ある日、彼は悪魔が十字架を恐れているのを見、もしキリストを見つけ出せるならば、キリストに仕えよう決心する。彼は、ある牧師の忠告にしたがって、ある浅瀬のところでキリストを待つことにする。彼は多くの人を背負って川を渡してやりながら、長年そこに過ごす。しかし、ある暗い嵐の夜、小さい子どもが川を渡して欲しいと頼んだ。聖クリストファーは、たやすいこととばかり子どもを背中に乗せた。しかし、それはだんだんと重くなってきたので、彼の歩みは歩一歩遅くなってきた。川の流れの中央にきたとき、彼は“あたかも全宇宙を背負っているかのように”感じた。そして、彼はキリストを肩にのせていることを知ったのである――そして、キリストは彼の罪を許し、永遠の生命を与えた。」

(マリー・ルイーゼ・フォン・フランツ他共著「人間と象徴」)

最強の人は、最大の金銭、最大の人力、最大の武力を行使できる王様であろう。

すべてが自由になり、すべてをコントロールでき、人が恐れることはあっても自分が恐れることはない王様、

その王様も実は悪魔を恐れていた。

悪魔には金銭も人力も武力も無効である。

悪魔は王様の心にしのびよって王様をわがものとし、その肉体さえも滅ぼしてしまうこと

ができる。

そう、王様をコントロールして、王様がコントロールできないものが悪魔である。

では、悪魔に恐れるものはなかったかという、そんなことはなく、ただひとつあった。

それは人間イエスや人間シッダールタが達したキリスト、ブッダである。

悪魔のいかなる誘惑にも乗らずに、ただ自分自身に従う存在であるキリストやブッダにとって悪魔の誘いは幼児のたわごとでしかない。

人をコントロールすることにより生きている——コントロールされることを望む人が創りだした存在である——悪魔にとって、もっとも恐れるものはキリスト、ブッダである。キリスト、ブッダの前においてはコントロールできない、すなわち、生きることができないからである。

人の恐れ化身である悪魔、悪魔の化身である殺傷武器、これらは恐れることのない人にとっては無効なのである。

これは文字通りなのであるが、まだほとんどの人にとっては文字通りではない。わたしもまた撃たれば傷つき、死ぬ。

しかし、肉体は滅びても、わたしの生命は死なない。

悪魔を恐れなければ、武器を恐れなければ、死なないし、傷つかない。

だが、悪魔を恐れれば、武器を恐れれば、わたしの生命は傷つき、苦しむ。

オキナワがある。

ひとりひとりのオキナワがある。

今日のオキナワがある。何を救い、何を傷つけて生きるかという今日のオキナワがある。

(5月9日 2010年掲示板)

#### ▲愛と不安

> 「ある暗い嵐の夜、小さい子どもが川を渡して欲しいと頼んだ。聖クリストファーは、たやすいこととばかり子どもを背中に乗せた。しかし、それはだんだんと重くなってきたので、彼の歩みは歩一歩遅くなってきた。川の流れの中央にきたとき、彼は“あたかも全宇宙を背負っているかのように”感じた。そして、彼はキリストを肩にのせていることを知ったのである」

愛であれば裸で立ってられる。

愛はまるで子どものようである。

これは自分自身以外に何も持たないということである。

何も持たないでいられるということは、何も必要はないということである。

何も必要がないということは、自分自身だけが原因になれるということである。自分自身が原因となり、手に取りたいものを手に取るということである。

自分自身が原因となり、何も持たずにいれば、その人自身の内に含まれているすべてが開かれる。その人が背負った全宇宙というのも実はその人自身である。その人をつつごとくすれば宇宙の重さを感じるかもしれないが、その人自身は宇宙の重さを感じずに、ただ宇宙の大きさであるということだけである。

ただ、キリストならぬわが身は重荷を感じる。

重荷と感ずること、背負うことを恐れること、裸でいることを恐れること、傷つけられることを恐れること、これはまだ<それ>がわたしでないからだ。まだ<世界>がわたしでないからだ。

クリストファーがひとひねりすれば壊れてしまうキリストであるが、王様も悪魔もクリストファーも実は何できない。世界中の武器を持ってきてもキリストを傷つけることはできない。できるのは、キリストが自ら十字架にかかることを選んだ時だけである。

<あなたの意志はわたしの意志である>

と言ひ、十字架を背負ひ、ゴルゴダの丘に向かひたる時だけである。

そしてまた、ひとりひとりに

ひとりひとりの十字架がある。

ひとりひとりのゴルゴダへの道がある。

ひとりひとりの恐れがある。

それはひとりひとりが背負うものである。背負つて、

その十字架はわたしの十字架である。

その道はわたしの道である。

その恐れはわたしである。

このように静かに宣言した時に、  
十字架は傷つけるための十字架でなく、救済の十字架になる。  
道はわたしを救う道となる、すなわち、自己実現の道となる。  
侵略の恐れも、職を失う恐れも、家族を失う恐れも、自分自身を失う恐れも、救済への恐れとなる。

何ごとも恐れてはならない。よく見ることである。

(5月12日2010年掲示板)

あらゆる人に生まれ変わることができるということ。

「あなたの意志はわたしの意志である」という「神との対話」の神の言葉。

#### ■「神との対話」3巻

3巻(182)～(この世界が減びるかどうかという質問に対して)

「……いちばん大事なのは恐れないことだ。いずれにしても、あなたがたは「死ぬ」ことはないから、恐れることは何もない。プロセスの展開を認識し、すべてはうまくいくと知っておだやかにしていること。

すべてのものごとの完璧さにふれようと努めなさい。どこへ進もうとも、そこはほんとうの自分を創造するという経験にふさわしい場所なのだ、ということ覚えていなさい。

これが平和への道だ。すべてのものごとに完璧性を見ること。

最後に、なにごとからも「のがれ」ようとしてはいけない。抵抗すると、相手はますます強くなる。

将来に、あるいは「予言」された将来に悲観するひとたちは、「完璧さのなか」にとどまれない。」

＝＜愛と不安＞＜内と外＞＜プロセス＞

3巻(204)～「あなたの言っているのは、霊(いのち)とのコミュニケーションだね。

もちろん可能だ。危険かって？ 怖がってれば、何だって「危険」だよ。何かを恐れれば。恐怖の対象を創造してしまう。」

＝＜愛と不安＞＜選択と創造＞

#### ▲ツール・マニュアル

この恐れを洗い流してくれる方法(下巻105ページ)

＜これが本当のわたしだろうか＞



<今愛なら、何をするだろうか>

と問うことである。

#### ■二つの価値観

攻められたらやり返さなければ滅ぼされてしまう。

攻められたらやり返す権利がある。

これは生まれてから植えつけられた価値観である。

この価値観は変わることがあるし、変えることができる。

他方、生まれる前から持っている価値観というものまたある。

この価値観は変わることのない価値観である。

それはどのような価値観かというと、

<これが本当のわたしだろうか>

<いま、わたしは本当にこれをするのだろうか>

と問い、生まれてくる価値観である。

どちらの価値観にしたがってもく生きることはできる>。

(5月17日2010年掲示板)

#### ▲価値観のリトマス試験紙

いつまでも続く、喜びと満足。

これだけが本当のわたしである。

(加筆して掲示板記入予定)

#### ■問題・志

時事はさらりと終えるのであるが、結構しつこく書いている。

時事ではあるが、オキナワの問題はわたしの問題であるからだ。

あと、鳩山さんがこの問題をひっぱってくれているということもある。

何ごとも良い面と悪い面がある。

優柔不断、問題の放置、本当にそうだとすればとんでもないことであるが、そうだと  
しても良いところはある。

これだけ新聞が連日一面トップで書きつづけ、オキナワの人が全き正当なる抗議をする  
ようになったこと、本土と呼ばれる地に住む人が大なり小なり、この問題について考えざる  
をえなくなったこと、これらは鳩山さんの功績である。

自民党政権のままであれば、オキナワの問題はこれほど騒がれなかったであろう（その方が  
よかったという人もいるが、正直よくそんなことを言えるものであると思っている）。

<問題を問題化するというのはとても大切なことである>。

だが、大切ついでに、もうひとつ大切なことをしてもらいたかった。それは

<自分のしたいことをする>

ということである。

大きな問題に対しては大きな困難がある。

大きな志に対しては大きな困難がある。

大切なことは、

貫き通すことである。

生き通すことである。

困難さは重々承知である。貫き通すこと、生き通すことは、鳩山さんの人生ではできない  
ことかもしれない。

しかし、

問題を忘れてはいけないし、

志も忘れてはいけない。

よくあることではあるが、両者を別のものですりかえることは最悪の選択である。

そして、再度繰り返すが、

これはわたしの問題でもある。

（5月24日2010年掲示板）

>これはわたしの問題でもある。

どういう問題であるかという、わたしの場合は、

仕事をなくすことを恐れないということ。

お金がなくなることを恐れないということ。

明日の食べるものを気にかけないということ。



あらゆる人が人生で朝令暮改をしている。

■意識のある人生～変わらぬ答え

二千年後もあった方がよいだろうか。

二千年後もオキナワには基地を置いておくのであろうか。

<二千年後わたしは「今日イエスと言うこと、今日ノーと言うこと」を言うのであろうか>。

確かに、状況が変われば変わることがある。

しかし、どのような状況であろうと変わらないことがある。

オキナワはそのような問題である。

二千年後にいないものは今日もいない。

<今日わたしは「二千年後にイエスということ、二千年後にノーと言うこと」を言うのであろうか>。

二千年後にしないことは今日もしない。

二千年後にすることは今日もする。

あらゆることについて、このようなわたしでありたい。

(5月25日2010年掲示板)

▲それは質問の「UFO問題」の答えでもある。

■川崎陽平さんへの返信

>川崎陽平さん

書き込みいただき、ありがとうございます。

>神との対話のなかで、国際政府みたいところが抑止力としての大きな核を持って、それぞれの国は核を持たない。

>みたいところありませんでしたっけ？

大きな核を持つかどうかははっきり覚えていませんが、そのような記述は確かにありましたね。

現代における現実的な提示としてされています——と言っても、これさえ非現実的提示であるのがやるせないところでもあります。

あと、これはニール個人に対して言ったことですが——したがって、抑止力のことではないですが——

<あなたがたは脅かされなければ正しいことをできないのか>

という趣旨のことを言われていますし、

HEB（進化した存在）においては

「それでは、わたしたちの社会と、宇宙のどこかにあるもっと進歩した文明のおもなちがいは、わたしたちが離ればなれだと考えているということなのですね。」

「そう。進化した文明の第一に指針は、一体性ということだ。すべてが「ひとつ」であり、すべての生命は神聖であるという認識だ。だから、進歩した社会では、どんな場合でも、同じ種に属する他者の生命を相手の意思に反して奪うことはありえない。」

「どんな場合でも？ 自分が攻撃されても、ですか？」

「そうした社会あるいは種には、そんなことは起こらない。」

「種の内部では起こらないかもしれませんが、外部から攻撃されたとしたら？」

「高度に進化した種が外から攻撃されるとしたら、間違いなく攻撃するほうが遅れている。それどころか、攻撃するほうは、基本的に原始的な存在だろう。進化した存在は誰も攻撃したりしないよ。

攻撃された種が相手を殺す理由はただひとつ、攻撃された側がほんとうの自分を忘れているからだ。攻撃された側が、自分を肉体だと考えていれば——物質的なかたちが自分だと思っていれば——「自分の命が危うい」と恐れて、攻撃した者を殺すかもしれない。

だが、自分は身体ではないことがわかっていれば、決して相手の肉体を滅ぼすことはない。そんなことをする理由がないからだ。ただ自分の肉体を置き去りにして、非肉体的な自己へと移っていくだろう。」

(「神との対話」3巻 340 ページ)

とされています。これは現実的でない提示ですが、不思議なことに、

<この非現実的提示の方がより現実的である、より実現しやすく感じられはしないでしょうか>。

それは、こちらの方が本質的であるからだと思います。本当のわたしの行為ということです。

>個人的には抑止力は要りません。

すばらしい言葉です。

>日本人が中国や韓国、北朝鮮による攻撃を恐れているなら、それが現実化することはあるかもしれません。

おっしゃるとおりですね。

スピリチュアルな発想になじみのない方には「たわ言」のように聞こえるかもしれません。

また、自分自身も

<こころからそうであると言い切れない>

ところがあるのは、自分自身がまだ様々な恐れの世界を彷徨っているからなのでしょうね。恐れが微塵もない心境になれば、それは現実化しないと言い切れるのでしょうか。

>ただ、その攻撃を受けて（肉体が）死ぬ覚悟はあるつもりです。

10年ぐらい前に10メートル離れたところにいる兵士が機関銃のようなごっつい銃を持っているのを見たら、さすがにびびりました。

ああいうものは、あるだけで、相当な影響力を与えていると思いますね。  
たとえ目にふれることがなくともという意味です。

>ただ、2010年においては抑止力を持つのも一理あるかと...

この<一理>はいつでも有効です。

そして、

いつでも無効にもできます。  
(5月25日2010年掲示板)

<いつでも無効であると言うこともできる>

というのがこの掲示板での自分の立場です。

掲示板にいない時には二理も三理も、百理も千理もあるような生き方をしていますが。。。  
俗に言う、「口だけ」の人生ですが。。。  
(5月25日2010年掲示板記入予定)

神との対話のなかで、国際政府みたいなのが抑止力としての大きな核を持って、それぞれの国は核を持たない。

みたいなおところありませんでしたっけ？

個人的には抑止力は要りません。

日本人が中国や韓国、北朝鮮による攻撃を恐れているなら、それが現実化することはある  
かもしれません。

ただ、その攻撃を受けて（肉体が）死ぬ覚悟はあるつもりです。

ただ、2010年においては抑止力を持つのも一理あるかと...

#### ■自己研究・わたし・虚栄心

蛇足ではあるが。。

わたしは人の失策に乗ずるような人は大嫌いであるし、  
一緒に人類を救いましょうなどというたぐいのことを、わが身を省みず言う人も大嫌い  
である。

以下は、先日引用した「回想のグルジェフ」の再掲である。

グルジェフはかつて私に

「誰が一番虚栄心を持っているか知っているかね？」

と訊いたことがあった。

私は

「俳優、映画スター、それに官僚でしょうか？」

と答えた。

彼はこう言った。

「違うよ。天使と悪魔だ」。

(C.S.ノット著「回想のグルジェフ」149ページ コスモス・ライブラリー)

ひとりひとりの中に天使の虚栄心がある、悪魔の虚栄心がある。

天使の虚栄心はコルタールのようにところにへばりついてところを隠し、これみよがし  
に立派なことを語る。その語り口をよく見て、自己の虚栄に気づくことである。

(5月26日2010年掲示板)

#### ■自己研究

オキナワに基地がなくなったとしても、わたしに基地があるかぎり、基地はかならずでき  
るし、その基地はわたしに問いかける。

それでよいのか。

それがあなただろうか。

恐れないこと

他人のことを思わないこと

■ 自他・黒住宗忠

黒住宗忠は

「人の悪を見て己に悪心を増す事」

を家内心得のひとつとしてあげている。心得としてあげているということは、人の悪を見て悪心を増す事をしないということは<できる>と言っている。それが、仏の道であり、神の道であり、また人の道であるという。

「人は万物の霊と申候えども、何になりとも相成るものと存じ奉り候。心を神に仕え、神の行をすれば神なり。仏にして仏の行をすれば仏なり。鬼の心になり鬼の行をすれば鬼なり。畜生の心のようになる心は畜生なり。いま何なりとも心の内に拵（こしら）え候もの出来る物なり。神道の執行（しゅぎょう）は、心に神をこしらえ神の行をすることこそ神道なり。望み次第に成れる人と存じ奉り候。」（真蹟未見書簡8）

（原敬吾著「黒住宗忠」54 ページ 吉川弘文館）

人は、鬼にも、神にも、仏にもなれると言っている。

理不尽な攻撃を受けた時、武器を持ってやり返すこともできるし、白旗を持って降伏することもできるし、相手の欲しいものを与えることもできるし、ただ去っていくこともできる。。何もかもできる。

それは相手次第<ではなく>、

それは<わたし次第で>、どのようなわたしでいることも<できる>

と言っている。



だから、自分にとってはオキナワは国の問題でなく、わたしの問題である。

(5月28日 2010年掲示板)

▲家内心得 (神国の信心)

自分は黒住教の信徒ではないが、他のどの心得もそれぞれが人生のオキナワの問題といえるものばかりである。

以下、引用。

日々家内心得之事

- 一 神国の人に生まれ常に信心なき事
- 一 腹を立て、物を苦にする事
- 一 己が慢心にて人を見下す事
- 一 人の悪を見て己に悪心を増す事
- 一 無病の時家業怠る事
- 一 誠の道に入りながら、心に誠なき事
- 一 日々難有事を取外す事

上の条々常に忘るべからず

恐るべし恐るべし

立ち向かふ人の心は鏡なり

おのが姿を移してやみん

蛇足解説

「一 神国の人に生まれ常に信心なき事」

仏教では、人として生まれることは、亀が大海で水中から頭をもたげたときに、たまたま浮いている流木に頭をぶつけるようなことで、稀有なありがたいことであるという。

また、科学では、ビッグバンにより銀河系のような秩序ある存在ができる確率は「10の10乗の123乗分の1」であるという。そのまたそのなかで人として存在することの確率はおよそ考えがたい確率である。

これらは、確率で考えると信じられないような稀なことであるが、ある方向性の意志が働いていると考えれば、不思議でも何でもない。当たり前のことである。(以前書いたように、私がアットランダムに動いて千葉から東京の職場に着く確率は限りなく0に近いが、私に職場に向かう意志があれば、必ず到着する。確率は1である。)

ただ、当たり前であるが、この当たり前が

「(わが報酬として) 当たり前と思うか」

「(稀有なこととして) 当たり前と思うか」

が、信、不信の分岐点である。  
慢心と信心の分かれ道である。

自分が大学生の頃、父の職場の同僚と飲んだことがあった。相手の方は今でいうスピリチュアルなことに関心がある方で、手相を見てくれたあとに、

「数え切れないほどの精子のうちのひとつが卵子と合体してできたのが自分なんだ」

ということを精一杯の熱弁をふるって30歳以上も年下の私に話してくれた。当時の自分は生意気な二十歳の若造でそんな話しは歯牙にもかけなかった。そりゃあ事実だろうが、

「だからどうした」

という感覚なのである。聞く耳を持たないというのはまさしくこのことであろう。

だが、不可思議な存在として自分を感じるというのは、どのような理屈をもってしても感じることでできないことなのである。なぜかというと、その感覚は自分自身の

<存在>

から生じてくるものなので、ある存在にならないと感ずることができないのからである(しかも存在の変化は自己伝授によってのみ可能である)。

神の国に生まれて信心をもつことができないというのは仕方のないことなのである。ただ、だからといって、感じることをできない人にそのことを話すことは無駄ではない。今、こうしてほんのわずかではあっても、信心をもつことができるというのは、30歳以上年下の若造に誠心誠意話してくれた父の同僚氏のおかげがあるからである。

ところで、では、なぜ信心とオキナワが通じるのかということがある。

(5月29日2010年掲示板)

オキナワとわたしは内と外の問題

外は内の反映の端的な例がオキナワである。

ガンジーの無抵抗主義はスピリチュアルな問題と共に政治の問題でもあった

オキナワの問題というのは

他人はわたしかという問題を端的に表してしているからである。

#### ■「日月神示」

右の頬を～～～

出くわさないこと。

#### ■わたしのオキナワ

私の中の芸能ニュースによってわたしのオキナワを置き去りにしてしまわないこと。

自分場合、わたしのオキナワとは、

<ひとりの人間として、何も恐れない>

ということである。現実にはとても多くのものを恐れている。私にへばりついているこの「恐れのかさぶた」をひとつひとつ丁寧に、意識的にはぎとっていくことである。——あるいは、意識的に成長することにより自然にはがれていくことである。

外の騒ぎに生きることもこの世に生きている限りつきものであるし、その騒ぎなしに生きていくことなど考えていない。しかし、内なる<為すべきこと>を忘れてしまっは人として生まれた甲斐がないというものである。

(6月3日 2010年掲示板)

一体であること。

他人のことを知ること。呼吸と「誰だろう瞑想」～自己研究

所有

成長により、存在により何も恐れなくなる。

#### ■時事～考える葦の崇高さ

以下は、350年前に生きたパスカルの言葉である。

恐れないということを知るといことの崇高さから語っている。

「人間は、自然のうちで最も弱い一本の葦にすぎない。しかしそれは考える葦である。これをおしつぶすのに宇宙全体が武装する必要はない。一つの蒸気、一つの水滴もこれを殺すのに十分である。しかし宇宙がこれをおしつぶすとしても、そのとき人間は、人間を殺すこのものよりも、崇高であろう。なぜなら人間は、自分の死ぬことを、それから宇宙の自分よりずっとたちまきっていることを知っているからである。宇宙は何も知らない。だから我々のあらゆる尊厳は考えるということにある。我々が立ち上がらなければならぬのはそこからであって、我々の満たすことのできない空間や時間からではない。だからよく考えることを努めよう。ここに道德の原理がある。」

(「パンセ」上巻 219 ページ 新潮文庫)

どのような強靱な肉体によってたたかれようとも、  
どのような強力な武器によって滅ぼされようとも、  
どのような理不尽な国によって攻め込まれようとも、

わたしが考える葦であるなら、暴力や武器によってはわたしたちは決して屈することがないということを知るであろう。いかなる理由にせよ暴力や武器に対して暴力や武器で対抗することは虚しいことを知るであろう。

<なぜなら、そこは人間が満たすことのできない時間、空間だからである>。

だから、そこを満たそうとして暴力や武器をふるう者がいても、我々がよく考えることに努め、知るならば、その者よりも我々は崇高であろう。

なぜなら、我々はそこは人間が満たすことのできない時間、空間であることを<知っているからである>。

暴力や武器をふるう者はそのことを知らない。

だからいつも立ち返るところは考えるということであり、力をふるうということではない。

力が無防備なひとりひとりの人に立ち向かう者がいても、  
力が無防備なひとつひとつの国に立ち向かう者がいても、  
力が無防備なひとつひとつの星に立ち向かう者がいても、

よく考えることに努め、知識を持つならば、この知識においてこの武力を行使する個人、  
国、宇宙よりも崇高である。

あなたがたはわたしのことを知らないが、わたしはあなたがたのことを知っているからである。

われわれが立ち上がるのは、空間や時間や領土や国の永続性や個人の身体などではなく、  
よく考え、知るということからである。

(6月4日 2010年示板)



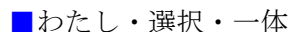
イエスの「目には目を」と対するのは無知であるということ。  
この知らないということを行っている。



県外にわが都道府県は入らない。  
あなたの行いにわたしは入らない。

県外は千葉ではない。  
あなたはわたしではない。

(掲示板記入予定)



とんでもない優柔不断さを弁護する気持ちは毛頭ないが、かといって世間の非難の大合唱  
にくみする気持ちもない。そのことは<わたしにとって>たいした問題ではない。

問題は、

<わたしが首相だったらどうするだろうか>

ということである。

週刊誌や新聞やネットに書かれている意見をなぞるのではなく、わたしが首相だったらどうするかということをシミュレーションすることである。その仮想世界に生きてみることである。

沖縄に住んでいるわたし

田園調布に住んでいるわたし

神の国に住んでいるわたしとして、

いろいろなわたしのなかで

<わたしの選択>

をシミュレーションしてみることである。

胃が痛くなるほど葛藤して決めることである。

これがわたしのオキナワであり、そして、日本のオキナワに通じていくと思っている。

(5月30日2010年掲示板)

#### ■シンクロ

今朝起きて、顔を洗う前に洗面所で立ち読みした「天声人語」である。紙面だと長い文章だが、ネットだと短文に感じられるのが不思議、それはそうとして、「天声人語」としてはかなりレベルの低い内容に思われる。しかし、わたしとしてはこういうのは好きである。あと、何がシンクロかと言われそうであるが、シンクロなのである。

ということで、以下、これまた引用です。

戦雲たれる朝鮮半島、政治への幻滅と財政難、再びの株安に畜産危機。歴史の常で、国難はリーダーの力量にお構いなく降りかかる。前向きのまなざしがなおさら恋しい5月の言葉から▼武庫川女子大の藤本勇二講師は、小学校で食育を手がけた経験をもとに宮崎県の口蹄疫（こうていえき）を語る。「私たちは命という食べ物をいただく。畜産農家、流通に携わる人、食べ残しの行方など、せめて食べ物の向こうに関心を持つきっかけにしてほしい」▼がん患者の記を集めた情報誌「メッセンジャー」の編集長、杉浦貴之さん（38）は、自らのがん体験から発行を思い立った。「患者は絶望の中で希望を探している。一人一人の力や希望の光は小さくても、たくさんあれば見つけやすい」▼「奇跡的に、こんな素晴らしい時代の日本に生まれたわけですから、すべて体験してやろうという気持ち」。テレ

びに演劇、執筆と間口が広い落語家春風亭昇太さん（50）である▼98歳で亡くなった俳優北林谷栄さんを、映画評論家の佐藤忠男氏は神話的と評す。「世の中が浮ついても、おばあさんの周りは落ち着いている……かつての日本映画には、主役でなくても独自の世界を持つ、そんな人物の居場所がたくさんあった」▼日本通のジョン・ダワー米MIT教授（71）が教職を退く。占領期を描いた著「敗北を抱きしめて」について「戦争直後、多くの日本人が様々なレベルで粘り強さと明るさを発揮し、軍事に頼らない平和をつくろうとした姿を描きたかった」。粘りと明るさ。今求められる二つである。

(<http://www.asahi.com/paper/column.html>)

(5月31日2010年掲示板)

#### ■愛と不安・グルジェフの〈為す〉こと

家の施錠はしっかりする。

これがある限り、わたしはわたしのオキナワを語るができない。

語る前に〈不安でないことをする〉ということ〈為す〉ことである。

(5月31日2010年掲示板)

(参考) ～「逝きし世の面影」

#### ■わたし・選択・愛と不安・シンクロ

……あなたがたはみな、自分が傷つけられ、被害を受け、破壊されることがありうるし、そうされてきたと信じている。

被害を受けたと思うから、復讐しないではいられなくなる。だが、ひとを苦しめることを、正当化できるかな？ 誰かが自分を苦しめた（と想像した）ら、報復として傷つけていいのか？

〈人間として互いにしてはいけないと言っていることなのに〉、

〈正当化できれば自分はしてもいいのか？〉

それは狂気のさただよ。その狂気のせいで気づかないが、じつは人を傷つけて苦痛を与える者は誰でも、

<自分は正当だと考えている>。

当人は、自分が望むことにてらして、**正当な行動だ**と思っている。

あなたは彼らの世界観や道徳観、倫理観に、神学的理解に、それに決定や選択や行動に同意しないかもしれない——だが、

<当人は自分の価値観にてらして、それでいいと思っている>。

あなたは彼らの価値観を「間違っている」と言う。だが、

<あなたの価値観が「正しい」と言うのはいったい誰だろう？>

<あなただけだ>。

あなたの価値観は、あなたが「正しい」と言うから正しい。それでも、あなたが自分の言葉を守れば、多少は筋が通るかもしれないが、あなた自身、何が「正しい」か何が「間違っている」か、考え方をしじゅう変えている。個人でも社会でも同じことだ。

社会は数十年前に「正しかった」ことを、いまは「間違っている」と言う。そう遠くない過去に「間違っている」と思ったことを、いまは「正しい」と言う。何が正しく、何が間違っているか、誰にわかるのかね？……

すみません。以上は「神との対話」3巻文庫本版 148 ページからの引用です。

本の引用だと読まれない方がいらっしやるので、ふせました。読んでいただきたかったと言うことです。

高塚の言葉と同じように読んでいただきたかったということです。

「神との対話」は毎日1章は読むことにしていますが、最近は全く読んでいませんでした。

今日、たまたま（正しくは必然的に）読んだところ、「わたしのオキナワ」に関する箇所が出てきたので引用させていただきました。

（5月30日2010年掲示板）

■選択・私・わたし・自他



私が選択できることがあれば、それは私が選択すべきであるし、その選択できるということをしていないというのは、実にもったいないことである。

なぜなら、

<選択、変容、これがまさしく人間だからである>。

人間であることを拒否することは実にもったいないことである。

それでは、犬や猫でなく人として生まれたかいないというものである。

だが、同時に私が選択できないことがまたある。

それは何か。

それは、相手の選択に介入することである。

鳩山さん、あなたの選択はあなたにしかできないことである。だから、わたしはいっさい介入しない。外的も内的にも介入しない。

だからこの辞任が、アドバイスがあったにせよ、他者からの介入なしのあなた自身の選択であることをここから願っている。

(6月2日 2010年掲示板)

#### ■ 半分の水

私が取ろうとするから、私は持っていない。

(6月27日 2010年掲示板)

#### ■ 原点 (支える思考)・所有・創造

私には足りないものがある。

だから、その足りないものを取ろうとする。

私が取ろうとするから、私は持っていない。

わたしが創りだしたもの、ただそれだけをわたしは持つ。

(加筆して 6月1日 2010年掲示板記入予定)

私には足りないものがある。

だから、その足りないものを取ろうとする。

私が取ろうとするから、私は持っていない。

この論の間違いはどこにあるのだろうか。

5月3日、6日、7日、6月6日、26日2010年

●意識のある人生

身体の再構築——これまで無意識に老化に向かうがままにしていた身体を意識的に再構築すること。

あらゆる瞬間、瞬間に行うこと。

具体的にはあらゆる瞬間に気を意識的に通していること。

あらゆる瞬間にゆるやかな呼吸をしていること。

そして、わたしもゆるやかであること。

(5月7日2010年掲示板)(意識表裏面要転記)

■参考

「ハトホルの書」7章のツール

■無意識

精神は無意識に成長する。身体も無意識に成長する。

また、

無意識に流されれば精神は朽ち、身体も朽ちる。

成長し朽ち、成長し朽ち、やがて意識が無意識の底から目ざめる。

(掲示板記入予定)

5月4日、6日、7日、8日、16日、6月6日、8日、20日、26日2010年

●直観・感触

じっくりこないものは、どのようなものであろうとこの世界に書き込まない。

今日一日、じっくりこないものは、どのようなものであろうとこの世界に書き込まない。

(掲示板記入予定)

前日のトランザムさんへの返信のように、じっくりこないものは、どれほど自分を現していようと、書き込まない。

●意識のある人生～時空・Be Here Now

今、ここで、この時に可能なことがある。

スカイツリーが見れること～東京にいて可能である～この可能であることをもっと生かすこと。

最善が与えられていることを意識すること、気づくこと。

●意識のある人生～貯金

ひとつでよい、

一日にひとつ、前に進んだと言えることを行うこと。

新たな気づき、新たな言葉、新たな行為、

どれでもよい、この世を去るときに消えてしまう考え、言葉、行為でなく、未来永劫消えることない＜わたしとなるもの＞を一日ひとつ手にとること。

(5月8日2010年掲示板)(意識表裏面要転記)

●一意専心・時空・エネルギー

今は＜何の時＞であるのか。

＜その時＞を決めること。

＜その時＞を知っていること。

そして、＜その時＞にこれまでの最高のエネルギーを注ぐこと。

なぜなら、＜その時＞は、わたしが注ぐエネルギー量により全く異なる＜時＞となるからである。

(5月16日2010年掲示板)

■エネルギーと時空の互換性について考慮してみる、ふれてみる。

5月5日2010年

●なみこさんへの返信

なみこさん、おはようございます。

川越の町、もしかしたら二日違いで同じ道を歩いたかもしれないですね。

今のわたしの旅の条件は、

日帰りで行ける。

電車賃が安い。

車内でくつろげる。

行き先が非日常的な空間である。

の4点で、そのすべてを満たすのが川越です。GW中はちょっと人が多かったのが「玉にキズ」でしたが、また行くつもりです。

グルメスポット、観光スポットぜひ、ご案内お願いします。

ところで、12日の「SHOGI BAR 探索」は大丈夫でしょうか。よろしければ一緒に食事してからと思っています。池袋に安くておいしい中華料理屋があると妻は申しております。

1階の「福しん」ではありませんヨ (^o^)/

(5月5日2010年掲示板)

おはようございます。高塚さんも川越に行かれたんですね。実は私も大学の時に知り合った友達が川越に住んでおり、毎年ゴールデンウィークに行っています。今年は3日に出かけてきました。次回行かれる時はもし事前に日程がわかっているようでしたら、川越のホテルやグルメスポット、観光スポットは情報提供できますよ(^o^)/。

▲なみこさんへの返信

なみこさん、了解いたしました。電話させていただきます。

20年前にコンビニでアルバイトしていた若者に

「高塚さん、今度川越に行きませんか。古い家並みが残っていて、行く価値のある町ですよ」

と誘われたのですが、当時は古い家並みなどまるで興味なかったので、モゴモゴ言ってそのままにしてしまいました。当時であれば、観光地としてでない川越が見られたかもしれないということですね。

残念ですが、こればかりは仕方ありません。

自分は古い瓦ひとかけらでもあれば、それで十分満足できるので、また行ってみたいと思っています。

(5月6日2010年掲示板)

12日の「SHOGI BAR 探索」の件OKです。待ち合わせの場所などはまたこの掲示板に書き込んでいただくか、電話やメールでも結構です。時間は私の場合、仕事の帰りに行くので18時30分位になってしまいそうです。

川越は2日ズレで全く同じ場所を歩きましたよ(^\_^)。「シマノコーヒー大正館」の前もしっかり歩きました。あの周辺観光客の数がすごいですね。川越在住の友達に聞いたところ、昨年のNHKドラマ「つばさ」の舞台になってからやたらとTVに取り上げられて観光客がものすごく増えたらしいです。でも去年はホコテンにもなっていなかったなので、車道にはみ出て歩くのが怖かったデス。今年に入って人出の多い時期はホコテンにしたのだとか。

5月6日、6月8日 2010年

●人間の使用マニュアル

使用するわたしがいること。

意識があること。

わたしの持ち物を知っていること。自由になるものを知っていること。

●仕事

夜巡の掃除（気・行い）

●「誰だろう瞑想」

「神との対話」で「誰だろう瞑想」が紹介されている個所での

「誰だろう瞑想」、深い呼吸、ホームレスへの移入

この三者は実は関連しているのかも知れない。

●無条件

神は魚を与えるのではなく、魚の取り方を教えようとしているのかもしれない。

「わたしを使うことである。わたしに命令することである」というのはそのようなことを言っているのかもしれない。

●瞑想

終わってからもつづく瞑想として瞑想を終えること。

（掲示板記入予定）

5月7日、8日、6月6日、8日、20日、26日 2010年

●愛と不安・気づき

この地球上で愛と呼ばれているものは実は不安であるかもしれない。

失うことを怖れる独占を愛と呼び、他者と自分を傷つけているのかもしれない。

もしかすると、すべてが逆なのかもしれない。

だから、あなたが愛と思っているもの、好意と思っているもの、よかれと思っているもの  
にあらためてところを当ててみることである。

(掲示板記入予定)

●先見

若いときには年をとったときのことは考えない。

年をとってからも死んだあとのことは考えない。

お墓のことや子ども、孫のことは考えても、あの世界に持っていくことができるものにつ  
いては考えない。

三途の川の渡し守に渡すことができる<天への貯金><自分自身への貯金>が 1 円もない  
というのであれば、悲しいことである。

(加筆して掲示板記入予定)

5月9日、10日、11日、16日、20日、21日、22日、6月6日、20日、26日 2010年

●二つのマニュアル

将棋における駒落ちはへびににらまれたカエル状態。

このような現在の状況に顧慮すること。

そして、同時に、

創造を駒落ちの上手のように行うこと。創りだすこと。

毎日を駒落ちの上手のようにていねいに指すこと。

ていねいとは動く部分が少ないということである。

(加筆して掲示板記入予定) (教室資料「すき間・斜線」へ要転記)

■ヨガナンダの「歩く時には神が歩いているように……」

●教室質問47～<虚栄心>

グルジェフはかつて私に

「誰が一番虚栄心を持っているか知っているかね？」

と訊いたことがあった。

私は

「俳優、映画スター、それに官僚でしょうか？」

と答えた。

彼はこう言った。

「違うよ。天使と悪魔だ」。

(C.S.ノット著「回想のグルジェフ」149 ページ コスモス・ライブラリー)

一人ひとりの中に天使と悪魔がいる。虚栄心を持った天使と悪魔がいる。

これを見ることである。

天使の虚栄心も悪魔の虚栄心も見ることが難しい。

ところで、

天使の虚栄心とはいかなるものであろうか。

悪魔の虚栄心とはいかなるものであろうか。

自分自身の生活のなかで具体的にあげてみよ。

(5月11日 2010年掲示板)

### ●光・炎

グルジェフが自動車事故で重体となり、生死の境をさまよったあと、回復に至るときに太陽の光を体に取り入れ、陽射しが弱くなると、焚火の炎からエネルギーを取っていたという話しである。

「十月になって灼熱の陽射しから秋の明るく暖かな陽光に代わるようになると、彼は椅子を外に持ち出し、そこから野外で巨大な焚火を燃やすよう私たちに指示を与えた。座りながら、彼は何時間も炎に見入っていた。炎から力を引き出しているような感じだった。私たちは全員手伝った。昇る炎と私たちの行動が彼を救っているかのようだった。」

(C.S.ノット著「回想のグルジェフ」159 ページ)

グルジェフは「人間は一週間食べなくとも生きていける。一分間呼吸しなくとも生きていける。だが、一瞬たりとも印象なしには生きていけない」と言い、三つの食物について述べているが、ここでは、そのいずれでもない光のエネルギーについて何か知っていることがあったのではないかということが語られている。

なお、「ハトホルの書」でハトホルは光を日常的に取り入れることをすすめている。

「したがって食べ物に気をつけ、できるだけ汚染されていない清潔な食物を摂ることによって「カー」(生命力・気)は強められるのです。汚染されていない水を飲むこともエクササイズ同様、非常に大切です。それらに加えて、できるだけ自然近くで暮らし、汚染されていない新鮮な空気を吸い、健康に支障のないかぎり肉体、とくに目から日光を隔てない

ようにしてください。これは太陽がまぶしすぎて目を守る必要を感じたとき以外は、できるだけサングラスをかけないということです。これらは、もしあなたさえよければ日常に取り入れてみてはどうかという、大変シンプルな提案にすぎません。医療的なアドバイスでもなければ、危険な実験を薦めているわけでもありません。」

(トム・ケニオン&ヴァージニア・エッセン著「ハトホルの書」62 ページ ナチュラルスピリット刊)

屋外に出ると元気になる、屋外で食事をするとおいしく食べられるというのも、この日光のエネルギーと関係しているのかもしれない。

また、先日テレビで紹介された不食の人は水に太陽のエネルギーを入れて飲んでいるというし、「あるヨギの自叙伝」に出てくる不食の女性も太陽からエネルギーをもらっているという。かといって、ただちに不食に走るのはどうかと思う。ここは、ハトホルのいう、

「目から日光を隔てないようにする」

ということを試みてみてはいかがだろうか。さらにわたしとしてはこれを意識的に行うということをつけ加えたい。

(5月20日2010年掲示板) (「すき間」「斜線」要転記～以下も同様に転記)

### ▲目の意味・あるいは第三の目

### ▲科学の太陽と生命力としての太陽

### ■黒住宗忠の日拝

以下は、黒住教の教祖「黒住宗忠」がいわゆる太陽崇拝に至った経緯である。

文化十一年の正月十九日、三年越しの病に医師が匙を投げ、また親しい友人が心配のあまりきいてくれた占いの結果も悪いとわかった時、宗忠は覚悟をきめて、従容として死を待った。その時、ふと、自分は父母の死を悲しんで陰気になったために大病になったのだから、心さえ陽気になれば一転して病気は治るはずだと気づいた。せめて残る息のある間だけでもそのように心を養うのが孝行だと思い定め、天恩の有難さに心を向けると、ふしぎなように、その時を境にして病が軽くなった。

それから日一日と快方に赴いたのであるが、三月十九日のこと、臥床中の宗忠が急に、入浴して日拝(につばい)をしたいと言い出した。快方に向ったとは言えなお衰弱していた



から、妻はこれをとめたが、宗忠の意志は堅かったので、ついにその言うに任せて入浴させた。そのあとで宗忠は縁側に匍（は）い出て太陽を拝んだが、それを機として年来の病は一時に全快したのであった。

そしてその年（文化十一年）の十一月十一日、冬至の朝、宗忠が日拝して一心不乱に祈っていると、太陽の陽気が身体全体に満ちわたったとでもいうのか、胸にこたえ肺腑に照り透（とお）るような気がした。身に迫っているその一団の温かい玉のようなものを、しっかりと胸におさめ、まるごと呑み込んだと思うと、何ともたとえようのない、さわやかな、よい気持ちになった。その時の心は「笛を吹き糸をしらべ金をたたき鼓（つづみ）を鳴らして歌い舞うとも及びがたい」ほどの楽しさで、心気とみに快活となった。つまり宗忠はこの時に、天地生々の靈機を自得（じとく）したのであった。

——これが宗忠の生涯を決定した回心の体験であった。古今東西、偉大な宗教家が誰も一度は必ず通った道であった。キリストが四十日四十夜の荒野の荒行ののちに得たもの、釈尊が出家して難行苦行を重ねたあげくに得たもの、すべてこれと同質の体験であったと考えてよいであろう。

（原敬吾著「黒住宗忠」9ページ吉川弘文館）

太陽をありがたいと思うことは、科学知識にどっぷり浸かってしまった現代人にはとても難しいことになっている。もちろん、現代人も太陽が無くなればどんなことになるかは知っているし、太陽によって生かされている要素があるのは知っている。ただ、昔の人が感じた

<ありがたさ>

この感覚はなくなっている。これは悲しいこととしてすませるのではなく、この感覚は復権すべき感覚である。太陽は現代人にとって世界のすき間、世界の斜線になってしまったが、これはわたしに見る目がなくなってしまったからである。

<太陽を計算してはいけない>

<太陽は見て、感じるものである>

（5月21日2010年掲示板）

これと同質の体験

↳違いは意識的か無意識的かの違い

そったくの機という意味では大きな違いはないか

#### ■宗忠の直観と行為

話しは横道にそれるが、黒住宗忠若し頃の逸話である。

「十五歳で元服し、その後間もない十七歳の年、藩で行われた猪や鹿の巻狩を、宗忠は友人と共に見物に行ったが、その日の行事がまだ半分もすまないのに、突然もう帰ると言い出した。友人があやしんでその理由をたずねると、「たとえ畜類であっても、いのちを取られるのを楽しむのは不仁（ふじん）で、よくないことだと気付いたから、早く帰るのです。」と答え、ひきとめる人たちを振り切って帰ってしまった（逸話 55）。」

（原敬吾著「黒住宗忠」3 ページ吉川弘文館）

現代であればどうということもない話しであろうが、時代と場所が違えば当たり前の話しが当たり前でなくなる。ただ内容とは別に大切なことは、

<よくないことだと気付いたから、早く帰るのです>

と、宗忠は自分自身にしたがうという点である。

どのような人にもその人の生き方、道がある。他人にしたがうのでなく、世間の常識にしたがうのでなく、自分自身にしたがう、太陽を拝むにしろ、友人とのせっかくの楽しみを台無しにすることにしろ、

<一切躊躇しない>

ということである。

この自分自身にしたがうことにより、これまでは斜線でしかなかった世界、すき間でしかなかった世界——それらが実は自分を生かしてくれている世界であるが——その世界の意味が初めて見えてくるのである。

（5月22日2010年掲示板）（「すき間」「斜線」要転記）

■「ハトホルの書」でハトホルが太陽からエネルギーを取り入れることを勧めていること。外で過ごす時間を作ってみることである。

#### ■印象・思いというエネルギー

重い病の患者さんが助からないと周りの人が思うこと。

■食物、空気、印象以外の第四の食物。

■身体構築に用いること

●貯金・シンクロ

貯金 2 円～カバンを持たない

コンセントを抜かない

シンクロ～1 ノートの書き込みにおける神の力

2 自己想起と「回想のグルジェフ」078 ページの符合

5 月 10 日、20 日、6 月 20 日、26 日 2010 年

●意識のある人生

1 人生のあらゆる場面から不安、恐怖を取り除くこと。

↳具体的に行動すること。すべてを逆にしてみること。

本を読み、ノートを読み、こころに反芻し、何も必要としない裸の人間になること。

2 人生のあらゆる場面から、慢心、虚栄心を取り除くこと。

↳スリ・ユクテスワとヨガナンダの虫歯

自由に生きるための方策 (05142010)

シンプルライフとの関連 (06192010)

●質問

自分自身が気づく教室、答えにいたる教室。

自分自身が答えに気づく草稿、答えにいたる草稿。

●意識のある人生

万事において、終える時間を決める。終える時間を決め、一意専心する。

ただ、時計は使わない。タイマーは使わない。

●食物・恐れ

もしかして、今、魂に石を与えてはいないだろうか。

(6月26日 2010年掲示板) (草稿要転記)

■黒住宗忠の「こころを傷めること」

姿なきこころひとつを養うは賢き人の修行なるらむ

■喜びのある一日

↳ヒーリングの主眼〜こころの底からわいてくる深い喜び、これが魂への食べ物である。  
あるいは、大声で笑うこと。

参考：シュタイナー



〜までやる

〜までにやる

エネルギーを注ぎ、時空を変えること

5月11日、14日、17日、25日、26日、27日、6月4日、6日、20日、27日 2010年

●意識のある人生

無意味な連想をしない。。というよりも、有害な連想をしない。

有害な連想は恐れが基盤にある。

この恐れが世界に害をなし、社会に害をなし、他人に害をなし、そして、自分自身に害をなす。

この有害な連想を、

——その連想に気づいた時——、

すべて逆にしてみることである。

(5月14日 2010年掲示板)

■夢においても無意味な連想、有害な連想を避ける。

そのために、いつも、あらかじめ、豊かであること。夢の中でも豊かでいられるように、この世界にいる時に完璧に豊かであること。

●金銭がないこと〜魚を与えるのではなく、魚の取り方を教えてくれようとしている。

●意識のある人生・貯金・成長

考えることにせよ、言葉にするにせよ、また、行うことにせよ、

<面倒なことで敬遠していたこと>

を一步前に進めること。

私が面倒にしていたことをわが師とすること。

(掲示板記入予定)

(職場の同僚が敬遠している事務処理をみて思ったこと)

#### ●機会と選択

二日酔いであれ、

一日の終わりの 30 分前であれ、

この人生のおわりの半日前であれ、

どのような状況であれ、そこからベストを尽くすこと。

(丸裸に剪定された樹木を見て思ったこと)

「神との対話」～いつも最善のものを与えられていることを知ること↓↓

#### ●「神との対話」考4～意識のある人生（神と人間・機会）

文庫本 3 巻 34 ページ

「よろしい。では、まさかと思うようなことを、もうひとつ教えてあげよう。

わたしはつねに、あなたにとって最善のものを与えている——ただし、あなたは必ずしもそれに気づいていない。」

もしこれが本当の話ならば、わたしは何という無知であったろうかということになる。

この話しがうそか本当か分からないが、まずはこの言葉をわたしのために利用して、

今日一日与えられるものをもっとよく見てみようと思う。ひとつひとつの出来事に対して、

「この出来事がわたしにとって最善だとしたら、今わたしは何をするのがよいのだろうか。何かわたしの見方の根本に誤りはないだろうか」

このように自分自身に問いかけてみることである。

何度もいうように地球人の見方はほとんどが逆にした方がうまくいく。

最善の出来事が人生でほとんどなかったと感じてきたことこそ、まさしく地球人が逆の価値観で生きてきたという証左である。

(5月27日 2010年掲示板)

それに気づいていない。

「気づいていないので、最悪のものを与えられていると思い、おののき、固くなっている。

この最善に気づき、この最善に用いることである。

■ <元気> 2 (意識のある人生～選択と機会・Be Here Now)

「では、まさかと思うようなことを、もうひとつ教えてあげよう。

わたしはつねに、あなたにとって最善のものを与えている——ただし、あなたは必ずしもそれに気づいていない。」

(「神との対話」3巻26ページ・文庫本版34ページ)

もし、この言葉に真実を感じ取れるなら、

どのような時にも、

どのようなことを望んでいる時でも、

絶望的なこの世の終わりの時でも、

たった今あることを生かすことである。

たった今あるところから自らと世界を創り出すことである。

(6月28日 2010年掲示板記入予定) (7月1日 2011年ブログ)

■ ツール・方法

気づくために直観を生かすこと。

直観を得たら、行動すること。

これまでの自分を変容させること。

■ ツール・方法

機会とプロセスを読むこと。

■ 3巻(026)～質問

「恐れぬ者は神を知る。」

恐れていることをあげてみる。

～休暇が少なくなる。お金が足りなくなる。。。  
これらの行為を変えることから始めてみる。



悪魔はイエスに対しては何もできないので恐れた。  
不安のない者に対しては悪魔は何もできない。  
悪魔——それは自分自身であり——それは恐れなければ、存在できないし、その恐れから  
生み出されるものは何もないからである。

怖れに関する究極の話は我々は死ぬことがないということである。

▲愛と不安

└全て愛であることと愛を体験するための不安という二つの側面

■ 3巻（039）

<存在——行為——所有>

所有、モノは行動しながらともにあるものである。

行為～思考・言葉・行い

人生で第一に大切なことは、  
どのような存在であるかということ。  
その存在にしたがった思考、言葉、行いをする事。  
所有は最後の穂でしかない。

一日で第一に大切なことは、  
どのような存在であるかということ。  
その存在にしたがった思考、言葉、行いをする事。  
所有は最後の穂でしかない。

3巻（042）<エネルギー>

精神と身体と靈魂の行動における統一



組織に属することによる怖れ、

組織に属さないことによる恐れ。

●

こころを通じ合わせる

恋人、家族、国、民族、地球、

可能なところから観察する。

●恩

母に 100 万回ヒーリングをしても母からの思いには及ぶことはない。

5月12日、6月20日、27日 2010年

●質問49? ~<シンクロニシティ>

シンクロニシティには三つある。最初が通常言われているシンクロニシティである。

1 無意識の「意味のある偶然の一致」

代々木で気功治療院をやり始めた時に、治療院での電話番号はわたしの気を触発してくださったいとこの光さんの事務所の電話番号と<偶然>同じであったこと（もちろん、局番は違うが）。

次は、

2 「神の声を聞き、それにしたがう「意味のある一致」（直観に従うこと）」

今日、

「●意識のある人生・貯金・成長

考えることにせよ、言葉にするにせよ、また、行うことにせよ、

<面倒なことで敬遠していたこと>

を一步前に進めること。

私が面倒にしていたことをわが師とすること。

（掲示板記入予定）」

というノートの記事と、メモ書きの

神の声を聞き、それにしたがう「意味のある一致」（直観に従うこと）

という文に行き当たる。この文章を言葉にすることは面倒であるが、30分前に書いていた



上述の文章を思い出し、今言葉にしている。これは神の声、すなわち、機会を聞き、その機会を生かすことである。神の声、機会の声は小さいので耳をすませていないとよく聞き取れない。

最後は、これこそ、人の本来の生き方であると思っているシンクロニシティである。

3 「自分自身のしたいことを意識的に選択し、それに世界が従う「意味のある必然の一致」

残念ながら、このような人生を生きていないので具体例を書くことはできない。

どのシンクロでいいです。

今日のあなたのシンクロを書いてみてください。

(6月29日2010年加筆して掲示板記入予定)(06022010)

#### ■神と人間

あなたの意志はわたしの意志であるという意味のある一致、シンクロニシティ

#### ▲過去の「シンクロ」の項目の書き込み参照

5月14日、16日、19日、20日、24日、25日、26日、6月28日2010年

#### ●倫理

あらゆる時代のあらゆる人に通じる、こう生きるべきだという倫理はない。  
なぜないかというと、

どのように生きてもよいからである。

だから、どのように生きてもよく、そのように生きている他者を批判するのではなく、自分自身がどのように生きてもよいことを自覚して、自由に生きることである。

そして、問題は、その自由に生きるためにはどうすればよいだろうか、ということである。  
(掲示板記入予定)(05142010)(教室質問)

#### ■自由に生きるための指針

自由に生きることを妨げていることとは何であろうか。

恐れである。

ひどい目にあっている（あいはしないか）という気持ちである。

#### ■指針

ひどい目にはあわない。

- 1 外を知ること
- 2 内を知ること
  - ① 存在
  - ② 最善の機会を与えられているということ

#### ●意識のある人生～直観

大きな損得にしろ小さな損得にしろ、ここ何十年間は損得計算にまみれた人生であった。小さな私が考える損得などはあの世の価値観からみれば、笑止千万な損得計算であろう。。

あの世の価値観と通じるホットラインでもあればよいが、どうもそんなものはなさそうである。——持っているという人もいるが、怪しげな人が多いし、毎日毎日お伺いをたてに行くわけにもいかない。

ただ、まるでないというわけでもない。それはどういうホットラインかというと、

#### <直観>

である。直観を働かせることである。シックスセンスを働かせることである。

多くの人は、そんなものは自分にはないというであろう。そう、自分もまるでないとはいわないが、直観を働かせる自信はない。そこで、次善策がある。

それは、

「こうしようかな」

と思った時に、損得計算によってその最初の「第一感」を否定しないことである。できる限りその「第一感」にしたがって生きてみることである。

たとえば、自分の場合、今朝郵便局とスーパーに行き、駄犬ハッピーを母宅から事務所に連れてきた。これは損得計算ではこれまではとらなかった行動である。それがいいことなのかどうかは短期的には分からない。少なくともスーパーは開店時間前で「損得計算からは損した行為である」。ただ、長期的にみたら分からないし、スーパーはスカであったが、空き地に咲き乱れる草花に感動することはできた。。

まあ、こんな感想自体、損得計算に生きてきた証（あかし）である。

ともかく、これからは

「直観を大切にする人生」

「損得計算をしない人生」

「第一感」を大切にする人生」

を生きようと思っている。

（5月14日2010年掲示板）

■直観を生かすための条件～ふたつの「第一感」

直観には、大きなわたし自身から出てくる「第一感」とよろいのようにへばりついた偏見からくる「第一感」とがある。両者をきちんと区別することが肝要である。

区別するための方法は、

<あらかじめ大きなわたしでいること>

それしかないと思っている。

（6月28日2010年掲示板）

沈黙してから生きること

さらにまた、どうしてもつきまとう自分自身の「滓（おり）」がある。クリアにすることに努めること。

（掲示板記入予定）

参考「日月神示」

どのようにすれば、クリアにできるか。

## ■直観

選択だけでなく、見ることに直観を働かせること。

そのことにより選択も変わってくる。

「ハトホルの書」242 ページ～「テフティ」「トートの目」

## ●自己構築（「日月神示」）

身体・精神・霊魂

身体～仕事としての身体

ハトホルのいう4つの礎石

（「日月神示」ウィキペディア）

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%97%A5%E6%9C%88%E7%A5%9E%E7%A4%BA>

「解釈としてはマコトの神が世に出現して神の力を現して、すべてを助け何の苦勞もない理想的な世界に立て直していくが、その前には人類は未だかつてなかった程の大災厄や大試練を迎えなければならない。助かる為には身魂（心、精神、身体）を絶え間なく磨きつつ備えよ。磨いていなければ助かることが出来ない。という内容だと考えられている<sup>[10]</sup>。

この身魂磨きや心の浄化、また正しい食生活で身体を健康で強壮なものに保っていく事の大切さは日月神示の主題と言っても良く、我々ひとりひとりがこの現界をより良く生きる為にも、この先に起こるとされる大峠を無事に乗り越える為にも極めて重大なことであり日月神示自体が降ろされた理由もこれに尽きると考えられる。なお、日月神示はこれらの帖を手始めに昭和19年から天明が亡くなる2年前の昭和36年まで17年間にわたり書記されていく。神示には「人間の生き方」、「正しい食生活について」、「夫婦の本当のありかた」、更には「霊界」の実相（霊界の事については節を設けて後述する）についても書記されているなど非常に広範囲にわたっての記述が見られるが、未来に関するいわゆる「予言書」的な記述部分も多く見られる。」

5月15日、17日、27日、6月17日2010年

## ●視点

男の男に対する視点

男の女に対する視点

女の女に対する視点

女の男に対する視点

全く異なる視点がある。

「誰だろう瞑想」で視点を変える。

二人がいて視点が生じる。

#### ■ コリン・ウィルソン

壊れた機械を見る目は、その機械の使い方を知らない人と知っている人とはその機械を見る目は大きく異なる。

5月16日、17日、6月17日 2010年

#### ● 自他・非難

他人を非難する気持ちがわいてきた時には、わたしがどのような気持ちであれば、どのような行為をとれば、その人が一步前に進めるかを考える。

#### ■ 6月17日の会議で留意すること。

#### ■ 意識の人生～わたし

困っている人に同情できない人びと。

その件は大なり小なり自分も同じである。「神との対話」のホームレスに感情移入するがごとく、自分自身も感情移入してみること。

#### ● 言葉

日記に今日することと書いたことは今日すること。今日できないことは決して書かないこと。

- ① ヨダログ
- ② 「日月神示」
- ③ 創造主の言葉
- ④ 日華女史

#### 209～日華女史

その時、私は女史のする仕事を、じっと見ていたが、その真剣な態度と、その熱意のこもった言葉、仕方、等いっさいが深く私の脳裏に、きざみ込まれた。

私はそれまでに多くの冷媒や霊能者を見たがその人たちと違って、日華女史は平生はきわめて平凡に見えるが、言葉の一つ一つがまったく真剣で、おろそかな言葉は一つもない。みな生きた誠のこもった言葉と態度である。しかも威張ったところはひとつもない。

病人に話しかける一つ一つの言葉には、どこかやわらかいところがあるが、**また真剣に迫ったものがある**。その後女史は

「私は言葉に命をかけています」

というのを聞いたが、まったくそのとおり、だから人の言葉も真剣に聞くので、へたな冗談でも言おうものなら、女史からすぐたしなめられる。

ある日後藤氏が女史に

「冗談いうのもだめですか」

などと本気になって尋ねたことがあるほどである。「言葉に責任を持てば何をいってもいいです」と女史は笑って答えた。

(吉田弘著「手の妙用」)

●グルジェフの他者に対するまなざし。⇒エネルギー論へ要転記。

5月17日、6月17日 2010年

●知識・存在

知らない、一生懸命になれることがある。

知っている、一生懸命になれないことがある。

知らない、傷つくことがある、

知っている、傷つかないことがある。

逆に、

一生懸命になれることで、知っていることを知ることができる。

傷つくことで、知っていることを知ることができる。

●意識のある人生

一日一回かならずノートを見直すこと。

見直す時間を作ること。

●意識のある人生～エネルギー

多くのことをした分だけ、深くもぐった分だけ、多く休むことができる、深く休むことができる。

他方、多くのことをした分だけ、深くもぐった分だけ、いつまでも目ざめていることができる。

どちらにしろ、多く、深くがわたしを活かす道である。

(5月23日 2010年掲示板)

なぜなら、深くもぐるというのはエネルギーを自分自身のうちに生じさせることであり、そのエネルギーは世界へと注がれると同時に、自分自身にも注がれるからである。

●意識のある人生～為すこと。

今のことは、今する。

今日のことは、今日する。

当たり前のことであるが、実はこれができない。できないということに気づけば、できないこと、なすことができないことが数多く——膨大にあることに気づく。

今は、意味、価値の無限の海だからである。

5月18日、19日、20日、6月17日 2010年

●意識のある人生～真善美

山奥にあつて決して見られぬ花、明日には捨てられてしまう花、損得計算でいけば手を抜いてもよさそうなものでさえ、最善の美を尽くして創造されている。

わたしもまた、自分なりに、ていねいに、最善を尽くして人生表現をしていきたいと思っている。

└行為への愛

(加筆して掲示板記入予定) (教室資料要転記)

■見られぬもの～斜線

■見られぬもの～行為への愛 (「すき間」「斜線」要転記)

●ロボット

映画「サロゲート」にしろ、映画「アバター」にしろ、本当は自分自身の体を使うことがはるかに面白いし、、、また、体については知らないことがたくさんある。

介護ロボットを求めることの愚～介護される体になると思っていること。介護されない人間になることに全力を尽くすべきである。

●ヒーリング～足

- ① 自分の体に注意を払うことができたこと。
- ② 治せそうもないことに挑戦せざるをえないこと。

### ● 苦悩

相手のせいにして逃れようとしても、苦悩から逃れることはできない。  
忘れることはできても、いつかまた同じ苦悩をしょいこむことになるだろう。  
なぜなら、苦悩は相手のせいではないからである。

苦悩は自分自身の問題である。

だから、自分自身を変えるしかない。  
苦悩を消滅する方法はただひとつ。  
自分自身の視点を変えることである。  
その変えた視点で生きることである。

(5月19日 2010年掲示板)

■この世界にいるのはわたしだけである。

5月19日、23日 2010年

### ● 自他

人間関係においても、世界との関係においても、一方的に損をするということはありません。

損をしたと思うか、得をしたと思うか、あるいは、ありがたいと思うか、これは視点の問題である。

### ● 質問

遊女の法然への問い

問いの中にすべてが含まれている。

### ● 視点・価値

50年前を見るようにして、今現在を見ること。

現在の価値を知ること。

そのために視点を変えること。

視点を変えるために、たとえば、「誰だろろう瞑想」を行うこと。

5月20日、6月4日、6月20日、28日 2010年



●すき間

人生にアソビを残すこと。

私の意味でわたしをがんじがらめにしてしまわないこと。

人生にアソビがあること。

昨日までの意味でわたしをがんじがらめにしてしまわないこと。

人生の首をしめてしまわないこと。

明日の不安で私をがんじがらめにしてしまわないこと。

(加筆して掲示板記入予定)

●

自己伝授～人の本質～成長～創りだすこと (存在の意味)

ひとりひとりの自己伝授があり、ひとりひとりの役割があり、全体への貢献がある。

5月22日、23日、6月4日、20日 2010年

●シンクロ (仕事に関連して)

いいシンクロ以外に、悪いシンクロもある。

こちらの方こそよく見るべきであるかもしれない。

少々の労を惜しんだばかりにあとで悩むことになることはたくさんある。

悩む時にはこの労を惜しんだことにさかのぼることである。

■人情

「人情深くその情に迷わぬが道なり。」

情をかけたなら悩まぬこと。世間の道にはずれていてもよい。天の道にはずれていなければよい。

人情をかけることを間違いとしないこと。

迷うこと、悩むことが間違いである。

●荷物

私の負担としないことのために、今、負担としなければならないことがある。

(掲示板記入予定)

●視点

ネットでいかに儲けるか

ではなく、

ネットでいかに共有するか。

同様にして、他のことについても別の発想を試みる。

#### ●すき間～土

畑を耕すこと、土に栄養を与えること。

実った穂しか見たことがない人、穂だけのありがたさしか知らない人には、土壌の豊かさ、その土壌を耕す人のありがたさは見えてこない。

また、土壌を耕すことの喜びも見えてこない。

そしてまた、豊かな土壌があれば、豊かな穂は必然である。

わが土壌をしっかりと見て、その土を耕すことである。

(教室資料要転記)

#### ●草稿

リンクするCDROM

書き加えることができるCDROM

意識表などのツール

5月23日、26日2010年

#### ●意識のある人生

一日が終わり、一日を振り返るだけでなく、

一日の始まりに、今日一日への一本の線を引くこと。

その線のように生きること。

(掲示板記入予定)

「日記」の今日することにもっとエネルギーを注ぐこと。

(参考) 羽生さんがいう理想の将棋。

#### ●意識のある人生・身体化

気づき、言葉を実生活に役立てること。

ハトホルの音の話し

●易占

「雨は吉」とは変化は常に吉であるということである。

「神との対話」での「あなたがたにできないこと、それは成長しないということである」

●草稿

人は質問のようだという。質問をすることにより明かされていくことがある。大学時代の数学の先生の話。

質問は自分の質問を見つけることである。本書はその質問を見つけるための手がかりであり。質問が人生を作り出すのである。

捨てるべきものがある。すべてを載せようとしないうこと。

●[http://www.honza.jp/senya/1/matsuoka\\_seigow/1363](http://www.honza.jp/senya/1/matsuoka_seigow/1363)

第2巻の後半は「市場経済と資本主義」の発育が詳述される。

ブローデルはここまで、15世紀～18世紀では、交換経済とはべつに自家消費という領域が各地にそうとうに併存していたことを口をすっぱくして説明していた。

それはブローデルが、市場経済はあくまで生産と消費を媒介することであって、生活全体の活動には必ず「生産⇌消費」の領域がありうることを強調したかったことを暗示する。「生産⇌消費」こそもっとも直截な生活的交換なのである。この見方にこそ、市場価格が及ばない物質生活によって長らく人間生活が営まれてきたという歴史の証しが綴られる。

5月24日、26日 2010年

●質問（草稿）

「人間とは何か」

この質問は立花隆の話をもとに質問の中に挿入する。

他にも、質問に具体性を持たせるような挿入を試みる。

5月25日、6月20日、28日 2010年

●主役

衣食住は生活の基本である。ただ基本であるからといって、華美に着飾るものではない。

華美にするものは別のものである。

(掲示板記入予定)

●気功体操・水中歩行

「エル・カー・……」と唱えながら行うのであるが、発声しない方が内に気がたまるということがある。

他方、ハトホルのいうところの発声に関して何か実感でくることを体験すること。

<ためること>～将棋のためと沈黙

5月26日、30日、6月21日、28日2010年

●自己構築・身体・モノ

いい映画はエンディングが素晴らしい。

一日もまた素晴らしいエンディングで終わること。

それは何かという。。。

片付けである。

(6月21日2010年掲示板)

●意識のある人生

一歩前に進むこと。

一瞬一瞬にそのことは可能である。

自分自身のオリに気づき、それを変えることである。

<気づくこと>と<なすこと>である。

■リズム

上がって、下がること。

左に行き、右に行くこと。

前に行き、後ろに行くこと。

これをリズムとすること。

5月27日、30日2010年

●「誰だろう瞑想」

自分の過去、自分の未来、他人の思惑を詮索し、計算する「思考する私」を消さないで、「誰だろう瞑想」はできない。すなわち、わたしは出てこない。

5月29日、30日、6月20日 2010年

●わたし・自由

自己研究が必要なのは、自由になるために自己の「オリ」「チリ」を取る必要があるからである。

●視点

男女どのようにみえるか、

男女どうであるかは、

私が男に属したり、女に属したり、男の視点から女を見て、女の視点から男を見るからであり、

もし、両方の視点からみれば、まったく別のものである。

あるいは、男の仮面をかぶったときに男となること、  
女の仮面をかぶったときに女となることを考えてみる。

●わたし

<誰だろう瞑想>も<直観>も「計算する私」を出さない時に可能となる。

↳わたしであってわたしでないもの

5月30日、31日 2010年

●意識のある人生・自他

相手を<良く見る>視点を持ち、対する。

シンクロ～S氏の良き提案

●「神との対話」

わたしが取るから、わたしが無い。

(「神との対話」3巻文庫本版 137 ページ)

5月31日、6月1日 2010年

●魔術と感情・エネルギー

事務所で横になる時に昭和の時代の写真集をよく見る。以下は、それに添えられている文

章である。しかし、写真の解説だけでなく、スコット・カニングムの「魔術が成立するための三要素」のうちの第二番目の話しでもある。なお、魔術はもちろん白魔術である。それも怖いという人は奇蹟と置き換えればよい。

「昭和三十年代は、映画の黄金時代だった、とはよく言われる事実である。

それも娯楽映画の全盛。チャンバラ映画にアクション映画。青春ロマンに盛り場の哀愁。サラリーマン物語や怪獣映画もあった。

一般には二本立て、土曜には深夜までも四本立て興行もあった。

都会では、映画館が二、三軒、それ以上も立ちならぶ街区が形成された。

新聞に広告欄があったものの、いまほどに情報が多いというわけではない。その街区に足を踏み入れて、看板やポスターを見てから財布と相談する。それが、多くの人の楽しみ方であった。

そういえば、デートにも映画鑑賞が定番化していたのではなかったか。映画を観ながらはじめて手を握った、などというご記憶をおもちの方も多かろう。

チャンバラ映画やヤクザ映画を観たあとの男たちは、肩をいからせて闊歩したが。映画館を出るときの、そんな姿もいじらしい。

野球が国民的なスポーツとして認知されたのも、その時代だ。そのあとのテレビの普及がより拍車をかけたが、都市にあっては、テレビ以前から人びとが野球場に足を運んでいた。プロ野球も高校野球も注目を集めたが、大学野球が人気の的となっていた。

なかでも、東京六大学野球。スター選手のブロマイドが、プロ野球選手以上に売れたほどである。

野球場では、歓声と拍手。それにヤジ。いまのように鳴りものは使わない。ときに、スタンドでのヤジ合戦がおもしろかった。そこには、歌舞伎での掛け声のようなものもあれば、漫才での掛け合いのようなものもあった。

総じて、皆が純情だった。そこで、泣き、笑い、激した。映画館全体が、野球場全体が、固唾をのみ、またわきにわいた。現在は、映画では芸術鑑賞を、野球ではメガホン合戦を強要される、そうした傾向にある。楽しさも中くらいなり、喜怒薄し、だ。」

(写真・菌部澄 文・神崎宣武「失われた日本の風景」88 ページ河出書房新社)

生きているということに何らかの魔術が働いていると感じるならば、スコット・カニングムの魔術の三要素は考慮に値する。カニングムは魔術（奇蹟、それは自然の奇蹟、当然の奇蹟であるが）が成立するために次の三つをあげた。

- 1 必要性
- 2 感情
- 3 法則

昭和三十年代の感情は、平成の感情とはまるで異なる。

感情が枯渇しているというか、表現されていないというか、ゆがめられているというか、何か違和感があるのである。

平成の時代に生きてはいるものの、再度昭和三十年代の感情を復権すべきなのであろうか。あるいは、平成の時代の感情というものをもっと深めるべきなのであろうか。

ともあれ、稚拙でもなんでもいい。感情の豊かな表出、ストレートな表出というのは人生に最低限必要なものであり、もっと関心を向けるべきことであろう。

もし、人生が魔術であるならば。

(6月1日 2010年掲示板)

■

あるいはまた、過去であるからそのように感じるのであろうか。

■呼吸

感情が希薄なので、お菓子ひとつの味さえも変わってしまっている。

人生の最後の時のように、お菓子を手に取り、口に入れてみる。

こんなやり方でいいのだろうかと思いつつも、失われた感情を取り戻そうとしている。

(掲示板記入予定)

●意識のある人生

- 1 イメージすること
- 2 笑いがあること
- 3 体の動きを意識すること (すなわち、それは呼吸でもある)

●「誰だろう瞑想」

意識をどこに向けるかにより「誰だろう瞑想」をしているのか、していないのかが決まる。

これは他のことについても同様である。

常に意識というサーチライトをあてること。することにあてること。

●意識のある人生

最善をいつも考慮すること。

●エネルギー

犬のようにして今を生きる

～エネルギーの節約

犬のように嫌な顔をする

～エネルギーの節約

★6月2010年

6月1日、2日、6月20日2010年

●感情

人生における最後のひと口のようにして、食べ物を口にすること。

●「誰だろう瞑想」

「誰だろう瞑想」・一体・呼吸

この三者は「神との対話」に出ているツールであるが、三者はリンクしているかも知れない。

●有限と無限（三蔵法師の手のひら）

内臓のモツを食べても生きていける。

内臓のモツを食べなくても生きていける。

善悪もまた同様である。

あなたの意志はわたしの意志である。

●

ユングの言う「悪をしなくては生きていけないという人がいる」という話し。

カニンガムの「必要・感情・法則」のうちのひとつの必要性に関して。

なおかつ、感情に関して。



●直観

わたしからの直観と私の直観を見分ける法。

静かな声と喜び

●

詰め碁、詰め将棋は左脳的な読みから右脳的な直観にいたる。

カレンダー計算と同様である。

6月2日、3日、5日、6月20日 2010年

●「誰だろう瞑想」

実は大学に入るまで泳げなかったが、大学の必須科目の「体育」の授業で水泳があり、「二種目でそれぞれ50メートル泳げないと、単位はあげない」と言われ、青くなり代々木のオリンピック記念公園プールに毎日のように通ったものである。

クロールと平泳ぎであるが、泳げない身にとってどちらも難しいのが「息継ぎ」である。だが、泳げない人の弱点はどうも一般的にこの「息継ぎ」にあるようで、体育の先生が講義でこの「息継ぎ」について教えてくれた。方法は

「プハッ」

と息を吐くことというただそれだけである。なんというノウハウであろうか。しかし、不思議や不思議、その息継ぎをすると何とあれほどできなかった息継ぎが簡単にできるようになるではないか。ノウハウの威力というかマニュアルの威力というか、恐るべきものがあると知った次第である。

バックミンスター・フラーは「宇宙船地球号」の操縦マニュアルはないと言ったが、実はわれわれ人間の操縦マニュアルというものもないようなものである。ないので、親や教師、世間が教えてくれるマニュアルに我々はしたがうのであるが、時に突拍子もないマニュアルに出くわすことがある。あまりのくだらなさに実行する人は少ないが、それは、人生を自力で泳いでみよと思う人があまりに少ないからである。

もしこの世界を自分の力で泳いでみよと思うなら、この「誰だろう瞑想」はとても有効であると思っている。ただ、あまりにくだらなく思えるので、実行する人は少ないであろう。

この掲示板の「Tree」表示をクリックしていただくと、過去に書き込んだ「誰だろう瞑想」

の方法が出てくる。泳いでみたいと思われる方は試みてみていただきたい。

このマニュアルのこつは「決して誰だろう」ということ以外はこころに浮かばせないことである。

(6月5日 2010年掲示板)

■

とんでもないことに出くわしたら、目をそむけるのではなく、バカにするのではなく、立ち止まり、昨日とは異なる新たな視点で見てみること。

●シンクロ

1 2 3 → ①②③

の方向性と

①②③ → 1 2 3

の方向性がある。

ただ、シンクロニシティの定義では、

1 2 3      ①②③

の同時性を言っている。しかし、はたしてそうなのであろうか。

こころ → 現象

こころ ← 現象

こころ ⇔ 現象 (同時性・シンクロニシティ)

通常は3番目だけをいうが、1も2も基本的には同じである。

(06022010)

●斜線～大いなる斜線 (名号)

以前ある説法師の方が、

「阿弥陀如来は大海のど真ん中でおぼれている人間を見てしのびなく、ただ南無阿弥陀仏の一声で救われるという願をかけた。南無阿弥陀仏の一声で救われるのであるからこれほどありがたいことはない。」

と言われた。しかし、人間の親であれば、子どもが親の名前を呼ばずとも、おぼれている子どもを見ればすぐに助けに行くであろう。

もしその説法が正しければ、阿弥陀如来とは何と無慈悲な仏かと思ったものである。

ただ思うに、南無阿弥陀仏の一声によって救われるというのはそういうことではなく、

<すでに救われている>

ということの人の目に映ったすがたであると思っている。

(掲示板記入予定)

<南無阿弥陀仏の名号以外には何も携えない>

<南無阿弥陀仏の一声の奥にある沈黙に何も持たない>

という覚悟への方便であると思っている。

(掲示板記入予定) (「すき間」「斜線」要転記)

あるいは、創造主の一声により被造物が生じたこと。。。

あるいは、カニンガムの「必要・感情・法則」の法則のことか。。。

### ● 「神との対話」

細胞に精神があり、精神＝エネルギーであること。

だから、時々目が覚めると、細胞が振動しているようにしびれるのであろうか。

3巻209～「人間には魂があるのですか？」

「ある。あなたという存在の第三の側面だ。あなたは身体と精神と霊魂の三つの部分からなる存在だ。」

「自分の身体がどこにあるかはわかります。見えますから。それに、精神のありかもわかると思います。身体のなかの頭と呼ばれる部分にあるんでしょう。でも、魂のある場所となると……。」

「おやおや、ちょっと、お待ち。あなたは勘違いをしている。精神は頭にはないよ。」

「ないんですか？」

「ない。脳は頭蓋のなかにある。だが、精神はない。」

「じゃ、どこにあるんですか？」

「**身体のすべての細胞に。**」

「わあ……。」

「**精神と呼ばれているのは、じつはエネルギーだ。そのエネルギーとは……思考だよ。**」

思考はエネルギーであって、モノではない。あなたの脳はモノだ。物質的な、生化学的なメカニズムだ。唯一ではないが、最も大きくて高度な身体のメカニズムだ。そのメカニズムで思考というエネルギーを物理的な衝撃（インパルス）に変換する。つまり翻訳だね。あなたの脳は変換器なのだよ。脳だけではなく、**身体全体がそうだ**。すべての細胞に小さな変換器がある。生化学者はよく、たとえば血液細胞のような細胞は知性をもっているように見える、と語る。実際にそうなのだ。」

=<思考><身体><精神>

### ■トータルな認識（全的認識）

3巻9章参照

6月3日、6月20日 2010年

#### ●わたし

一日をリアルに振り返るとするのは内観法に通じる。

└慢心の除去

6月4日、12日 2010年

#### ●ハトホル

ハトホルは音のマスターだと言うが、創造における言葉、振動、波動について考慮すること。

思いに波動はないのだろうか。行動はどうだろうか。

思考・言葉・行為、それぞれの波動はあるのだろうか。その違いは。その効果は。

振動と倍音について顧慮すること。

6月5日、6日、7日、8日、12日 2010年

#### ●斜線～日常

日常というものを特別なものとして気づかされたのはシュタイナーの次の文章からである。蓮華（チャクラ）の開発はどのようにしてなされるかという話しの一節である。

「——第六は自己認識の上に立った行動である。神秘修行者は自分に可能な能力の範囲を確かめ、その上に立って行動する。自分の能力の及ばぬ事柄には手を出さない。しかし自分の能力の及ぶ範囲内の行動は決して中断したりしない。それと同時に、自分の理想や義

務と結びついた生活目標を設定する。修行者は自分を歯車のように社会の機構にはめこむのではなく、日常的な次元を越えた彼方に存する自分の使命を理解しようと努める。そしてその使命、その義務をますます完全に、ますます立派に果たせるよう努める。」

(ルドルフ・シュタイナー著 高橋巖訳「いかにして超感覚的世界の認識を獲得するか」  
129 ページ イザラ書房)

日常というものは自分の能力の及ばぬ事柄というものは存在しない。だから、自分の手が及ばぬ非日常に手を出そうとしないことである。日常を大切にしていればそのようなことには陥らない。が、他方、

<自分の能力の及ぶ範囲内の行動は決して中断したりしない>

とも言っている。これはまさに日常において何をなすべきかが語られている。すなわち、<できることをする>ということである。

夢見る少女だけでなく、夢見るスピリチュアルな大人もまたできることをしないで、できないことをしようとする。だが、できることをする、できることをし続けるということにスピリチュアルな道、人の内的な解放の道が開けているのである。

目を凝らしていれば、人生に気づきを取り入れれば、

<できるのにしていないことがある>

ことに気づくはずである。仏典や聖書や精神世界の本を読んだり、ワークショップに行ったりするよりも、目の前にあるゴミを——それは私が散らかしたゴミではないと私は言うが——ゴミ箱に捨てる方が、それをしたことのない人にとってははるかに有益である。

どれほど些細なことであろうと、それは人生の貯金であり、わたしの成長であり、新たな選択であり、未来永劫失われることないわたしである。

(6月7日 2010年掲示板)

ただ同時にそのことはまた、内的にも自身を社会の機構に埋没させることを意味しているのではない。

<日常的な次元を越えた彼方に存する自分の使命を理解しようと努める>

■斜線～日常・能力・今・自他

シュタイナーの見霊能力に興味をもつのでなく、魂の八つ働きについて興味をもち、実行に移す。

それは誰にでも可能な事柄である。

過去のことにくよくよするのでなく——過去の処理は、自分の能力の限界を超えている——、疲れていても、今皿を洗う。

それは誰にでも可能な事柄である。

友人に手をかざし、癌を完治させようとするのでなく、友としてただ手を触れる。

それは誰にでも可能なことである。

私はこの＜日常にある「できること」＞を忘れてはいないだろうか。

今日できること、今できることを忘れてはいないだろうか。

(6月9日 2010年掲示板)

人生の背景にある斜線のような事象、これらを当然のこととと思ってしまい、ないがしろにしてはいないだろうか。

目を見張るような斜線を引いてみることである。

▲シュタイナーの魂の八つの働き

できることとすることは異なる。

することをグルジェフは「為すこと」と言い、それは多くの人にとってできないことだと言った。

■

過去のことをくよくよすることが無意味であることに同意できるなら、未来のヒーリング能力を求めることもまた無意味であることを理解すべきである。

■「自分の能力の及ぶ範囲内の行動」という、この世界で最初にしなければいけないことが、多くの人の場合、常に先送りされている。

すべての時は黄金である。

■理想を持ちつつ、現実にはできることから目をそむけない。

■

グルジェフ～ファキールの道

「神との対話」～夜中におしめを取り替えるために起きること

ハトホル～日常

シュタイナー～日常

●利己主義

ハトホルの利己主義

イエスの利己主義

ともに利他に通じる利己主義である。

なぜ利他に通じるかという、己が大きいから他も含まれるのである。

●なみこさんへの返信

なみこさん、おはようございます。

若いときは、外食の際は大体二人前食べていましたが、今はどちらかというと少食かもしれません。特に心がけているつもりはないですが、少食の方が

<ちょうどいい>

という感じです。この世界の外的なことはできるだけシンプルに生きていて、少食もその一環かもしれません。将来的には「不食」が視野にありますが、ただ、不食のために何かをするというつもりは一切なく、まあ、その時期がくれば自然にそうなるであろうと思っています。つまり、食べないのが

<ちょうどいい>

という感じですね。

なお、もう 20 年前の話ですが、いとこの高塚光さんとお会いして触発され気が出始めた時には、自然にそれまでの食事量の三分の一ぐらいいになり、あびるように飲んでたお酒も嘘のように飲みたくなくなりました。

また、知らないうちに元通りになってしまいましたが、当時はそれが

<ちょうどいい>

という感じだったのですね。

「ハイチ」は完全に忘却の彼方です(T T)

「さんる一む」は好きですね。こちらの会社は女流将棋の新団体「L P S A」の棋戦を協賛されているので、そういう意味でも好感をもっています。

なお、自分は<どんなことでも>一生懸命やる人は好きで、「L P S A」はそういう意味で応援しています。

(6月6日 2010年掲示板)

こんにちは。以前高塚さんが日記か掲示板で書いていたと思うのですが、新宿の「ハイチ」というお店に行きました。「さんる～む」もよく行かれているようですが、もしかして高塚さんは菜食だけでなくとっても「小食」ですか?(^\_^;)。

6月6日、7日、16日 2010年

●モノ・片付け・エネルギー

モノを創り出すことはできない。

モノを使い尽くすこともできない。

だが、モノを片付けることはできる。

(6月10日 2010年掲示板)

●意識のある人生～忘却

前世で自分がしたことは忘れてしまっている。

これは仕方がない。人間はどうもそのように創られているからである。

しかし、この世で自分がしたことも忘れてしまっている。

これはなさけない。いわゆるわが身を省みないということである。

さらにまた、今この瞬間にしていることも知らない。

このなさけなさを表現する言葉が見当たらない。



人のためになるどのような立派な行いをして、わたしにとっては、今この瞬間していることを知らなければ、それは自分のためにはならない。

知らないで人助けをするよりも、知っていてゴミを散らかす方が、今のわたしにとっては前に進む力となる。

前に進む力にはいろいろあるが、この場合は良心の呵責が生じることである。

(6月16日 2010年掲示板)

6月7日、8日、10日、11日、12日 2010年

●ヒーリング

20年ぐらい前の話しになるが、手をかざし始めた頃、親友のMが

「病気になる人って、もしかして、なりたくてなっているんじゃないだろうか」

と言っていた。Mは昔からちょっとひねた言い方をするので、彼特有の戯言（ざれごと）と思い、

「何を言ってるんだ」

と思ったが、今ではよく分かる。20年経って分かることがある。

自分自身の体さえコントロールできない私が言うのも気がひけるので、宇宙人ハトホルの言葉を借りる——えっ、宇宙人???という方もいらっしゃるであろうが、わたしにとってはよき兄、姉である。

「最後になりますが、ヒーラーは、人には病んだり苦しんだりする権利もあるのだということを確認しておく必要があります。ヒーラー自身の予定表を人に押しつけるべきではありません。クライアントが自分の速度でより大いなる気づきへと歩むことができるように、そのための空間と時間を認めてあげるようにしてください。」

(トム・ケニオン&ヴァージニア・エッセン著「ハトホルの書」74 ページ ナチュラルスピリット刊)

この地球人の基本的人権に病んだり苦しんだりする権利はない。しかし、宇宙人ハトホルの基本的人権には病んだり苦しんだりする権利があり、そのことを認めるべきだということ。通常感覚ではとても理解しがたいことであるが、次の一節でおぼろげながらも理解でき

る。

<クライアントが自分の速度でより大いなる気づきへと歩むことができるように>

ということである。自分自身の足で、自分自身にあった歩みで、大いなる気づきへと進むために、時に病んだり苦しんだりすることも必要であるということである。

他方、手をかざす方への提言として、

<ヒーラー自身の予定表を人に押しつけるべきではありません>

すなわち、治してあげたいという善意の気持ちでさえ、時に、

<クライアントが自分の速度でより大いなる気づきへと歩むことができるための空間と時間を制限しようとしている>

と指摘していることは誠に傾聴に値するアドバイスである。

(6月8日2010年掲示板)

#### ■ヒーリング〜グルジェフの愛

病気から立ち上がるための手助けをする人すべての人がこころえるべきグルジェフの言葉がある。何度も何度も引用しているが、何度読んでも身にしみいる言葉である。

人々の間——一人ともう一人の人と——の適切な、客観的な道徳に基づいた愛について説明を求められたとき、グルジェフは答えた。

「他の人が、その人自身に必要なことをするのを助けることができるほどに、**あなた自身を発展させる必要があります**、たとえ、相手の人がその必要性に気づいていないときでも、また、あなたにとって不利なことになっても、助けることができなければならない。この意味においてのみ、道理に適切にかなった愛と言え、真の愛の名に値する。」

彼は、さらにつけ加えた。たとえだれにも劣らぬ心積もりでも、たいていのひとは、積極的に人を愛することにかけてはあまりに臆病であって、相手に対して何かをしようと試みることさえ恐れる——**愛が恐るべき一面をもっていることの一つは、相手をおある程度助けることはできても、その人のために実際に何かを「する」ことはできないということである**

る。「ある人が歩かなければならないときに、その人が転んだなら、起こしてあげることはできる。だが、その人にとっては、もう一步踏み出すことが空気以上に必要であっても、その一步は、その人が一人で踏み出さなければならない。その人に替わって、もう一人の人が、その一步を踏み出すことは不可能である。」

(フリッツ・ピーターズ著「魁偉の残像」261 ページ めるくまー社)

ここでもまたハトホルのいう「手助けする人の予定表」と「手助けされる人の自由」が語られている。主題はもちろん

「ある人が歩かなければならないときに、その人が転んだなら、起こしてあげることはできる。だが、その人にとっては、もう一步踏み出すことが空気以上に必要であっても、その一步は、その人が一人で踏み出さなければならない。その人に替わって、もう一人の人が、その一步を踏み出すことは不可能である。」

である。であるが、同時に手助けする人に何が求められるかもまた語られている。それは、

「他の人が、その人自身に必要なことをするのを助けることができるほどに、あなた自身を発展させる必要がある」

ということである。自分が倒れているのに倒れている人を起こしてあげることはできない。——また、往々にしてあることであるが、「あなたのためにしてあげている」という嘘をついて、人を起こしてあげることはできない。

<わたしを失ってはいけない>。

すなわち、助ける人は自分自身を発展させる必要があるということである。さらにまた、

「たとえ、相手の人がその必要性に気づいていないときでも、また、あなたにとって不利なことになっても、助けることができなければならない。」

これは手助けする人の持っている「自分自身への予定表」から自由になるということを行っている。「自分自身への予定表」とは「報酬」である。「報酬」とは相手からの感謝であり、世界からの感謝である。

この「報酬」なしに手助けができること、すなわち、<行為への愛>——行為そのものを愛すること——に至り、行為そのもので完結していることが求められている。

(6月12日 2010年掲示板)

■ヒーリング～わたし・自他

どのような人も、自分自身を愛する仕方ではヒーリングできない。  
だから、自分に気づき、苦しみ、そして、自分を知ることからすべてが始まっていく。

体を愛すること。

■ヒーリング～「神との対話」の愛

■ヒーリング～変容・情熱

■ヒーリング

ヒーリング（気功治療）でかならず受ける質問は、

「この病気には効果があるのでしょうか」

という質問である。手をかざし始めた当初は痛みや自律神経失調症のような病気が多く、  
それなりの効果はあった。

<長いレンジで考えれば、必ず良い方向に向かう>

ということです。

ただ、また身も蓋もない言い方ですが、わたしの気を受けなくとも、

<長いレンジで考えれば、必ず良い方向に向かう>

ということです。

●神を使うこと

自分自身が神と共にあることを知り、感じ、もっと大きく生きることである。

●直観

直観と自然に任せて、計算しないこと。すなわち、心配しないこと、損得の得の計算をしないことである。

■自然に任せることと易に流されることとは異なる。似て非なるものである。

#### ■世界

計算する人生、計算する世界、そのような人生、世界もまた存在する。  
否定するつもりは毛頭ない。私がこれまでほとんどすべてを過ごしてきた世界である。  
ただ、今は別の生き方、別の世界が存在するのではないかと模索しているだけである。

そしてまた、わたしが今求めている直観したがう世界とはまるで想像もつかない別の世界も存在するであろう。

(加筆して掲示板記入予定)

#### ●自他

ひとりで行うべき時間、空間があり、人と共に過ごす時間、空間がある。  
どちらの時間、空間も生かすこと。

(加筆して掲示板記入予定)

#### ●意識のある人生～不死

いつも想起すべきことは

<わたしたちは死なない存在である>

ということである。死後の世界があるということではなく——あるのだが——、<死なない存在である>ということを常に想起することである。

なぜか。

それは、人生が違って来るからである。選択が違って来るからである。すなわち、わたしたちが違って来るからである。

だから、

<わたしたちは死なない存在である>

ということを一日一回、二回、三回、想起し、深く感じ取ることである。そして、このわたしを変えるために、

<死なない存在として、この人生で何をするか>

と問いかけてみることである。

(6月11日 2010年掲示板)

■

死なない存在ということと対になっているもうひとつの見方がある。それは

6月8日、9日、11日 2010年

●真逆

犬に人間の食べ物を与えないのではなく、人間に犬の食べ物を与えることである。

■

食べられれば報われるというものだが、食べられないでただ殺されるのはしのびない。

●評価

人の評価は往々にして犬猫の好悪に類するものである。

論理が先ではなく、好悪が先である。

●「神との対話」3巻 280 ページ

グルジェフの善と悪から生じる葛藤

●

過去を後悔していないが、今であれば、過去の機会は別のことに用いる。

自分を批判しないと同様に他人も批判しない。

自分を批判しなければ、他人も批判しない。

狭い利己主義の人は実は自分自身をも批判する。

6月9日、11日、14日 2010年

●直観～計算の無力

以前にも書いたが、犬派、猫派が決まるのは、  
犬がひとなっつこいから好きなのではなく、  
猫が自由だから好きなのではなく、  
犬が好き、猫が好きが先にきて、ひとなっつこい、理由はあとからくることなのである。  
論理は好悪の前では無力である。

人は論理で他人を打ち負かそうとするが、それはできないことである。論理で自分自の考えを変えることができないように、他人の考えも変えることはできない。

人を変えるのは論理ではない。

それは気づきであり、おおむね深い苦しみであり、稀に喜びでからであり、少なくとも論理からではない。

(加筆して掲示板記入予定)

6月10日2010年

●斜線～大いなる斜線 (ロボット・プロセス・モノ)

今日6月10日の天声人語である。

〈河原の石ひとつにも宇宙の全過程が刻印されている〉という、奥泉光さんの芥川賞作「石の来歴」の冒頭は印象深い。ふだんは「石ころ」などとさげすまれる。しかし沈黙の奥に、聞こうとする耳には聞こえる悠久の物語を秘めてもいる

▼太陽系が誕生して46億年がたつ。往古の姿を今も保つ小惑星に向けて、小石などの採取に飛び立った探査機「はやぶさ」が、7年ぶりに地球に帰ってくる。機械の不調で石は難しかったようだが、砂などが採取できたのではと期待されている

▼成功していれば快挙である。これほどロケットが飛ぶご時世でも、他の天体の表面から持ち帰った物質は、かの月の石だけだ。はやぶさは20億キロの長旅をへて、長径わずか500メートルの小惑星イトカワに着陸した

▼帰路は苦難に満ちていた。エンジンなどが次々に壊れ、帰還を3年遅らせた。動いているのが奇跡的なほどの満身創痍(そうい)で、40億キロを乗りきってきた。機械ながら健気(けなげ)な頑張りが、帰還を前に静かな共感を呼んでいる

▼漫画家の里中満智子さんは応援イラストを描いた。傷だらけの鳥ハヤブサが懸命に宇宙を飛ぶ。「ぼくがんばったよ」「もうすぐかえるからね」。吹き出しが涙腺をじんわり刺激する。賢治の名作「よだかの星」をどこか彷彿(ほうふつ)とさせる

▼13日夜、はやぶさは大気圏に突入して燃え、流れ星となって消える。わが身と引き換えに回収カプセルだけを地上に落とす。砂一粒でも入っていれば、様々な物語を聞かせて

くれるそうだ。遠い空間、遠い時間からの語り部を待ちたい。

こういう話題は大好きである。文中、

「機械ながら健気（けなげ）な頑張りが、帰還を前に静かな共感を呼んでいる」

とあり、もちろん、機械を擬人化している。擬人化しているが、わたしにとっては健気な頑張りかどうかは別として、

<機械にもまた生命があるので、戻ってくるのはある意味当然なのである>

あるいは、

<機械にも生命があるので、人間の期待に応えるというのはある意味当然なのである>

人の内に働いている生命のプロセス、機械に働いている生命のプロセス、モノに働いている生命のプロセス、それはそれぞれ異なるが、生命のプロセスが働いていることに違いはない。

通常、そのプロセスがあまりに異なるので、自分自身に働いている生命が機械やモノにも働いているという実感が無い。

否、ほとんどの人は自分自身に働いている生命さえ実感されることはない。

だから、時に機械が生命を現出させ、その生命の意味を我々に問いかけるのである。

（6月10日2010年掲示板）

#### ■シンクロ

メールいただいた方の「不思議な話し」のカーテンの揺れもまた同じである。

[http://www003.upp.so-net.ne.jp/suzu-shin/supi/supi\\_1.html](http://www003.upp.so-net.ne.jp/suzu-shin/supi/supi_1.html)

6月11日2010年

#### ●ヒーリング

体に及ぼすことのできる絶対の効果がある。

これは過信だろうか、知識だろうか。



6月12日、14日 2010年

●沈黙

沈黙は無でない。その中にある波動を感じ取ること。

遠隔治療できれいに送れた時の気、しっくりした気をメルクマールとすること。

6月13日、14日 2010年

●教室～自己ヒーリング（半分の水）

自己ヒーリングはどのようにして行うか。

水が半分入っているグラスがある。

このグラスを水で一杯にしたいと思う。

だが、隣のグラスを見ると、水の入っていないグラスがある。

あなたは、自分には水が半分しか入っていないことも忘れ、水で一杯にしたいことも忘れ、隣のグラスに水をすべて注いであげる。

どうなるか。

あなたのグラスは満々とした水であふれかえる。

これは真実である。

見えない世界の話しをしているのか。

そうである。

見える世界の話しはどうか。

それも同じである。

おまえはバカか。

バカになって、水を注ぎたい。

賢いので、水を注がず、グラスが空っぽになる心配ばかりをしている。

（6月14日 2010年掲示板）

■自他

相手のグラスは割れていて注いだ水がすべて台無しになるということもある。

## ■教室～神と人間

つげ義春

お金を勘定し、風呂桶に一滴一滴水をためて、節約するつげ義春。

遊行

日記（2月13日2009年）より

昼食時になり、混んできたので、今度は図書館に移動して館内にあった「一遍上人絵伝」を読むというか、見るというか。こころが熱くなっていきたく所を引用。

熊野権現の化身に遊行中の一遍上人が無理やりお札を渡すが、そのあと、熊野権現に諭される話しである。

（人はあなたがお札を渡されるから救われるのではないと言い、）

「阿弥陀仏の十劫正覚に一切の衆生の往生は南無阿弥陀仏と決定（けつじょう）するところ也。

信不信をえらばず、

浄不浄をきはらず、

その札をくばるべし。」

（実はその前の熊野権現との対話も興味深いのであるが）およそ精神世界に足を踏み入れる全ての人がおちいるであろう陥穽について語られている。要は、慢心による親切の押し売りはするのでないよ、ということである。この愛の陥穽はあらゆるところにあり、人が知れずしておちいってしまう穴である。

無駄～グレースケリーが感動した竹製の月見台

事業仕分け

須永博士～言葉の力

メニューの変更～大きな変更

現場主義

シンプルライフ

もっていけないから

もっていけるもの～記憶

治れ、治らない

大切なものが何かを分かるため～癒す人になりたい

モノの思い出

6月14日2010年

●意識のある人生

すべてをヒーリングに役立てること。

とりあえず、今日役立てること

意識のある一日を送ること

神の力が働いていることを感じ、

すべてが最良の機会であることを知り、

最良の選択をし、最良のエネルギーを費やすこと。

前夜のテレビ「夢を追って脱サラ！やり直し人生列伝」を見て。

魔術の三要素

1 必要性

2 感情

3 法則～準備（気功治療のグレードアップ・何が目的かをはっきりさせること（レストランの話し～批判するのでなく役立てる）・書籍の完成・場所（稲毛駅近くか団地か津田沼事務所か）・夜勤の継続か勤務体制・ライフスタイル（シンプルライフ）・

（加筆して掲示板記入予定）

●疲れ～エネルギー

気だるい疲れを完全燃焼させ、きれいなエネルギーとすること。

発火させることが必要である。

最悪の状況はふさぎ虫である。なまりのような労働である。

6月15日、21日2010年

●ヒーリング

クリーンなエネルギーを注ぎ、観察すること。

そして、直観すること。

そして、行動すること。

### ●沈黙

沈黙によって醸造すること、発酵させること。

6月16日、19日2010年

### ●意識のある人生

神を使う意識＝神と一体である意識＝ヨガナンダの意識

直観のある人生＝計算しない人生

### ●視点の変換

1 外からの変換（守田氏の歴史観）

2 内からの変換（神を使うこと・神を使うことに至ること）

↳とことん外を使用すること・慢心の排除・瞑想・呼吸

### ●意識のある人生

日々試みていることを日常とすること、すなわち、試みをわが物とすること。

そのためには、試みのひとつひとつをひとつだけにして一日の目標としてやり遂げ、身につけること。

### ●事実と真実

アーミッシュの女の子の「わたしから撃ってください」の話し。

世間の事実（親からの洗脳）

わたしの真実（崇高な行いと感じること）

を区別すること。

人生を事実の収集に費やし、その事実には振り回されないことである。

### ●沈黙

存在は語るができない。

そしてまた、語ることで存在は変容、成長へと至らない。

### ●能力と意識

刃物を振り回す人には神は刃物を持たせたりはしない。

シュタイナーのチャクラの開発の第二番目の要素

●ヒーリング～気づき

つねに

「心身のゆがみが病気を引き起こす」

というわけではないが、

つねに

「病気は心身のゆがみを直す」

のに役立つといえる。

(6月21日2010年掲示板)

6月17日、18日、19日、21日、22日2010年

●意識のある人生～わたし・自他

あらゆる他人の非難は、まずわが身に置きかえてみる。たとえ同じことはしないとしても、同じようなことをしてはいないだろうか。あるいは、実際にしなくともこころの内ですべて、ただそのことに気づいていないだけではないだろうか。だから、

「私も同じではないだろうか」

と問いかけてみる。一度目は、

「私は違う」

と言うかもしれない。もういちど問いかけてみても、二度目も、

「私は違う」

と言うかもしれない。しかし、翌日かその翌日か、少なくとも数日以内に、きっと、

「私もそうであった」

という機会が訪れるはずである。耳をすませば、こころを静めれば、世界は

「あなたもそうである」

という静かな機会、静かな声を与えてくれる。

他人を非難するなどは言わない。ただ、非難したらわが身を省みて、自分自身を知る機会を逃さないことである。

(6月19日 2010年掲示板)

●ヒーリング～群盲の象・エネルギー・自他

先日全身の痛みでのヒーリングをして効果がなかったが、そのあと自分自身の体調はよい。クライアントがみえられたことの意味のひとつは、わたしの健康のためであったということである。

彼女はわたしのために会いに来てくれたのである。

何と身勝手などと思われるかもしれないが、ヒーリングにはそのような側面は常にある。だから、内的には、

わたしが彼女に会いにいったのである。

もちろん、それが全てではない。すべてではないが、ヒーリングをする人はそのような目線を忘れてはならないと思っている。

そこで、逆に彼女にとって、

わたしは彼女に何をしてあげたか

でなく、

彼女はわたしから何を受け取ったか

である。

(加筆して掲示板記入予定)

●意識のある人生

チェック事項のひとつに、最小の荷物を持つということを付け加えること。

● 「神との対話」

3巻文庫本版 291 ページ

創造の源として「思考・言葉・行為」とあるが、これに「感情（カニンガムのいう）」が付け加わるのではないだろうか。なお、

「創造の4大要素（思考・言葉・行為・感情）」

⇔

「神とのコミュニケーションの4大要素」

これは創造の意味を示唆してはいないだろうか。そして、いつも神と共にいること、神に命令するということとつながってきはしなだろうか。

3巻文庫本版 294 ページ

「神を否定するということ」

↳できないということ

6月18日、21日、22日 2010年

● ヒーリング～神聖なる矛盾

すべてを受け入れること。体の障害も受け入れること。

同時にまた、健康を志向すること。

このふたつは矛盾であるが、神聖なる矛盾である。両者は矛盾するが両立して尊いことである。

（6月18日 2010年掲示板）

■ わたしの場合

>すべてを受け入れること。体の障害も受け入れること。

>同時にまた、健康を志向すること。

>このふたつは矛盾であるが、神聖なる矛盾である。両者は矛盾するが両立して尊いことである。

自分自身の体の障害は、右足の股関節大腿骨の骨髄炎である。三度手術をして、その時にはよくなったが、今は変形と加齢により痛みが生じ、片足を引きずりながら歩いている。さらに、加齢により耳が遠くなっている。当然ながら老眼だし、体の動きも若い時の10分の1以下である。

これらの障害は、この人生 59 年で創り出したものだし、また、おそらくは前の人生で創り出したものである。だから、すべて受け容れる。

<これはわたしである>

ということである。さらに、骨髄炎の場合は、自分が創り出したことは間違えないが、そしてそれは前世の因縁という要素が仮に多少でもあったにせよ、それよりも大切なことは、

<これはわたしの人生に必要なである>

ということである。これは生まれる前から決められていたことで、

<わたしのこの人生で、骨髄炎はわたしが役立てることが<できる>>

ということである。骨髄炎でなければ生きられない人生がある。これはありがたく、尊いことである。筆舌に尽くし難いとはまさにこのことである。そのありがたきはあまりに大きすぎて、その大きさを見ることはかなわない。

同時にまたわたしは健康でありたい。

走り回れるような足でありたいし、

眼鏡なしで本を読みたいし、

入れ歯なしに美味しく食べ物を食べたいし、

若い女の子の視野の外にある老人ではありたくない。

完全であること、これを希求することは人として当然のことである。生き方だけでなく、体にとってもひとつ先の成長があるならば、これを求めることは当然のことである——では、身体の完全とは何かということがあがあるが、ここでは深入りしない。

「人は生まれて、病にかかり、年老いて、死すべき運命にある存在である」

という考えが一般的であるが、自分は違うという考えである。

<生死もふくめて、体はコントロールできる>

という考えである。だから、目指すのは健康な体というよりもむしろ自己コントロールである。自己をコントロールできるようになることの必然として生じる健康である。



もし自己コントロールが可能であるなら、これはこれで信じがたいありがたさである。  
(加筆して掲示板記入予定)

### ●貯金

294 ページ

貯金は神を肯定し、神を表現することである。  
それはできないと言わずに、できると言うことである。

6月19日、20日2010年

### ●怖れ

「心配しても何も変わらない」  
と言うが、実は心配すると変わる。心配がそのまま実現しなくとも、いつも決まったパターンで心配していれば、そのパターンでの心配は何らかの形で人生に色濃く影響を与える。

また、もうひとつ変わるものはここらである。

心配しないためには、それがわたしでないことである。

### ●怖れ

飼い主が外出する、雷が鳴る、というちょっとしたことで犬はふるえ上がる。  
こうした犬の不安、怖れは、人間から見ればどうということもないことであるが、犬にとってはとても大きな問題である。  
それは犬の視点が人間と異なるからである。この視点を変えない限り、不安、怖れはいつまでも続く。  
そして、犬から学ぶべき点は人間にも同じようにして、不安、怖れがあるということである。

このことを知るべきである。すなわち、怖れることはないことを怖れているということをするべきである。

そしてさらに、その怖れ、不安を取り除くためにはどのようにすればよいかということに  
ここらをくたくべきである。

(加筆して掲示板記入予定)

### ●シンプルライフ

不安だから多くのものを持つとする。

だから、シンプルライフに必要なことは、多くのものを持つとしないということではなく、不安をなくすということである。

不安をひとつひとつチェックをして、持っているものひとつひとつを手放していくことである。

ところで、持たないシンプルライフの究極はどのようなことであろうか。

(6月20日2010年掲示板)

裸であろうか。

山下清であろうか。

あるいは、インドの聖者であろうか。

#### ■ひとつの側面

荷物を減らすこと～すべきことを持っていないこと、懸案事項をかかえていないこと、すべて済ませていること。

6月20日、21日2010年

#### ●意識のある人生～直観・愛

- 1 直観するのでなく、その反対の計算しないことに努める
- 2 不安にならないこと

#### ●意識のある人生～視点

ハクビシンのかごを嫌だと思うのでなく、死んだハクビシンに一体化してみることに。以前やったタコのヒーリングのように。

#### ●旅の世界

旅をするとなぜ解放されるかということ、旅をしている時には計算しないからである。

#### ●意識のある人生～仕事

来年は月7日勤務になるが、それにこころを動かすのでなく、今の月12日勤務を生かすこと。

月12日勤務でこそできることをすること。

それは何であろうか。

マイナーではあるが、

たとえば、面倒だとは一切思わないこと。

今日が休暇でなく、夜勤であったその今日の機会を最大限に生かすこと。

さらにまた、

以前、一間暮らしで将来は仏間があるところに引っ越したいと思っていたが、仏間にくもの巣がはってしまったことを思い起こすこと。

6月21日、23日、28日、30日 2010年

●「神との対話」の神の質問

あなたは何者であるか。

あなたは何者になりたいか。

これが本当のわたしだろうか。

今、愛なら何をするだろうか。

●直観

直観を妨げるもの

1 ロボット

2 ロボットにインプットされた計算と恐れ

●意識のある人生～慢心

慢心をいさめる話しは、シュタイナー、グルジェフ、ヨガナンダ、黒住宗忠、あらゆる先達の著に出てくる。浄土真宗などは、ただ慢心を取り除くための宗教ではないかと思っている。

ということで、時に一日を慢心がどれほど生じてくるかに費やすというのも悪くない。自分は昨日折にふれ自分の心をチェックしただけで、4回か5回慢心が生じていた。ぜひ皆さまにもお試しいただきたいと思っている。

ところで、慢心は多い方がいいか少ない方がいいか。

もちろん、少ない方がいい。少ない方がいいが、他方、

慢心は多い方がよい。

なぜか。。

慢心というのはあるものだからである。慢心が少ないというのは、まさしく慢心により「おのれの目がくもらされて気づくことができないでいる」だけだからである。

大学の時の第二外国語の講義で、例文として

「私は慢心しない」

という文章がドイツ語で出ていたが、先生がニコニコしながら。

「これも慢心ですね」

と言っていて、なるほどと思ったことがある。同じような話しは黒住宗忠の本にも出てくる。まあ、そういう意味ではポピュラーな慢心なのであろう。

ただ、大学の先生のシニカルなニコニコ顔に慢心は果たしてなかったのだろうか。今、ワープロで打ち込みながら思うことである。

(6月23日2010年掲示板)(20100621)

#### ■ハトホルのいう自己欺瞞・自他

前日、シュタイナー、グルジェフ、ヨガナンダ、黒住宗忠、・・・と名前をあげたが、わたしのことを忘れてはいませんか、ハトホルからのメッセージがありましたので追記しておきます。

なお、私は能力を求めることは大嫌いですが、アセンションを求めることも大嫌いです。そのことをふまえてお読みいただければと思います。

「アセンションの上昇螺旋」とは、高次意識への自覚をともなう移行のプロセスを表すのにわたしたちが用いる言葉です。螺旋状の上昇のプロセスが始まると、あなたの肉体、他者との関係、他への奉仕といったことのすべてが高められます。私たちの解釈によれば高まるのは思考だけでなく、すべての事柄に及びます。

上昇が始まると。「礎石」とも言える四つの関係（すなわち自己の肉体との関係、他者との関係、奉仕活動との関係、「聖なる元素」との関係）における変化が観察されるようになり、それにもとづいて自分の進歩が確認できるようになります。なかでも他者との関係は、進歩のバロメータとして役立つでしょう。「私の人間関係に、いま何が起きているのだろうか。それは率直で意義あるものだろうか」と自問してみてください。人との関係が上向きでより曇りないものになっているなら、それはあなたが上昇螺旋にそっていることをきわめて

明瞭かつストレートに示しています。

しかし自分自身では非常に進歩していると感じても、もし人間関係に問題が多くて困難や不調和を生み出しているとすれば、あなたの勘違いだったことがわかるでしょう（ユーモアたっぷりに）。「アセンションのプロセス」と呼ばれるところに踏み込んだ人のなかには、個人的な人間関係やその学びの機会から自分を遠ざけるほうに進んでしまう人もいることにわたしたちは気づいています。そういう人々に申し上げたいことは、本当にアセンションの上昇螺旋にそっているのか、それとも単にそう思い込んでいるだけなのかを教えてくれる、もっともパワフルな鏡もしくはフィードバックを切り捨ててしまっているということです。アセンションのプロセスは思い込みや自己欺瞞といった大きな危険戦をはらんでいるのです。

自己欺瞞は「霊的エゴ」ともいうべきものに起因しており、実際にアセンションへの道において増大する可能性があります。上昇螺旋を進むうちに能力やパワーが増してくるため、チェックを怠ると、霊的エゴが独善的で傲慢になりやすくなります。このように洞察力や謙虚さを欠いた状態というのはとても危険です。人を見下したり分け隔てしていると、高められた気づきの状態から陥落してしまうからです。したがって霊的エゴは、アセンションのプロセスを開始すると同時に現われる、きわめて実質的な問題となり得るのです。人間関係がこれほど重要な要素と見なされる理由もまたそこにあります。

（トム・ケニオン&ヴァージニア・エッセン著「ハトホルの書」138 ページ ナチュラルスピリット刊）

本書には、身体のコントロール、感情のコントロールに関する具体的な方法論も出ています。関心を持たれた方はぜひお読みになってください。

（6月24日2010年掲示板）

#### ■ 慢心～私・自他

「私は何々しない」「私は何々する」（「私はそんなことはしない」「私だったらこうする」）という言葉辞には常に慢心が含まれている。

慢心は自他に関ることから生じるからである。

（6月30日2010年掲示板）

#### ▲ 慢心～行為への愛

<わたしはする><それはわたしである>という時には慢心は含まれていない。

わたしの行為そのものを愛すること。

#### ▲主語述語

バックミンスター・フラワーのいう動詞としてのわたし  
主語としての私が出る時には常に慢心が伴う。

■「神との対話」には慢心にまつわる話がない。これはどうしたことだろうか。ニールのフィルターの問題であろうか。

#### ■意識のある人生

時に一日に慢心がいくつあったかをチェックしてみる。

#### ■ヒーリング

彼は手のひらを下に向け、首の位置まで持ってきて、そこから下に下げた。

「自分はこういう人間は問題にしません」

要するに、自分以下の人間は人としてみていないということである。

啞然としたが、彼は得意満面であった。

もちろん、彼の首から下の人間などひとりもいはしないということには及びもついでない。

彼に何かアドバイスはできるだろうか。

こういう彼には、私の自己満足を一切含まないアドバイスしか有効ではない。しかし、そんなことはできないので、彼へのアドバイスはこの世界のプロセスにゆだねるしかないのである。

(掲示板記入予定)



神を使うこと～ヨガナンダ

#### ●「誰だろう瞑想」

グルジェフは自己想起は1分でも不可能であるといい、「神との対話」の神は30秒でもできる「誰だろう瞑想」を勧めたが、実行する人は少ない。

●ヒーリング～病気

病気は気づきに通じやすいが、もともと全ての機会は気づき、成長のためにある。  
病気の時と同じように、これまでの自分を、そして今の自分を振り返ってみることである。  
(加筆して掲示板記入予定)

6月22日2010年

●神聖なる矛盾～気の話し・知識

気については、気にご縁がない方よりももちろん多くのことを知っています。知っていますが、基本的には書いたり話したりはしません。HP上に「気の話」もありますが、具体的な「気の話」はほとんど書いていません。

書いたり、話したりすると、抜け落ちていくものがあるからです。ふくらませた風船がしぼんでいくイメージがあるからです。

他方、気については、実はほ・ん・と・う・に、知らないのです。

気にご縁がない方よりもはるかに知らないのです。

知っている、知らない、両方真実です。

(6月22日2010年掲示板)

気についてはもちろん一般の方よりも多くのことを知っていますし、話すことも書くこともできますが、そうしたことで抜け落ちていくものがあると感じているので、基本的には話しません。HP上に「気の話」も書いてありますが、「気の話」はほとんど書いていません。

また、ある意味、一般の方よりも知らないのです。

6月24日、25日、26日2010年

●意識のある人生～神仏と人間

今はまだふとした時にしか自分が何をしているのかという意識は浮かんでこない。もどかしいことではあるが、そのふとした時にだけ、人生を変える舵を切ることができる。  
何をするかというと、

これが本当のわたしだろうか

今本当のわたしなら何をするだろうか

と自身にを問いかけてみることである。

さらに、

歩く時には、神仏が自分の足を使って歩いているように歩くこと

顔を洗う時には、神仏が自分の手を使って洗っているように洗うこと

仕事をする時には、神仏が自分の体と精神を使って働いているように働くこと

掃除をする時には、神仏が自分の手足を使って掃除しているように掃除すること

かように、自分自身の神仏を使うことである。

あるいは、同じことであるが、そのように動けるように自分自身の神仏にお願いしてみる  
ことである。

あるいはまた、同じことであるが、そのように動けるように自分自身の神仏に命令して  
みることである。

(6月24日2010年掲示板)

#### ■神と人間

将棋のある局面を見てどのように形勢判断をするか、これはトッププロでも結構見解が分  
かれる。局面をどのように見るかというのはまさに将棋の実力が問われるところであるが、  
僅差の力量差であっても微妙に異なるものである。

したがって、もっと実力が離れば見る見方も天地の差がある。上位者は下位者の見てい  
ない世界を見ているのであるが、下位者には上位者の見ている世界のことがなかなか分か  
らない。間接的に分かる方法は将棋を指してみることである。

平手で10番指して、こてんぱんに10番やられる。

二枚落ち（飛車角落ち）で10番指して、手もなくひねられる。

このような勝負をすれば「どうも見ている世界が違いそうである」と気づくものである。

このように将棋の場合は勝負するという物差しがあるが、「神をどのようにとらえるか」と  
いう価値観、見方のほうはそうはいかない。そうはいかないので、自分の見方に固執する  
ことになる。自分の見方であればまだ上等で、実際には生まれ育った土地、時代、両親、  
友人、書物の見方によるのがほとんどである。

だから、「自分自身の神を使う」、「自分自身の神にお願いする」というところまでは理解で



きても、

<神に命令する>

ということに関してはほとんどチンプンカンプンかもしれない。

ちなみに、将棋の二枚落ちで10番手もなくひねられた人も「将棋の大局観」では負けていないと思う人は結構いるものである。こういう人は負けると、

「おかしい。おかしい」

と言う。さほど固定観念を変えるというのは難しいものである。

(6月25日2010年掲示板)

#### ●半分の水～時事

砂漠で道に迷った二人がいる。Aさんは節約しながら飲んでいたので、グラスに半分の水がある。Bさんはあとさき考えずに飲んだので、グラスには一滴の水もない。Aさんはのどが渴いたBさんのグラスに水を全て注いであげる。すると、Bさんのグラスには水でいっぱいになる。そして、なぜかAさんのグラスも水でいっぱいとなる

不思議に思ったBさんであるが、こんなことならもっと大きいグラスを出せばよかったと思ひ、次に倍もありそうなグラスを持ってくる。

Aさんはまたグラスの水を全て注いであげると、なぜかまたBさんのグラスは一杯になる。またAさんの小さなグラスも水で一杯になる。

Bさんはとても後悔する。グラスの大きさが小さい過ぎたと後悔する。

このような話しは昔話として世界各地にある。

そして、現実世界にもある。ただこの地球上の現実世界ではAさんのグラスもBさんのグラスも水でいっぱいにならない。

Aさんのグラスがいっぱいにならないのは、Aさんがすべてを与えることができないからであり、Bさんのグラスが水でいっぱいにならないのはグラスに水が一杯になる前に次々と大きなグラスを持ってくるからである。

このゲームをどこで終わらせるか。

やはり、Aさんが全ての水を注ぐしかないのではないかと思っている。

(6月26日 2010年掲示板)

#### ■「神との対話」3巻 344 ページ 13 章

6月25日 2010年

##### ●表現

沈黙～見せないこと

慢心を表現するのではなく、慢心を取ることの表現

日経新聞 2010年6月24日夕刊の保坂康志のコラム記事

6月26日、30日 2010年

##### ●意識のある人生～沈黙

一日の中で何ごとを始めるにも、深い呼吸を数回行い、沈黙の時間に身を置いてから、行ってみること。

(掲示板記入予定) (「すき間」「斜線」へ要転記)

##### ■直観と沈黙

「誰だろう瞑想」の10秒間は沈黙へいざなう時間である。

##### ■からみついた縄～一本の縄

すべてへとリンクしていることがある。

沈黙もそうした要素のひとつである。

おそらく、いつかすべてが瞬時明かされ、その時にすべてにつながっていることが解き明かされるのであろう。

今は、ただ、一步一步である。

6月27日 2010年

##### ●なみこさんへの返信

若い頃は、ゴキブリが出た部屋では寝られませんでした。

今の拙宅は三部屋ですが、ドアはあってないような一部屋なので、出た部屋でも寝ていますが(^o^);

妻も中学のときに犬にかまれたようですが、犬は好きみたいですね。

しつけは厳しいですが。。(^o^;

自分は犬好きなので、盲導犬なんか見ると抱きつきたくなっちゃいますがね♪

苦手意識というのは難しいですね。

食べ物であれば年齢とともに変わるということはあると思いますが、人間もふくめ、生き物の場合はそうはいかないですね。

好きな人を嫌いになるというのはゴマンとありますが、苦手な人を好きになるというのはとても少ないですね。

(6月27日2010年掲示板)

高塚さんはゴキが苦手ですか(^\_^;

私にとってはワン公(犬)よりはずっとカワイイと思うんですねどね~(^\_^);。人間に攻撃を加えないし・・・。

実は私、子供の頃犬に噛まれてからワン公が大の苦手、電車の中で盲導犬が乗車してきて近くに座られた時には、「幽体離脱」状態で白目になっていました・・・多分。

#### ●意識のある人生～直観

古い体質での直観を引きずらないためにあらかじめ意識を高いところに置いておく。

#### ●わたし・自他

相手が立派なことをしたからといって、自分が立派になるわけではない。

相手が卑劣なことをしたからといって、自分が卑劣になるわけではない。

「相手が何をした」と生きるのではなく、自分を生きることである。

昨日はどれだけ自分を生きたのか、今日はどれだけ自分を生きるのか。

(6月28日2010年掲示板)

6月28日2010年

#### ●意識のある人生

- 1 これまでにしたことのないことをすること。
- 2 そのしたことをわがものとする。すなわち、身体化すること。

6月29日2010年



まだ死にたくない。

私にはやりたいことがたくさんあるからである。

ただ、やりたいことが何かということである。

私のやりたいことが「この世を去ることを決める<わたし>」がやりたいことであれば、まだこの世にいるであろう。

私とわたしの。

●意識のある人生

- 1 一意専心
- 2 神を使うこと

6月30日、7月1日、3日2010年

●意識のある人生～エネルギー

瀕死の人の手助けの仕事をするにせよ、ビルの掃除の仕事をするにせよ、

ルーティンな仕事としないこと

やっつけ仕事としないこと

無意識の仕事としないこと

神のいない仕事としないこと

●意識のある人生～所有・必要性

持とう、持とうとしなくとも、

取ろう、取ろうとしなくとも、

常に必要なものが与えられている。

しかるに、必要なものをわきに追いやり、

持とう、持とう、取ろう、取ろうとしているうちに人生を費やしてしまうことは悲しいことである。

必要で持っているもの、これをボロボロになるまで使い切ることである。

今日手元にあるもの、

今日一日生じる出来事、

これをを灰になるまで使い切ることである。

(7月1日 2010年掲示板)

●創造

できると思うこと。

信じることから疑わないことへ。知っていることへ。

●身体～気功体操

体を動かせば筋力がつく。

体を動かせば関節が柔らかくなる。

血行も良くなり、老廃物が排泄される。

だが、そのような体の使い方とはまったく異なる体の使い方があるはずだ。

(7月3日 2010年掲示板)

このことにころを向けて体を動かせば、どのような動きでも新しい体の使い方への動かし方に通じることである。

呼吸

意識

気の感触

佐川幸義師範の動かし方を範とすること。～最小の動きを参考にする事。

水によくふれること～これは自分自身の原点かも知れない

★7月 2010年

7月1日、2日 2010年

●アーミッシュ

喫緊の要は何か。

この人生で、この一年で、この一日で、喫緊の要は何であろうか。

(加筆して掲示板記入予定)

#### ■アーミッシュ

もう一度<子ども>のようにして学ぶことがあるかもしれない。

地球人として学んできた多くのことが宇宙人にとっては逆であるなら、<子ども>のようにならなければ、異星の人の良識を学ぶことはできないし、気づくこともできない。

だが同時に、<子ども>のようであるということは成長することができるということでもある。新しい世界が開けているということを感じとってみることである。

(掲示板記入予定)

成長した大人であると思わないことである。

7月2日 2010年

#### ●時事～勝ち負け

勝っていたら、終わっていたかもしれない。

負けたから、続いていくのかもしれない。

それゆえ、どこまでも負けを取る人生というものもあるのかもしれない。

(7月2日 2010年掲示板)

#### ●モノ・遊行・変容・Be Here Now

最小限のモノを持ち、そのモノを最大限に使うこと。

あるいは、最小限のモノを持ち、そのモノさえ手渡すこと。

これは、遊行であり、沈黙であり、変容である。

(7月2日 2010年掲示板) (意識表裏面要転記)

主語がないのと同様に、目的語がなく、ただ述語があること。

モノもトキもなく、ただ、使うということがあること。

行為への愛

バックミンスター・フラーのいう名詞でなく動詞

姿なき心ひとつを養うは賢き人の修行なるらむ

└名詞でないということである

モノとトキの異同

最小限のトキを持ち、そのトキを最大限に使うこと。

●意識のある人生

どのような時にも、

<これはわたしの役に立つだろうか>

と問うことである。前に進むこと。休むこと。楽しむこと。どのような目的でもよい。

<今、どのようにしたらもっとわたしの役に立つだろうか>

と考えることである。

●機会・選択・自由

今日という一日が、もし神仏から賜った一日であるなら、わたしはこの一日をどのように使うであろうか。

このグラス半分の水が、もし神仏から賜った水であるなら、わたしはこの半分の水をどのように使うであろうか。

(7月3日2010年掲示板記入予定)

●わたし・仮面・神聖なる矛盾

護憲の人は生まれ変わってもやはり護憲であるのだろうか。百回生まれ変わっても百回護憲であるのだろうか。

もしそのような人がいたら、気味の悪い話しではないだろうか。

護憲の人は生まれ変わってもやはり護憲であるのだろうか。改憲の家庭に育てば、改憲に

なることもあるのではないだろうか。

百回生まれ変わって、それでも、護憲であるなら、

<それはわたしである>

といえる。このことは、他方、立派な話しである。

大切なことはそのような変わらぬものを見つけることである。

それはおそらく、今言われているような護憲とか改憲とかではないと思うが、どうであろうか。

(7月3日 2010年掲示板)

争いがある限り、護憲の意義はなくなる。

#### ●天声人語・警告としてのシンクロ

今日の天声人語である。

江戸時代の人相見、水野南北は〈黙って座ればピタリと当たる〉とはやされた。精進の始まりは、その道の達人に「死相が出ておる」と言われたこと。生地大阪で極道を気取っていた頃の話だ▼南北は、己の凶相を消さんと粗食に努め、やがて人の吉凶は食生活が左右するとの考えに至る。運命さえも飲食で変えられるという、観相師らしからぬ前向き思考である。なるほど、人生をつつがなく送るヒントは、顔面ではなく口中に潜むらしい▼唾液（だえき）の成分からがんを見つける技術が生まれたそうだ。慶応大先端生命科学研究所（山形県鶴岡市）と米カリフォルニア大ロサンゼルス校が、がんの種類ごとに、患者と健常者と濃度が隔たるアミノ酸などの物質を突き止めた。例えば膵臓（すいぞう）がん患者は、グルタミン酸の濃度が高かったという▼これらの物質を組み合わせると、膵臓がんが99%、乳がんが95%、口腔（こうくう）がんでも80%の患者を判別できた。X線や血液検査より簡便で、症状が出にくいがんの早期発見に役立つそうだ。〈黙ってなめればピタリと当たる〉を期待したい▼『だまってすわれば』（新潮社）で南北の生涯を描いた作家、神坂（こうさか）次郎さんによると、その命運学は「的中を誇らず、人を救う」を旨とした。占いから食説法へという異色の遍歴にも合点がいく▼科学の進歩とはありがたいもので、唾液が病を教えてくれる時代はもはや眉つばではない。きょうを生きながらえれば、あすには命を延ばす新発見もあろう。まずは飽食を慎み、楽天を心がけるべし。どんな顔だろうと。



## ■観相

自分が何をしているか知っていること。  
そのために、相手のことを観察してみる。

7月4日、5日 2010年

### ●意識のある人生～成長

この人生で、  
したことがないことでなく、  
もうしなくなったことがどれだけあるか、  
このことだけが価値あることである。

### ●意識のある人生～所有・知識

「AがあればBができる」  
確かにそういうこともある。  
そういうことも確かにあるが、Aというモノを得ることに汲々としているうちにBという  
目的を忘れてしまっはあまりに悲しい。

何を持っていないかではなく、

<今、何を持っているか>

このことをいつも知っておくことである。

(7月5日 2010年掲示板)

「神との対話」1巻 170 ページ

## ■モノ

実に不思議なことであるが、  
Aを得ると、Bができなくなるということがある。

仏壇の購入

Be Here Now

■知識はわたしという存在による。

■グルジェフの今日やることと明日やることの違い。

●モノ・成長

子どもとなって受け入れることができるようになるためには、大人はすべてを手放さなければならない。子どもの時の様に。

7月5日、7日 2010年

●条件

40年前まで住んでいた高円寺の家は、今からみて初めてその良さ、ありがたさが分かる。今の家もまたそうであろう。

40年後に分かるのではなく、今分かるように努めること。

7月6日、7日、11日、17日 2010年

●カニングム・言葉

カニングムの三法則（1 必然性 2 感情 3 法則）の3の法則について言葉には力があるということ。

2について、言葉に感情があるということ。

3について、必然性のあることだけが言葉となること。

このとき、言葉は力を持つ。

言葉をいつもそのように使っていると言葉は力を持つ。

言葉をいつもそのように使っていないと言葉は力を失う。

参考（シュタイナー）

考え抜かれた言葉～要引用

■沈黙の力・沈黙の意味

●意識のある人生～魔術・錬金術・元気

今日一日がわたしにとって「ゴミのような日」だと思うなら、魔術を使って——すなわち、神の手を使って、すなわち、わたしの手を使って——、金に変えてみるとよい。

ゴミを金に変えることほど挑戦しがいのあることはないではないか。

カニンガムという人は魔術が力を持つためには三つのものが働かなければならないといった。その三つとは、

- 1 必要性
- 2 感情
- 3 法則

である。

(7月17日 2010年掲示板)

#### ●意識のある人生～仕事

一本一本の電話に意識を保持してみる。

(意識表裏面要転記)

#### ●意識のある人生～機会

高塚という人間にとって、仕事をしながら成し遂げることに価値がある。

来年の3月まで急ぐことである。

7月7日、8日、9日 2010年

#### ●七夕

今日は七夕、短冊に願い事を最後に書いたのは何年前であろうか。

昨日の日経新聞夕刊で「希望」という題名のコラムが一面にあったが、なかなかよかった。何歳になっても希望を置き去りにしてはならない。

願いは何歳になっても大切である。

7月7日七夕、おそらくこの掲示板を読まれる方で短冊に願い事を書かれている方はいらっしゃるのではないかと思います。メモ帳でも、レシートの裏でも、もちろん、この掲示板でもいいです。ご自分の希望を書いてみませんか。

もちろん、実現するという事です。

そして、できればご自分のことに関してです。

(7月7日 2010年掲示板)

#### ■川崎陽平さんへの返信

>高塚さんの日記を読める時間が作れますように...

平凡な日々の蓄積が非凡へと変容するように、日常に膨大なエネルギーを注げますように。

この平凡な日記を読まれて、そのことが無駄ではなかったと、平凡に生きてよいのだと読まれた方が気づかれますように。。。そのような非凡な時がくるように、日常に膨大なエネルギーを注げますように。。。

(7月7日 2010年掲示板)

■ みっちゃんさんへの返信～自身のためのゆるし

- > 先日から時々拝見しています。
- > 共鳴できるものを感じ、元気をいただいています。
- > これからは日記も毎日読ませていただきますね。
- > よい言葉をありがとうございます。

掲示板も日記もお読みいただいている、あるいはまた、何かのご縁でお会いできることがあったとして、、、

きっといつか失望されることがあると思います。

その時は、三度ゆるしていただきたいと、厚かましくもあらかじめお願いさせていただきます。

私もこう書いた以上は、三度ゆるすことができる人生を送りたいと思います。

一日の終わりに、ありがたい書き込みを読ませていただき、感謝しています。

(7月8日 2010年掲示板)

- >
- >> 高塚さんの日記を読める時間が作れますように...
- >
- >
- > 平凡な日々の蓄積が非凡へと変容するように、日常に膨大なエネルギーを注げますように。
- >
- > この平凡な日記を読まれて、そのことが無駄ではなかったと、平凡に生きてよいのだと読まれた方が気づかれますように。。。そのような非凡な時がくるように、日常に膨大なエ

エネルギーを注げますように。。。

>

先日から時々拝見しています。

共鳴できるものを感じ、元気をいただいています。

これからは日記も毎日読ませていただきますね。

よい言葉をありがとうございます。

#### ▲自身のためのゆるし

どのような真実であれ、わたしの真実を認めていただきたいということです。

それは、わたしのためでなく、あなたのためです。

7月8日、11日 2010年

#### ●わたし・自他

全く知らないもの、60億人のひとりひとりの独自性。

そして、わたしひとりの独自性。

7月10日、11日 2010年

#### ●ヒーリング

相手のためだけにするのでなく、ともにあるヒーリングを行う。

7月11日 2010年

#### ●

気づき、選択、波動

7月12日、13日、15日 2010年

#### ●一体・自他

この世の優劣、才能、差異はほとんどの場合、その個人の成長によって生じたものではない。

ほとんどの場合、優劣、才能、差異があつて初めて可能となることがあるためにある。

違いに目を向けるのではなく、違いにより生じることに目を向けることである。

人は名詞などではなく、動詞であるのだから。

(7月15日 2010年掲示板)

たとえば、性差。

#### ●バックミンスター・フラワーの動詞

「**重大なことだろうと些細なことだろうと、大きな選択だろうと小さな選択だろうと、考えるべきことはひとつだけだ。これはほんとうのわたしだろうか？ いま、ほんとうにこういう自分を選択するのか？**

そして、いいかね。**何の結果にもつながらない無意味なことは何もないことを覚えておきなさい。すべてに結果がある。その結果とは、あなたは誰か、何者かということだ。たっ**たいま、あなたは自己を規定する行為をしている。」 「動詞のことである。

あなたは何者であるかということは名詞のように捉えられがちであるが、これは動詞である。

#### ■斜線

「**何の結果にもつながらない無意味なことは何もない**」

些細なこと、見逃されている選択に意味がある。

すべての選択を自分自身の意味で埋めることである。

何の結果も見えていないし、その結果に通じる原因も見えていない。

生きている世界は

斜線だらけである。

これを闇という。

#### ●神と人間

神と一体であることの実感、意識的創造をどれほど行っているかによる。

#### ●行為への愛

行為への愛で結果に執着しない、その結果とは外的状況のことである。

外が何であろうと内を変えることはできるという時の、外の話である。

その時の外はまた完璧なプロセスとしての外である。

#### ●「ハトホルの書」

ハトホルのいう生命のリズムの内なる時間とは、直観にしたがうことによって生じる時間である。

7月13日、14日、15日 2010年

●斜線～沈黙

「日常の瞑想は、そこへ到達する方法のひとつだ。しかし、努力し、献身しなければならない。外的な報酬ではなく、内的経験を求めようという決意が必要だ。

このことも、覚えておくといい。沈黙は秘密を蔵している。だから、最も美しいのは、沈黙の音だ。それが魂の歌だ。魂の沈黙ではなく世界の騒音を信じると、迷ってしまうよ。」

(「神との対話」3巻文庫本版 264 ページ)

沈黙は斜線である。沈黙に意味はないとわれわれ現代人は思っている。われわれには見えない世界である。

考慮～言葉を用いない人

テレパシー

■斜線

人は常に「その人自身の今」の100分の1しか使えない。

100分の99は見ることも感じることも気づくこともできない。

しかし、100分の99が実はその人の今を創りだしているのである。

ここでは、見ることも感じることもかなわぬ100分の99を求めるのではなく、今使える100分の1を意識的に、自分に役立つよう、使うことをこころがけるべきであると示唆させていただく。

要は、100分の1を使い切ることである。

実は、100分の1は決して使い切ることはできないのだが、使い切ることである。

(7月14日 2010年掲示板)

100分の99は白昼夢で過ごしている。

●仕事

明後日からは6連休であるので、明日の電話番の深夜勤はまるで苦痛でない。

- 1 苦痛と感ぜないことを作ること。
- 2 それを時間と感ぜないことを作ること～時には0時間である感ぜ。
- 3 有意味性
- 4 背負ってしまえば重さを感じなくなる 7月11日の完全徹夜の勤務を思い起こすこと。

これから学ぶこと。

受け入れるべき真実、存在することと

受け入れるべきでない仮想、受け入れることのできない仮想を区別すること。

前者は変化させることができ、後者はもともと存在しないのだから変化させることはできない。

●

グルジェフが馬を感情と呼ぶのは、カニンガムの三要素のひとつの感情と対応していることに思い至ること。

そして、「神との対話」の情熱としての欲望に思い至ること。

●意識のある人生～行為への愛

シュタイナーの行為への愛はゲーテアヌムが焼失し、翌日からただちに債権に取り掛かったこと。このことほど彼の行為への愛を物語っていることはない。

いつか来るであろう自らの焼け野原に決してくじけぬこと。

このことをいつもいつもあらかじめ心得て置くこと。

●自己ヒーリング

身体の波動を変える。

疲れて寝ておきる前の体のシビレに近い感覚の振動を作り出すこと。

7月14日、15日、21日2010年

●シンクロ

「神との対話」3巻417ページ（文庫本版）「70年前のほうが心やさしかった」

●

自分の受け取り方、自分の反応の仕方は変えることができる。

これはただちにできる。

これは自分によってできる。

このできることを行うことである。

気づき、選択、波動。





人生から技術が生まれてくるのであり、  
技術から人生が生まれてきてはならない。

デジカメがあるから写真を撮るのでなく、写真を撮りたいからデジカメを手に入れる、作り出すということである。



道具のために働いてはいけない。  
最低限の自分自身の維持のために働くべきである。  
あるいは、もちろん、自分自身の働きたいことのために働くべきである。

7月15日、21日 2010年

●意識のある人生

自分を縛り付けているものを、ひとつ、ひとつ、意識的に解いていく。

●エネルギー量

「食事の量 $\propto$ 運動量」

ではなく、

「他のエネルギー量 $\propto$ 運動量」

であり、この他のエネルギー量を探ってみる。

●斜線

子どもが遊んでいるのを見ていると、  
子どもは大人が見ずにいる風景、人間関係のなかに生きているのに気づかされる。

もう一度、子どもの風景を振り返ってみること、人間関係を振り返ってみること、  
さらにまた、大人といわれる存在になって、  
全く異なる風景、全く異なる人間関係がないかところをくぐりかかってみること。

(加筆して掲示板記入予定)

●日記

千葉到着後はフィットネスクラブ「ゼクシス」へ。前夜3時間しか寝ていなかったが、まさかプールでおぼれることもないだろうということで、泳ぎ始めると意外とスイスイ泳げるのではないか。不思議なものである。

泳いだ後は階下にあるレストラン「アストニッシュ」でランチ。「雑穀米」と「豆腐ハンバーグ」でごちそうさまでした。さすがにランチの時間帯は混んでいてひと安心である。

2階の窓際の席は大きな窓ガラスで開放感があり、気に入っている。下の路上では酒屋さんがトラックをとめてお店にお酒を納入しているが、暑いせいか、いかにも「いやいやという感じ」が体全体からにじみ出ている。う～ん、あれじゃあ、体もたまらんだろうし、心もたまらんだろうなと思う。

この日の千葉は猛暑、気持ちは分かるが、こういう時こそ気持ちを変えるとずいぶん世界は変わると思うのだが。。まあ、これは自分自身への自戒もこめての話である。

どんなときでも絶対にいやいやでやらない。  
どんなときでも絶対に自暴自棄にならない。

■酒屋さんの体の動かし方から反面教師として学ぶ。

7月16日、21日2010年

●意識のある人生

今最も急いすべきことは何か。

- 1 一日の計
- 2 一生の計
- 3 未来永劫の計（忘れずにいること）

●本能

いろいろな本能、本性がある。

開発して、成長して発現する本能、本性というものもある。

●

救われない人が宗教に入っているのかもしれない。

●意識のある人生

何ごとも受け入れ、そこでベストを尽くすこと。

●

イライラした時には、  
イライラする自分がいることを知りえたこと、気づいたことを喜びとする。

●意識のある人生～リトマス試験紙

毎日、毎日、昨日よりもきれいな空を見ること。

(7月21日 2010年掲示板)

●わたし

相手を好きになっただけ、世界が開けてくる。

7月17日、18日、19日、20日、21日、23日、24日、25日、26日、28日 2010年

●映画「ぼくのエリ 200歳の少女」

この映画は友達のいない12歳の少年と12歳のまま200年生き続けているバンパイアの少女との交流を描いた物語である。

エリは人を殺して生き血を吸っている。

高塚は何をして何を食べているのだろうか。

(7月19日 2010年掲示板)

■選択

少年オスカーは少女エリにお菓子をすすめるが、生き血以外は食べられないエリは断る。  
しかしオスカーの悲しげな顔を見て、エリは一個食べてみるというが、食べあと建物の裏で嘔吐してしまう。

<そのようにしか生きられない>

ということがある。

体のことであれば、分かりやすいが、これは心のことでも同様である。

(7月20日 2010年掲示板)

■神聖なる矛盾・善悪

エリは、何百人、何千人の人間の生き血を吸って生きてきた。

だがもしかしたら、

一人の少年を助けるために、何百人、何千人の人間の生き血を吸って生きてきたのかもしれない。

(7月21日 2010年掲示板)

#### ■動詞・一体

この世界では、個体で生きていくことの是非を超えて働いている力がある。

名詞の力でなく、一体として働く動詞としての力が働いている。

(7月23日 2010年掲示板)

#### ■食べ物・善と悪

少年オスカーは少女エリにお菓子をすすめるが、生き血以外は食べられないエリは断る。しかしオスカーの悲しげな顔を見て、エリは一個食べてみるというが、食べあと建物の裏で嘔吐してしまう。

今は人の生き血しか食べることができないかもしれない。

だが、もしかしたら、

果実と野菜だけを食べて生きていける時がくるかもしれない。

もしかしたら、

太陽だけを食べて生きていける時がくるかもしれない。

さらにまた、

印象だけを食べて生きていける時がくるかもしれない。

普通と呼ばれている人と同じようにである。

(7月23日 2010年掲示板)

#### ■長南年恵

少年オスカーは少女エリにお菓子をすすめるが、生き血以外は食べられないエリは断る。しかしオスカーの悲しげな顔を見て、エリは一個食べてみるというが、食べあと建物の裏で嘔吐してしまう。

また、明治時代の霊人である長南年恵は、空ビンに病気を治す霊水で満たしたということ  
で有名であるが(裁判所で実演し、その記録も残っている)、彼女は長じるにつれ、生水以

外は口にしなくなった。家を出ていた弟が実家に戻った時に、姉が本当に生水しか飲むことができないか試そうとして、一度沸かした水を生水と偽り、姉に飲ますが、姉である長南年恵は血を吐いてしまったという。

われわれは普段食べているものを、食べられるものと思っているが、本当に食べられるものかどうかは分からない。もしかしたら、体は血を吐きながら食べさせられているのかもしれない。

(7月25日2010年掲示板)

#### ▲意識のある人生

体の実感を大切にする。

あとでどうなるか。

少食。。。最小限值

呼吸を食事としてみること。

#### ■善悪

生き血を吸ってしか生きられない人生でだけで知ることができることがある。

(掲示板記入予定)

#### ■仮想空間

少女エリはスクリーンの中で演じられたものである。

だから、結末がどのようなものであれ、救いはある。

もし、この世界もまたそうであるなら、

#### ■錬金術

少女エリに対して、怖れと同情心がある。

怖れと同情、

これは人のところの中で同居可能なものである。

融合すると何になるのであろうか。

(7月27日2010年掲示板)

ゆるしかもしれない。

これは芸術の元型のひとつかもしれない。

現実の唾棄すべき人と考える他人に対しても同じ視点をもって見ること。

#### ■救い・自他

エリという少女が生き血を吸ったということは変えることができない。

しかし、それを知った少年オスカーはオスカー自身の感じ方を変えることはできる。

それを見た観客のわたし自身の感じ方は変えることができる。

(掲示板記入予定)

エリという少女が生き血を吸ったということは変えることができない。

しかし、少年オスカーがそのエリに対してどのように感じるかということは、

<変わった>。

オスカーがさらに進むべきは、他人の行いに対してどのように感じるかということは、

<変えることができる>

と気づくことであり、そして実際に

<変える>

ことである。オスカーの救いは、エリの行為の中にはないし、いじめられ子の行為の中にもない。救いは、それらの行為に対して、

<オスカー自身がどのように感じるかということにあり>、

<そして、その感じ方を変え、その変えた生き方をするということがある>。

(掲示板記入予定)

自分自身が生きるために、

人間の食べ物を食べられない。

#### ■自由・気づき

エリと私の違いはいろいろある。

彼女は血を吸って生きていることを好んでいるわけではない。  
しかし、彼女のその人生で「血を吸って生きている」ということを変えることはできない。

だが、私は「私の吸血人生」を変えることができる立場にある。

エリと私の違いはいろいろある。

彼女は血を吸っているということを知っている。  
私は血を吸っているということを知らない。

(7月28日 2010年掲示板)

理解するまで時間がかかる。一度は捨てる。

#### ■林葉直子

血を吸わなければ生きていけないという、そういう生き方があり、

負けなければ生きていけないという、そういう将棋もある。

大きな運命とは無関係な勝負もあるが、絶対に勝てない将棋というのもあり、絶対に勝てるという将棋もあるのである。

(7月29日 2010年掲示板)

7月19日、21日、23日 2010年

#### ●技術

私が技術の産物になってしまっていないかチェックする。

(「神との対話」3巻文庫本版 425ページ)

7月20日、21日、23日、25日 2010年

#### ●「ハトホルの書」

ハトホルとなぜ心中するのか、それ以上のよい生き方が考えられないからである。

与えられた機会を常にベストであるとして受け入れる。

ただし、過去の悪しき原因からくる結果と未来への変容へと開かれた道とがある。  
リトマス試験紙は直観、感触だけである。

●意識のある人生

一日一回、20 分間の意識のある運動。

●プロセス

プロセスを信じること、知ること。

プロセスのトータルな認識。

プロセスに動詞として関ること、プロセスを動詞として生きること。

●意識のある人生～呼吸・斜線

動きに呼吸があうのではなく、呼吸に動きをあわせるようにする。

心に呼吸があうのではなく、呼吸に心をあわせるようにする。

どのような呼吸かというと、

体全体の呼吸である。

静かな呼吸であり、ゆるやかな呼吸である。

今はまだ鼻で呼吸をせざるをえないが、

実感としては、鼻で呼吸しているのではなく、体全体で呼吸している感覚である。

いつもわたしにあるのは呼吸だけのように。

いつも世界にあるのは呼吸だけのように。

(7月25日2010年掲示板)

能の動き。

7月21日、22日、24日、28日2010年

●意識のある人生～わたし・動詞・一体・必要性

今日出会うすべてのわたしに奉仕すること。

そして、わたしに他者がふくまれていることに気づくこと。

そして、意識的に、わたしに多くの他者をふくむようにすること。



わたしが名詞などではなく、動詞であると感じること。  
今日出会うすべてのわたしが一体であることにふれること。

そしてさらに、何もかもが十分以上にあることを知っていること。  
(加筆して掲示板記入予定)

#### ■意識のある人生

今日出会うすべての人、今日出会うすべてのモノに奉仕すること。  
今日出会うすべてのわたしに奉仕すること。  
(7月28日2010年掲示板記入予定)

参考～「神との対話」3巻477ページ

- 1 わたしたちは一体である
- 2 充分ある

「明日の神」4章64ページ

#### ●「継続は力」

まりもさん、川崎陽平さん、なみこさん、

残念でした～(^o^)/

でも、いつも見ていただいてありがとうございます。感謝しています。

また、その他にいつも見ていただいている方もありがとうございます。

一週間に一回の方も、一ヶ月に一回の方もありがとうございます。

三年ぶりに掲示板を見られて初めてお越しいただいた方もありがとうございます（ハレー彗星みたいですね）。

「継続は力」というおほめをいただきましたが、どれだけ力になっているか正直分かりません。やはりこの掲示板に書いたことを実践してこそ、初めて力となることであり、

意識のある人生（すべての出発点）

身体の再構築（身体のコントロール）

気功体操（通常とは異なる身体の使い方）

貯金（どんな小さなことでもいい、今までできなかったことをすること）

瞑想（なぜかやり始めて、いまだに不明なるもの）

ヒーリング（避けて通れぬものであるが、わたしにとっての意義は不明）

本の執筆

等々を実践し尽くしてこそ、初めて継続が力となったといえることです。

正直四苦八苦しなからやっている状態で、たよりないかぎりです。。。まあいいことといえ  
ば、

<普通の人が普通に頑張っている>

という安心感を与えることができることかもしれません。

<読み続けてよかった>

と言っていただけよう精進いたしますので、今後ともよろしく願いいたします。

（7月22日2010年掲示板）

カウンター、80002でした。毎日、先生の掲示板と日記を

読んで、パワーをいただいています。

教室の資料もたくさんいただいているのを、

この頃読んでいます。

大切なことが美しい言葉で書かれていて、

感動、感謝です。

■「神との対話」

■「ハトホルの書」283ページ

■まりもさんへの返信～神と人間

教室の資料は、こころにふと浮かんだ疑問、質問に関するわたしの答えです（これらの質  
問の箇所については掲示板に継続して書き込んであります）。正直、何がなんだか分からず  
に闇雲に作り出してきたというところがあります。

ただ十年以上経ったいま振り返ってみますと、ある力により、ある方向性に導かれた（あるいは、ある力があり、ある方向性に進んできた）ということがよく分かります。

どういう方向性かというと、

A I

です。エーアイではなく、アイです。愛という言葉は苦手なので、A I と表記しています。

真善美を含んだA I です。

真偽・善悪・美醜すべてを含んだA I です。

人生は不思議です。

<すべてのひとにある力が働いています>。

そして、

<すべての人がその力に従うも従わないも自由というものもまたあるのです>。

(7月22日2010年掲示板)

一昨日初めてみえられた方が

7月23日2010年

●意識のある人生

言葉の詩人でなく、感情の詩人、テレパシーの詩人、インスピレーションの詩人となること。

●「神との対話」1巻170ページ

自分中心主義～自分の反応

7月27日、28日、30日2010年

●半分の水

わたしのグラスに半分の水がある。相手のグラスには水がない。相手は何も言わないが、水を飲みたがっていることは分かる。

事情があり、相手の目の前で水を注ぐことはできない。わたしは相手に分からずに自分の水を注いであげた。相手は「グラスにはもともと水が入っていたのかもしれない」と思っ

て、すべて飲み干す。そして、高塚のグラスには水があるのになぜくれないのかと恨んでいる。

わたしは空のグラスを見せて君のグラスに注いであげたのだといえはいいのだが、事情がありそれは絶対にできないことである。

なぜこんなことになるのだろうか。

もしかして、わたしはすべての水を注いだのではなく、グラスにはまだ水が残っているのだろうか。

(7月27日 2010年掲示板)

行為への愛

最後にどうなるか。原因と結果のスパン。

#### ●動詞～創造力

これまではできなかったことをするというのは、ほとんどの場合、それは、

< A I (真善美) >

である。

しかも< A I >には世界を動かす力がある。なぜなら、< A I >は生命、生成、成長だからである。

< A I >を使ってみることである。

できなかったことをしてみることである。

どんな些細なことでもよい。

< A I >の行使により、あなた自身だけでなく、世界もまた変わることにかならず気づく時がくる。

(7月30日 2010年掲示板)

#### ■動詞

あなたを使うのではなく、使うことを使うのである。

(掲示板記入予定)

●動詞と名詞

水と身体

空気と身体

食べ物と身体

印象と身体

全体性の中での身体

筒としての身体

7月28日、29日2010年

●動詞～イエス

イエス——汝に祝福あれ——が言った、

「この世は橋である。渡って行きなさい。しかし、そこに棲家を建ててはならない」

(北インドファテプル・シークリーの城門アーチ)

■時空

今、59歳である。

この59年間全体がわたしである。

今、この宇宙にいる。

この宇宙全体がわたしである。

壮語したいわけではない。そのように見ることができれば、わたしは違ってくるのではな  
いかということである

(加筆して掲示板記入予定)

▲一日の想起

▲ホームレスの瞑想

■生命

<神=生命>としての<生命>という動詞

■感情

感情を体験したいがために、時にこの体に入っている私だけがわたしであると思ったりす

る。そして、そのことに一生を費やす。

だが、わたしは私という名詞でありたいのでなく、ただ動詞という感情を体験したいだけである。

●ヒーリング

遠隔にブレスワークを用いる。

●所有・抱負・白昼夢

「それは手に取ることができないものである」

ただ、このことだけに気づくために人生を費やしてはいないだろうか。

未来永劫関ることができないそのために人生を費やしてはいないだろうか。

7月29日、8月2日 2010年

●

毎日歩くこと。

意識的に歩くこと。

歩けるところへは歩いていくこと。

歩けないところはどこであろうか。

7月30日、31日 2010年

●アクアブルーさんへの質問

決めてあることへのアドバイス

ヒーリング

アカシックレコードで気づいていないこと

- 1 退職以降のヒーリング・教室のこと
- 2 アドリブを生かすこと。
- 2 ヒーリングのこと

「そういえば、昨日「前世を信じていらっしゃるかどうかは分かりませんが、高塚さんはお坊さんであったことがありまして、何をされていたかというと、お経を一生懸命に写して写本を作っていたのですね。その写本で多くの方が救われると思い、念じて一生懸命写していたのですが、写本は写本であり、写すだけでいいのです。ヒーリングも同じようなところがあり、どこか一線を画して行なっているんですよ」ということをカウンセラーの方から話されました。一線を画するというのは全面的に受け入れられないところがあるので

すが、そこはまあ聞く耳をもって、自分なりに咀嚼してやっていこうと思っています。その方がいうには、わたしに関してかなり重要なアドバイスのようなので。

#### ●仕事

宿直の仕事をやめる<時>というのは、宿直が平和になった時である。

宿直の仲間と宿直の仕事すべてに全力を尽くすこと。  
すべてを尽くした時がやめる時である。

7月31日、8月2日 2010年

#### ●意識のある人生～呼吸

あらかじめ意識を高く持つことというのは意外と難しい。  
高い意識というものが分かっているようで分かっていないからである。

だから、どんな時でも、あらかじめ深い呼吸をしていること。

#### ●直観

直観は「第一感」とは限らない。  
ときに触感であったりする。

#### ●意識のある人生

いつも、いつも。  
食べるための仕事の時も、ヒーリングの時も、余暇の時も、  
小さなことにこころを費やさないこと。  
小さなことにこころをいためないこと。

### ★8月 2010年

8月1日、3日 2010年

#### ●神と人間

神様はひとりひとりの体験談を喜ぶ。  
わたしもまた私の体験談を聞きたがっている。  
だから、私は今日一日を私の体験をしよう。

(掲示板記入予定)

8月2日、3日、7日 2010年

●直観

直観を生かすということがなかなか分からなかった。

直観と呼んでいるものにどうしてもこれまでの生活習慣、思考習慣に引きずられているところがあるからだ。

「ふとケーキを食べたいと思う」

こんなものは直観ではないが、これは分かりやすい例で、ふと思ったことが直観であるかないかはなかなか分かりにくい。

ただ、以下の「明日の神」（「神との対話」シリーズの続編）を読んで、そういうことかと納得がいったので、少々長い引用させていただく。

「……小さな自分より先に生命そのものに仕えるというこの考え方が、さっき言った『先に仕える (pre-serve)』ということだよ。それは意識して決断することではない。潜在意識の選択と超意識の選択、それに超絶意識としてのあなたの——「大きな自分」の——選択の組み合わせだ。

そうなれば、あなたはいわば「直観的」行動するようになる。

意識的な心ですべてのデータを見直し、考えたすえに決断するより先に、「総体的な存在としての自分」から信号を受けとり、それを行動に転換するようになる。」

「いまお話しになったことを、例をあげて説明してもらえますか？」

「いいとも。

『先に仕える (pre-serve)』とは、プールでおぼれかけた子供を見て、泳げもしないのに飛びこむ女性の行動だ。炎上している建物に、自分が死ぬかもしれないと考えもせず人助けのために飛びこむ男性の行動だ。

このレベルのあり方、行動はほかにも見られる。これほど劇的ではなくても、もっとささやかな場面でも見られるが、すべてが生命そのものの核心に存在し、あなたがたを通じて現れる神聖な衝動を反映している。」



「もっと例をあげていただけませんか。そういう劇的な事例についてはわかったのですが、もっと『ささやかな場面』での行動には、どんなものがありますか？」

「タバコをくわえて、火をつけようとしている男性がいる。彼はいままで千回もそうやってタバコに火をつけてきた。機械的な行動だ。習慣になっている。ところがこの日、この瞬間に何かが起こった。この本を読んだかもしれない。この対話のことを聞いたのかもしれない。それはどうでもいい。

彼はふっと考えもしなかった行動をとる。彼のなかの神聖な衝動が、小さな自分より先に生命そのものに仕えようと決めたのだ。彼は考えもせずに、火をつけていないタバコを置く。マッチを捨てる。ふいに自分はもう二度とタバコを吸わないということがはっきりとわかる。考えたのではなく、はっきりわかる。ただ、わかるのだ。タバコとの長い闘いは終わる。

女性が真夜中に目覚める。赤ん坊が泣いている声を聞いたのだ。長い一日がやっと終わったと思ったのに、まだ終わっていなかった。だが、彼女はいま、そんなことを考えてはいない。彼女は何も考えていない。愛情に満ちた開かれた心でさっさと行動する。それが母親というものだし、母親のような存在はほかにはない。彼女は神聖な衝動で動く。彼女こそ神聖な衝動の現れだ。彼女は抱き上げた赤ん坊に微笑みかける。その微笑みは彼女の心で生まれたものではなくて、天国から直接にやってきたものだ。

これが——どんな考えよりも前に、考えよりも先立って——人生／生命のすべてを通じて生命が生命に仕えるということだ。仕えようとするよりも先に仕えることだ。あなたがたが考えもなしにするような行動だ。それについての考えも理性もなく、まったく違ったところで行動している、そんな行動だ。これが『先に仕える (pre-serve)』ということだ。おのレベルを通じて仕えることによるのみ、地球上の現在のかたちの生命／人生が維持されるだろう。

要するにそれが「新しい霊性 (スピリチュアリティ)」なのだよ」

(ニール・ドナルド・ウォルシュ著「明日の神」64 ページ サンマーク出版)

今日一日、＜生命／人生＞に『先に仕える (pre-serve)』ということをしてみようと思う。肝心なことは、厚いかさぶたになっている習慣でこの気持ちをおさえてしまわないことだ。

(8月2日 2010年掲示板)

■ みっちゃんさんへの返信

> みっちゃんさん。

ありがとうございます。

言葉負けしないようにこころさせていただけます。

<行為への愛>（結果にとらわれることなく、行為することそのものを愛すること）と<一体>は私にとっては超難題のテーマですが、ここ10年のうちにほんの少しだけほぐれてきた感じはします。

長生きはするものですね(^o^);

子どもの行いというのは、自分の子どもであると、

「うるさい」

と言いたくなるようなことも、他人の子どもだとほほえましくみえたり、

他人の子どもであれば、

「ゆるさない」

糾弾したくなっても、自分の子どもであれば、どのようなことをしたとしてもゆるしてしまふところがあります。

他人の目でゆるす、自分の目でゆるす。

<自他>の人間関係の原点かもしれません。

(8月7日 2010年掲示板)

> 「—わたしたちはみなひとつである。

> これを人生の、一瞬一瞬の手本にしなさい。」

良いお言葉をありがとうございます。

現在、やんちゃ娘たちの夏休み中とあって、心乱されること度々ですが、時折心のうちに、

(私は愛で出来ている、彼女も愛で出来ている、この出来事も愛で出来ている・・・。)

とつぶやいていると、自然に出てくる言動が穏やかなものになっているのを感じます。不思議です。

掲示板、これからも楽しみにしています。

●気功教室

お互いに分かっていることを共有することはどちらでもいい。

教室でなくとも酒席で十分である。

問題は、理解しあえないことをどのようにして伝えるかである。

これは言葉では伝わらない。

わたしの SOMETHING を相手に差し出すしかない。

この SOMETHING は今はお蔵入りとなっても、いつか役に立つことが来る。

その SOMETHING を差し出すためには、わたしは実践、体験し、その SOMETHING をわがものとするしかない。

(掲示板記入予定)

■「明日の神」170 ページ

自分自身が始まりとなること。

●意識のある人生

何かになりたい自分を目指すのではなく、

今の最大の自分自身にいつも達していること。

8月3日 2010年

●時事～自他

ひどい人間をひどい人間だと呼んでしまったら、相手は救いようがなくなる。

ひどい人間をひどい人間だと呼んでしまったら、私は救いようがなくなる。

(8月6日 2010年掲示板)

●来訪者

ヒューマニティ・チームの一員になっていただく。

●シンクロ 170 ページ～3巻? 「明日の神」?

8月5日、6日、7日、8日、10日、11日、13日 2010年

●アクア・ブルー (8月5日の日記より加筆して引用)

私がお会いしたことがあるカウンセラー氏はアクアブルーさんで三人目であるが、皆さん独特のクリア感がある。

相談に行ったのは、退職する来年以降の人生設計についてである。気持ちは固まっているが、その道を生かすべくアドバイスがいただけたらと思って、訪れた次第である。

カウンセラー氏は紹介していただいた友人からの話しではアカシックレコードが読めるということであるが、特にそのような話題にはふれなかった。驚くようなシンクロ、不思議はなかったが、こころの奥深いところで揺り動かされた。

個人的なことなのであまり参考にはならないと思うが、せっかくなので、一部を思いつまままに箇条書きでご紹介させていただく。

1 体に問題があるので、睡眠を十分とり、夏は4時、冬は5時に早起きすること。夜はどんなに遅くとも自宅では11時までに寝ること。なお、夜行っている遠隔治療は朝に行った方が互いに有益である。

2 10月からでいいので、週2回2時間歩くこと。途中、喫茶店に入ったりして休むのはかまわない。高塚の場合は、同じエネルギーを使うにしても通常の人よりも4倍かかる。

3 右手が書を書くのに向いている。書道を始めると高塚には体にいい影響がある。ただし、書道の先生になるわけではないので、正式に習う必要ない。習わない方がいい字が書けるようになる。

4 使われていないエネルギーがあり、そのエネルギーを使うようにするためにも体を元気にすること。

そのエネルギーを使えるようになれば、ヒーリングのレベルも変わってくる。

5 60歳以降、70歳までは果たすべき使命があり、その使命に精を出すこと。遊行は70歳以降がよい。

6 高塚は神様より仏様の方が向いている。京都あたりに住んで、仏像めぐりをするとよい。今でもよいが、70歳過ぎでかまわない。

7 下腹の気、背中の気が十分使われていない。

8 ヒーリングはボランティアでは行わないこと。いただくべき金銭はいただくことである。

9 ヒーリングの時間はもっと短くすべきである。カウンセリングも含めて 50 分ぐらいがちょうどよい。長くかかる方は別のコースを設定する。

10 本の出版は 65 歳ぐらいがよく、それまでは言葉が出てこないであろう。

などなど。。

スピリチュアルとはあまり関係なさそうであるが、自分にとってはなるほどと納得できる内容で、最近の生活のなかでわたしの奥深いところで私に訴えていることと照応するところが多くあった。

(以下、続く)

(8月7日 2010年掲示板)

体の問題。

夏は 4 時、冬でも 5 時に起きること。

どんなに遅くとも 11 時までに寝ること。

ヒーリング前に書道を行うこと。

遠隔治療は早朝に行うこと。

10 月から週 2 回、2 時間歩くこと。

書道を始めること (習う必要はない)。体にいい影響がある。

下腹の気をもっと出すこと。

背筋を伸ばすこと。胃下垂の是正 (逆立ち)

ヒーリングは総計 50 分で抑えること。

ボランティアはしないこと。最低 5000 円。

60 歳から 70 歳までは使命を果たすこと。

70 歳からは遊行人生

70 歳までにお金を貯めること。

70 歳以降、京都に住むこと。

神様より仏様があつている。仏像よりも金剛力士像・雷神像などを見ると内なるエネルギーが増幅されるであろう。

本の出版は65歳くらい。

#### ■金銭・報酬

浜辺できれいな貝がらを拾った。  
その貝がらを欲しいという人がいる。  
この貝がらをあげてはいけないのだろうか。  
(8月8日2010年掲示板)

手をかざすと、病気が治った。  
報酬を受け取らなくてはいけないのだろうか。

手をかざすと、病気が治った。  
報酬を要求しないといけないのだろうか。  
(8月10日2010年掲示板)

カウンセラーさんとお会いして、まず言われたのが、

「高塚さん、もしかしてボランティアのような値段でされていませんか？ それはよくないことですよ。」

これは、以前別のカウンセラーさんにも指摘されたことである。  
かなりお話したが、実はまだ解決していない。

わたしが問題なのか。カウンセラーさんが問題なのか。  
それさえ分かっていない。  
あるいは、そういう問いの立て方が間違っているのかもしれない。

とにもかくにも自分にとっては大きな問題である。  
(8月11日2010年掲示板)

#### ■金銭・報酬～ヒーリング

この世界では、  
相手が私に会いに来たのである。

だが、別のレベルでは、  
わたしがあなたに会いに行ったのである。

わたしは、何のためにあなたに会いに行ったのであろうか。

(8月13日 2010年掲示板)

▲「ハトホルの書」のヒーリング

▲アーミッシュの教会

やはり、お礼の形が一番自然であろうか。

確かにこの世の中は、そのようにして成り立っている。

■世界のカウンセリング

雲の形を見るのではなく、雲を見れば世界がわたしに語りかけていることを知るだろう。その時に、計算するのではなく、ただその声を感じて動くなれば私は世界からの、生命からの、わたし自身からのカウンセリングの声にしたがって動いたことになる。

■気づき

どのようなアドバイスも私がそのアドバイスを受け入れる準備が整っていなければ、猫に小判である。

こころの奥深いところを動かしてくれるアドバイス。

こころの浅いところで動くことができるアドバイス。

その意味で、アクアブルーさんにうかがってよかったと思っている。

(掲示板記入予定)

■書～行為への愛

「書」が無駄だという考えを捨てること。

同じことであるが、同時に、「書」が体のためによいというアドバイスを捨てること。

ただ、書くだけである。

ただ、書くだけになれるようにすること。

(掲示板記入予定)

▲シンクロ

名詞に〈わたしの般若心経〉を書くこと。

■

ヒーリング代と飲酒のこと

■

今回の人生では、粹な人生を送ること。

■ なみこさんへの返信

＞退職後は組織にいるとなかなか難しい高塚さん仰るところの「自分を生きる」事が存分にできそうですね。

いやあ、退職後は悠々自適で自分のやりたいことをすればいいなどと考えていたのですが、ストトドッコイ、トンデモハッピーで、今の仕事も続けなければ食べていけません（まあ、もし働けるとしたらこれはこれでありがたいことでもあるのですが）。

ただ、勤務回数が激減するので、退職された諸先輩の話しでは、気分がまるで違うとのことで、かなり楽になるようです。その余暇の時間をヒーリングと教室にあてる予定ということで、それへのアクアブルーさんのアドバイスです。

ということで、相変わらず組織には属することになりそうですが、まあ、そのあたりについては、成り行きで、創造主の与えてくださる機会にのっていくつもりです。

職場の一番の条件は、仕事がやりがいがある、給料がいい、残業がない、、などなどいろいろありますが、やはり人間関係ですよ。これがよければ相当な悪条件でも楽しく働けます。昔勤めた会社はそんな会社でした。

＞私も今の職場が相当に人間関係がギスギスしており、ストレスから体調を崩しがちなので退職を考えているのですが、そうすると生活が困ったことになりそうだし、迷っています(-\_-;)。でもこんな状態は「自分を生きる」事にはなっていませんね・・・。

確かにおっしゃるとおりで、そのことは自分自身にもあてはまります。ただ、お金のためにだけ働くというのは断固反対なので、どうにかして、「自分を生きる」ことにつながるよう工夫しています。

日記は実名で書いているので、仕事についてはパスしていますが、結構自分もストレスをか



かえています。一時期は同僚にマジに体調心配されました。

それはそうと、先日の「アクアブルー」さんとの会話。

へぼ塚「いやあ、本当はプラプラして人生送りたいんですよ」

アクア「(大笑いしながら) そりゃあ、みんなそうですよ」

へぼ塚には意外でしたが、皆さん、そうなんでしょうかね。あと、

アクア「そうそう、高塚さんはこの人生、粋に生きるという人生を選ばれてますね」

へぼ塚「。。。 (ゼンゼン、粋になってないですけど)。。。」

まあ、ただ、いろいろととても納得できるお話しが多かったので、お勧めです。正式の時間は分からないですが、多分 2 時間ぐらいいは大丈夫そうです。8 千円は良心的な料金設定です。

(8 月 9 日 2010 年掲示板)

高塚さんは来年退職なんですね、何とも羨ましいデス(^\_^)。

退職後は組織にいるとなかなか難しい高塚さん仰るところの「自分を生きる」事が存分にできそうですね。私も今の職場が相当に人間関係がギスギスしており、ストレスから体調を崩しがちなので退職を考えているのですが、そうすると生活が困ったことになりそうだし、迷っています(-\_-;)。でもこんな状態は「自分を生きる」事にはなっていませんね・・・。

#### ▲法然と苦界の女性



神様より仏様、仏教から入っていったこと。

翌日の土曜日に古い荷物を整理していたところ、「一遍上人語録」が出てきたこと。

松山～一遍上人～アクアブルー

8 月 6 日、7 日、8 日、9 日、10 日 2010 年、9 月 6 日 2011 年

#### ●歩行～行為への愛

歩き、行くこと。

歩き、行かないこと。

意識的に歩くこと。

意識的に歩かないこと。

健康のために歩くこと。

健康のために歩かないこと。

神聖なる矛盾としての歩きである。

あるいはまた、

念仏のような歩きである。

ただひたすら歩くこと。

それだけであること。

(掲示板記入予定)

#### ■意識のある歩き

意識的に歩くと、見たことのない景色が見えてくる。感じられてくる。

世界の声を聞いて見ることである。

#### ■

ただひたすら歩くこと。どこか、念仏に通じるところがある。

#### ●「神との対話」9～「明日の私」1（プロセス）

「明日の神」は「神との対話」シリーズの続編である。この本では、これまでの神に対する見方の変換をせまっている。これまで人が語ってきた神の本性でなく、神が語った（正しくはニールという人間を通してであるが）神の本性が示されている。——何度も書くが、この神がこの世界の創造主としての神であるかどうかはどちらでもいい。書かれていることが私の役に立てばいいだけである。あるいは、書かれていることを私が役立てればいいだけである。

人間が昨日まで考えていた「神とはこのようなものである」という昨日の神でなく、明日からはこのように考えてみたらどうかという「神とはこのようなものである」という明日の神の属性が示されている。（なぜ、変えることが必要かという、昨日までの神では世界

が立ち行かなくなっているからである。)

私がここで提案したいのは、「明日の神」をどのように考えるかでなく、「明日の神」の見方を手本にして、

「明日の私」

をどのようにするかである。

神が素晴らしい存在であるか、ろくでなしの存在であるかはどちらでもいい。この本が本当のことを言っているのかどうかもどちらでもいい。

わたしがじっくりくる「明日の私」作りに役立てばいい。

以下は、第5番目の「明日の神」、すなわち、「明日の私」である。

「神はプロセスなんですか？」

「そのとおり」

「それはたしかに、いままでとは違う定義ですね。」

「「明日の神」については、いままでと違うことがたくさんあるよ。」

「そういう神を人びとが受け入れるとお考えになりますか？」

「今日は受け入れないかもしれない。だが明日は、そう明日は受け入れるだろう。明日と言う近い未来には、受け入れるだろうね。」

「神はどんなプロセスなんですか？」

「生命だ。」

「これじゃ堂々めぐりですよ。」

「そうだよ。それが「昨日の神」と「明日の神」の重要な違いの五番目だ。

5 「明日の神」とは、単一の超弩級（どきゅう）の存在ではなく、「生命」というとてつもないプロセスである。」

「それは簡単なことじゃあないですね。神学で簡単に扱える変化じゃないです。あるひとたちにとってはとても大きな存在だし、あるひとたちにとってはやはり冒瀆だな。」

「そう、神の見方、理解の仕方についてのこの変化は世界を救うことができる。あなたがたの生命のあり方を維持することができる。」

人類の昨日においては、神を信じるひとたちのほとんどが神を超弩級の存在だと信じて、人間に似た神を心のなかに創り出した。言い換えれば、自分たちの拡大ヴァージョンだね。神についてそんなふう考えた人びとは、人間をかたどって人間に似せた神を生み出した——彼らが神の行いと言うもののちょうど正反対だ。

多くの人間たちは、神が神をかたどって神に似せた人間を創り出したと世界に語った、と言う。もちろん神が人間と同じで、ただもっと大きく、もっと壮大で、もっと強力なヴァージョンだと想像するなら、あなたがたがいまのようであるのも——不完全だが——当然であり、神は超弩級の存在、あるいは超弩級のヴァージョンのあなたがただというのは筋が通っている。

だが、神は超弩級の存在などではなく、生命と呼ばれるプロセスだとわたしが言ったら、あなたがたの神学はひっくり返ってしまう。神をかたどって神に似せて創られたのは人間だけではなく、万物すべてだということになる。

すると、あなたがたとすべてのものとの関係が変化する。すべてが一体であり、神と呼ばれるひとつのものだからだ。

これは新しい考え方ではない。「新しい考え（ニューソート）」でも「ニューエイジ」でもない。あなたがたの仲間の科学者や哲学者は、何世紀も前から同じことを言ってきた。それどころか、こここそ科学と哲学と宗教が会う十字路だ。それぞれはこの十字路を越えて、またそれぞれの道を進んで行くだろうが、ここで交差したという事実を忘れたり、無視したりすれば、その影響は自分たちに跳ね返ってくるだろう。それぞれの専門分野が不完全になり、役に立たなくなる。

「新しい霊性（スピリチュアリティ）」はこの十字路を無視するどころか、その真ん中に

堂々と立っている。

この「新しい霊性」がひろく採用されれば世界が変わることは疑いない。世界を自滅から救うことができるだろう。」

(ニール・ドナルド・ウォルシュ著「明日の神」86 ページ サンマーク出版)

神と私を交換すると、

「5「明日の私」とは、単一の超弩級（どきゅう）の存在ではなく、「生命」というとてつもないプロセスである。」

同じことであるが、より現実的な人間観に置き換えると、

「5「明日の私」とは、小さな単一の存在ではなく、「生命」というとてつもないプロセスである。」

なお、明日とはもちろん今である。

(9月6日2011年ブログ・改変して再掲)

ということで、昨日読んだ箇所の中の神の属性である。すなわち、わたしの属性である。

『明日の私』は無条件に愛する。

裁かず、糾弾せず、罰しない。」

(「明日の神」225 ページ)

なお、明日とはもちろん今である。

(8月7日2010年掲示板)

■「神との対話」10～「明日の神」(プロセス2・物質・肉体)

以下もまた「明日の神」からの引用である。

「ほとんどの人間は、地球や太陽や太陽系などの宇宙の物質を「死んだ」ものとして想像している。無生物が——要するに「岩」だ——最初の爆発……いわゆるビッグ・バンで始まったパターンどおりに時空のなかを動いていると思っている。」

「ええ、そうですね。少なくともそういうことを考えているひとたちのほとんどは、そう信じているでしょうね。」

「それは幻想だよ。そして、その幻想を生きているあいだは、その「死んだ」物質をできるだけたくさん搾取して「良い暮らし」をしようとする。それ以外の行動をとる理由がないからね。

しかし宇宙の物質が「生きたシステム」の一部だと考えて、そう体験するようになれば——実際にそれが現実だから——その「システム」とあなたがた「自身」との関係に対する考え方は変わる。

いまあなたがたは自分が生きていることを知っているが、ほかの万物も生きていると考えようになれば、自分を「もっと大きな全体」の一部として、大きなエネルギー・パッケージのなかのひとつのエネルギー・パッケージ、大きな「生命体」のなかのひとつの「生命体」、「大きな自分」の一部である「小さな自分」として体験するだろう。」

(ニール・ドナルド・ウォルシュ著「明日の神」118ページ サンマーク出版)

この話しから想起されることはまず所有の問題であろうが、ここではふれない。前日の書き込みとの関連で言えば、

われわれがビッグバンと呼んでいるある始まりから生命のプロセスをへてわれわれ人間が存在しているということである。

地球レベルでいえば、ある岩の固まりができ、その固まりがさまざまな生命の力のプロセスをへて、わたしたち人間が存在しているということである。

そして、当然のことながらこのプロセスはわたし達人間の段階が終着点ではない。岩から人ができたある力、あるプロセスをイメージできれば、肉体としての人間が終着点ではないのは自明すぎる自明である。わたし達にはまだ先があるのである。プロセスを進んでいく——正確には、プロセスを意識的に進めていく——先があるのである。われわれはプロセスの途上にいるのである。

だから、今の国土のレッテル、今の人のレッテル、今の家族、友人、会社のレッテル貼り

に汲々とし、人生をがんじがらめにさせないことである。

人もまたプロセスを生きていることに気づくべきである。バックミンスターフラーが言ったように、人は名詞でなく動詞なのである。だから、動詞を生きることが人を生きることなのである。

レッテルを貼るなら、レッテルを目指すなら、

<生命全体のプロセスを歩んでいるわたし>

というレッテルである。

そしてまた、人の肉体も生きている。それは現代人が考えるように生きているのではなく、他の岩や土や水や火や空気が生きているように生きているのである。太陽や、地球や、大地、海、山が生きているように人の肉体も生きているのである。

「宇宙の物質が「生きたシステム」の一部だと考えて、そう体験するようになれば——実際にそれが現実だから——その「システム」とあなたがた「自身」との関係に対する考え方は変わる。」

といのはそういうことである。

動詞としてのあなた、  
プロセスとしてのあなた、

このあなたと物質世界のすべてとの関係をどのようにするかということが生きるということである。

このあなたと物質世界のすべての一部であるあなたの肉体との関係をどのようにするかということが生きるということである。

世界をどのように使って生きるかということが生きることである。

そこで、最初で最後の問いが出てくる。

<あなたは何者であるか>。

<あなたは何者になりたいか>。

この問いの答えは、宇宙を死んだ物質としてみて、生物だけが生きている存在としてみて、すなわち、この世界で生きているということは心臓が動いていることとしてみて、そのような世界観で決めてもいっこうに構わない。そして、大部分の人はそのようにして自分自身を規定してきた——しかも無意識的な規定の仕方である。

しかし、もうそのような見方での自己規定では世界は成り立たなくなっている。だから、上述書のアドバイスがこれを読んでいるあなたとこれを書いているわたしにもたらされたのである。

いわば、緊急警報のようなアドバイスである。そしてまた、たぶんいつまでも有効な世界観のアドバイスである。

(9月7日 2011年ブログ)

#### ■仕事

今日、「昨日の私」であればしたことを、「明日の私」によって変えること。

(加筆して掲示板記入予定)

#### ■わたし・自己規定・選択

いつか、その時がきたらこうなる。

だが、＜その時＞の＜機会＞は今ある。

以下は、神を私に置き換えた文章です。

『明日の私』はあなたがたに仕えることを求めない。『明日の私』はすべての生命のしもべである。」

(「明日の神」208ページ)

(8月9日 2010年掲示板)

#### ●必要性

「神との対話」であなたに必要なものは何もないという。

食べ物がなくて亡くなった人は、食べ物が必要だったのではなく、食べ物が必要だと思ったから亡くなったかのもしれない。



自業自得か。

わたしが答えるのなら、それは違うと答える。

亡くなられて向こうの世界にいる本人は何と答えるであろうか。

そして、神は何と答えるであろうか。

(加筆して掲示板記入予定)

(参考)「明日の神」 218 ページ

● 「神との対話」(「明日の神」)

明日 218 ～ 「直観へ」 転記

明日 223 ～ 「あなたがたが「死」と呼ぶ条件は、死ではなく生命のべつのかたちだ。」

死によって別の形になるのではなく、生によって、生きている今に、別の形になることに  
ころを尽くすべきである。

明日 228 ～ 「それはいいことだ。答えより質問のほうがすぐれているのだから。

……

答えは創造を殺すのだよ。」

教室資料「質問」の項目に加筆して要転記

殺さないカウンセリング、殺さない会話、質問が生じる人間関係、教室

明日 230 ～

山田道美「たどりきて、いまだ山ろく」

謙虚であること

● 意識のある人生

今日必要なものはすべてある。

あるものに気づき、

それを使うこと。

動かしたことの無い手と足を使うこと。

使ったことの無いところを使うこと。

(掲示板記入予定) (意識表裏面要転記)

8月7日、8日 2010年

●わたしと私

わたしがゆるすのではなく、私がゆるせるようにならなければこの人生で生きている意味がない。

●

プロセスは完璧であり、プロセスが動き始めるとそれを変えることはなかなかできるものではない。

もし変えられるとしたら、それはひとりひとりの新たな思い、新たな言葉、新たな行為であり、もっとも強い力は、愛である。

愛は少ない量であっても強く作用する。

8月9日、10日、11日、13日、15日 2010年

●意識のある人生～選択・自他・機会

それは相手がすべきことかどうかではなく、それは私がすべきことかどうかでなく、

<それは私ができることかどうか>

と問う。

できることならする。

ただ、だまってする。

与えられた機会というものは常にそういうものである。

(8月15日 2010年掲示板) (意識表裏面要転記)

■自転車

道端に倒れた自転車がある。

これは倒した人が起こすべきである。

これは所有者が起こすべきである。

これは道路の管理者が起こすべきである。

どのような時にも、誰がすべきかでなく、私ができることかどうかを問う。

今、その瞬間は、その自転車は私のために倒れているからである。

(8月16日 2010年掲示板)

#### ■ダヴィンチの不可能

「ダヴィンチはまた、「われわれが出来ない」という言葉を使った時、その時に実はわれわれは内なるキリスト<実相、無限の能力者なる神我>を裏切ったのである、とまで言っています。」

(「ヒマラヤ聖者の生活探求」5巻27ページ)

「自転車を起こすぐらいで何をおおげさなことを言っているのか」と思われるかもしれない。この世界では確かに小さなことである。だが、それをしたことのないある個人にとっては「モナリザの微笑み」を描くことほどの大きなことなのである。

(8月17日 2010年掲示板)

#### ●「一遍上人語録」1

「一遍上人語録」(大橋俊雄校注・岩波文庫)は20年ほど前に買った本で、再読である。買ったのは結婚して、愛媛の松山に行った時、立ち寄った本屋さんで、地元「世俗の遊行人」とでも呼ばせていただければよいのか、古川雅山さんという方が一遍上人について書かれていたのが購入の動機である。

「語録」はあらかじめ読んだが、仏教に再び戻るつもりはなかったもので、捨て去る寸前で、部屋の片隅放り投げられていた。

死に臨み「一代聖教みなつきて南無阿弥陀仏になりはてぬ」と述べ、一切の書籍を焼き払ったという一遍上人からすれば、そのまま捨て去ってほしかったと言われるかもしれない。

しかし、まだ何も尽きずに生きている凡俗の身としては、もう一度仏教を学べという天からの教えとして、もう一度読み返して、つたない思いとともに記したいと思う。

(8月10日 2010年掲示板)

#### ■「一遍上人語録」2～所有

「畳一畳(たたみいちじょう)しきぬれば 狭(せばし)とおもふ事もなし」

(脚注 畳一枚でも敷く場所がありさえすればという意で、念仏者は広い場所を必要としない、念仏申しさえすればよいということ。)

(大橋俊雄校注「一遍上人語録」岩波文庫 16 ページ)

わたしの畳一畳をたずさえて生きていくこと。

では、わたしの畳一畳とは何であろうか。

そして、わたしが生きていくとはどういうことだろうか。

(8月12日 2010年掲示板)

#### ●筆ペン人生1

自由と慢心は紙一重の処にいる。

(8月10日 2010年掲示板)

#### ■筆ペン人生2

ミクシィの自己紹介を書き直そうと思って気づいたこと。慢心なしに自分を紹介するとい  
うことがいかに難しいことであるのか。

慢心なき履歴

慢心なき人生

慢心なき遊行

慢心なき称名

普通に生きること。

ただ、ただ、普通に生きること。

(8月11日 2010年掲示板)

#### ▲名号

何を語っても慢心となる。

だから、ただ阿弥陀仏の名を称えるしかないのであろう。

ただ、その念仏のなかにさえ慢心は入り込む。

怖ろしきかな、慢心。

(掲示板記入予定)

#### ■大乘と小乗

南無阿弥陀仏により慢心から離れ、ただ大きくなるしかない。  
その大きさに下の救済がある。

#### ▲筆ペン人生3

愚鈍、愚鈍であろうとしても、慢心に引きづられる愚鈍かな  
(8月12日2010年掲示板)

愚鈍、愚鈍であろうとしても、どこまでも付きまとう慢心かな

#### ■筆ペン人生4～海のしずく

しずく集まりて海となる。  
新しい海となる。

慶弔袋の表書き以外に筆を使って書くことなど、40年振りである。カウンセラーさんにアドバイスをいただいたおかげである。

「高塚さんの右手は、筆を使うのに向いています」

とのお話で、おだてに弱いへば塚はすぐ木にのぼってしまった次第である。  
アドバイスでは、「般若心経」の写経をすすめられていたが、般若心経には関心ない身としては、ただ筆を持ち、こころに浮かんだことをレシートの裏やメモ用紙の切れ端に書きとめている。

「海のしずく」とはある方のお名前である。そんな名前があるのかというと、あるのである。もちろん、この世の名前ではない。

(8月13日2010年掲示板)

#### ■石

ただの石ころだらけの多摩川河川敷では、宝石のような石があれば珍重され、持ち帰られるであろう。

逆もまた真なりである。

ただの石ころもまた持ち帰ってみることである。

その石ころからわたしを知ることができるかもしれない。

(加筆して掲示板記入予定)

●意識のある人生

何も怖れないこと。

何も嫌がらないこと。

何ごとにも受け身であれば、怖がり、嫌がって、縮こまった人生を過ごすしかなくなる。

何ごとにも創り出す気持ちであれば、

たとえ、十字架にかかる道であっても、磔刑が人類を救う行いであれば、それは怖れではなくなる。

それは人生を創り出すことだからである。

だから、いつも、どんなことに対しても、受け身でなく、人生を創り出すこと。

(加筆して掲示板記入予定)

いつもいつも振り返るべきこと。

おそれがないか。

ちゅうちょがないか。

まんしんがないか。

●意識のある人生

食べたものは完全に消化すること。

食べたものは完全に消化し、転換して、＜動詞の生命＞とすること。

転換に尽くすこと。

新たな生命に尽くすこと。

(加筆して掲示板記入予定)

●時事～半分の水

高齢者には半分の水がいつも支給される。

8月10日、13日、17日2010年

●筆ペン人生

朝一番、

太陽を見上げる。

夕一番、

太陽が見守る。

■わたし

月の光、夢か現か

●「一遍上人語録」3～わたし

「又云、『随縁雑善（ずいえんぞうぜん）、恐難生（くなんしょう）《随縁の雑善をもつては、恐らくは生じ難し》』といへる。随縁といふは、心の外に境（きょう）をおいて修行するなり。よその境にたづさはりて心をやしなふ故に境滅（きょうめつ）すれば成就せず、是酢即（これすなわち）自力我執の善なり。これを随縁雑善といふ」

（80 ページ）

（脚注） 随縁 堂塔を建立したり、仏像を造立したりする善根を指す。虚偽の善。

グルジェフならば「神秘修行においては自己伝授しか存在しない」と言うであろう。あるいは、積極的な意味では、「宇宙はあなたからの負債を必ず返さなければならないようにできている」というであろうか。こちらは随縁の雑善と似ているが、それとは似て非なるものである。

随縁の雑善の悲しきところは、報酬を期待することである。

こころの外を住処として、住処に精を出してもこころが養われるわけではない。

住処に精を出してこころが養われるとしたら、それは住処を住処としない時である。

■自他・存在

善行というものは、報酬など意識しないものであり、その意味では名号ととても似ている。

普通がよいとは普通には報酬がないからである。報酬を意識し得ない行為だからである。

■「明日の神」

「本を読んでも外におくな」という話し。

この語録を読んだ私自身についてもいえる。

■出発点

熊野権現による諫め～慢心への諫め・行為への愛の逆への諫め

8月11日2010年

●筆ペン人生3

遍在する気とともにいること。

「気」を他の言葉に置きかえてみる。

今回はサイババ氏の話が出た。前回は神様の話が出た。

無報酬で

8月12日、13日、14日、15日2010年



なぜ南無阿弥陀仏が敷衍しないか。

ひとつには、時代に生きる人がいない。

ひとつには、法然のような傑物がいないからである。

●「一遍上人語録」3

「又云、念仏の機（き）に三品（さんぽん）あり。上根（じょうこん）は、妻子を帯（たい）し家にありながら、著（じゃく）せずして往生す。中根は、妻子をすつといへども、住所と衣食（えじき）とを帯し、著せずして往生す。下根は、万事を捨離して往生す。我等は下根の者なれば、一切をすてずは、さだめて臨終に諸事に著して、往生を損ずべきものなり。よくよく心に思量すべし。」

親鸞の「善人なおもて往生す。いはんや、悪人をや」という話を想起させるような話しである。

普通感覚では、すべてを手放し、出家、修行するような僧を「立派な人」と思いがちであるが、一遍上人は逆であるという。救いがたい人間であるがゆえ、すべてを捨て去り、「南無阿弥陀仏」の名号によって救われるというのである。

手塚治虫の「火の鳥」の火の鳥の羽を使って病気を治す尼僧の話もまた同じ内容を含んでいる。魍魎魍魎の世界まであらゆる存在の病者を治すという側面だけをとらえれば、立派な所業に思われるが、尼僧の「親殺しの因縁の一環として存在する病気直し」であるということを考えれば、

<それだけによってしか救われない行い>



なのである。

どのような人にも、ひとりひとりの名号、

「南無阿弥陀仏」

がある。誰もがこの名号によって生きているし、救われるのである。自身の「南無阿弥陀仏」に気づき、慢心することなく、ただ生きることである。

(8月14日2010年掲示板)

8月13日、14日、15日2010年

●忘れえぬこと

忘れることができるなら、忘れてもよい。忘れてはいけないことなどない。

ただ、忘れずにはいられないこと、このことがあるだけだ。

それは、

ひどいことをしたことと  
親切にしてもらったこと

である。

(8月14日2010年掲示板)

●「明日の神」

332 ページ

「子どもたちに」を「大人たちに」へ置き換える。

■明日338

「子供の行動を変えたいと思うなら、批判したり罰を与えてもうまくいかない。まして、子供が前向きの自己像を形成する手助けをしたいのなら——念のために言うておくが、前向きの自己像をもとにして、はじめて子供は楽に行動を変えることができるのだよ——批判や罰なんてとんでもない。

あなたがたは子供にある行動をやめさせたいだけでなく、行動を変えさせたいのだろう。この二つは違うよ。罰は、あるいは罰を与えるというおどしは、とりあえずはある行動を

やめさせる効果はあるかもしれない。でもすぐに、その行動はくり返されるだろうね（親も校長も、よく知っているはずだ）。なぜなら罰は行動をやめさせても、変えさせはしないからだ。」

●意識のある人生～必要性

今日一日、どのようなことであれ、

「これは必要だ」

と思った時に、

「これはなくとも生きていける」

「これはもっと少なくとも生きていける」

と、心を置きかえてみることである。

「これまでのわたし」と「これまでの世界」を変えるためである。

(8月19日2010年掲示板)(意識表裏面要転記)

■教育

必要がない身体

必要がないところ

を作り出してみる、そのような心身を再構築してみる。

8月14日2010年

●身体

もしかして、早寝早起きの就寝時間帯と地球・太陽の位置とは何か関係があるのかもしれない。

●

南無の道を虚飾の幸せで飾ることはできない。

その道はつらく感じることもあるかもしれない。

8月15日、16日、17日、18日、30日2010年

●筆ペン人生6～宇宙の人

太陽とともに

月とともに

星とともに

そして、地球とともに生きる。

いつも裸の宇宙飛行士として生きていること。

つまり、宇宙人であること。

(8月17日 2010年掲示板)

■筆ペン人生7～意識のある人生

宇宙の人として、今、何ができるか。

永遠の生命のある人として、今、何ができるか。

いつも、自分自身の時間感覚と空間感覚を広げて、今、何ができるかを考え、旅することである。

きっと違うことができ、違う旅をすることができるはずである。

(8月18日 2010年掲示板) (意識表裏面要転記)

●筆ペン人生9～<変容>

炎の形、雲の形のような、たった一度だけの書。

たった一度だけの一日。

(8月30日 2010年掲示板)

●神聖なる矛盾～月の真理

朝8時過ぎ。外は明るい、空を見上げると、月がぼっかり浮かんでいた。

お月様が光っている。

月が光って見えるのは、太陽の光が反射しているからである。

ふたつの真理を生きたこと。

ふたつの真理を感じることに。

(8月30日 2010年掲示板)

8月16日、17日 2010年

●筆ペン人生5～モノ

スピリチュアル・カウンセラーのアクアブルーさんにお勧めいただいた三種の神器は、

「早起きの瞑想」「ウォーキング」「筆ペン人生」

である。他にもいろいろあったが、実生活で生かせそうなのがこの三点である。そもそも人のアドバイスなど聞く耳をもたぬへぼ塚にとって、三つもアドバイスを受け入れて実践するというのは画期的なことである。

アクアブルーさん、ありがとうございます。

筆ペン人生を送るようになってよかったことは、メモ用紙が即ゴミ箱入りにならずに、裏とか、場合によっては表も筆ペンで利用できることである。モノに関しては、

<使い尽くす>

ことを心がけている身としては、以前よりも使い尽くしているという意义があり、ありがたいことと思っている。

だが、どれほど使い尽くそうとしても使い尽くすことができないというのがモノである。

これは本当に不思議なことである。

この世のモノはないがしろにすることはできても使い尽くすことはできないのである。

はたして、いつか使い尽くすことができる時がくるのであろうか。

(8月16日 2001年掲示板)

●筆ペン人生8～行為への愛

アクアブルーさんは

「筆ペン人生を送るようになれば、体もよくなります」

とおっしゃられていたが、これはどういうことか分からない。

使われるべき身体を使うから体の他の部分にもよい影響が現れるということなのだろうか。

正直、分からないし、また、どちらでもいい。

筆をとるのは目的があつてのことではないからだ。

(8月19日 2010年掲示板)

●映像

勉強も読書も復習が大切である。

復習せずにはなかなか身につかない。

一日もまた復習が大切である。

一日の終わりに、一日の体験をリアルに振り返ってみること。

●片付け

片付けをして感じたこと。

意志がある線をひいてはかどることである。

片付けにも意志が存在するかどうかで、まったく違うものになる。

8月17日、30日 2010年

●筆ペン人生～動詞

心のある人

心を生きる人

姿なき心ある人

姿なき心を生きる人

姿なき心

姿なき人

その心、その人を生きること、

見ていること。

(掲示板記入予定)

8月18日、19日、20日、22日、30日 2010年

●質問55～イエスのまなざし

菅直人さんが総理大臣をしていると、本当はどのような人かは別として、相対すれば緊張する。

菅直人さんが清掃人をしていると、本当はどのような人かは別として、相対すれば上から目線になる。

菅直人さんがどのような職業でいても、本当は神様の子どもだとしたら、神様の属性をすべて持っているとしたら、上から目線も下から目線も一切なく、相対すればただただ混乱するであろう。何がなんだか分からないであろう。

そう、何がなんだか分からないものとして、相対する人すべてを一から見直してみる。文字通り、ただ、見直すという意味で、見直してみると、人は別様にみえてくるかもしれない。大切なこととどうでもいいことがはっきりとしてきて、人がなぜそのようなことをしているのかが分かってくるかもしれない。

ところで、神の子であるとはどういうことであろうか。

(8月30日2010年掲示板)

●意識のある人生～一意専心

こころの舞台に

似非「瞑想人」を登場させないこと。

似非「誰だろう瞑想人」を登場させないこと。

どんなことであろうと、「似非の私」を人生に登場させないことである。

8月19日、20日、21日、25日、26日、30日2010年

●質問54～＜印象＞

グルジェフは人間には三つの食べ物があり、それは、

- 1 いわゆる食物
- 2 空気
- 3 印象

で、食物は一週間食べなくても生きていける。空気は1分間食べなくても生きていける。しかし、印象は一瞬たりとも途絶えては生きていけないと言った。

昨日は猛烈に消耗していた。朝寝、昼寝としたが元気が出ない。もちろん、とことん寝れば、あるいは、何日か何時間がたてば元気になるのは確かである。どういうメカニズムか分からないが、必ず回復するようにできている。

ただ、昨日は「明日の神」(「神との対話」のシリーズ9冊目の本)を読んでいるとただちに元気が回復した。何か気のきいた言葉を読んだというわけではないが、本を開いて読み始めたら元気になったということである。

グルジェフの言うように、印象は一瞬たりとも途絶えては生きていけないというのであれ

ば、どのような印象を入れているかということは実に大きな問題である。

何もわたしは神に関する本を読んだり、仏典を読んだりすることがいい印象を入れることとは言わない。ただ、一人ひとりが元気になる印象というものが必ずあるはずである。その印象にできるだけ多く、いや、常にふれておくことである。

元気であるというのは、生きていく根幹であるからだ。

ここで、質問。

あなたを元気にしてくれる印象とは何であろうか。

そして、その印象をあなたにあげてみてはどうだろうか。

(8月20日2010年掲示板)

■みっちゃんさんへの返信～愛と自由

みっちゃんさん、おはようございます。

書き込みいただき、ありがとうございます。

「愛」について語ることは今の私にはできないので、「神との対話」の衝撃的な言葉を引用させていただきます。

「では、まさかと思うようなことを、もうひとつ教えてあげよう。

わたしはつねに、あなたにとって最善のものを与えている——ただし、あなたは必ずしもそれに気づいていない。」

(「神との対話」文庫本3巻34ページ)

おそらくこのことが——最善のものを与えられていることに気づいていることが、もしかして、

> 「愛」に愛されていることを受け入れている

という感覚なのでしょうか。

そうだとしたら、私もこのような気づきをもち、ひとり相撲の考え、軽率な言葉・行為に注意をはらいたいと思います。

愛について語ることはできませんが、＜愛＝自由＞としての自由であるなら少し分かります。みっちゃんさんの「愛」を「自由」に置きかえて、

＜自分が自由である存在であることに気づき、受け入れている、そして、自由を愛し、自由に生きている＞

これはわたしにとって最高の状態です。この自由を少しでも感じる事ができれば、元気百倍ですね。そして自分自身で満ちたり、この世界で出会う存在すべてに笑顔を向けたいくなります。

> 忙しくてそんなことをすっかり忘れていた時には心も身体も疲れた感じになってしまいます。

そう、問題はこういう時です。こういう時にどうしたらよいか、その一助となるために掲示板にずっと書き込んでいるのですが、やはり最後は自分自身の足で歩くしかないと思っています。

(8月21日 2010年掲示板)

> あなたを元気にしてくれる印象とは何であろうか。

「愛」に愛されていることを受け入れていて、そして自分も「愛」を愛している、そんな印象を意識している時には身体を動かすにも軽く感じられます。

忙しくてそんなことをすっかり忘れていた時には心も身体も疲れた感じになってしまいます。

#### ■みっちゃんさんへの返信～質問

みっちゃんさん、こんばんは。

返信いただき、ありがとうございます。

知っている限りの科学的真理の完璧さ、数学の真理の不可思議さに思い至れば、不可解な死、無惨な死、無意味な死、……などという形容詞のある死などはないというのが自分の立場です。



こころが傷む時というのは、

ただ、知らないことがあるだけであり、  
そして、そのことは知ることができることがあるということであり、  
そして、その知ることを通じてある明るさに至る喜びがあるということである

というのがわたしの常なる立脚点です。  
だから、分からないで終わりにほしくないということです。

「人間とは質問のようだ」といわれた方がいらっしゃいますが、まさしく、質問、疑問を通じて人は大きくなっていく、深くなっていくものだと思います。

わたしは掲示板で禅問答のような疑問を投げかけていますが、できれば、その書き込みを契機にされ、ご自分自身の質問、疑問が生じてくるのがわたしにとって一番ありがたいことです。

そう、子供のようにです。

わたしは今日子供であったのだろうか。

もしかして、大人のふりをしていなかったらどうか。

知らないことを知らないと言う機会を、すなわち、疑問を通じて新たに知るというとてもなくありがたい機会をないがしろにしてしまったのではないだろうか。

いつも不思議を見つけた子供の目のようでありますように。  
いつもゴッホの迷える筆のようでありますように。  
いつもアインシュタインの悶える数式のようでありますように。

(8月22日2010年掲示板)

早速の返信をありがとうございます。  
言葉足らずですみません。

> 最善のものを与えられていることに気づいていること

まさにぴったりのお言葉です。

(じつは、半年前、姪が自死してしまい、その時にはさすがにそれが最善のものとは思えませんでした。

でも、これが最善だったと思えるようになるには・・・??

そう考えることの大切さを実感させてもらいました。

そしてそう考えるためには、瞑想によって「愛」をイメージすることの大切さも。)

今の私にとっての「愛」は、神とか、この世界、自分自身、そしてあらゆる存在の根源、と いったイメージがあります。

また、すべてを包み込む、すべてが包み込まれる、といった感じも。

<<愛=自由>

そうなのかもしれませんね。

忙しい時など、つい、「こうあって欲しい」という思いに捕われがちです。

> そう、問題はこういう時です。こういう時にどうしたらよいか、その一助となるために掲示板にずっと書き込んでいるのです

ありがとうございます。

掲示板を拝見するのを日課にしていると、ふとした時に、姿勢を正そうとする感じと一緒に高塚さんのお言葉、浮かんできます。

#### ■愛と自由～グルジェフの愛の定義

何度も引用してきたが、何度も読む価値のある話しである。

グルジェフが愛について尋ねられた時の話しである。

人々の間——一人ともう一人の人と——の適切な、客観的な道徳に基づいた愛について説明を求められたとき、グルジェフは答えた。

「他の人が、その人自身に必要なことをするのに助けることができるほどに、あなた自身を発展させる必要があり、たとえ、相手の人がその必要性に気づいていないときでも、また、あなたにとって不利なことになっても、助けることができなければならない。この意味においてのみ、道理に適切にかなった愛と言え、真の愛の名に値する。」

彼は、さらにつけ加えた。たとえだれにも劣らぬ心積もりでも、たいていのひとは、積極的に人を愛することにかけてはあまりに臆病であって、相手に対して何かをしようと試みることさえ恐れる——愛が恐るべき一面をもっていることの一つは、相手がある程度助けることはできても、その人のために実際に何かを「する」ことはできないということである。「ある人が歩かなければならないときに、その人が転んだなら、起してあげることはできる。だが、その人にとっては、もう一步踏み出すことが空気以上に必要であっても、その一步は、その人が一人で踏み出さなければならない。その人に替わって、もう一人の人が、その一步を踏み出すことは不可能である。」

(フリッツ・ピーターズ著「魁偉の残像」261 ページ めるくまー社)

「あなたの愛」は相手を立たせてあげるところまでである。

相手が一步踏み出して歩くかどうか、この<自由>は相手にある。

「あなたが愛と呼ぶ愛」は相手の<自由>を超えることはできない。

<自由>は「人々が呼ぶ愛」よりも大きなものだからである。

あなたのいかなる器も相手の<自由>を入れることはできない。

(8月25日2010年掲示板)

#### ■名詞と動詞

愛を器にしてしまわないことである。

愛は自由になることができる。

愛を器という名詞でなく、自由に動くことのできる、変身することのできる動詞にすることである。

これは<行為への愛>と呼ばれるものであり、結果を求めずに行為することそのものを愛することであり、愛の本質である。

なお、愛はわたしと置き換えることができる。

(8月26日2010年掲示板)

## ■ 自他

あなたが自由に愛せるように、相手も自由に愛せる。

あなたの愛を肯定することである。

相手の愛を肯定することである。

あなたが自由に愛さないように、相手も自由に愛さない。

あなたの愛のなさを肯定することである。

相手の愛のなさを肯定することである。

(掲示板記入予定)

肯定するとは、あなたが自由になり、相手を自由にしてあげることである。

<自由>とはいわば動詞であり、いかなる名詞も超えて存在するものだからである。

相手が歩むことを望むことは、実は愛ではない。

立たせてあげて、ただ見守ることだけが愛などである。

「神との対話」のイエスの愛

## ■ へぼ塚の「元気の素」変遷

生きていること自体が元気の素であった

長距離走で早いタイムを出すこと。

テストでいい成績をとること。

皆さまも自分自身の「元気の素」の変化をたどってみられてはいかがでしょうか。

おそらくは今の「元気の素」も永遠のエネルギー源とはならないであろう。

科学的真理

囲碁・将棋

飲酒、風俗の歌舞伎町。

モノをたくさん持っていること。

お金をたくさん持っていること。

持ち家。

会社のために働くこと。

家族のために働くこと。

## ■人間

質問と動詞

### ■表現される印象

元気であることからわたしから出て行く「印象」というものもまたある。

これはバカにならない。

### ●一遍上人語録

一遍084～「又云、

一遍085～「又云、自力の時、我執驕慢（がしゅうきょうまん）の心はおこるなり。其ゆゑは、わがよく意得（こころえ）、わがよく行じて生死を離るべしとおもふ故に、知恵もすゝみ行もすゝめば、我ほどの知者、われ程の行者はあるまじとおもひて、身をあげ人をくだすなり。他力称名に帰しぬれば、驕慢なし、卑下なし。其故は、身心（しんじん）を放下（ほうげ）して無我無人の法に帰しぬれば、自他彼此の人我なし。田夫野人・尼入道・愚痴・無智までも平等に往生する法なれば、他力の行といふなり。般舟（はんじゆ）讚に「三業起行多驕慢《三業の起行は驕慢多し》」といふは、自力の行なり。「単発無上菩提心、廻心念念生安楽《単（ひとえ）に無上菩提の心を発（おこ）し、心を廻（めぐ）らして念々に安楽に生ぜよ》」といふは、三心をすゝむるなり。自力の行は驕慢おほければ、三心をおこせとすゝむるなり。」

## 85 ページ～行為への愛

何も求めぬ瞑想へと通じる

↳意識の働きの停止（ヨガナンダのヨーガの定義）

明日の神 419 ページ～420 ページ

## 86 ページ

自他の一体・動詞

8月21日、22日、24日、25日 2010年

●「神との対話」4

神仏に対してどのような見方をしているかというのは、

他者をどのように見ているか、  
社会をどのように見ているか、  
生きとし生けるものをどのように見ているか、  
世界をどのように見ているか

ということに通じる。

したがって、神仏への新たな見方をとることが新しい世界観に道を開き、教育にもまた新たな変化を引き起こすであろうというのが、「明日の神」の 21 章で述べられていることである。

以下は同書からの引用であるが、「子供」は「大人に」置き換えることができる。

「『明日の神』は子供たちに、失敗を恐れることはない、なぜなら**神の王国には失敗などというものはありえない**のだから、と教えるだろう。ほんとうにあるのは**努力**だけで、努力こそがすべてであり、大切なのだと、なぜならどんな努力もみな**生命／人生そのものを前進させる**のだし、**生命／人生は前進**することを切望しているのだから、と教えるだろう。」  
(ニール・ドナルド・ウォルシュ著「明日の神」332 ページ サンマーク出版)

すべての大人は気づくことである。

<世界にあるは失敗ではなく、努力である>

ということを。

そして、このことをあなたの大人とあなたの子供に教えることである。

(8月22日2010年掲示板)(意識表裏面要転記)

■

>世界にあるは失敗ではなく、努力である

この世で失敗と呼ばれているものがあるのは、それを乗り越えるためにある。

選択の間違いは、失敗ではない。

その時には、そうするしかなかったのだ。

だから、その選択の間違いに気づいたときに今までの選択を否定し、変えればよい、

選択の間違いは終わりではなく、そのあとがある。失敗と呼ばれるものは<新たな人生>にとってはプロローグでしかない。これまでの人生がつまらなくなったら、<新たな人生>に早く歩み出すことである。

そのためには、これまでしたことのない努力が必要になる。

それはつらいと感じることかもしれない。

だが、乗り越えれば、視野が広がり、別の世界を見ることができる。

(掲示板記入予定)

明日 3 3 6 ~



自由の反対萎縮

●意識のある人生～入れ換え

日常生活で、

——水中から水面に浮かんでくるあわのように——

ふと浮かんできた、あらゆる気づきの瞬間に、

「今のこの考え」

とは異なる

<新たな考え>

をしてみることができないかどうか、問いかけてみる。

すなわち、こころを入れかえてみるができないか問いかけてみる。

(8月24日 2010年掲示板)

今は何の時であるか (「神との対話」)

どのような自堕落な人生も、唾棄すべき人生も  
今生きているどんな人生も肯定される。  
それはそのような生き方しか今はできないからだ。

●筆ペン人生

心の入れ換え

心の呼吸

宇宙の呼吸

働かなくともよい人生

働かなくともよい人生であるが、働く人生

選択の困難さを知る人生

8月22日、25日、28日、9月21日2010年

●意識のある人生～教室質問

条件反射でしゃべらないこと。

口は災いの元だからではない。

「考えがなく話すこと」が愚かしいからである。

ブリキのロボットである人はそれでよい。ブリキのロボットの幸も不幸もあるだろう。福も災いもあるだろう。それはそれでよい。私もずっとそのような人生であった。

だが、1対1対応するブリキのロボットから自由意志のある存在、すなわち、人となるためには、自由意志を行使することである。

そのためには条件反射で話さないことである。

(掲示板記入予定)

では、ブリキのロボットではなく人として話すにはどのようにして話すのがよいのであろうか。

シュタイナー相手が一步進むために。



話しの流れにのること。

●ヒーリング

ヒーリングを必要としている人。

2億円払うからその能力を伝えてもらいたいと言った人がいた。

2億円払うから看病する人間にその能力を伝えてもらいたいとは言わなかった。

何が欲しいのか。

ヒーリング能力がほしいのではなく、

人よりすぐれているというしるしがほしいのか。

よくよく自分自身を振り返ってみることである。

■

いつも、いつもきれいなヒーリングだけではない。

あらゆる人の営みと同様な、あるいはそれ以上の腹立たしいことはいくらかもある。

能力ゆえに悪人に陥ってしまうということもあるのである。

8月25日、9月21日 2010年

●シンクロ

Hさんの火事と自分自身の片付けをシンクロさせること。

～シンクロしているのでなく、シンクロさせる。意味をつける。

8月26日、28日 2010年

●エネルギー

人間関係はどのような関係であれ、エネルギーの交流という一側面がある。

■語りかけられるエネルギー体でいること。

表現できるエネルギー体でいること。

■食料としてのエネルギー体

いわゆる食料

太陽エネルギー

気のエネルギー

山田鷹夫がいうところの不食により生じるエネルギー

気功治療・遠隔治療での関わり

■

エネルギーがどのように受け取られるかでなく、どのように表現できるかということにこころを尽くす。

(参考)「神との対話」3巻23ページ

8月27日、28日2010年

●抱負～永遠の抱負

「一年の計は元旦にあり」ということで、元旦に抱負を述べ、よりよい一年を目指すだけでなく、毎日のように抱負を思い出し、反芻している。以下は、いつも持ち歩いているメモである。

---

<永遠の目標>

すべてを知ること。すべてを体験すること。すなわち、永遠の創造者であること。

この創造とともに、わたしのプロセス(=道)を楽しみ、神のプロセスを楽しむこと。

苦しく感じるがあっても、ひとつひとつの選択を楽しむこと。決断を楽しむこと。そのような旅人であること。

---

実は「すべてを知ること」というのは、十代の目標でした。。若い時は無謀です。この人生ですべてを知るとなると還暦に近くなれば考えませんが、十代の時には、

「できない」

などということには、露の先ほども考えもしませんでした。

「知ること」に「体験すること」と追加したのは、「神との対話」を読んで、神と人間との関係、この人生の意味を知ってからです(人間は完全なる神ではできなかった「完全を体

験する」ために存在しているということですが)。

この知ることは、やはり、1回の人生で達成されることではなく、永遠に続く探求、体験のようです。

探求に終わりが無いというのはつらく感じられることではありますが、実は探求は創造であり、創造が永遠に続くというのは、不可思議ではあっても、落胆することではありません。

数学のある問題が永遠に解けないということであれば、これは落胆すべきことですが、数学で様々な問題に気づき（もちろん、幾何級数的に困難な問題となる）、それを解決するというのが永遠に続くというのは、これは数学が好きであれば、楽しいこと以外に何ごとでもありません。

このことは成長であるからです。メビウスの輪をたどっていることではないからです。

ところで、すべてを体験するという、この体験とはどういうことでしょうか。

(追伸)

皆さまも、ご自分の永遠の目標を立ててみませんか。

50年、60年でなく、何百年、何千年、何億年の目標です。

(8月27日 2010年掲示板)

#### ■体験

>ところで、すべてを体験するという、この体験とはどういうことでしょうか。

何をもって体験というか、これはひとりひとり異なる。

以下は、あくまでも現時点での私の「これがあれば体験といえること」である。

- 1 ころがあること。
- 2 ころを尽くすこと、エネルギーを尽くすこと。
- 3 何をしているか知っていること。すなわち、自由であること。

この三点を満たしている時が今の私の体験である。

3が一番難しいが、実はどれも難しい。

(8月28日 2010年掲示板)

1のころがあることというのは一昔前の言葉では、情があるということである。  
黒住教の教祖黒住宗忠が言った、

「人情深くその情に迷わぬが道なり。」

その人情である——それだけではないところがあるが……。

尽くすことというのは市野氏を手本とすること。

体験は天と自分自身への貯金である。

(参考) 黒住宗忠

### 052～<心をいたためぬこと><人情深くその情に迷わぬが道なり>

しかし、心をいたためぬ事が大切だと言っても、宗忠の意味するところは、世の俗事に超絶としていたりとか、人情の自然に逆らうとかいうことによって、そういう状態を実現することではなかった。或る時、親を失って悲嘆にたえぬ旨を訴えた人があったが、宗忠はその人にまじない（霊的治療）を授けたのち、

「長々の御看病ゆえ、御疲労と御愁傷にてさぞ御腹がこわばりてあらんと思いの外、御腹中何のおさわりもなく、下腹の力平生に異なることなし。感心致せり。」

と言い、且つ次のように述べた。

「親子の情にて悲しみは深けれども、これにつけ後や先を苦にして心を傷めざる故、身体のおさわりにならぬなり。人情深くその情に迷わぬが道なり。草のよく生える田地には米麦も出来、草も生えぬほどの瘦田（やせた）では米麦も出来ぬものなり。人情知らぬは人間に生まれし甲斐なし。」（逸話32）

要するに宗忠の考えでは、心をいたためぬということは、心をいたためそうな事柄を眼を瞑（つむ）って避けることではなかった。「人情深くその情に迷わぬ」ことこそがその要訣であったのである。しかもかつて一度は宗忠自身にとって、親を失った悲しみは自身を死に瀕せしめるほどの痛嘆であったのだ。そのドン底から「天命直授」によって立直ることのできた宗忠が、ここに「人情深くその情に迷わぬが道なり。」と喝破するに至るまでには、その内心にどれほどの苦闘が秘められていたことであろうか。

### ●意識のある人生

かならずしも楽しいことではないかもしれない。

もしかしたら苦しいことかもしれない。

乗り越えるのに勇気のいることかもしれない。

しかし、そのことが、

わたしが前に進むことができることなら、

生命が前に進むことができることなら、

その一步を踏み出してみることである。

(掲示板記入予定)

#### ●子ども

あなたは子どもを育てていると思うかもしれない。

しかし、あなたの子どものする全てのことは、あなたを育ててくれる。

子どもは外にもいるし、内にもいる。

(掲示板記入予定)

#### ●食物

大根おろし。

今なら食べれるものがある。

今なら食べれるもの、今食べるべきであるものを食べてみることである。

(加筆して掲示板記入予定)

#### ●時事～わたし・自他

二人は他人の気をひこうとするが、

私はわたしの気をひきたい。わたしの気をひき、わたし自身を表現したい。

二人は他人を引っばっていこうとするが、

私は生命そのものに仕えて、生命を支え、育み、育てていきたい。

外に目が釘付けになったときこそ、

もっとも大きなもの——生命を見るべきである。

もっとも小さなもの——内側を見るべきである。

(8月28日2010年掲示板)

(参考)「明日の神」 207 ページ

●「明日の神」

2 2 1～生命

生命は

機能・適応・持続

2 2 3～

生命の別の形

└生命でいることとは。。。形でいることとは。。。

2 2 8～質問

2 3 3～瞑想・熟慮・反省

8月28日、30日、31日、9月2日、8日 2010年

●時空

時間などないのかもしれない。

エントロピー増大とから感じられる時間。

初期条件の問題。

■

28日市野さんの話し～もう後戻りできない

29日「ノウイング」の内容～数字に着目すること

└映像から文字へ

映画「ベンジャミン・バトン」

人の成長とは、エントロピー減少、初期条件に向かうことであると言えるかもしれない。

生命の機能 (<機能・適応・持続>の意味で) とはエントロピー減少にあるのかもしれない (モノも同様である)。

宇宙は物質としてはエントロピー増大へと向かっているが、人間としては (宇宙人としては) エントロピー減少へと向かって、時間が反転する初期条件へと向かっているのかもしれない。

れない。

●美点

美点とは美を点（とも）すことである。

点すことであり、点されることではない。

（掲示板記入予定）

●筆ペン人生～意識のある人生

今日一日、言葉でないコミュニケーションをこころがける。

テレパシーを用いるということではない。

こころがあるということである。

（掲示板記入予定）

●アクア・ブルー

アドバイスの全てをきくわけではない。

この人生は私の人生だからである。

■

杉浦氏のよいところ。

書き留めておくこと。

自分自身もそうすること。

●遠隔治療

福川氏

高柳真理子氏

●質問・疑問

飲酒

一体

行為への愛

●参加費

大切なことを話すので、会費は10万円です。

何も与えることはできないので、無料で、お茶菓子を出させていただきます。

●神と人間

神がしなくて人がすること。

神ができなくて(?)、人ができること。

悪事。

●意識のある人生～時空

二日前の新聞には感情がないが、二十年前の新聞には感情がある。

二日前の新聞にも感情を持つためには、二十年間、二百年間のタイムスケールで生きることである。

いつも長く、広い人生の視点を持っていることである。

(8月31日 2010年掲示板)

名詞の私は二日前の新聞である。

●

政治屋が自分のことだけしか考えていないように、私も自分のことだけを考えよう。

政治屋が他人のことを考えているふりをするようには、私はしない。

●仕事

苦情電話で困っている時には、

相手を自分であると思うこと。

●自他・わたし

戦争反対を叫び、大声で論争する人は自分が戦争をしていることを知らない。

(8月28日 2010年掲示板)

8月30日、9月2日 2010年

●教育～大きい視野

●意識のある人生

最近夢うつつでよく映像を見る。

映像記憶を強化してみる。



(参考) ヨガナンダの馬

●時空

意味の観点からは、人は一日単位、一ヶ月単位、一年単位で動いていないこと。  
このことをよく考えてみること。

ちょっと違うが、グルジェフの目覚まし時計。

脱皮の時間。

●質問

<機能・適応・持続>とな何か。

●「神との対話」

3巻26ページの「神の子」とはどういうことだろうか。

●自他

互いが違うと思って会うのか。  
互いが自分だけのことを思って会うのか。  
互いが共にあると思って会うのか。  
互いが相手の立場に立って会うのか。

その思いによって、

相手と会う・世界と会う・・・

8月31日、9月2日、6日、20日2010年

●意識のある人生～一意専心

今日は夜勤で深夜の電話番の日である。  
これに臆することなく、  
それまでの時間、すべての時間に全精力を費やすこと。  
そして、残りかすで夜勤をするのでなく、夜勤も全精力を費やすこと。

これから、9時まで全力を尽くすこと。  
これから、10時まで全力を尽くすこと。

.....

全力を尽くしきることから生まれてくるエネルギーがある。  
使い切ることによって生まれてくるクリーンエネルギーがある。

(参考) グルジェフの超努力・「不食」から生じるエネルギー

■不安にかられて自己規制しないこと。

■1 分間の全身全霊と 1 分間の俯瞰

■意識のある人生

人生はこれからの 1 時間をどのように使うかによってまったく違ったものになる。

(9 月 6 日 2010 年掲示板)

- 1 何をするか。
- 2 意識的にするか。
- 3 エネルギーを費やすか。

1 は時に思い通りにならないかもしれないが、2 と 3 は常にできることである。  
そして、2 と 3 によってだけでも 1 は全く異なった 1 となる。

(9 月 20 日 2010 年掲示板)

## ★9 月 2010 年

9 月 1 日、2 日、3 日 2010 年

●「神との対話」～<わたし>

「すべてのひとは特別であり、すべての時は黄金である。」

(ニール・ドナルド・ウォルシュ著「神との対話」1 巻 19 ページ サンマーク出版)

あなただけが特別なのではなく、あなたの隣の人も特別である。  
あらゆる瞬間に、このことを銘記して忘れないこと。

どのような立派な人であれ、その人だけが特別なのではなく、あなたもまた特別である。  
このことを銘記して、あらゆる瞬間を特別に生きること。

(9月2日 2010年掲示板)

●「神との対話」3巻26ページ

一般的日本人は「わたし(神)」を「世界」に置きかえて読む。

●意識のある人生

体に関する固定観念を捨てて、<使う>こと。

すなわち、常に動詞でいること。

同時に体をいたわること。

- 1 疲れたら休むこと(ただし、予め休んだりはしないこと。似て非なるもの)

9月2日、4日、7日、11日、20日 2010年

●<生きるコア>～不動産売買・時事(民主党選挙)

民主党党首選挙の政策が出てきたが、自分自身への政策——生きていくためのコアとなるもの——を考えられてみてはいかがだろうか。

この「生きるコア」にいつも立ち返り、

この「生きるコア」から常に人生を選択するのである。

大きい選択も小さい選択でもある——ただし、本来、選択に大小はない——。

わたしの場合は、とりあえず(欲張りなものでまだまだあるが)、

- 1 モノも機会も持たずに使うこと(持つことの損得計算から考えないということ)。
- 2 何ごとも怖れないこと(すべてはうまくいっていると感ずること)。
- 3 生命のためになることをすること(他者・生物・モノ、そして自分自身に対して)。

このコアは守るために書いたのではない。

自分自身、真に納得できることを書いたのである。納得できるものは、守られる。。。とい  
うか、その人の属性となるものである。

(9月3日 2010年掲示板)

●筆ペン人生

人を尽くし、

時を尽くし、

天に生きること。

■意識のある人生～一意専心

今は、  
何の時であるのか、  
その時に専心する。  
こころを尽くす。

時を変容させるほどに。

●筆ペン人生

旅  
遊びの心

生命を生きること

└機能・適応・持続

●「神との対話」

「人類にとって良いことか悪いことかを知る物差しが欲しいのなら、単純な質問をしてみるといい。

誰もがそれをするようになったらどうなるか？

これは、とても簡単な、非常に正確な物差しだ。」

（「神との対話」3巻文庫本版 247 ページ）

今日、私が思うこと、今日、私が言葉に出すこと、今日、私がすること。

これらを

<誰もがそれをするようになったらどうなるか？>

と考える。

おそらくは大変なことになることだろう。

<誰もがそれをするようになっても>

<誰も困らないこと、誰もが満たされること。>

そのことは私にとって少し苦しいことかもしれないが、  
そのことを今日行なってみようと思う。

(加筆して掲示板記入予定)

### ●脱皮

成人になってからのわたしの脱皮は5回ある。

32歳、37歳、42歳、54歳、59歳、

キーワードは何か。

一意専心か。

### ■質問58～脱皮

深夜の電話番号の日はいつ何時枕元の電話が鳴るかもしれないので、これまでは、電話番号の当日は体力を温存して臨んでいた。

だが、どれほど体力を温存して仕事に行っても、この思い自体が出勤前から自分自身を消耗させている。

このことは知ってはいても、なかなかその思いは解消されずにいた。ただ、最近になってやっと抜け出すことができた。まだまだ完全ではないが、まあ、ひとつ皮がむけた感じがしている。

あなた自身、何かそのような体験があったら、ご紹介ください。

また、そのきっかけとなるような心当たりがあればそれもあわせてご紹介ください。

(9月8日2010年掲示板)

### ■「神との対話」

文庫3・182

「いちばん大事なのは恐れないことだ。いずれにしても、あなたがたは「死ぬ」ことはないから、恐れることは何もない。プロセスの展開を認識し、すべてはうまくいくと知っておだやかにしていること。

すべてのものごとの完璧さにふれようと努めなさい。どこへ進もうとも、そこがほんとうの自分を創造するという経験にふさわしい場所なのだ、ということをおぼえておきなさい。

これが平和への道だ。すべてのものごとに完璧性を見ること。」

文庫3・183

「祝いなさい！ 生命を祝いなさい！ 自己を祝いなさい！ 予言を祝いなさい！ 神を祝いなさい！ 祝いなさい！ ゲームをきなさい。」

瞬間瞬間が何をもたらすように思えても、その瞬間に喜びを見いださなさい。喜び、それがほんとうのあなたであり、いつまでもそうなのだから。

神は不完全なものを創造することはできない。神が不完全なものを創造できるとしているなら、それは間違いだ。だから、祝いなさい。完璧さを祝いなさい！ 微笑み、祝い、**ただ完璧さだけを見て、ひとが不完全だと言うものに不完全な形でふれないように、注意しなさい。**」

### ■ Be Here Now

仕事のため、ヒーリングのために、他の時間をむだにしないこと。

いつも、今は何の時であるかを問い、

その時を生きること。

(加筆して掲示板記入予定)

### ● エネルギー

ほとんどの人にとっては、疲れは、

おなかのすき過ぎや、エネルギーの使いすぎではなく、

すなわち、エネルギーの枯渇でなく、

エネルギーの不完全消化、エネルギーの不完全燃焼

によって生じている。

(9月6日2010年掲示板)

(したいことをしなければ、それも不完全燃焼となる)

クリーンエネルギーは太陽であり、風である。

これは一人ひとりの人間にとっても同じである。

### ● A I

映画「A I」のデイビッド少年がなりたいたと思った人間とはどのような人間であろうか。

(まとめて掲示板記入予定)

創り出す存在の人間としてはA Iのままでも人間となれたのではないだろうか。

あるいは、感動させる存在としてA Iだからこそなれたのではないか。

その人間は、A Iになりたくて、映画A Iを見る。

●ゆうゆう（祐佑）

世のため人のために常に病を治すことと通じるわけではないが、今は自分は治すということの立場でいる。

9月3日、4日 2010年

●時事～ガンディーの独立・動詞

昨日たまたま（＝必然的に）目を通した本である「ガンディーからの＜問い＞」中島岳志著（NHK出版）の冒頭の話である。

---

ガンディーは、インド独立の指導者でした。ご承知の通り、インドは長年の間、イギリスの植民地支配下にありました。政治的権利を奪われインドの富は流出するばかりでした。そんな中、植民地解放運動の先頭に立ったのがガンディーでしたが、彼はインドが単に政治的独立を果たしても、意味がないと主張し続けました。ガンディーはインド人一人一人が自己の欲望を統御し、非暴力を実現しなければ、独立しても意味がないと訴えました。欲望を抑えられない国民が独立した国家を手にしても、それはイギリスの植民地支配となんら変わりがない、と言うのです。ガンディーは訴えます。

私の変わることのない意見ですが、インドはイギリス人ではなく、近代文明に踏みにじられているのです。インドは近代文明に捕らわれてしまっているのです。〔ガンディー2001:49〕

さらに、言います。

自治は私たちの心の支配です。〔ガンディー2001:149〕

---

<欲望を抑えられない国民がどのような国家を手にしても、それは植民地支配とはなんら変わりはない>

というのは、耳の痛い話しではないだろうか。イギリス人がインド人に代わっても、インド人が同じことをしていれば、それはなんら変わりはないということである。

日本人にとって、イギリス人はどこの国の人なのだろうか。  
中国人だろうが、北朝鮮人だろうが、アメリカ人だろうが、はたまた、国内の富豪であろ  
うが、権力者であろうが、  
あるいはまた、管さんか、小沢さんか、  
それらの人と私が代わっても、

私が欲望を抑えられない人間であれば、

私にとっても、そして、国民にとっても、植民地支配となんら変わりはない

ということである。

<あなたが取るのも、私が取るのも、取るのであれば、取ることに変わりはない>  
ということである。

人は名詞ではなく、動詞なのである。

(9月4日 2010年掲示板)

#### ●筆ペン人生

こころを尽くし、  
からだを尽くし、  
わたしに奉仕すること。

そして願わくば、そのことが世界へと通じること。

(掲示板記入予定)

9月4日、6日2、20日010年

#### ●筆ペン人生

苦しみとは、  
ただこれまでの器が小さくなってしまったということだけである。  
だから、苦しみとは、脱皮の苦しみだけである。  
苦しみを苦しむのではなく、  
成長しているのだという脱皮を楽しむことである。

(加筆して掲示板記入予定)

#### ■成長・手助け



成長するということは、新たなビジョンを獲得するということである。  
新たな視野を獲得するということである。

成長の手助けをするということは、新たなビジョンを提供することである。  
新たな視野を提供するということである。

そして、どのようなビジョン、どのような視野もそこでとどまるということはないということを知っておくべきである。

さらに前に進むためである。

(掲示板記入予定)

#### ●筆ペン人生

人間とは何か。

質問する、

選択する、

動詞である。

9月5日、6日、20日 2010年

#### ●ヒーリング

多くのヒーラーにとって、ヒーリングは補助輪である。

自分の得意なものが自分を立たせてくれていることを知っておくことである。

#### ●有元利夫（2010年9月5日「日記」より）

5日（日曜日）は夜勤明け、同僚の「トルコ葉」さんと「珈琲館」でサンドイッチとアイスコーヒーでお茶しながら朝のひと時。トルコ葉さんは一ヶ月前に火事で被災し、いまだその余韻が冷めやらぬようで、ずっとそのお話し。

バイク通勤の彼と別れてから、新宿経由で目黒まで。この日は漫画少年さんに勧められた「有元利夫」展へ。目黒の「東京都庭園美術館」での開催。

目黒は以前よく行った画廊があるところで、画廊の方からさかんに庭園美術館へ行くように勧められていたが、実際に行くのは初めてである。この日は「さんま祭り」があり、すごい人出、しかも猛暑、おまけに、重いリュックと手には紙袋。

駅から徒歩10分であるが、60男にはちょっとつらい行脚である。

庭園美術館、入り口はどこだろうという広さであるが、いかにも「これからそこに行きます」という男性のあとをついて行って無事入り口へ。

庭園美術館の名前どおり、庭園が素晴らしい。ベンチというより普通のイスが自然な形で置いてあり、ここで瞑想したらいいだろうなあという空間。もう少し涼しくなったら、夜勤明けはここで瞑想しようと思う。

館内の入り口に置いてあるパンフを前の人に続いて取ろうと待っていると、前のご婦人が自分の取る前にわたしのために取ってくださる。ちょっとした親切であるが、わたしにとっては大きな親切である。

二ヶ月間の展示会の最終日で、しかも日曜日ということであったが、ほどよい混み具合で、ゆったりと見られた。

展示会は期待以上のものであり、夜勤の疲れはすっかり洗い流されてしまった。というか、わたしにとっては、これまで見た絵画の中ではレンブラントの絵画と並ぶ最高の絵であった。

絵の紹介は難しいが、この日記は所詮は言葉の世界なので、

外側からは……主催者の「ごあいさつ」から……

「有元利夫は 1946 年岡山県に生まれました。生後すぐに、生涯を過ごすことになる東京・谷中（台東区）に移住します。東京藝術大学デザイン科に進み、在学中に渡欧した際、プレスコ画に強い感銘を受け、日本の仏画との共通点を見出したことが、岩絵具を使った独自の画風を作り出すきっかけになりました。彼の創作の原点ともなった 1972 年の卒業制作〈私にとってのピエロ・デラ・フランチェスカ〉10 連作は大学の買い上げとなります。」

内側からは……38 歳で急逝した画家の言葉から（パンフレット 19 ページ）……

「卒制（卒業制作）をやる教室は昔の校舎にあつて、古めかしい雰囲気の大いなる部屋でした。

壁も広くて十枚のキャンパスを全部並べて描くことができた。

並べたキャンパスのどれかから「呼ばれる」と、それを手元に持ってきて描くという方式は、もうこの頃からやっていました。」

この10連作をご紹介したいのですが、ネット上では、アトランダムな絵の紹介しかなさそうです。当然ながら、実物とは別物です。

[http://www.google.co.jp/images?hl=ja&rlz=1G1GGLQ\\_JAJP362&q=%E6%9C%89%E5%85%83%E5%88%A9%E5%A4%AB&um=1&ie=UTF-8&source=univ&ei=0A-ETKzMOZKuvGPUjvEv&sa=X&oi=image\\_result\\_group&ct=title&resnum=4&ved=0CEkQsAQwAw&biw=846&bih=587](http://www.google.co.jp/images?hl=ja&rlz=1G1GGLQ_JAJP362&q=%E6%9C%89%E5%85%83%E5%88%A9%E5%A4%AB&um=1&ie=UTF-8&source=univ&ei=0A-ETKzMOZKuvGPUjvEv&sa=X&oi=image_result_group&ct=title&resnum=4&ved=0CEkQsAQwAw&biw=846&bih=587)

庭園美術館に来てみて思ったことは、庭園というのは所有するものでなく、共有、共用するものであり、こんな空間に夜「ごろ寝」をして、朝目ざめ、また一日を自然の中で過ごすということができれば最高だということで、有元利夫氏の絵もそんな別世界を描いているのではないだろうか。

ただ、わたしはそれを別世界とはまるで思っていないくて、有元氏の描かれた世界を現実世界で実現したいと思っている。

帰りの車中で読んだヘッセの「シッダールタ」もまたそのような世界を現している。

#### ●筆ペン人生

人間とは何か。

選択・成長・視野の拡大であり、  
全的認識の獲得である。

9月6日2010年

#### ●自己研究（わたし）

何度も書いたことであるが、わたしを知るための魔法の質問がある。それは、

<これが本当のわたしだろうか>

<今、本当のわたしなら何をするだろうか>

という質問である。この質問は、スピリチュアルな道を歩もうと決めたいかなる人にも有益な質問である。なぜなら、

わたしは永遠に変わるからである。

別の言葉では、

わたしは永遠に成長するからである。

(9月6日2010年掲示板)

もしわたしが永遠に変容し、永遠に成長するのであれば、これは驚愕であり、不可思議であり、筆舌しがたい感動である。

時に、若干の気だるさと若干の不安を含みながらではあるが。

(掲示板記入予定)



何度も何度も絵筆を入れるように、自分の言葉に筆入れすること。

書き換えて、何度も何度も書き込むこと。

●意識のある人生～終日

ライブドアからメールがきて、この掲示板は来年2011年6月で使えなくなるという。

もちろん、来年6月以降も掲示板を替えて、書き込みは続ける。ネット世界がある限り、そのような方法で自分は続けていく。

だが、6月はちょうどよい期限であり、その期日をひとつの目標にして書き込みを増やそうと思っている。

人生もまた同じである。死んだからといって、この人生が終わるわけではない。このことは<いつも普通に>心得ておくべきであり、そして、<時に心底>心に刻み付けておくべきである。

と同時に、いつ死ぬかということもはっきりと知っていて(期日の問題ではない)、それまでにどのように生きるかということもまた明確に決めておくことである。

もちろん、悔いの少ないように生きるためである。

(掲示板記入予定)

●身体

動けなくなることを知っていること。

同時に、

動けるようになることも知っていて、そのためにこころを尽くすこと。

●意識のある人生

自分自身をいつも天においておく。

●意識のある人生～視点

多くを読み、多く立ち止まる。

多くを作り、多く立ち止まる。

●掲示板

今はまだ私を鼓舞させるこのような掲示板を書き続ける。

なぜなら、鼓舞しないと寝続けるからである。

だから、この目覚まし時計のような口うるさい掲示板を自分自身のために書き続けている。

●自他

見てくれがよくないデキモノを嫌がる人生を終わりにする。

何ごとからも逃げずに、何が生じているのか。

そこで、何がわたしにとってベストなのかを考えてみる。

9月7日2010年

●意識のある人生

すべての時間を自分に気を通すようにする。

●意識のある人生～わたしと世界

おそらく、この書き込みを見ていただいている方に全盲の方はいらっしゃらないであろう。

そして、おそらくほとんどの方は視線を変えれば、空を見ることができるはずである。

時に、パソコンの画面から目を空に移してみるのもよいだろう。

空を見上げて、その美しさにこころを移してみることは、空を見上げずにすませてしまった一日よりも有益な一日となるであろう。全く違う一日になるであろう。

だが、この文章を読んで空を見上げるかどうか、空を見上げて空に同化、感動できるかどうか、これはあなた次第である。

これは、

<世界はあなたのこころの問題である>

という空からの語りかけである。

(9月7日 2010年掲示板)

■意識のある人生～普通

>全く違う一日になるであろう。

人生はちょっとしたことで、まるで違う人生となる。

このちょっとしたことを積み重ねていくことである。

魔法の修行で人生は変わらないし、人生を変える魔法の指輪もない。

普通がよいのである。

ただし、いつまでも同じ反応をするブリキのロボットではないかぎりにおいてである。

前に進む普通の蓄積である。

(掲示板記入予定)

■神と人間

あなたはわたしを知っているだろうか。

●意識のある人生～反芻

もし、ほんの1分間、自分自身が自由にできる時間があり、そして、たまたま、以下に記す考えが浮かんだなら、このことを試みしてみるのもよいかもしれない。

どういうことかというと、

この1分間、直近の時間を再体験してみることである。

できるだけリアルに。

そして、他の生き方ができなかったかどうかを省みってみることである。

他の生き方とは、

他の選択であり、

他のこころの反応の仕方であり、

他のエネルギーの注ぎこみ方である。

(9月10日 2010年掲示板)

9月10日、12日、13日、20日 2010年

●動詞と身体

もしこの世界に私だけしか残っていなかったら、  
人間そっくりのアンドロイドより、姿かたちは人間ではなくとも人間らしい話しをして  
くれる四角い箱の方がいてくれる方がよい。

そして、さらに望むことは、わたしが悲しい気持ちでいるときには何も話さずとも分かっ  
てくれる存在であってほしい。

しかし、もしかしたら、そのような存在はこの世界全体かもしれないとふと思ったりする。  
(加筆して掲示板記入予定)



ただし、肉体は「自分自身を表現するためのものという側面」を越えているところもまた  
ある。

●ロト6

6億円は使いきれないから当たらない。  
あるいは、6億円を使うことは私の人生にとって有意味ではない。

●意識のある人生

ずっと意志すること。  
ヒーリングと呼吸とこころの静かさと。

●O氏の治療依頼の意味

- 1 ウォーキング
- 2 金銭
- 3 新たなヒーリング

今の状況とシンクロさせてみること。

しかし、実は相当に分からない。

9月11日、12日、20日、23日 2010年

●意識のある人生～仕事・緊張（ストレス）

仕事のために、その前の時間を犠牲にしないこと。

■補足

すべての時間は黄金の時間であると知っていること。

最善の時間しか与えられていないと知っていること。

自身の視点によって全てが変わると知っていること。

●一体～時事（選挙）

一人より二人がいい。

ただ二人の思惑が違うので一緒にはなれない。

「相手がおかしい」

と言う。

ともに言う。

これでは埒が明かない。一緒になるためにはまるで別の考えが必要になる。

「これまでの私」でも「これまでのあなた」でもない別の自分が必要になる。

そう、そんなことは思いもしないことである。

「この二人にとって」だけでなく、「この二国にとって」でもであり、「この私にとって」でもである。

（9月12日2010年掲示板）

■

二人一緒より二人が争う方がおもしろい。

これにどっぷり浸かる。

しかし、浸かりすぎかもしれない。

（掲示板記入予定）

■時事

どんなことをやってもいいから景気をよくしてくれと言う。



そう、だからどんなことでもやってきたのだ。  
世界もあなたもである。

だが、このどんなことでも世界はうまくいかなかった。  
あなただけはうまくいくことがあったかもしれないが。  
(加筆して掲示板記入予定)

9月12日、13日、20日2010年

●ヨガナンダ

こころの平安と呼吸

ヒーリングに用いること。

●永遠の身体

- 1 まず手かざし
- 2 運動
- 3 思い

■ヒーリング～身体

大酒飲みでチェーンスマーカーであれば、早死にしても仕方がない。

だが、皆そうである。

大酒飲みでチェーンスマーカーで肉食である。

そして、こころには石ころを与えている。

(9月25日2010年掲示板)

■ヒーリング

80歳の高齢者も10歳の子ども同じである。  
生命の重み、人生の重みはみな同じである。

あらゆる人に最良の気を送ること。

最大限の気を送ること。

■ヒーリング・仕事

仕事やヒーリングに悪しき色をつけないこと。  
他のことについても同様である。

固有の色はつけても悪しき軽重をつけぬこと。

■ロボットの悲哀

亡くなったことを悲しむ悲しみがあり、  
生きていることを喜ばない悲しみがある。

生きているときも死んでいることである。

(加筆)

9月13、22日、23日、30日、10月1日、2日、3日、4日、7日、8日、29日、30日、  
31日、11月1日、2日、3日 2010年

●動詞の時間

死を包含している脱皮のサイクル  
機能・適応・持続の内的適応

■ハトホルのいう生物学的な時間

●ヒーリング～お礼（金銭）

ヒーリングのお礼の額については以前から相当な悩みがある。いまだに現実的な解決はついでいない。

ただ、原則はある。それは、イエスが弟子達を布教に送り出す際に、

「あなたたちにはただで与えたのだから、他の人たちにもただで与えなさい」

という言葉である。わたしもヒーリング能力をただで与えてもらった。だから、この能力を仮に人に伝えるのであれば、それはただであり、その能力を用いて病気を治すのであれば、またこれもただである。これが原則である。原則ではあるが、現実にはなかなかそうもいかない。

以下、まとまりのないアットランダムな思いを書き続けることになる。

(10月30日 2010年掲示板)

## ■動機

1回の治療で10万円もらえるなら、遠隔地への出張治療でも嬉々として行くであろうが、1回の治療で千円しかもらえないのであれば、遠隔地への出張治療は気の重いものになる。

これは、一体どういうことなのだろうか。

当たり前のことなのだろうか。

こんなことを問題にする私の頭がおかしいのであろうか。

(11月1日 2010年掲示板)

お礼が動機になる忸怩たるもの。

解決方法はある

自分のこころの未決が原因である

第三の要素

相手のことばかりを考えすぎている

「神との対話」十分なお礼をしなさい。

## ■必要性

ヒーリングのお礼にまつわる悩み事の行き着くところは、内も外も、何も必要とせずに生きていける人になることである。

## ■ヒーリング〜お礼

妥協の話しであるが、

お金のために行くことになるような額でないこと。

毎日死ぬまで行くことになっても嫌にならない額であること。

(加筆して掲示板記入予定)

相手によって自分が変わらないということが最も大切である。

そのためのお礼の額という考え方は適切な考え方なのだろうか。

金銭によって自分が変わらないこと。  
自分以外のモノによって自分が変わらないこと。  
これは、あらゆることに対して言えることである。

#### ■ヒーリング〜お礼

治療というコアがまずあり、  
お礼はこれに付随するものである。  
そして、お礼はコアを生かすものであり、コアを殺すものであってはならない。

治療は治癒だけでなく、関係者全員の病気からの気づきでもある。

#### ■ボランティア

モノを持つことが不要になって、何ごとも必要ないと言えるわたしになって初めて可能なことである。

#### ■仕事

嫌な仕事ならお金をもらい、好きな仕事ならお金をもらわないというのは、どこか狂っている。

#### ■無報酬

無報酬というのは、モノを必要としなくなった場合にのみ可能なことである。

あるいは、その逆か。。

#### ■置き換え

片道2時間半かけて、1時間の清掃に行った時のお礼について考えてみる。  
いくらが妥当であるか。

ただし、「ヒマラヤ聖者の生活探求」の1週間の徒歩行程に同行した話もまたある。

#### ■仕事

嫌なことをした場合には、報酬を得るのは当然であるという考え、  
人のためをした場合には、報酬を得るべきではないという考えのいびつさ。

#### ■負担

ヒーリングが負担となる限り、その対価は金銭となる。

ヒーリングが負担とならない限り、対価は不要となる。

しかし、不要の場合、相手は何を得るのであろうか。

何も負担でないという世界から何を取り出すことができるのであろうか。

「神との対話」の神はそうでないというが、この世界は負担から取り出すことしかできないではないだろうか。

## ■

治癒にヒーラーだけでなく、本人はもちろんのこと、家族も当分に参加すべきであり、その応分として謝礼がある。

イエス。ブッダのような人には礼金は不要であろうが、イエス、ブッダに治してもらったとしても応分の参加ということから免れることはできない。

ただし、金銭目的とならない範囲での謝礼である。

## ▲行為への愛・わたし

金銭目的とならないわたしであること。

## ■

**何が私の得になるのかでなく、何が<わたし>の役に立つのか。**

何が<ヒーリング>の役に立つのか。

何が<わたし>の役に立つのか。

何が<あなた>の役に立つのか。

## ■ベクトル・行為への愛

終わりを見るのではなく、終わりを期待するのではなく、ただ未来永劫続ける。このことだけが無償で行うことができることである。

私の中で、この未来永劫続けられることとは何であらうか。

## ■所有

お礼は、ヒーリング能力は私のものではないというのが出発点である。

だが、このことは人の営みすべてについていえることである。

■「ガラクタ捨てれば自分が見える」

■ミクシィ

>トランザムさん

ありがとうございます。

>>後ろめたさ

>というのが問題（？）と思うのですが、

おっしゃるとおりで、そこが一番の問題です。

お金にまつわる肯定的な部分と否定的な部分との板ばさみに悩んでいるんですね。

そのあたり、いろいろな本を読んでなるほどと思ってもなかなか現実には応用できないでいます。

>ぶっちゃけ悩みだすときりがありませんよ。

>なにかヒーリングさんの中でルールを決めるしかないかと。

これまた、おっしゃるとおりで、メビウスの輪のような無間地獄の運動をくり返しています。。

金銭問題は20年以上、悩み続けています。

とりあえず解決したと思っても、いろいろ

「こんな場合はどうか」

と神様が難題をつきつけてきて、また悩むんですね。

>マリオさん

ありがとうございます。

確かに女性の場合は、往診は怖いかも知れません。

私が8月に見ていただいた霊能師さん（兼整体師さん）も、事務所を借りてやっても、一見の男性客はお断りとおっしゃっていました。

片道2時間半から3時間となるとそれだけで半日、へたすると一日取られてしまうので、5千円ぐらいいただきたいというのがあります。正直、商売でやるのであれば、もっといただきますが。。

もし、1回であればいくらでもいいのですが、継続していくというのは実はすごく疲れることです。

マリオさんが治療効果のことをおっしゃっていましたが、目に見えた治療効果がなく、継続してやるというのは本当にしんどいものです。（ただ、気の治療効果については疑いませんが、目に見えるほどよくならなければ意味がないことで、重い病気の場合はそうそう効果が見えるものでもありません。ただ、初回は必ず顕著な効果があります。。だからまた依頼されるのですが、、そのあとが結構きついです。）

私が教科書としている本の著者は「毎日一ヶ月通い続けて手をかざし、治った」という例をあげていますが、これは簡単なようで実に変なことです。

話しはあらぬ方向に飛びますが、光さんにスプーン曲げを教えてくださいました方は、100円玉の瞬間移動（テレポテーション）もできるということですが、この方は毎日何年間もできるまで続けたという話しです。100円玉の瞬間移動よりこの毎日続けるということの方に私は感動します。これはすごいことです。

何も疑いなく手をかざし続けること。これは本当にきつい仕事です。今の私には無報酬ではできないことです。

でも、100円玉の瞬間移動の訓練のように、報酬にこだわらずにやるべきことかもしれません。



絵永続的に治そうと努力しつづけること。

ハトホルの予定表のおしつけ。



大概の人は治れば謝礼を受け取るのが当然だと思っているであろうが、実は一回で治れば、謝礼などまるでいらぬ気持ちになるものである。

これは「弓と禅」でいうところの＜仏陀に当たる＞ということであろうか。



一日の死

一生の死

脱皮による死

適応による死



自分自身を元気にするヒーリング

自分を悪くしては元も子もない

●意識のある人生～赤信号

いつもいつも立ち止まっていること。

こころと呼吸と。

●ヒーリング

毎日行き、祈ること。

9月14日、15日、19日、22日 2010年

●動詞

いつでも動詞だけでいること。

選択だけでいること、決断だけでいること、怒り、悲しみ、喜び、羨望だけでいること。

動詞の満足、喜びと名詞の満足、喜びとを区別し、知っていること。

(教室資料要転記)

■意識のある人生～動詞の喜び

いつでも、

「これは動詞の満足なのか。動詞の喜びなのか」



「これは名詞の満足なのか。名詞の喜びなのか」  
このことを知っていること。

<名詞を満足させても、動詞が身動きできずに疲弊してしまっていることがある。>

常に動詞のしたいこと、動詞の充実感にこころを向けておくことである。

(9月20日2010年掲示板)

●ヒーリング

動詞でいること。

ただ、気持ちのよい気を流していること。

そして、その流れる気であること。

それだけであること。

そして、その際に、

自分自身の神仏を用いていること。

自分自身の生命を使い、全体の生命の流れにのっていること。

(9月22日2010年掲示板)

●意識のある人生～出張治療

ゆうゆうやっている人などいない。

ゆうゆうやっている人は自分自身を殺している。

誰もが、その人なりに苦勞しながら進んでいる。

どうせ苦勞するなら、自分自身を殺さずに、必死になってやることである。

(加筆して掲示板記入予定)

●意識のある人生～視点

これからヒーリングに行く時に見上げる空と、旅先で見上げる空と同じように感じられること。

●ヒーリング

ヒーリングの依頼を受け、難しい病気、絶望的な状態に直面すると、絶対に治そうという気になる。

これはハトホルのいう予定表を押しつけないことに反する（注）。

ただ、絶対に治そう、絶対に治るという意志がないととてもでないが、手かざしなどはや  
ってられない。

たぶん、これもまた神聖なる矛盾なのであろう。

（注）以下は、ヒーリングをする者すべてが心得ておくべき至言と思っている。

（掲示板記入予定）

#### ●意識のある人生～思い

無意識で生きている人にとっては漫画「三丁目の夕日」の時代はよかった。人々は今より  
善意にあふれていて、それが町と時代をおおっていた。

今は、無意識に生きている人には気づく、気づかないにかかわらず、当時からすると生き  
づらい時代である。

自分なりに意識的に生きようとしているわたしとしては、せめてシュタイナーの次の言葉  
を実践するのみである。

「神秘修行の第三の条件はこのことと直接関係している。修行者は自分の思考と感情が世  
界に対して自分の行為と同じ意味を持つ、という立場に立てなければならない。誰かを憎  
むなら、すでにそれだけで、なぐるのと同じ被害をその人に与えている。

このことが認識できるなら、＜私が自分自身を完成させようという努力が、私ひとりの  
ためではなく、世界のためでもある＞、という認識に到るであろう。世界は私の純粋な感  
情や思考から、私の善行からと同じ利益を受けとるだろう。個人の内面世界の、この世界  
の意味を信じていくことができぬ間は、神秘修行者となる資格がない。」

（ルドルフ・シュタイナー著 高橋巖訳「いかにして超感覚的世界の認識を獲得するか」  
114 ページ イザラ書房）

9月15日、23日2010年

#### ●シンクロ～「神との対話」3巻337ページ

「意図的にすると」と

～ヒーリングにおいて、意図的に同じことをする。

■ヒーリング

遠隔を本格的に行うこと。

ほとんど同じことであるが、

呼吸法で体の呼吸、宇宙の呼吸をすること。～次回教室予定

動詞の呼吸

9月16日、22日、23日、25日2010年

●身体

無意識の身体表現、たとえば、アレルギー、発熱、嘔吐、などなど。

意識的に身体を表現すること、菜食、不食、太陽からのエネルギー摂取。

そのほかのこともないか。。

身体～純粋なエネルギーをできるだけ入れること。

肉食による消化で費やされるエネルギーによってまた疲弊する。

■わたし

9月22日2010年、とにもかくにも泳いだ。

患者さんや母に手かざしをして、自分自身の体をおろそかにしては愚かというものである。

私のことを忘れずにいること。

●意識のある人生～シンクロ

一日のすべてのことが自分自身のところとシンクロしていることに気づくこと。

そのためには謙虚でいること。

謙虚にして、出来事を見ること。

謙虚にして、ところを見ること。

出来事とのシンクロしているものはおおむね不安、怖れである。

知らず知らずにわたしのところを覆っているものは不安、怖れだからである。

このことがわたしに生じる出来事によって気づくことができる。

(掲示板記入予定)

■示唆としてのシンクロ

ミュージシャンさんが

■ツール

深い呼吸

■

こころと出来事の符合。ただ、これはすべてについてである。

要は、気づきがどれだけあるかということである。

そのために直観を生かすこと。

したいことをすること。

わたしの世界への呼びかけと世界からのわたしへの呼びかけを知っていること。

9月19日、23日2010年

●意識のある人生～時空

時計の時空でなく、プロセスの区切りの時空で生きていくこと。

●動詞～尽きることのない泉

「神との対話」3巻文庫本版 517 ページ

気はいくら与えても作り出すことができる。

気を作り出すことができない人でも、行為そのものは尽きることはない。

名詞は尽きることがあっても、行為は尽きることがない。

人は名詞でなく、動詞であり、名詞としての存在の自分自身できえ、もし必要なら作り出すことができる。

■動詞の選択と（名詞・物質の）創造力。

## ■意識のある人生

今日、これまでで一番偉大な自分であることができる。

われわれは一体である

すべてが十分にある

このことに基づいた選択をすることである。

9月21日、23日2010年

### ●ヒーリング

気功治療とは、

体そのものが持っている様々な戦略、適応、プロセスに働きかける。

したがって、気を送る時に、その戦略、適応、プロセスに意識的に関与すること。

そこにふれていることを実感すること。

### ●筆ペン人生

姿なきプロセス、見ることのできない生命のプロセスを、

見て暮らすこと、気づいて暮らすこと。

## ■名詞と動詞

名詞に費やす時間、名詞に費やす思いがどれほど多いかを知り、

動詞に費やす時間、動詞に費やす思いがどれほど少ないかに気づくこと。

(掲示板記入予定)

## ■プロセス

姿なきプロセスに思い至ること。

生命全体のプロセスでなく、わたしのプロセスもまたあり、そのプロセスの

1 機能

2 適応

3 持続

について省み、具体的に記してみること。

## ▲脱皮

■

書き、終わること、

名詞は。

書き、動きつづけること、

動詞は。

そして、この筆は。

■

悲願があり、

そしてなおかつ流れていくこと。

●「神との対話」3巻 511 ページの「感情」

9月22日、23日、30日 2010年

●動詞

動詞とは何かというと、<名詞を使う>ということである。

では、どのように使うということが問題となる。

選択の問題であり、決意の問題であり、創造の問題であり、自由の問題である。

■行為への愛

もちろん、自動詞として使うということであり、他動詞として使うことではない。

自動詞とは行為への愛である。

わたしはただするということであり、このことを愛するということである。

ヒーリングにおける行為への愛。

名詞に動詞が使われるのではなく、動詞が名詞を使うことである。

おもちゃの自動車がおもちゃのヘリコプターになる。

動詞でいること。

では、どのような動詞であるのか。

人間とは選択であるということを知った時の話し。

人生はあなたが何ものであるかを定めることである（自己規定）

## ■貯金

動詞を生きること。

少し大きくなったと感ずること。

## ■筆ペン人生～動詞

常に省みるべきこと。

こころを動かさず、

名詞を動かすこと。

こころを動かさず、

私を動かすこと。

(加筆して掲示板記入予定)

宗忠の

こころを傷めず、

こころを養うこと。

## ●ノート

すき間時間を作ること。

書き始めたら、すき間時間を作らないこと。

## ●意識のある人生～名詞と動詞

わたしという名詞は 100 年前の日本人よりも便利で立派な名詞かもしれない。

しかし、わたしの動詞は 100 年前の日本人よりも貧弱かもしれない。

だから、今、どのような名詞であるかに汲々としなないことである。

どのような名詞であっても、

わたしを生かし、他者を生かし、天を生かす動詞であることは常に可能である。

(9月24日2010年掲示板)

## ●ヒーリング

ヒーリングは自分の場合、おそらくは魂の課題の最大値である。

## ●時事～うそ・自他・鏡・一体

「検事」はうそをついてはいけない。

確かにそうである。だが、常に「他人」は「私」と置き換えられる。

もし「私」と置き換えることができれば、「私」を少し知ることができるかもしれない。運がよければ、「他人」も少し知ることができるかもしれない。

(9月23日 2010年掲示板)

●身体・呼吸法

自分の身体の内にある「エル・カー・リーム・オーム」を活性化する。

9月23日 2010年

●動詞～成長

あなたという名詞が行動すると思っているかもしれないが、実は、

<あなたの動詞が名詞をする>

のである。

動詞だけが名詞を変えるのである。

(9月23日 2010年掲示板)

■貯金

これまでしなかったことをすると、自由が広がる。

ただこれだけである。

だが、通常は以下のように言い換えられる。

私がこれまでしなかったことをすると、私が成長する。

私が出てくると、行為も自由も

9月24日 2010年

●脱皮の時間

脱皮の時間で生きること。

瞬間と長さと。

すなわち、意志と成就と。



●意識のある人生～時間

今は何の時であるか。

●意識のある人生

偏見の打破、偏見の氷解、視点の転回、、

ぐるりと見回してみることに。

ゆっくりと呼吸してみることに。

●ヒーリング～メール

気功治療の件ですが、今回はご遠慮させていただいた方がよいのではないかと考えています。

気功治療と気功教室は細々とした活動ではありますが、わたしの残りの人生のライフワークです。その意味では、気功治療をお断りすることは自分自身の意に反することではあります。

ただ、気功治療は手をかざすだけなのですが、相当消耗するものでもあるのです（特に連続する出張治療は）。ですから、普段、知らない方からのメールやお電話をいただくと、「気功治療の依頼ではありませんように」と願っているぐらいです（笑）。ただ、とても不思議なのですが、依頼を受けると、その気持ちは180度変わって、とことんやって必ず治す（傲慢な思いですが）という強い決意に変わります。

今回は月末に遅い夏休みを取っているいろいろな予定を入れていたのですが、それらもキャンセルし、手かざしに専念するつもりでいしましたが、ご自宅での療養、通院ということで、気功治療はご辞退となり、病院に入院（それも検査の時だけの数日のご入院で、あとは自宅からの通院による点滴治療とのこと）の時のみお伺いするというご依頼は正直受けかねますのでご了解いただければと思います。便通がよくなるというのももちろん大切ですが、わたしが行く動機となるのはあくまでもご病気本体の治癒です（あと、付随するご本人ならびに周りの方々の視点の変化です）。（なお、キャンセルしてしまった予定をうらみがましく思っていることは一切ありませんので、そのあたりはご理解いただきたいと思います。）

気功治療はご家族に金銭的ご負担をおかけすることにもなりますし、また、わたしの方も時間とエネルギーを取られることです。金銭、エネルギー、時間をつまらぬことに費やすより気功治療に費やすことの方がもちろん有意義であると考えているので、手かざしを行うことにやぶさかではありません。ただ、手かざしが「気休めの補助食品」と同じような

形でご病気の方が受け取られているのであれば、気功治療もまたつまらぬこととなるものです。お礼をご負担いただくご家族、手をかざしに行く高塚はもちろんのこと、ご病気のご本人にも世の営みにそのような形に関することはつまらぬことです。

正直、治療が始まるまでの1週間が勝負と考えていました(あくまでも個人的な思いです)。ちょうど1週間夏休みを取っていた時間とシンクロしていたからですし、また、治療が始まれば、治療の負の側面にも気のエネルギーを使わざるを得ないからです(ただし、治療そのものを否定するつもりは毛頭ありません。与えられた条件の中ですべてを尽くし、与えられた条件が患者さんに役立てばよいという思いだけです。)

ただし、ご年齢を考えると、ご自宅でゆっくりとくつろがれるというのもそれこそヒーリングですし、小賢しい「治癒の思い」よりも大切なことと考えています。

以上、簡単ではございますが、わたしの思いをご理解いただければ幸いです。

なお、お父様には、検査入院の日は高塚に予定が入ってしまったとでも言っていただければと思います。

高塚恒夫

9月25日2010年

●法則～時事

逆の国民になってみるということはとても難しいことである。

ただ、

<難しいということはできる>

という「へぼ塚法則」があるので、挑戦中です。

ちなみに、この上の法則は、

<できないということはできる>

という法則です。

(9月25日2010年掲示板)

■「ガンディーからの問い」＜恐れ＞

昨日読んだ「ガンディーからの問い」（中島岳志著・NHK出版）の一節です。

「恐れを知らない気持ちがあると、真理は自然と宿るものです。なんらかの恐れのために、人は真理を放棄するのです。」

〔ガンディー2001：121〕

何を恐れてそんな要求をするのか。考えるべきはそのことであり、ロボットのように怒ることではない。

欲しがるものはあげたらいい。

ただ、真理はいくら欲しがってもあげることはいできない。

恐れがないところに自然に育つものだからである。

なお、きれいごとでは食べていけないという人は石ころをあげたらよい。もちろん、自分自身にである。

（9月26日2010年掲示板）

■自己（わたし）

自己は知ることができない。

それはあまりに大きいからである。

小さな自己について「知っている」人は、

「これは私のものだ」

「これはあなたのものでない」

と互いに大声でののしりあい、争う。

だが、この争いのあと味の悪さを感じとることができるなら、この勝ち負けのあとの、負けの虚しさだけでなく、勝ちの虚しさも感じとることができるなら、

大きな自己の何たるかを——悲しみを——垣間見ることができるであろう。

（9月27日2010年掲示板）

●動詞～行為への愛

わたしを名詞とすることにより生まれる好悪の価値観に生きない。

動詞であるわたしの好ましさに生きる。

(10月3日 2010年掲示板)

●ノート～10年前のノート

今では何の役にも立たないことと

今もまた活かすことがあるあることと。

9月26日、27日、29日、10月5日、18日 2010年

●ヒーリング～自他・一体

高塚に来てもらうことを気の毒に思うなら、のぞむことはただひとつ。

もしあなたにそのような機会が訪れたなら、同じことをしていただきたいということである。

これは義務ではなく、自由である。

そして、高塚はそのように<引き渡されるに足る行い>を行使すべきである。

十分に行うこと、十二分に行うこと、いつまでも行うこと。

(半年後掲示板記入予定)

■機会

きつい条件のヒーリングが私を養う。

この条件はいつかきつくなくなる。

いかなるような条件もそうである。

●意識のある人生

雨の日も晴れの日も

十分に空を吸ってみること。

毎日10秒のできる変身法である、成長の

●質問6 1?～<わたし>

稲毛駅の2階のプラットホームから地平線までの町並みをながめ、ただ二本の木だけが建物をこえて残っているの見て、思ったこと。

私を養うのではなく、森を養い、鳥を養い、虫を養うこと。

つまり、わたしを養うこと、こころを養うこと。

ところで、森、鳥、虫を養うことで私のできることとは何であろうか。  
(掲示板記入予定)



創造主はこの手足がわたしのものであると言ってよいと認めている。



若い人を見て。

やがて老いる。

身体に関しても、エントロピー減少の人生を送ること。



車中から西太井駅のプラットフォームにいる人を見て。。

皆が演じている。

これは間違えない。

ところで、私は何を演じるのかということである。



今、意識があるのかどうか。

それを知るためには、まわりを見回してみても、

皆が夢の中にいるということが分かれば、

あなたには意識があるということである。

(加筆して掲示板記入予定)



予定は何もキャンセルしない。

● 「ミレルパ」

水木しげるの「音楽体験」とグルジェフの音楽は真理を伝えるものであったという話し。  
あと、ハトホルのいう音の話し。

● 動詞～映画「トルストイ最後の旅」(変容)

愛と自由のトルストイ主義を実現するための共同生活場にいる男女が恋に陥る。その女性マーシャが男に言う。確か、このような内容である。

「私、ここを出るわ」

「どうしたんだい。トルストイ主義が嫌になったのかい」

「私はトルストイが懺悔をしてトルストイ主義になったことに共感したのであり、トルストイ主義であることが好きでもなんでもないので」

誰にでも主義主張がある。家訓は今ほとんどなくなったが、自訓であるなら誰もが持っている。

だが、そうしたものはいつまでも守るべきものでなく、過ぎてゆくひとつの形でしかない。それが今の形であるのだから、今大切にすることはよいのだが、いつまでも固執するものではないし、また、いつまでも固執できるものでもない。

なぜなら、人間とは動詞であるからだ。

流れていく川の流れであり、続いていく一本の道だからである。

だから、過去の形にしがみつくのでもなく、未来に流れ、未来へ歩むことである。

(9月30日 2010年掲示板)

■ 神と人間

流れは神であり、道は人である。

■ 動詞～映画「トルストイ最後の旅」(マーシャの中の力石徹)

マーシャの中には力石徹がいる。

力石徹は私の年代の男性なら知らない人はいないであろう。

▲ 動詞～時空・わたし

今の私に気づくことはできなくとも、

<30年後、40年後のためにだけある今>

という今が確実にある。

ただし、＜300年後、400年後のためだけにある今＞が今あるかどうかは、分からない。  
私の今はそこまで意志の長さが無いからである。意志の太さが無いからである。  
でも、できうれば、3000年後、4000年後のためにも今があるように、今を生かしたい。  
(10月6日 2010年掲示板)

## ■教室

この映画のよいところは、結論が見えなかったところ、出さなかったところである。

教室でも結論を出さないようにすること。

プロセスを生かすこと。

9月27日 2010年

### ●夢～仮面と自殺

とてつもなく深い闇、とてつもなく深い悲しみ

映画「トルストイ最後の旅」のマーシャの悲しみか、Oさんの悲しみか、あるいは、人類の悲しみか。

シンクロ～地震があり、忘れないようにさせる。

火曜のヒーリングを休みにしようとしている闇か

どちらにころがるかのような選択をしてはならない

自由意志のある選択で、なおかつ、教条主義なく、なおかつ、闇を受け入れる選択

ヒーリングの慢心のいましめ

前日「西大井駅」で見た仮面の人々の群れ

マーシャの動詞

トルストイ主義でいるための運動ではなく、トルストイ主義になるための運動である。

ひとりひとりの中にあるマーシャ、明日のジョーの中にある力石徹を殺さないことである。

●映画

どんな人生もそれだけで完結しているという側面と永遠に続く生命の一断面でしかないという両面がある。

9月28日、10月18日 2010年

●ヒーリング

技術と感情

あるいは、カニンガムの三法則

あるいは、怖れぬこと。初心のただ手をかざすこと。くもの巣をはるくものように。

●意識のある人生

組織に属していても組織に属さぬ自由な気持ちでいること。

大きな川の流れの中の「海のしずく」と知っていること。

ベクトルの長さの一瞬と知っていること。

9月29日 2010年

●KFさんへの手紙

技術でなく、努力したこと

●太陽

小松さんの試み

肉体の体でなく、別の体、このことを意識すること。

実感する気、設計図。

たとえば、エル・カー・リーム・オームの世界。

9月30日 2010年

●意識のある人生～時空

宇宙の大きさと150億年の長さと

同時に内なる世界と変容の今と

●<癌細胞としての神>の姿と行方



癌細胞の行方はどうなるのであろうか。  
どうしてこのようなものができるのであろうか。  
その姿を見ること。

●ヒーリング

名詞としてのヒーリングとはどのようなヒーリングであるか。  
動詞としてのヒーリングとはどのようなヒーリングであるか。

★10月 2010年

10月1日、5日、9日、12日 2010年

●動詞～善人・悪人

人の本当の姿は、彼が、彼女が善人であるとか、悪人であるとかではなく、彼が、彼女が自由を行使しているというただそのことだけがあるだけである。

だから、

善人であっても、それが名詞であるなら、固執する主義主張であるなら、何としても守るべき矜持であるなら、あまりにも胸が痛くなるようなよどみである。

また、

悪人であっても、それが動詞であるなら、川の流れであるなら、世界へのその人自身の関与であるなら、それは自由という動詞の人間存在そのものである。

(10月9日 2010年掲示板)

●動詞～結果としての動詞・約束

出したものの行く末を知っていること。

体からも

口からも

■約束 (8月23日 2006年)

ラヒリ・マハサヤのババジの出現

グルジェフの借りた指輪の約束

グルジェフがピーターズにせまった約束

求めれば得られますし、たたけば門は開きます。

日南師の言葉を大切にすること。

▲高塚の約束～必ず治すという思ったこと。

▲言葉

谷川浩司が名人になった時に本当に祝ってくれた電話をしたのは、内藤国雄九段だけであつたという、盲人の祖母の話。

●動詞

自然に直線がないように、名詞のような動詞にならないこと。

(10月12日 2010年掲示板)

●ヒーリング～技術

神を使うこと。

●チェック事項

意識 (22回)

瞑想 (朝の3時50分から30分間、6時半から30分間、昼の12時40分から40分間、1時50分から20分間、3時40分から2時間、夜の9時から30分間、10時半から30分間)

運動 (スクワット10回・片足立ち1回・速足20分間)

気功 (自己ヒーリング20分間)

食事 (少食30点・菜食60点・太陽1回)

印象 (NOTE)

表現 (神を使うこと～ヨガナンダの)

片付 (なし)

直観（計算しないこと・長期においては流れにしたがう？）

貯金（なし）

シンクロ（なし）

10月2日2010年



10月4日2010年

●再任用祝日出勤の問題点

緊張していること

名詞の損得にこだわっていること

結果に金泥していること

結果は常に名詞である

解決法～動詞として自分を見ること。

川として自分を見ること。

宇宙全体として自分を見ること。

奉仕者、創造者として自分を見ること。

10月5日、6日、11月2日、4日、12月28日2010年、1月8日2011年

●質問68～所有・神と人間・奉仕

あるものを使うこと。

これから得るものでなく、

今任されているものを使うこと。

私でさえ、

小さな私を使うのでなく、

大きなわたしに乗ること。

これこそ大乘である。

南無阿弥陀仏

南無阿弥陀仏

ところで、

今あなたに任されているものとは一体何であろうか。

今日あなたが使うことを任されているものとは一体なんであろうか。

(12月28日 2010年掲示板)

■質問6 4～筆ペン人生～<所有><神と人間><奉仕>

今あるものを使うこと。

得たものでなく、得ようとするものでなく、

今わたしに任されているものを使うこと。

任されているものをすり切れるまで使うこと。

ところで、

今わたしに任されているものとは一体何であろうか。

(11月4日 2010年掲示板)

クリア～任されていないものはクリアする。片付ける、手放す。立ち去る。

●金銭の多寡・内なる多寡

100万円もうけようが、100円もうけようが同じである。

違うのは、どのようにしてもうけたかということである。

問題は、何をしたかということである。

問題は、今日は何をしたかということである。今日、何をしようとしているかということである。

(1月8日 2011年掲示板)

●食べ物・エネルギー

いわゆる食べ物を食べることについては、エネルギーの移動ということとエントロピーの増減から考えてみることに。

■

シンプルな太陽エネルギーがエントロピー減少(?)かつ複雑化・多様化へと変ずること。

10月6日、7日、11月4日 2010年

●動詞

「気づきが動詞の力となる

「小さな声 ⇒ 気づき」～変容（動詞）

↳内なる……内なるとは生命の全体（神）へと通じる



神を動詞と感ずること。

●動詞

バックミンスター・フラーのいう＜包括化＞というのは、自分の場合は、身体化とシンクロしていくことである、シンクロさせていくことである。

■身体

遠隔・空中歩行（身体のコントロール）・無呼吸・不食・太陽・意識（俯瞰）・できるとい  
う実感

●ヒーリング

ときに、直観により送り方を変えること。

●気功治療の場（テナント）

外を条件とするのではなく、内を条件とすること。

10月7日、8日、11月6日 2010年

●動詞・奉仕

「名詞の私」でなく、＜一日＞として動くこと。

＜一週間＞、＜一年＞、＜五十年＞として動くこと。

あるいは、

＜成し遂げられるベクトル＞の始点から終点までとして動くこと、働くこと。

（加筆して掲示板記入予定）

●プロセス

出がけに青空を見て。。

この空を台無しにしてしまっはいけないと感じたこと。

この思いに尽くすこと。

空を見ることのできるわれわれも。

●所有

家を背負いすぎてしまった生活。

わたしは何を背負いすぎてしまっているだろうか。

わたしのエンゲル係数。。食費でなく。

●気功教室

「小医は病気を治し、中医は人を治し、大医は国を治す」

というのが、最後の国を治すというのは、人が病にならない、ということを目指すことである。

この意味で、気功教室もまた気功治療である。

10月8日、9日、11月6日、12月29日 2010年

●動詞としての神～「明日の神」87ページ

「「明日の神」とは、単一の超弩級の存在ではなく、「生命」というとてつもないプロセスである。」

■プロセス

この宇宙において岩が人間になったのも驚異ではあるが、人間が最後ではない。

岩もまたプロセスの終着である。

そして、人間もまたプロセスの始まりである。

岩が人となるように尽くしたように、人もまた新たなる存在となるように尽くすべきである。

●意識のある人生～呼吸（方法論）

身体の呼吸

太陽系の呼吸

宇宙全体の呼吸

10月9日、12日、11月6日、12月30日 2010年

●自他

通ったことのない道は分からない。

他者の道を違うというのではなく、分からないというのが正しい。  
もしかしたら、自分の道も分からないかもしれない。

#### ● 苦しみ

苦しみは苦しむのではなく、  
この苦しみが自分を知ることに通じていることと知るべきである。

高塚の場合はどういうことかという、  
他人からよく見られることに心を費やすのではなく、  
自分がよくあることに心を費やすことである、ということである。

10月10日、11日、12日、11月6日 2010年

#### ● 意識のある人生～エネルギー

どのような手紙を書くにも全エネルギーを費やす。  
宝くじを買う時にも全エネルギーを費やす。

そうしなければ、行為に意味はなくなる。

また逆に、エネルギーを注ぎ込めば、どのような行為も意味のある行為となる。

#### ■ 意識のある人生

何ごとも<気>を使わないと、している意味がない。

#### ● 日記

毎日、日記を書いている。別に自己顕示欲で書いているわけではない。一応、日記の冒頭には、「日記の座右の書」が書かれている。

日記は天への報告書である。  
日記を一日の自己を想起することに用いること。  
別に生きることはできなかったか。

座右の書なので、なかなか実践は難しいですが、皆さまもご自分の日記書いてみませんか。  
時間とエネルギーは取られますが、書かなければ知ることのなかった新たな気づきがあります。

(10月11日 2010年掲示板)

## 時間とエネルギー

└時間は顧慮せずに、エネルギーについては顧慮すること。

このこととは別に時空を一枚の紙のようにした状態に至ること。

10月11日、12日、13日、14日 2010年

### ●動詞

鏡を見るのではなく、一日を見ること。一週間を、一年、十年、百年を見ること。

すなわち、わたしの名詞でなく、わたしの動詞を見ること。

### ●動詞～「弓と禅」

#### ●

情熱は変わる。

その量も対象も変わる。

減ることのない情熱、それが真の情熱である。

変わるることのない方向性、それが真の情熱の方向性である。

### ●呼吸・身体

「稲毛到着後は、バスでまっすぐ帰宅。

そのまま寝ればいいのだが、根が意地汚いものだから食べなくともいい「野菜コロッケ」を2個いただく。

病気になると食べられなくなるというのはよくあるが、これは体の正常なシステムで食欲を落としているのである。老化も同様であり、年を取ってきたら、もっと食を細くすべきであると思っている。ただし、これは病気と違って意識的にやらなければならない。

で、代替エネルギーはというと、ひとつは太陽エネルギー。もうひとつはこころのエネルギーである。ぶっ飛んだ話しではある。

あっ、あと水エネルギーもたぶんあります。」(10月10日2010年日記より)

土の呼吸

火の呼吸

水の呼吸



気の呼吸

■

四大元素の力を直に使わせていただく。

10月12日、13日 2010年、2月14日 2011年

●ヒーリング〜一体

「神との対話」のホームレスだと思うこと。。。自分の場合は、遠隔治療の実感でいろいろなところに入り込むこと、気になること、気をつくること。。。これらのリアリティを育てること。

●動詞の私

誰が何と言おうと、そして、私が私のことをどのようにみていようと、

今日の人生に最も多くの時間を費やしたのも、それが私である。

誰が何と言おうと、そして、私が私のことをどのようにみていようと、このことによって私を知ることができる。

(2月16日 2011年掲示板)

誰が何と言おうと、そして、私が私のことをどのようにみていようと、

今日の人生に最も多くの時間を費やしたものが私である。

私だけで人生を費やしている人は、このことによって私を知ることができる。

(掲示板記入可)

誰が何と言おうと、外的に私が何をしていようと、

今日の人生に主人がいれば、主人が言うように生きることができれば、それがわたしである。

今日の人生に最も多くのエネルギーを費やしたのが私であり、わたしである。

■ダークマター

今日の人生に、最も多くを費やしたものは何であったか。  
それに今日のわたしを何パーセント費やしたであろうか。

10月13日、14日、18日、12月10日、30日 2010年

●意識のある人生～為す。身体

体が、子どもから大人になり、中年の体形になり、今老化真っ最中である。  
これはなってきたことである。  
このなることをどこかで為すことに変えること。

股関節はもしかしたら、よくなっている。

次は、難聴である。

そして、わけのわからぬ下腹部の違和感。。病気か老化か。

■意識のある人生

四大元素の力を直に使わせていただく。

●身体

ネットには、人が使っている言葉が全てである。  
ないのは、  
生き方と内側である。

これはネットでは見るできない。

これは、為すことによって、見ること、ふれることができる世界だからである。

(掲示板記入可)

●意識のある人生

60年近く生きてきて不思議で仕方がなかったことはいろいろあったが、そのうちのひとつは、人は想像以上に傷ついたり死んだりしないということであった。だが、その答えが「神に帰る」に書かれてあった。どういうことかという、

「死後、もう一度生き返るか、このまま死ぬかを選ぶことができる。しかも何回もである」

荒唐無稽の話である。荒唐無稽であるが、＜選択は人間存在そのものである＞と考えている自分にとってはとても納得できる回答であった。この世界で生きるかどうかというのは、究極とも言える選択であり、その選択がひとりひとりの個人に任されているというの

は実に合理的だからである。

ただ、いつも言うように、これは正しいかどうかを争うことではない。真実は争うものではないし、信じるものでもない。

どのようなことも<わたしの役に立つかどうか>ということだけが争えることである。この考えはわたしの役に立つ。どのように役立つかという、

<生き返って、出直した人生であるなら、それを大切に生きて生きる>

ということである。自分自身の実感として、はっきり何度か死んでいる。死んで再度生きることを選択したのであれば、それは、

<この人生がわたしの役に立つ>

と思ったからである。ずいぶん回り道をしたが、今もまた多くの寄り道をしているのであろうが、ともかくも、

<これからの人生、この一年間、この一日をわたしの役に立てる>

よう生きていきたいと思っている。

(10月19日 2010年掲示板)

●ヒーリング・お礼

治癒というコア

└だけではなく、関係者全員の責任

10月15日 2010年

●動詞

動詞と意識との問題

10月16日 2010年

●動詞

この世界に働いている力の恩恵を受けているだけでなく、この世界に働いている力になること。力になり、力を使って自分自身を表現すること。

└これはできない     └じれはできる

10月17日2010年

●筆ペン人生

ひとつひとつをていねいにやり終えること。

姿勢、  
心の姿勢と  
体の姿勢

私の手にあるもの  
全てを  
使うこと

私の手にある見えざる力  
全てを  
使うこと

すなわち、  
一日を使い切ること

●気功教室  
次回 64 ページ

10月18日、19日、20日、21日、23日、25日、12月30日2010年

●意識のある人生～真理

シュタイナーは

「神秘学の真理に向って汝の認識を一歩進めようとするなら、同時に善に向けて汝の性格を三歩進めねばならない」。

と言っている。

果たして善への道を私が進んでいたかどうかへ別にしても、私は私なりにこの言葉を範としてきた。

ただ、思うに、あまりに善へと関心が傾きすぎていた。

10月18日にふとわいてきたところは、真理へ向かうということである。

では、自分にとって真理とは何かと言うと、この世界を動かしている力、ビッグバン——光の速さを超えた一瞬の爆発——以降、銀河系を存在させ、生物を存在させた、10の10

乗の 123 乗分の 1 の確率で生じる力について明らかにすることである。

自分の場合、それを明らかにする手立ては気功である。この力をもっと感じることであり、この力をもっと使うことであり、この力を明らかにすることである。

(10月22日 2010年掲示板)

#### ■「ハトホルの書」

10月20日にたまたま(必然的に)開いた「ハトホルの書」のページに次のようなことが書かれている。以前にも引用したように思うが、今の私の心境にぴったりの言葉である。

「わたしたちは西欧文明に暮らす人々とはまったく違った見方で地球を眺めています。わたしたちの見解はむしろ古代人や先住民族のそれに似通っています。

わたしたちの見方では、神は地球や宇宙の創造主であるというよりは、むしろ**創造のプロセスそのもの**であり、**宇宙の物質的事物に本来そなわっている属性**であるというものです。

またわたしたちの解釈では、あなたが在るところに、神もまた在ります。創造も在ります。

実にあなたの存在しうるところで、神が存在せぬところはありません。あなたは神の一部であり、創造の一部なのです。そして、そのことがすべての核にあります。創造は、最小なる粒子のなかにも存在し、流動しています。この見方によれば物質的宇宙のすべては聖なる空間であり尊い神殿ということになります。いま人類の多くが地球の意識性から切り離され、隔絶した状態にあります。これは物質的世界が体験すべての総体であると主張する、あなたがたの文明の信念体系が作り出した意識の睡眠状態によるものです。

ここで話したいことは、物質的世界というものは体験領域のほんの一部にすぎず、また神性から分かれることなく常にその一部であるということです。地球意識を体験するには、意識そのものの精妙な領域にアクセスして感知しなければなりません。」

(トム・ケニオン&ヴァージニア・エッセン著「ハトホルの書」184ページ ナチュラルスピリット刊)

私が10月18日以来、しようと思っていることはこの

<創造のプロセスそのもの>

<宇宙の物質的事物に本来そなわっている属性>

を知ることであり、ふれることであり、わがものとするものである。

だいそれた試みである。

ただ、人のあらゆる思いは実現可能と思っているので、ちゅうちょは一切ない。

ただ、日とともに発心の新鮮さが薄れてきている。

(10月23日 2010年掲示板)

■真理への道～手立て

まずは意志である。意志があれば通る。

この世界で実現できない不可能なことというのは、想像することさえできないことだけである。

想像できることはすべて創造できる。

(蛇足) この話題が出ると、いつも思うことは「想像することさえできないこと」ということはあるのだろうか、ということである。あるとしたら、どういうことだろうか、ということである。

(10月25日 2010年掲示板)

▲言葉の問題。宇宙のはて、地球のはてと似た問題か。

↳沈黙の力、これによって明らかになることがある。

■真理への道～エネルギー

真理というのは漠然とした言葉である。真理ということは何を言っているかということ、具体的な断片としては、たとえば、

<空中浮揚する>

ということである。これは小学生の頃に一度したことがある。したことがあることは再度意識的にできることであり、それ以上のこと、テレポーションまですることまで可能であると思っている。

ただし、これは目的ではない。結果であり、過程であり、目的ではない。

空中浮揚が真理なんて日本語を知らないのではないかと言われそうである。だが、空中浮揚は今書いたように、過程である、成長の過程であり、その道しるべということだけである。真理は、空中浮揚の場合、おそらく、

<莫大な感情エネルギーの創出とそのコントロールはできる>

ということであり、そのことにより表出するひとつの現象であると思っている。

(掲示板記入可)

<正誤がある問題については間違えない>

■意識のある人生

他人に対しても、自分に対しても一日中気を送ること、気のコントロールをしていること。

まずは自分自身に上下から気を送ること。

あるいは、呼吸法で気をコントロールすること。

気の実感。

体の動きによる気のコントロール。

内なる力としての動詞を生きること。

身体でなく、エネルギー体とその力（法則）として生きること⇒怖れの喪失

あらゆる事象、他者を気とエネルギーの観点から見ること。

筆ペン人生の筆を使うこと。

ハトホルの薦める「エル・カー・リーム・オーム」

自然と身体

目黒の庭園美術館

明治神宮

私の場合のアンテナ、皮膚は気を感じるセンサーである。

ウォーキング・・・いろいろ意味があるが、

プラネットウォーカー

映画「ザ・ウォーカー」

「ヒマラヤ聖者の生活探求」の徒歩での伴行

南のウォーキング

アクア・ブルーさんが高塚にすすめたこと

■すべてのことを<知る>ということにフォーカスすること。

#### ▲選択と存在。

「あなたが混乱してとまどい、宇宙に答えを求めているとき、必死にものごとを把握しようと考えている部分のスイッチを切って、すべての答えにアクセスできると知っている部分のスイッチをオンにすれば——つまり何をすべきかを決めようとするのではなく、どうありたいかを選べば——ジレンマはたちどころに解消し、解決策が魔法のように現れることに気づくだろう。」

(「神へ帰る」270 ページ)

#### ■気のある人生～10月19日2010年

疲れていてはどうしようもないということ。

これは実は自分自身の今の限界かもしれない。

#### ▲筆ペン人生～気のある人生

いかなる時も——意識があるときにしかできないが——、

自身の気を感じてみることに。

感じたら、コントロールしてみることに。

あるいは、少し違うように動かしてみることに。

具体的には、

少し違うように体を動かし、少し違う気を作り出し、感じてみることに。

少し違うように呼吸して、少し違う気を作り出し、感じてみることに。

これは、この文章を読んだ今、数秒間でできることである。

(3月8日2011年掲示板)

#### ●ミクシィコミュ～グルジェフの自己紹介

はじめまして。

グルジェフの書籍は20年前に書店でたまたま(?)手に取り、それから何冊か読んでいます。「魁偉の残像」「グルジェフ・弟子たちに語る」は時々読み返しています。

つまみぐいのような知識ですが、一番の関心があり、いまだに果たせないでいるのが自己観察です。実に難しいですが、これなくして何も前に進まないと考えているので日々挑戦中というところです。



今、平行して勉強しているのは「神との対話」シリーズと「ハトホルの書」、パラマンハサ・ヨガナンダの本です。シュタイナーも好きな本ですが、訳者が高橋巖さんの場合のみです。

以上、簡単ですが、自己紹介です。よろしくお願いいたします。

●ヒーリング～ミクシィ

>気功は私にとっては未知なるものです。

実は、わたしにとってもそうです。

ただ、昨日から本気になって学んでみようという気持ちになっています。

>東洋医学で習った体中をめぐる気とは別物ですか？

体中をめぐる気も気のひとつです。

というか、万物——あらゆる物質——の動きのもと、万物の働きのもとが気であると考えています。

この宇宙で気がめぐっていない物はないと思っています。

>鍼灸治療をし始めると手がぼかぼかしてきますが父はこれを気だと言っていました。

そうです、気の働き方が鍼灸治療によって変わったことによる効果と言うことですね。不思議なことに、東洋医学で習ったように、重い病気は気を通すと患部が冷たく感じられることもあるんですよ。

>指を動かすから血流が良くなって温まったとも考えられますが、体調の良い時は温まらないので、何か不思議な現象だと思っています。

体調がよくない時には、効果が現れるまで時間がかかるということも確かにあります。絶

望的な病の場合は、どれだけの時間やればよいのか。。。正直、迷うところです。10時間やって治ることが分かれば、10時間でも20時間でも連続してやりますが、まるで分からないので、通常は出張治療でも1時間にしています。

ただ、逆にこういうことも言えます。重ければ重いほど何らかの形での顕著な効果はただちに現われます。

問題は、この効果が本体の病気治癒に必ずしもつながらないことです。

もっととことんやるべきか。。。迷うところです。

>気も目に見えれば分かりやすいのと思います。

見えること、写ることもありますが、その点はわたしはまだまだですね。

あと、気は見るものでなく、感じるものかもしれません。

少なくとも最初はそうで、見れるようになったとしても感じるようになってからだと思っています。

この感じるという点では、私は非常に問題ですね。まだまだです。

対処療法も大切ですよ。

そりゃ、最初から根本を治せるに越したことはありませんが。

気功は私にとっては未知なるものです。

東洋医学で習った体中をめぐる気とは別物ですか？

鍼灸治療をし始めると手がぼかぼかしてきますが父はこれを気だと言っていました。

指を動かすから血流が良くなって温まったとも考えられますが、体調の良くない時は温まらないので、何か不思議な現象だと思っています。

気も目に見えれば分かりやすいのと思います。



あなたが作りだすことができるものは何だろうか。

10月20日、21日 2010年



斜線

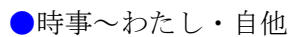
この人たちにもいいところがあるんだよ。

わたしはこの地球に残るよ。

これはこの映画の斜線である。

ほかは人間により作られたものであるが、これは人の神性が語っている言葉である。

このような斜線が集まって世界が変わる。



時事～わたし・自他

私が攻撃される場においても、

私が怖れずにいれば、私が敵愾心を持たなければ、

少なくともそのようなわたしを見た10人の声の大きい人は声が小さくなるという経験を  
するであろう。

これが敵意に対する最大の防御であり、敵意の氷解ということである。

ただ、今の私には怖れも敵愾心もある。

明日の私が恐れを持たず、敵愾心も持たなくなるためには、

私は、<恐れなどない本当のわたし>を知らなければならない。

だから、事件があって思うことは、

<私がわたしを知るために、一歩、二歩あゆまなければならない>

ということだけである。

(10月21日 2010年掲示板)



斜線

漫画のストーリー、音楽、生活全般にあるのは、「起承転結」の「転」ばかりである。刺激  
ばかりがあり、斜線がない。

斜線に潜んでいる無限の「起承転結」を見ること。

10月21日、22日 2010年

●時空

20年前の自分であれば、今の人生は絶対に嫌だと思うであろうが、今の自分は今の人生を気に入っているのである。

もしかして、それぞれの自分自身にその時空があるのではないだろうか。

●「三丁目の夕日」～親切

ハッピーを散歩に連れて行くこと。

10月23日 2010年

●

「エル・カー・リーム・オーム」のバイブレーションそのものを感じてみること。

10月24日 2010年

●なみこさんへの返信

なみこさん、お見舞いありがとうございます。

実は、今回だけでなく50年間ずっと大変だったのです。

ただ、これまで筋力でカバーしてきたのが、老化で出来なくなり、それで痛みが出てきてしまったのです。

しかし、整形外科学会でそれなりの地位のある方が、私のレントゲンを初めて見たときに

「こんなになっているんだ。。。」

と嘆息と驚愕の入り混じった表情、オーラを見せられた時には、こちらもびびってしまいました。

いろいろご心配いただき、ありがとうございます。

へっぽこベジタリアンなので、ちょこちょこカルシウムとタンパク質も入れています。

とりあえず、明日は一ヶ月ぶりの飲み会で、もしかして、お通しに生シラスが出るかもしれないお店なのでしっかり食べてきます。

何か急に寒くなってきました。

なみこさんもお体を大事になさってください。

(10月24日 2010年)

股関節が大変なことになっているようですね。

カルシウムは足りていますか？

高塚さんはベジタリアンのようですので、カルシウム&タンパク質の不足は心配ですね。

両方とも人体を作っている栄養素ですからね。お大事になさってください。

10月25日、12月13日 2010年

●意識のある人生～気づき

今のことは今行うこと。

そして、今は何の時であるか。

今の時を本当のわたしとすることである。

(掲示板記入可)

■ハトホルのいう生物学的な時間

10月29日、30日、31日、12月30日 2010年

●「小林ハル」

最小値の人生

限りない制約～盲目と祖父の教えという制約

助けが必ずあること

無性

エリック・ホッファー

■意識のある人生～今日の意味

どんなに豊富な食べ物があっても、どんなに快適な住まいがあっても、生きていることに意味がなくなれば、死ぬ。

たとえ食べ物らしい食べ物がなくとも、たとえ快適な住まいがなくとも、生きていることに意味があれば、生きる。

どちらにしろ、生きていることの意味は食べ物や住まいのことではない。

では、わたしの場合、生きていることの意味とは何であろうか。

今日は生きている意味があったといえる一日を送るのであろうか。

(10月31日 2010年掲示板)

生きているということは意味があるということである。

この意味には、無意識の意味と意識のある意味とがあるが、  
どちらの意味の場合も、意味とは食べ物や住まいの意味ではない。

## ●身体

言葉

「ヒマラヤ聖者の生活探求」

ハトホル

日華

神殿としての身体の掃除

## ●客観と主観・見えざる姿

小泉八雲の風景の描写と写真の違い、あるいは、絵画と写真の違い、あるいは、写真と実物との違い

■当時の日本人が身体化していた美德を当の日本人は見るができなかった。

## ●ヒーリング～食事

病人が食事を取ることができないという、体に入れることをしないということも体にとっては時に大切なことである。

(掲示板記入予定)

## ■＜無為の為＞

腰痛の時に何もしないということ、これは何も考えない瞑想に通じるところがあるかもしれない。

腰痛の時には、すべてが腰の治癒へと向いている。

(加筆して掲示板記入予定)

## ●＜見えざる伝承＞

ラフカディオ・ハーンのいう「芸術の見えざる伝承」について、同じことがヒーリングにも言えるのではないだろうか。

ヒーリングの伝承に当たること（「弓と禅」）

あるいは、スプーン曲げの話し。

#### ■1月1日 2006年 NOTE

以前にも書いたことであるが…

スプーン曲げをする人がテレビに出たとき、スプーン曲げを信じない人が「南京錠」を曲げたら信じてあげると言ったとき（…まあ、これこれをしてくれたら、僕は勉強してあげるよ、これこれをしてくれたら、僕は賢くなってあげるよ、というわがままな子どものような、信じがたい論理であるが…新しい世界観を得られたらこれは感謝すべきことであり、信じてあげるなどと言うとは、、、）、その出演者が何と言ったかというと、

「スプーン曲げはわたしの前にそれをやった人がたくさんいるからできるのです。南京錠を曲げるのは見たことがないので、わたしにはできません。」

これはなかなか意味深い発言である。スプーン曲げができる人はまだまだ少数とはいえ、少なからぬ人がやったことであり、その道筋ができていることには人はたやすく乗っていきやすいのである。わたしの言葉でいえば、＜同化＞しやすいのである。

では、道筋ができていないことがら、たとえば、南京錠を曲げることは不可能かという、そうではなく、困難であるということだけで、不可能とは異なる。では、南京錠を曲げること以外にどんな同化する力、メガネが人には備わっているのだろうか。

#### ●ヒーリング（遠隔）～実践

体全体を使ったヒーリング

K侯さんに行った最初の遠隔治療の感覚の復権

手がしびれるような感覚の復権

#### ●意識のある人生～ヒーリング（自己ヒーリング）

常住坐臥の自己ヒーリングとして、小さな呼吸、息切れのような呼吸をしないこと。

そして、呼吸に合った動き。

#### ●意識のある人生～変容

どのようなことであれ、何に取り憑かれていても、そのことを意識すると、事態は変容する。

だから、問題は取りつかれていることを変えるのではなく、意識をすることができるようになる、ということである。

10月30日、12月30日 2010年

●動詞～踊り（小泉八雲「日本の風景」）

10月31日 2010年

●ヒーリング～遠隔治療

まず自分自身の氣息をととのえること・

●意識のある人生～わたし・印象・食事

自分自身の体のために1時間、自分自身のこころのために1時間時間をあげる。石ころでなく、体とこころがともに欲しているものを与えてあげることである。

（加筆して掲示板記入予定）

●神聖なる矛盾

どのようなこともたいしてことではない。

どのようなこともたいしたことになりうる。

真に怖れることとは何か。

きっと今怖れていることではなく、今ないがしろにしていることである。

（加筆して掲示板記入予定）

●ノーベル賞受賞者の話し

新しい大陸

システマティック

永遠の楽観主義

## ★11月 2010年

11月1日、12月30日 2010年

●時空



時空が詳細に世界を見るために考案されたものであるのなら、いっそのこと時空に入り込んでよく見ること。

ところで時空に入り込むとはどういうことだろうか。

感情で食い込むこと。

印象から生じる感情

表現から生じる感情

エネルギーと感情

エネルギーと欲望

11月2日、3日、12月10日、30日2010年

●価値・グリーン車

よき罪悪感と悪しき罪悪感、両者をはっきりと区別すること。

事後にどのように感じるかをメルクマールとする。

これは食事でも同様である。

■

金額の多寡による人生観

これが必要だ、これは節約するという、ひとりひとりの独自の人生観

他人と比べるのでなく、わたしと他者のプロセスにとって役立つことかどうか

●生命

ものまで

植物と動物の違い

●意識のある人生

漫画だけ読んでいる時には、その世界から抜け出すことはできない。

私も私の世界だけを読んでいる時には、その世界から抜け出すことはできない。

抜け出す道は、無意識的には不幸と呼ばれるショッキングな出来事であるが、意識的には、難行苦行の修行や、意識のある人生を歩むことである。

真理をつかもうとすること。

この世界を動かしている力。

(考慮)「パワーとフォース」

11月4日2010年

●なみこさんへの返信

>友達が川越にいますが、その人が「開業」しましたので高塚さんの知人・友人のお子様・お孫さんが乳児という方がいましたらどうぞ(^\_^)。遠方の方には出張講師もするそうです。

なみこさん、こんにちは。こういう宣伝なら構いませんよ。

私の知り合いの年齢でいくと、孫になります。。

そのうち「ひ孫」になるんでしょうね。(^^)

ベビーマッサージというのは初めて聞きました。

次回生まれ変わった時には、気持ちのよいマッサージを受けながら育ちたいですね。

今読んでいる漫画で「役小角」の小伝では、役さんは自然の中で育った時期があり、自然の中を歩き回られていた方ようです。

最高のマッサージは自然かもしれません。

(11月4日2010年掲示板)

11月5日2010年

●言葉

掲示板の書き込み、NOTEの言葉に魂を吹き込むこと。

呼吸に魂を吹き込むこと、生命を吹き込むこと。

●ヒーリング

リアリティを求めること。

ヨガナンダの馬

●依田の親小沢

99 パーセント 100 パーセント

100 パーセントは宗教であり、間違った道である。

11月6日、12月13日 2010年

●不安

心配することではなく、創造すること。

過去の遺物の反復として心配するのではなく、未来のわたしの創造として新たな自分、新たな行動を作り出すこと。

どのようなことがあっても恐れることではない。

●意識のある人生

自然の中に入ること。

空にはいつ、どこでも入っていくことができる。

11月7日、12月13日 2010年

●印象

いいものを少し入れる。

着るものにせよ、食べるものにせよ、読むものにせよ。

そして、それを反芻する。

●モノ

一体であるように。

「三丁目の夕日」の昔の丸いちゃぶ台と和ダンスとの会話。

11月8日 2010年

●

自分自身の質問へとたどりつくための掲示板とすること。

11月9日、10日 2010年

●迷い人さんへの返信

迷い人様、はじめまして。

書き込みいただき、ありがとうございます。

今朝は疲労困憊の状態で見覚めましたが、迷い人さんの書き込みを見て目が覚めました。

迷っている、困っているというのは、変化のきざしであり、それは祝うべきことだと自分は考えています。迷いの先が地獄であれ、天国であれ、です。

<これまでとは違う生き方をしたい>

というところの現れであり、そのところの声、そのところの感触に耳を傾けていただければ、そのところから大きな力を感じ取っていただけるのではないかと思います。

とはいいつつも、なかなか変わらない、なかなかそのところの声の実感に触れることができず、ただただ絶望しかないように感じられるかもしれません。

それは、おそらくは、おやめになられた動機

>出世、拝金、物欲主義である今の社会の仕組み

がご自身の中にも巣くっているものだからではないでしょうか。

出世、拝金、物欲主義がご自身の中になれば、人生には光明しか見えないはずで。

人生は「出世、拝金、物欲主義」を基準にしても生きていけますが、「出世、拝金、物欲主義」なしでも生きていけます。ただ、完全になしで生きていくというのは至難のことであり、いつか完全になしで生きていけるためのひとつひとつの段階に応じての喜びと苦しみに生きているのが現実のこの世界の人だと思っています。

わたし自身、「出世、拝金、物欲主義」抜きで生きていきたいと思っていますが、現実には「出世、拝金、物欲」の迷路をさまようように生きています。60年の人生でその都度の「出世、拝金、物欲」を楽しみ、そして苦しみながら生きてきました。昔の「出世、拝金、物欲」は完全に捨て去ったものもあれば、まだ引きずっているものもあります。そして、新たな「出世、拝金、物欲」もまた生じています。

「出世、拝金、物欲」というのは、まさしく人間の業とでも呼ぶしかありませんが、その業を手放すことを決してあきらめたわけではありません。(――それは捨てるとか、手放すというよりも、おそらくは、<行為することそのものを愛すること>により、出てこなくなるものだと思いますが、正直まだ分かりません。)

現実的な方法をひとつ提案させていただきますと、「出世、拝金、物欲主義」に染まった職

業を手放したように——素晴らしい決断だと思います、

ご自身のまわりのものすべて、「出世、拝金、物欲主義」に染まったものもまた手放してみることです。

すべてとは、

家具であり、衣類であり、小物であり、

思い出の品であり、

また、住んでいる場所かもしれません。

——さらに、人間関係もあるかもしれません。

「出世、拝金、物欲主義」を認められるすべてのものを手放すことです。さらに言うなら、<今のあなた>にとってよいものだけであなたのまわりをうめることです。<今のあなた>は<新しいあなた>の始まりであり、そのあなたにふさわしいものであなたを埋め尽くし（もしかしたら、ほとんど何もないというシンプルな状態かもしれませんが、それはそれでものでない新たなエネルギーがあなたをうめつくしてくれるでしょう）、それらとの関係性の中で生きていくことです。

会社をやめただけではまだまだ足りないということです。新しいあなたにとってはです。

苦しんでいるのは、古い関係性のものがまだまだあるということです。

もちろん、イエスや仏陀のようにすべてを手放し、修行して「出世、拝金、物欲主義」無縁の境地に至るという方法もありますが、私も含め多くの人にとって現実的でない方法を提案しても無意味です。普通の人々の道が私には一番なので、迷い人さんの中にある「出世、拝金、物欲」に関するすべてを普通に手放すようにしていただくことをおすすめします。

いつも何にふれているかということはとても大切なことです。目に見えなくとも「もの独自の影響力」があります。その影響力を断つと、<新たなあなた>も息がしやすくなるということです。

そして、その息がしやすくなったところでご自身が何をされるかということ、これは迷い人さんご自身の問題です。それだけはひとりだけでお決めになることです。その決断、その選択こそが人であることだからです。

以上です。失礼な書き方があるかもしれませんが、ご容赦いただければと思います。  
また、新たな生き方の一助になれば幸いです。

(11月9日 2010年掲示板)

高塚様、はじめまして。

当方、路頭に迷っております。

出世、拝金、物欲主義である今の社会の仕組みに  
疲れはてております。貿易関係のサラリーマン  
をしておりましたが、辛いだけのサラリーマン  
生活に嫌気がさし、半年前に自主退職しました。  
将来の明るい希望や人生の充実感や笑顔が全く  
実感出来ない私は、今後の人生をどの様に歩めば  
良いか、ヒントをいただければ幸いです。  
面識もないのに、図々しい質問で恐れ入ります。



迷い人様

返信いただき、ありがとうございます。

お役に立てればこれほどありがたいことはありません。

また、自主退職されたことが、ご自身だけでなく、高塚にも、そしてこの掲示板を見られ  
ている方にも、さらにまた、いつか迷い人さんがお会いする迷われている方々に大きな力  
となる

このことだけは確かなことなので、やめられた時の気持ちをいつまでも大切にされること  
を願っています。

このような行為はとてもきれいなもので、目には見えなくとも大きな力となっています。  
ただ、純粹なるがゆえ壊れやすいものでもあります。大切に育て上げられることをこころ  
より願っています。

(11月10日 2010年掲示板)

高塚様

こんにちは。

さっそくのご返信ありがとうございます。

とても親切丁寧なご回答をいただき非常に嬉しく思います。

併せて、とても感謝致します。お疲れのところ、大変お手数おかけしました。

さきほど内容について拝見をさせていただきました。

当方が「出世、拝金、物欲主義」の社会のシステム云々をを理由にしたことは  
当方に「出世、拝金、物欲主義」が潜んでいるということですね。

否定しているが、実際に当方の中に在るということ。そして、それを拒んでは  
夢も希望も見つけることはできないということですね。少し奥が深いですね。

ご回答をいただきました内容を繰り返し読んで、考えたいと思います。

>ご自身のまわりのものすべて、「出世、拝金、物欲主義」に染まったものもまた手放して  
みることです。

>

>すべてとは、

>家具であり、衣類であり、小物であり、

>思い出の品であり、

>また、住んでいる場所かもしれません。

>—さらに、人間関係もあるかもしれません。

2点ほど強く思い当たる節がありました。

仕事を辞めて、周りの環境もがらっと変えて、一度リセットして、  
自分にとって本当に大切な人、事、物を探していきたいと思います。

このたびは突然の質問で大変お手数をおかけしました。

高塚様の貴重なご意見、当方の今後の悩み解決案として

非常に参考となりました。そして、実行してみようと思います。

この度はいろいろとありがとうございました。

#### ●ヒーリング

ヒーリングはひとりひとりがまるで違うのである。

#### ●クリア～「ガラクタ捨てれば自分が見える」

お犬様がわが家のリビングでよく粗相をしていた。「これ」のあるべき場所はリビングでは  
ない。パソコン部屋でもない。トイレである。

これは臭いもあるし、形もあるから分りやすい。だが、なかには形はあってもにおいが感じられないもの、その影響力をなかなか実感できないものがあるのでやっかいである。

あるべき場所にあるもの、そこはどこなのか考えてみることは大切である。

11月10日2010年

●風水～ヒーリング

「風水」については全く興味がわかなかった。たとえば、どの方向に何色の絵を飾ったらいいとか、何色の財布はお金がたまるというような話しは、仮にそういう影響力が色にあるにしても、ひとりひとりが持っている気の力、行動の及ぼす力からすれば微々たるものであると思っていたからだ。

ただ、最近「ガラクタ捨てれば自分が見える」(カレン・キングストン著 小学館文庫)を読んでかなりそのイメージは変わった。ここでは、

「風水とは、環境の中にある自然エネルギーのバランスをよく調和させ、日々の生活に良い影響をもたらすためのものです。」

(上述書 15 ページ)

と定義し、この自然エネルギーを調和させるためにガラクタを片付けることを勧めているのであるが、その詳細にはここではふれない。

ただ、上述の定義を読んでいて、ふと思ったことは、わたしのしている気功治療はまさしく「風水」であったということだ。同書では自然エネルギーを「風水」と呼んでいるが、まさしくわたしの気功治療は<風>と<水>なのである。

手かざしをすれば、手のひらから気が出て行くのがはっきり分かる。わたしはこれまでそれを真っ直ぐな「かげろう」のようなものとたどえていたが、今思うに、まさしくそれは<風>のようなものなのである。この<風>のようなものが普通の風と違うところは、それは固体の中を何の抵抗もなく通過してしまうということである。通過する時に治療目的であれば体にある影響を与えるのである。それをエネルギーと呼ぶのが適切なのだろうかはいまだに分からない。ただ確かなことは、身体にとっては風のように感じられるということである。

また、気の出具合が悪くなると、手を洗えば、またきれいな気が風となって出て行くのである。疲れている時には手を洗う頻度が増すが、元気できれいな気が出ている時には30分



以上出し続けても出ている気に変化はなく、かるやかで、しっとりした、密度の細かい気が出続ける。

かように、わたしの気功治療は<風>と<水>がメインなのである。

ただ、だから何が分かったということではない。分かったわけではないが、気とは何かということに関する取っかかりができたと感じている。

(11月10日 2010年掲示板)

#### ■四大元素～火 (2010年11月13日の日記より)

稲毛からはバスで真っ直ぐ自宅のある団地まで。団地のあるバス停を降りたところで日が出ていればいつも太陽を見上げる。「ハトホルの書」で勧めている目から太陽をへだてないということであるが、自分は一步進めて太陽を見上げるようにしている(もしかしたら目に悪いのかもしれないので、お勧めはしない)。不思議なもので疲れている時にも元気が注入されるのが分かる。この日は曇りで太陽を見るにはちょうどよかった。薄雲にさえぎられて目の肉体的な負担がないからである。それはいいのだが、さらに不思議なことは、太陽のまわりの光が右回り、左回り交互に回転していたことである。目の錯覚だったのであろうか。。。

#### ■火

グルジェフの火には火を

11月11日、17日 2010年

#### ●意識のある人生～質と量

将棋の強さは、どれだけ長い時間将棋を指したかでなく、どれだけ深く将棋にもぐりこんだかで決まる。

#### ●意識のある人生～動詞

中山駅から光ヶ丘団地へ向かうバスの車内で。。。

一体～道路と空と私とをわたし感じたこと。

そして、これからも感じること。

11月12日、17日 2010年

#### ●時空

時計の時間でなく、プロセスの時機がある。  
その時機を直観すること、観察すること、実践すること。  
あらゆるh寸簡において。

(参考)「ハトホルの書」の三つの時間

11月13日、14日 2010年

●ヒーリング～条件・神聖なる矛盾

病気の時には体を治すことが優先される。重い病気の場合は、すべてが後回しにされ体を治すことが優先される。

だが同時に、  
<今その時での、その状態で、できること>  
がある。

もしかしたら、このことこそすべてを後回しにしても優先されることなのかもしれない。  
このことは、どのような重篤な病気であれ、体治しを後回しにしても優先されることなのかもしれない。

同じことは健康な人にもいえる。  
より快適に、より有意義に、より楽に生きられるためにより多くのものを手に入れようとして、そのことだけで人生のすべてを使い切り、

<今その時での、その状態で、できること>

を後回しにし、それらにほこりをかぶせてしまい、いつかその存在さえも忘れてしまっているという、そういうこともまたあるかもしれない。

(11月14日 2010年掲示板)

●ヒーリング

ヒーリングが私に語りかけているものに耳をすますこと。  
体をすますこと。

●風水～火 (2010年11月15日「日記」より)

稲毛からはバスで真っ直ぐ自宅のある団地まで。団地のあるバス停を降りたところでは日が出ていればいつも太陽を見上げる。「ハトホルの書」で勧めている目から太陽をへだてな

いということの実践であるが、自分は一步進めて太陽を見上げるようにしている（もしかしたら目に悪いのかもしれないので、お勧めはしない）。不思議なもので疲れている時にも元気が注入されるのが分かる。この日は曇りで太陽を見るにはちょうどよかった。薄雲にさえぎられて目の肉体的な負担がないからである。それはいいのだが、さらに不思議なことは、太陽のまわりの光が右回り、左回り交互に回転していたことである。目の錯覚だったのであろうか。。。

11月14日、15日 2010年

●時間

時計の時間を生きないこと。

直観の時間、自分自身の生命の時間を生きること。

●ヒーリング

自分が患者さん自身であるようにして送ってみること。

一体になって送ってみること。

わたしの動詞が相手の名詞となって送ってみること。

11月15日、16日 2010年

●「生、死、神秘体験」

240 ページ～ヒーリングにおける技巧と平板と

251 ページ～モーツアルトの動詞

257 ページ～原稿～追い込み

1 仕事をしての残り時間

2 持たないこと

266 ページ～善悪の選択

11月16日、21日 2010年

●質問～モノ・所有

所有物と呼ばれているモノ手元においておく理由をあげよ。

そして、その理由にあてはまらないモノをあげよ。

そして、その理由にあてはまらないモノを手放したかどうか答えよ。

1 利用することができる

2 面倒をみることができる

3

11月17日、18日、20日 2010年

●ヒーリング～治すということ

いとこの光さんにスプーン曲げを教えてくださいました方は、100年玉を瞬間移動させて紙のコスターの間に入れてしまうという。ただ、そんなことをして何になるかということはある。その点、手をかざして病気が治るのであれば、こちらの方が意味があると普通は考える。

だが、100年玉の瞬間移動よりヒーリングの方が意味あることとは限らない。ヒーリングは時として100年玉の瞬間移動より劣るということはある。

それは手をかざして治そうとする思いであったりする。

(加筆して掲示板記入予定)

●なみこさんへの返信

なみこさん、ご連絡いただきありがとうございます。

最近「一歩」のBBS見ていなかったもので、K野さんの近況を知りませんでした。

手をかざすのはご本人の希望がある時だけです。気功をするかどうかは分かりませんが、お見舞いには近々お伺いします。

しかし、つらい話が多いですね。

(注)「一歩」をご存じない方へ

「一歩」は新宿ゴールデン街のお店で、K野さんは飲み仲間であり、趣味の将棋の仲間です。指した将棋は100や200ではきかないし、酌み交わした杯は1000や2000ではきかない友人です。

(11月17日 2010年掲示板)

一歩BBSによると一歩千金メンバーの、K野さんが大変な事になっているようです。高塚さんの「気功治療」の登場の時だと思われます。

●意識のある人生～「まんが道」

手塚治虫、神様の努力

立山新聞社の「変木」さんのていねいに仕事をするということ。

こうした努力はもっと若いうちにすべきことであるのは重々承知しているが、ただまた、いつでも有効であるということを肝に銘じること。

日記はサッカー男さんのようにていねいに書くこと。  
ひとつひとつの仕事をていねいにこなすこと。

●質問66～愛と不安（小人の心配）

私は心配だらけの世界で生きているが、  
この世に死ぬこと以上の心配事などはないはずである。  
しかるに、いつも死ぬこと以外の小さな心配事に日々心をとられてしまっている。

どうせ心配をするなら一大事の死について心を配る人間でありたいものである。

実はこの世界には死ぬこと以上にこころを配るべきことがある。  
それは一体何であろうか。

（11月18日2010年掲示板）（11月19日2010年掲示板）

●エネルギー

思考＝エネルギー

脳～思考というエネルギーを物理的な衝撃（インパルス）に変換する最大の変換器  
└いつも何を考えているか（結果につながらない思考というものはない）

個々の細胞の変換器

└何を入れているか、何にふれているか

└自然

部屋の場のオーラ

└変換器を癌にできてしまっはいけない

●

聖書の「神を試してはならない」という話しは、神は内側で体験することだからである。

11月18日2010年

●動詞～名号

南無阿弥陀仏という名号

●意識のある人生

毎日がタイムマシンであること。

11月19日、20日、22日 2010年



能力で表現することとそので感じること

●元気・選択

元気が出ない時には、次の区切れ目の時刻から生き方をまるで変えるようにすること。  
変えられるようにするために、あらゆる工夫をすること。内と外とであらゆる工夫をして、  
次の区切れ目の時刻から世界の景色を変えてしまうこと。

ただし、休憩、リラクソスの時間を取ることは必須であるので注意すること。

●意識のある人生

一日を、

他人の目でなく、神の目で生きること。

他人の目とともに生きるんでなく、神の目とともに生きること。

自分自身に恥じることなく、満足感のある目とともに生きること。

■風水～「ハトホルの書」

一日に一回は自然にふれること。目黒の庭園美術館、横浜の港の見える丘公園など、自然とともにゆったりとした経験をするのは年に何度だろうか。さらにまた、自然のあるところに行っても自然とともにいないのが人間である。

朝から朝までの夜勤の日でも、ビルとコンクリートの地面しかないところで働いていても、まだ空はある。休み時間に空を見上げること。自然とともにいること。

自然に働きかければ、自然はわたしとともにいることができる。

その自然はわたしの行為すべての源である。

それがわたしの「風水」の基本である。

(11月20日 2010年掲示板)

## ●身体

リラックスしていること。

横になって寝ている時のように、寝ている時が起きている時のエネルギーを創出する。

その寝ている時のように、いつも体をリラックスさせていること。

もちろん、睡眠をとっている時にはそれだけがエネルギー創出の要素ではないであろう。

他にどのような要素があるかは分からないが、、

少なくとも今分かること、リラックスするということを人生の要素に持ち込むこと。

無意識のリラックス。

意識的なリラックス。

意識的なリラックスは無意識的なリラックスをに追いつき、それを越えることができるのだろうか。

他方、緊張が生み出す統一感。こちらもまた、身体の維持に貢献するのであろうか。

身体のコントロールとしてであらうか。。

ストレスによる緊張はコントロール不能状態であらうか。。

## ●ヒーリング

今回のヒーリングにおける気づき

旅立ちへのための手かざしもあるのではないだろうかということ。

その場合の贈られたもの。

一回目が一番効果がある。一回目にどこまでも行うこと。可能な限り行うこと。そこがヒーリングの生命かもしれない。

二回目に一回目と同じようにできないということが一方にあり、あとおそらくは、何ごともそうであるが、一回性というものがある。

家族との関係性に配慮する。患者さんが亡くなられたあとも見えない糸の関係性を持つこと。

## ▲11月20日2010年の日記より

20日(土曜日)は夜勤明け。「モスバーガー」で「北海道コロッケのフォカッチャ」をいただきながら朝のひと時。2階の大きな窓から外を見ていると、街路樹の枯葉が生き物のように落ちていく不思議な光景。もしかしたら、この枯葉は昨日の私よりも生きているのかもしれないという感覚におそわれる。

枯葉と言うと、「機械の中の幽霊」（アーサー・ケストラー著）という本の冒頭に、枯葉を生活に使っているアマゾンのアリが枯葉が落ちてくるちょうどその真下のところで待っているという話がある。もしかしたら、枯葉とアリは人には見えぬ生命でつながっているのかもしれない。

11月21日、22日、28日 2010年



昔好きだったことは、将棋新聞や将棋世界を読みながらおいしいものを食べることであった。

●意識のある人生～祈り

祈りとは思考のコントロールである。

与えられている条件には一切祈りはしないこと。

すなわち思考しないこと。

なぜなら、与えられているものは完璧だからである。

祈りは、すなわち思考は、  
私と与えられて条件の中で何をするのか、  
どのような自分であるのか、

そして、  
明日以降、どのような自分であるのか、  
このことだけに祈りを、思考のコントロールを用いること。

なぜなら、私が何をするかということに関しては完璧でないからである。

（加筆して掲示記入予定）

●質問67～救世主

2012年に世界が滅びるという話があるが、いつも言うようにこれが事実となるかどうかはわたしにとってはどうでもいい。わたしにとって役立つ情報はその情報によってわたしがより意味のある生活を送れるかどうかだけである。



そして、2012年（12月？）に世界が滅びる（壊滅的打撃を受ける）という話しは、わたしの役に立つ。どのように役立つかと言うと、この人生をあと2年間だと思って生きるとは、2年間と思わない人生よりも有益だからである。根がなまけものなので、はっきりした期限がないと何もしない人間だからである。

ただ、わたしはこの世界の終わりに対して期限だけを生かして、終わりに対して何もしないということはない。

わたしは問いかける。

もしもあなたが世界の救世主であったとしたら、今日何をやるであろうか。

そして、これは本当の話しであるが、あなたは世界の救世主である。

あなたは何をやるであろうか。

（11月22日 2010年掲示板）

■

小さなことでできなかったこと、これをすることは世界を救う。  
こころの小さな声、これに耳を傾けることは世界を救う。

小さなことに気づき、  
その気づきを実行し、  
これまでの反応の仕方を変えること、  
これだけが世界を救う。

これは誰にでもできることであり、だから、誰もが世界の救世主なのである。

■ 「ハトホルの書」

「運命を変える」章を参照のこと。

■

2012年に終わりにならなくとも、あなたの救世主の行動がその時も有効であるなら、それはいつまでも続くものである。

2012年は永遠に続くあなたの行為への愛のただのきっかけにすぎない。

また、逆に予言どおりに終わることになってもである。

●意識のある人生

立ち止まること、

立ち止まれば、嫌であったことも嫌でなくなる。

立ち止まるとは、これまでと違う生き方をすることが可能になるということだからである。

～ハトホルの「気づき・選択・波動」の気づきの話しである。

11月22日、28日 2010年

●

この世界で体を動かすことができるというのはこの世界での基本である。

この意味でグルジェフが自己想起に体の動きに注意を払うことを出発点としたことは意味あることかもしれない。

「神との対話」の立ち止まること（3巻）

●自他

自分だったらこうすると相手を非難すのではなく、

自分はこうすればよい

ただそれだけである。

●「神との対話」3巻23ページ（文庫本）

「……証明することも……できない」

・イエスの試すこと

・希望→信仰→知識

└=存在=体験

11月23日、24日、26日、27日 2010年

●エネルギー

疲れな方法、エネルギーを生み出す方法

早くやること。

しかも、しつとりとやること。

損得にこだわらないこと。

#### ■自己規定

その時に気持ちがいいことではなく、そのあとに気持ちのよいことを行うこと。

そして、できうれば、いつまでも気持ちのよいこと、そのことを行うこと。

たとえその時に気持ちが傾かなくとも、小さな声に従うこと。

#### ●クリア

カール・ポッパーという哲学者が人間と世界との関わり方について三つに分類している。

それは、

世界1～物質

世界2～個人的な精神世界

世界3～図書館に代表される人類の普遍的知識全て

である。

同じような分類を「神智学」でシュタイナーがゲーテの分類を引用しながら行っているが、ここではその詳細には立ち入らない。

世界1、2、3、それぞれの重要さにランクがあるわけではないが、一応この人生をこの2年間と区切って生きていく上で、世界3に関わらないすべてを手放そうと思っている。

究極は、世界2も世界3とおおいに関わりはあると考えたいが、2年間という区切られた時間内では、世界2はほとんどが削られてくる。世界2に関してはこれまでの経験だけで十分である。

ということで、ビデオとほとんどの本の行方が決まりました。

なお、2年間というのは人類による自身への壊滅的打撃への猶予期間である。

。。。違っていたら、、継続か、世界2をもっと取り入れた人生にするか、それはその時にまた決めます。

(11月24日 2010年掲示板)

■シンクロ・小さな声

Hさんの火事・Oさんのお通夜

神に関する事以外はすべて手放すこと。

この世界のプロセス、この宇宙のプロセス以外はすべて手放すこと。

■神聖なる矛盾～ハトホル

世界1を生きること。

世界2を生きること。

■トイレの時間も世界3のために。

あらゆる時間を世界3のために。

世界2の時間はただのいこいだけとすること。

●仕事

与えられた仕事～ハトホルのいう肉体としてのわたし

ラヒリ・マハサヤがババジカた言われた市井の人として生きること。

11月24日 2010年

●エントロピー・プロセス・力

エントロピー減少にも法則が働いている。

悪事と同じようにである。

11月25日、27日、28日 2010年

●意識のある人生～選択とシンクロ

いかなる時にも、

それをすること以外にどうしようもないという時がある。

その時には、あせらずに、その時をていねいに生きることである。

いかなる時にも、

それをすること以外に生きることができるという時がある。

その時には、臆せずに、一歩踏み越えてみることである。

(11月28日 2010年掲示板)

## ■機会と選択

選択という時と選択すべきでない時とがある。

したがうべき時としたがうべきでない時と。

シンクロニシティ

ビルの屋上から自分は神だと言って飛び落ちる男。

## ■ハトホル

- 1 気づき
- 2 選択
- 3 波動

## ●ヒーリング

よく日記に遠隔でも直接でも「実感のある気を送る」と書いているが、それはおおむね次のヨガナンダの話と同じである。

「まず目を閉じて、左側に一頭の馬を想像しなさい。初めのうち、あなたが想像する概念はかなり漠然としたものでしょう。しかし、私が白い馬を想像しなさいと言ったら、前よりもはっきりと想像できるでしょう。では次に、右側に黒い馬を想像しなさい。今あなたは、心の像、つまり観念をつくっています。では、左右の馬を入れ替えなさい。あなたにもう少し強く想像する能力があれば、あなたの観念は現実的に見える像になります。あなたは、それを夢の中でやっています。そこでは、あなたの心はもっと集中しており、自分の観念を幽体の視覚に感じられるまでに凝縮しています。夢も想像も本質的には幽体の波動で、光とエネルギーで構成されています。幽体の像で白い馬と黒い馬を、もし肉体の感覚で感じられるまでに凝縮することができれば、あなたは実際に物質を創造したことになるのです。」

(パラマンハサ・ヨガナンダ著「人間の永遠の探求」272 ページ 森北出版)

中国では気は物質であると言っていると読んだことがあるが、これもまた同じような話である。

(11月25日2010年掲示板)

## ■気

ただ、では気は物質であるかというところではなく、多くの人にとっては物質化されて初

めてそれを感じることができるというものであり、もともとは今風に言う<情報>のようなものであると思っている。

鍼灸学校である先生が（言い伝えの話しとして）「強い気は冷たいものである」と言っていたが、それはちょっと違うのではないかと思っている。おそらくは重い病気の人が治ったときに気が冷たく感じられ、その気を送った気功師が冷たい気を出すということになったのだらうと思っている。

実際、私の経験では、重い病気の場合は患者さんにとって気が冷たく感じられ、軽い病気の場合は気が温かく感じられるということが多いためである。また、病気によっては痛みを感じる場合があるし、体が動き出すこともある。

気は冷たいものでも温かいものでもなく、また痛いものとか、そんなものではなく、ただ気が体にどのように感じられるかということだけである。その意味で物質のように感じられるというのも同じことである。

では、気は何かと言うと本当のところは分からない。これまでの経験で情報のようなものだらうと思っているだけである。

（11月27日 2010年掲示板）

ヨガナンダ風にいうと、場合によっては物質として存在させることもできるということである。

第六感としての物質として感じること。

■

スプーン曲げをして早死にされた方。

「ヒマラヤ聖者の生活探求」の水を凍らせる人の話し

11月26日 2010年

●なみこさんへの返信

どういふことでそのようなことになったのかは分かりませんが、手術後にまた別の大きな病気を併発されるということは時々聞く話しですね。

K野さんのところには明日土曜日にお見舞いに行く予定です。

昨日は幹事だったのであまり飲まずに帰ることができました。お心遣いいただき、ありがとうございます。

グリーン車は、稲毛駅からの朝のラッシュ時とか東京駅からの夜の時間帯はまず坐れません。お金払って立っているのってアホみたいですが、まあ、私の人生もそんなこと多かったですから。。というか、私の場合は、お金を払わずにグリーン車に乗せていただき、席があいているのに立ったままている、、、という人生でしたが。。わざわざ苦勞をしょいこむ人生ということです。。

ところで、「一歩」の忘年会は12月11日(土曜日)「ヘブン」ですが、ご都合いかがでしょうか。

(11月26日 2010年掲示板)

一歩BBSでの報告を読むと・・・心配ですね。糖尿の治療が終わって退院した後、心筋梗塞で倒れ手術は成功し心配ありません、というところまでは掲示板での情報で解っているのですが、何故今のような半ば意識不明の状態に悪化してしまったのでしょうか？

それと・・・忘年会からは無事に生還してくださいね。どうも「一歩」のメンバーは飲み会帰りに「対人」ではなく「対物」ケンカになるパターンが多いような(^\_^)。

それに・・・高塚さんは既にアルコールをどこかで入れていませんか？グリーン車で座れないってあり得ないので普通車に乗り込んだものと思われそうです(-\_-)。

■

11日楽しみにしています(^o^)/

K野さんの様子は日記に書く予定です。

今日は予定がつまっていますので、明朝眠られている時間に送らせていただきます。

(11月27日 2010年掲示板)

今年の忘年会は11日なんですね、OKです(^\_^)v

K野さんの様子はまたこの掲示板で教えてください。

ちなみに私、3日前に風邪をひき、2日間寝込みました(T\_T)

それなのに今日は休日出勤当番で、へろへろ状態で仕事をこなしました。風邪に効く「気」をお待ちしてマース！

11月27日、12月7日 2010年

●選択二種

創り出す選択と機会の波に乗る選択とがある。

●

気の世界で生活をする事（しているが、意識的に、そしてコントロールできる世界として）

11月28日 2010年

●ヒーリング

K野さんへのお見舞いとヒーリング

この世的には、エネルギーと時間の喪失である。

しかし、あの世的には、エネルギーと時間の産出である。

■四大元素

ハトホルのいう四大元素の貢献について思い至ること。

それに比して、わがヒーリング人生を省みること。

ひょっとしてというか、四大元素は神そのものかもしれない。

11月30日、12月2日、3日 2010年

●迷い人さんへの返信

人助けのための医療介護の世界にいても人は鬼となって鬼の世界を作り上げることができます。映画「グリーンマイル」のように、人殺しの刑務所の世界にいても仏となって仏の世界を作り上げることができます。

貿易のお仕事がどのようなものかは分かりませんが、お仕事をやめられた時のお気持ちを大切にされ、今度のお仕事でそのお気持ちを育て上げられることを願っています。

（11月30日 2010年掲示板）

●ヒーリング～着地

ヒーリングの着地点は実はいろいろある。

もちろん、完治することもある。

ご家族と最後の時間を過ごすことのきっかけとなることもある。

これは信じがたい話しであろうが、一度亡くなってもう一度生き直す人生もある。自身と



家族と私のためにである。

苦しみを癒すが、やはり病を体験しなければいけないという苦しみもある——もちろん、苦しみに意味があるからである。

私の人生のために早く亡くなられるということもある。

いろいろあるが、以上は私の色眼鏡から見た着地点である。身勝手ながら、どれも私にとっては意味ある着地点ばかりであるが、その着地点となるためには、やはり、とことんやらなければならない。身を粉にしてやらなければならない。

(12月3日 2010年掲示板)

#### ●ヒーリング～才市

広い砂地にグラスの水を注いでいるようなヒーリングがある。

無知でなければできない。

(12月1日 2010年掲示板)

#### ■行為への愛

20年前に手かざしをやり始めた頃は、おもしろいように効いた。しかもほとんど一回である。また、そのようにして治る方ばかりであった。

だが、ある時からそうでない方を集中的にやるようになった。

いくらきれいな気を送ってもびくともしない病。

しかも、相手の方は何度でも来ていただきたいという。

どうすれば続けられるか。

答えはふたつある。

ひとつはお金をいただくことである。

このようなヒーリングはお金をいただかなければ絶対に続けられないということが分かった。

。。。しかし、これはわたしのヒーリングであろうか。。

絶対に治らない患者さんに手をかざすことはわたしのヒーリングであろうか。。(誤解を生みそうな表現ではあるが。。)

しかし、始めた以上は、やめるわけにはいかない。。

あるいは、やめるというべきなのか。。

もし私だけを最後の頼りとしている時にそんなことは言えるわけではない。

だから、お金のためにやることになる。

もうひとつある。

それは、手をかざすという行為そのものを愛するということである。

行為そのものを愛しているから手をかざすのは無条件である。

一回で効かなくとも何十回も何百回も手をかざすことができる。

これが理想である。

(12月2日 2010年掲示板)

## ★12月 2010年

12月3日、6日 2010年

### ●意識のある人生

この世界のプロセスに貢献すること。

そのために、見えない世界へのアクセスに努めること。

そのために、見える世界で労を惜しまぬこと。

### ●意識のある人生

18年間

2年間

1日

将来の展望とひとつひとつのクリア

└最善の機会

### ●

神～命令せよ。。友人であるか否かのスケールである。

12月4日、5日、7日 2010年

### ●意識のある人生

座位によるヒーリング～姿勢・・・脊柱

いつも正しい姿勢でいること。

⇒ 時空のコントロール、この世界ですべてを為すことができる。

●悪人正機説・イエスの言（マルコ 2・16～レビを弟子にする）  
悪人でいて初めて気づきの機縁となる。

12月5日、6日、13日 2010年

●意識のある人生

やたら書き写すのではなく、覚えておくことを試みること。反復回数を増やして覚えてしま  
うこと。

書き写すのは、掲示板や教室の資料に必要な時だけで十分である。人生は限られている。

ただしまた、「世にも美しい数学入門」における、高木貞治の暗唱。

グルジェフが弟子たちにメモを取ることをゆるさなかったこと。

使っていない能力を使うこと。使っていてもその能力の10分の1しかつかっていない能力  
を使うこと。

書くと忘れてしまうが、体に刻んだことは忘れないこと。

●聖書

聖書はイエスが亡くなられてからかなりの時間がたってから書かれたものなので、イエス  
の言葉がそのまま書かれていないところもある。また、後世改ざんされたとの話もあり、  
その著述すべての真贋について争うのはこの掲示板の趣旨ではない。あくまでも「新約聖  
書」の言葉に触発された<わたしの内なるキリスト>（=セルフ・自己・魂・・・）が語  
るだけである。

権威があるとは、他者に対して力をふるうということではなく、自分自身に対して力をふ  
るうということである。

自分以外のものを権威のよりどころとするのでなく、自分自身を権威のよりどころとす  
ることである。

わたしが始まりであり、わたしが終わりであるということである。

このことを自分自身にも認め、実行し、他者にも認め、勧めることである。

この意味で、ひとりひとりの権威は異なる。

では、イエスの権威とはどのような権威であるかということ、人の後から歩いていく権威<=四大元素・解脱後の仏陀・妙好人>である。

(12月5日 2010年掲示板)

#### ●感謝

今名詞に印刷してある枕詞は「気・人間・宇宙を考える」であるが、以前は、「感謝・自立・愛」であった。なぜ、感謝・自立・愛かかというと、この順番で人は成長していくと考えたからである。

ただ、この最初の感謝が実はとても難しい。人生で感謝したのは一回だけである。30歳の時でその感謝で人生は変わってしまい、世界は変わってしまった。今でもその感謝を求めて生きているのだが、まあ、そこまでの感謝を追い求めなくとも身近な感謝で人生は変わるという本が出ていて、偶然(=必然)手に取った(=手に取らされた)。

何でもよい、感謝の気持ちがあわいてきたことを一日5個書くだけである。

これで人生が変わるといふ。

(以下、続く)

(12月5日 2010年掲示板)

#### ●意識のある人生

働き始めた人の笑顔をシンクロする人であること。

働き始めた人の笑顔を増幅する人であること。

12月6日、7日 2010年

#### ●意識のある人生～天才を育てる

数学者の藤原正彦氏が作家の小川洋子氏との対談で天才が生まれる条件を三つあげている。

「天才が出たところというのは決まっているんです。世界中、人口に比例してどこでも生まれるわけではないんですね。どういうところから生まれるかということ、私の考えでは三つ

の条件があるんですね。第一に条件は、神に対してでも自然に対してでもよいから、何かにひざまずく心を持っているということ、天才をよく生むイギリス人なんていうのは、あまり神様を信じていませんが、伝統にひざまずいているんですね。

日本人は神仏にひざまずいたり、自然にひざまずいたりしています。やはり天才を輩出する南インドの人びとは、ヒンズー教の神々にひざまずく心があるということですね。それから第二の条件は美の存在ですね。美しいものが存在しないと絶対に数学の天才は出ないんです。子どものころから美しいものを見ていないと不可能です。知能指数が何百あったってそんなもの関係ないですからね。それから第三の条件は、精神性を尊ぶということです。要するにお金を尊ぶといった物欲ではなくて、もっと役に立たないもの、精神性の高いものを尊ぶ。例えば文学を尊ぶ、芸術を尊ぶ、宗教心をもつ、とかいうことです。そういう三つの条件を満たしたところ以外からは天才は出ないんです。」

(「世にも美しい数学入門」38ページ ちくまプリマー新書)

この話しは、我々（と言っては失礼かも知れないが）凡才に無縁の話しとは思っていない。どのような人にも天賦の才がある。その才を伸ばし、成長させ、この世界と自分自身に貢献することこそ人生であり、その意味でこの条件は顧慮するに値する。

- 1 ひざまずく心を持つこと。
- 2 美の内で暮らすこと。
- 3 精神性の高いものを尊ぶこと。

以上、三点である。

(12月7日2010年掲示板)



- > 1 ひざまずく心を持つこと。
- > 2 美の内で暮らすこと。
- > 3 精神性の高いものを尊ぶこと。

1 に関してはシュタイナーの神秘修行者の条件

2 に関しては「ガラクタ捨てれば自分が見える」の著者のキングストンの話し。

●意識のある人生～気づき

愉快的話しも不愉快的話しも自分自身に役立てること。

## ●仕事

通常の倫理観、価値観で見ないこと。

59歳とはいえ、人生では小僧である。この小僧時代は電話の仕事と気のコントロールを両立させることに使うことができる、ありがたい時機で。このことを徹底的に利用すること。

グルジェフが指運動をしたように、意識を二つ持つことである。

本質的解決ではないが、仕事の終わりに日払いで受け取ることをイメージしてみる。

12月7日、8日、20日 2010年

## ●無駄・見えざる意味

伊勢神宮を20年ごとに建て替えることの意味。

同じであって同じでないものができる。

変容・成長としての意味。とどまることの悪弊。

## ●意識のある人生～俯瞰

人生をはぐれ雲のように生きること。

橋を渡って生きること。

ただし、意志のあるはぐれ雲である。

(加筆して掲示板記入予定)

## ●知識・為すこと

少し長いが、グルジェフから引用する。彼の文章は「人の眠っているウサギ」をたたき起こしてくれる。

「あなたが知っていること全部、読んだこと全部、教えられたことの全部を取り上げてみなさい。あなたが何一つ理解していないことは確実だ。なぜ2たす2が4であるかを、自分自身に誠実に問うならば、あなたはそれさえ、確かでないことを知るであろう。あなたは、誰かがそう言うのを聞いただけであり、聞いたことを繰り返して言っているだけである。日常のことがらばかりでなく、高次の深遠なことがらについても、あなたは何も理解していない。＜あなたの持っているもの全部が、あなたのものではない。＞

今までのところ、あなたはごみ箱を持っていて、その中へものを投げ捨ててきた。その中には、利用できる多くの貴重なものが入っている。ごみ箱からあらゆる種類の廃棄物を集める専門家がいる。中にはこれで多額の金をつくる者もいる。あなたのごみ箱の中には、すべてのことを理解するための十分な資料がある。理解すれば、すべてを知る。＜このごみ箱の中へこれ以上集める必要はない。あらゆるものがそこにある。だがいかなる理解もない。理解の場所はまったく空っぽである。＞

あなたは自分のものでない多額の金を持っているかもしれないが、たとえ百ドルでも自分の金を持っている方がはるかに裕福であろう。だが、あなたが持っているものは、一つもあなたのものではない。

大きな概念は、大きな理解によってのみ問題とされるべきである。われわれにとっては、小さな概念が理解し得るすべてであり、しかもこれさえ、理解できると仮定してのことである。＜概して、大きなものを外に持つより、小さなものを内に持つ方がよい。＞

大いにゆっくりやりなさい。＜何でも好きなものを取り上げ、それについて考え、以前とは異なる方法で考えなさい。＞

（「グルジェフ・弟子たちに語る」377ページ めるくまー社）

この箇所は最近見ていなかったグルジェフの言葉をたまたま（＝必然的に）見て、今読んでいる本と現実人生にシンクロしたので引用した次第である。

今読んでいる本とは

「ハーバードの人生を変える授業」（タル・ベン・シャハー著 大和出版）

である。

先に書いた「毎日感謝できることを5つ書く」というのも、この本の冒頭の「人生を変えるノウハウ」のひとつである。

私のアキレス腱はいくつもあるが、そのうちのひとつは夜勤の仕事である。人生でのこの位置づけが実にあやふやというか、心の負担というか、「じくじくしたもの」があるのである。正直やめたいのであるが、還暦の年齢では踏み切れないでいる。他方、まとめて勤めるので、自由時間がたくさんあり、また給料もいただいているので、お金のためにヒーリングをすとか、お金のために教室を開くとか（悪いことではないが）、そのような、これ

また「じくじくしたもの」から逃れられているというありがたさもある。  
そのジレンマというか、ジレンマ以上の千々に乱れた心があるのである。

ただ、この感謝すること5つの中に仕事と書いてみると（実際に感謝する気持ちはあるの  
で）、不思議なことに感謝できる気持ちだけになったのである。これほどこの仕事に感謝の  
気持ちをいただいたのは、働き始めた当初以来のことである。

そしてさらに、昨日また、お見舞いの帰りのバスの中でこの本を読んでいると、この「人  
生を変えるノウハウ」は50あるが、その真ん中で、読むのをやめさせて、どれだけ実行  
できたかと聞いているのである。

わたしはよほどこの最初の「毎日感謝できることを5つ書く」ということだけで、あとは  
読むのをやめようかと思ったぐらいで、新たなノウハウを続けるというのは実に難しいこ  
となのである。

グルジェフに言わせれば、ゴミ箱のゴミをこれ以上増やす必要ないということである。ゴ  
ミでなく、単なる知識で泣く、あなたのもので作りなさいということなのである。

ただ、まあ、そこがへぼ塚のへぼ塚たる所以であるが、さらに読み続け、ゴミ箱にゴミを  
入れ続けるのであるが、その新たなゴミを10秒間実践するだけでまるで心が変わってしま  
ったことがあった。それは、

<出来事に対する感じ方を変えてみる>

というただそれだけである。まあ、どれだけの本でこのことが言われているか分からない  
ぐらい有名なノウハウであるが、この日実践してみると、不思議なことにまるで気持ちが  
変わってしまった。

実は、今日はこれから退職者の研修日である。この年になって研修とは正直たまらんとい  
う思いがあったが、

「研修を楽しむ」

「研修によって自分自身に足りないものを身につける」

「研修の準備は一切しない（実は前年受けた同僚の資料があり、参考にとは思いながらも、  
これも見るのがいやでいやで仕方がなかった）」



「研修内容、研修の進め方など、気功教室参考とする」

というような思いがきらめき、肩の重荷は一気になくなってしまった。こんなことなら、寝不足でも自宅から通ってもよかった（ベストコンディションで受けようと思い、昨晚職場近くのホテルを取ったのである）。

まあ、それで、何がグルジェフとシンクロするのかというと、「ゴミ箱のゴミを使う」ということの他に、グルジェフが言う

「<何でも好きなものを取り上げ、それについて考え、以前とは異なる方法で考えなさい。>」

ということである。

<同じようにしない。変えてみる。>

ただそれだけである。この世界には援助者はたくさんいるので、この姿勢があれば、必ず、援助者とともに人生は変えることはできるのである。そして、その変えたものが永遠に携えていける<わたし>なのである。

(12月8日 2010年掲示板)

#### ■シンクロ

これは一ヶ月前に書いた毎日やることである。毎日やることはたくさんありすぎて、すっかり忘れていたが、この世界が「忘れるんじゃない」とばかり、ここ数日掲示板に書き込んだようなメッセージを送ってきました。

**毎日、以下のことを意識すること。**

1 表現～小さいことをやり遂げること

2 印象～よい言葉にふれること

外に出ること（自然・人間）

3 クリア～睡眠・死

片付け

今日一日よきものをわたしに取り入れること。

石を与えてはいけない。

7日の夕食にちゃんぽんを食べながら週刊誌のつまらぬ生地を読んだこと。

(加筆して掲示板記入予定)

12月8日、9日、20日 2010年

●意識のある人生～いつまでも変えないこと

初めてのヒーリング

初めての患者さんのところへ行くこと

自分自身を観察すること

●意識のある人生～この世界に必要なもの

ペンと紙～言葉 ← 思い

体 行動 ← 思い

ペンと紙を何に使うか

体を何に使うか

●意識のある人生～動詞

あらゆることに精神性を賦与すること。

あらゆることに生命を賦与すること、生き生きとさせること、動き出させること。

研修にさえ賦与すること。

●意識のある人生

テレポーションについて真面目に考えてみる。

ところで、これができるようになりたいということでああなたが真面目に考えていることとは何であろうか。

「ヒマラヤ聖者の生活探求」、マグダラのマリア

12月10日、11日、20日 2010年

●ヒーリング

どのような表層的結末が訪れようと、＜プロセス全体＞（＝生命・宇宙・世界）の成長に貢献したヒーリングであること。

ただ、残念ながら＜プロセス全体＞については何も見えない。だから、

全身全霊で手をかざすこと。

あとは、気にまかせること。

あと、

気づきにこころを研ぎ澄ませること。

(掲示板記入可)

●習慣化

筆ペン

ウォーキング

休暇の予定・実行

12月11日、20日 2010年

●意識のある人生

計画を立て、実行すること。

計画を立てるといのは楽しいことである。

実行するといのは深い充足感を生じさせる。

計画を立て、変わるということは、<為す>ということである。

グルジェフがいうところの「為すことはできない」ということの為すである。

そうなったのではなく、

<わたしはそのようになる>

ということを実行することである。

わたしの場合、予定は四種類ある。

永遠の予定。

一年後の予定。

一日の予定。

そして、たった今の予定である。

### ●雲

1時間ほどいて、またバスで戻ろうとしてバス停で青空を見上げると、雲ひとつない青空に薄い雲がぽっかり浮かんでいる。その姿は完全に「亀」の姿、その姿が今度は「鷺」に変わり、あっという間に消えてしまった。前日の枯れ葉にも不思議なコミュニケーションを感じたが、この日も雲と言葉にならない言葉を交わしたという思いである。

12月13日、20日 2010年

### ●感謝

感謝するというのは、現代の日本に暮らす人間からは抜け落ちてしまった感情である。そして、このような感情というのは体験しないと意味がない。ただ、日常生活で感謝しようと思ってもなかなか出来るものではない。感謝の機会は日常茶飯事、常住坐臥であるが、その機会を享受する人間の感性が麻痺しているからである。

このまま何もしないでいると、もしかしたら一生感謝と無縁で過ごしてしまうかもしれない。

感性の麻痺を治す方法は簡単である。一週間、毎日5つ感謝できるものを書き出すこと、ただそれだけである。一日5分あれば、十分に書き出せる。

ただ、精神世界のあらゆるマニュアルと同様で、これもまたやってみないと意味のない情報である。

(12月20日 2010年掲示板)

12月20日、22日 2010年

### ●機会～斜線

受験の合格、就職試験の合格、結婚の応諾、仕事の成功、自己実現の達成、等々、世の中には誰もが好む出来事がある。

その時点では、それが達成できなかった際、すべてが闇のように感じられるものである。だが、それが達成されなければ道が閉ざされたということではなく、実は、

<それ以外のすべての機会が与えられた>

ということなのである。

成功というものはもちろんよいものである。だが、成功以外の機会にある豊穡さにかなう

ものではない。

小さな私が考える達成以外の達成に思い至ることである。5年、10年の達成でなく、100年、1000年の達成があることを知ることである。100年、1000年の達成のために、実は今、私が考える成功だけはあってはならない、そういうことがあると知ることである。

不成功と呼ばれるものを豊かな世界への新たな旅立ちとすることである。

(12月22日 2010年掲示板)

●意識のある人生～身体

裸が一番美しいという。

この裸を作り出すこと。

そして、裸になること。

身もこころもである。

12月22日、26日、28日、31日 2010年、1月1日、2日、3日、4日、5日、6日、7日、8日、9日、10日、11日、12日、13日、14日、15日 2011年

●意識のある人生～予定

今日は2012年12月22日、2012年12月21日までちょうどあと2年。予定を作るには区切りのよい日にちである。2012年のことは何度も言うように脅かすことが目的ではない。死期を宣告された患者さんのように、残りの人生を有意義に過ごすことが目的である。この日に壊滅的なことが起こらなくて、この体の消費期限まで生きられるのであればそれは幸運だったということで、2年後にまた新たな目標、予定を立てればよい。

なぜ子どもの学習のように予定を立てることが大切かと言うと、それが<意識のある存在>、<創造が可能な存在>の歩んでいく道だからである。すなわち、

自分自身がどのような存在であるかを自覚すること

その自覚に基づき、どのような存在になりたいかを宣言し、それを実行に移すこと

これが意識のある人間存在の歩む道と考えるからである。

この宣言はいわば予言である。自分自身がこのように生きるという予言である。

この意味で、予定がある。

予定を決め、予定通りに生きることである。

(12月22日 2010年掲示板)

創造であり、責任である。

■永遠の目標（予定・実行）

私の場合、予定は4種類ある。

- 1 永遠の目標（予定・実行）
- 2 二年後の目標（予定・実行）
- 3 今日の目標（予定・実行）
- 4 一瞬後の（30分間、あるいは1時間、あるいは一瞬）目標（予定・実行）

1の永遠の目標は十代に立てた目標（予定・実行）であり、それは、

<すべてを知ること>

である。その後40年間、この目標にまい進してきたとはとても言えたものではないが、この<すべてを知ること>がある力となり、自分自身を常に本道へと戻そうと働いてきたのは確かである。

この<すべてを知ること>は現在以下のように加筆して、時々目を通してしている。

永遠の目標

すべてを知ること、すべてを体験すること、すなわち、永遠の創造者であること。

すべてを、灰にするまで知り、体験すること。

体験するとは与えられたものの体験ではない。自らが始まり、原因となり、すなわち自由となり、創造する体験である。

この創造とともに、わたしのプロセス（=道）を楽しみ、神のプロセス（=生命全体）を楽しむこと。

選択を楽しむこと、決断を楽しむこと。そのような旅人であること。

まだ、じっくりこない言葉である。書き換えなければいけないが、〈すべてを知ること〉については変わることはないと思っている。

あと、何度も書いてきたことであるが、二点補足させていただく。

「灰にするまで知り、体験する」というのは弓道の阿波研造師範が弟子のオイゲン・ヘリゲルに語った言葉を下敷きになっている。

祖国ドイツに帰る弟子に語った言葉である。

「別れ——ではない別れ——に際して、師範は私に彼の最もよい弓を手渡してくれた。「あなたがこの弓で射る時には、名人の精神が現在していることを感じられるでしょう。この弓は決して物好きな人の手に渡さないで下さい。そしてこの弓を引きこなしてしまわれても、それを記念に保存しないで下さい。ひとかたまりの灰の外は何も残らないようにそれを葬って下さい。」

(オイゲン・ヘリゲル著「弓と禅」115 ページ 福村出版)

弓は引きこなして不要になった時には、記念にとっておくものではなく、灰にしてしまうものである。

世でリサイクルというが、リサイクルというのは、モノにしる機会にしる、完全に使い、そして、それはわたしだけに与えられたモノ、機会である以上、それを灰にして一片の後悔も一片の自分自身以外のものをも残さぬことである。

果たして、わたしはひとかたまりの灰にしてわたしの体を自然にかえすことができるのであろうか。

旅人については、イエスの言葉と言われている城門のアーチに残された以下の言葉がベースになっている。

イエス——汝に祝福あれ——が言った、

「この世は橋である。渡って行きなさい。しかし、そこに棲家を建ててはならない」

(北インドファテプル・シークリーの城門アーチ)

(「トマス福音書」講談社学術文庫 42 ページ)

人生は目標をもって進んでいくものである。だが、同時に、楽しんで、ただ過ぎ去っていくという側面もあると思っている。ただ歩くだけということである。健康のために歩くのではなく、ただ歩くことを楽しむ。。。いや、それ以上に、あるいは、それ以下というべきか、ただただ歩くということである。

(12月26日 2010年掲示板)

■謹賀新年～二年後の目標 (予定・実行)

皆さま、あけましておめでとうございます。

本年も当ホームページをよろしく願いいたします。

二年後の目標は当然ながら永遠の目標につながるものである。

外的目標である——たとえば、

バットを上手に振れるようにする、本をたくさん読む、仕事で成功する、家庭を持つ、家を建てる、・・・

などなどは、自分の場合ははっきりしない。

こういうことでこれまでの人生で願ってきたことは、早く退院できること、陸上部に入って走れるようになること、志望校に受かること、好きな女性に好きになってもらうこと、などなどで、まあ、人並みになかったわけではないが、今現在ははっきりしない。

これらのことで、今多分そうではないかということは、

(イエスのように死人をも蘇らせることのできる)「気功治療」

と

(みえられる方が実際に変わることのできる)「気功教室 (というより啓発講座であるが)」

である。受験勉強以上に精力を費やしているわけではないが、これが多分後半生の具体的な行動目標である。何か腑抜けのような書き方で恐縮であるが仕方がない。これが本心である。



治療も教室もわたしを必要とされている方がいなければ、そのご縁がなければやることはかなわないことなので、そういう意味では、これは私がやりたいことというよりも、

<与えられた機会>

である。積極的にやりたいわけではないが、ご縁が与えられれば決して断ることはないというそういう具体的な人生である。ただあくまでも、与えられた機会というその意味で、自ら求めるものでもない。

さように、外的目標に関してはゆきあたりばったりなところがある。だが、内的目標に関してははっきりしている。それはまだ、始めたばかりなので、何と書いたらよいのか分からないが、全体への奉仕ということである。あるいは、プロセスへの奉仕、生命への奉仕、地球への奉仕、世界への奉仕、宇宙全体への奉仕ということである。このことはまた、自分自身、<わたし>への奉仕ということでもある。

この二年間をすべてそれに費やすということである。

10年前にまるで分からない言葉があった。それは、

<愛>

<行為への愛>

<一体>

である。<愛>については相変わらず分からないが、<行為への愛>は少しずつ糸口がつかめてほぐれてきている。<一体>についても、それはもっと単純なものであったのかもしれないと最近思い始めている。

たとえば、最近日記に書いたホームレス氏や柴犬への気持ちそのものではないかと思っ  
ている。そして、おそらくはその感情とは対極の感情を抱く人——いわゆる苦手な人——への  
思いをどうするかということ、そしてまた、日々日常に何気なく見過ごしてしまっ  
ているモノへの看過をどうするかということ、無意識のうちに臆してしまっている出来事に対  
してどうするかということ、これらのことが実は問題ではないかと思っている。

ともあれ、一体性を感じつつ、この全体性への奉仕にこの二年間のすべてに費やすことと

決めている。

味も素っ気もない書き方なので、「ハトホルの書」から引用させていただく。なお、「神との対話」にもまるで同じ話がある。期せずして同じ記述に出遭ったということは、今、わたしという地球人が即座につかみ取って我が物とする視点なのかもしれないと思っている。

(1月1日 2011年掲示板)

#### ■ 自他・名詞と動詞

「ハトホルの書」の引用の前に、付け加えると、

生命全体へのプロセスに意識的に参画するということは<自他>の関係を「これまで自分が無意識に行ってきた関係」を変えるということである。

無意識に行ってきた関係とは、自分の場合、

<自他>の自をこの身体に入っている自分とみることである

この入っている自分を第一義に考え、したがって、この自を優先することである

そして、他人もそのように生きているとみることである。

これは名詞の人生である。

では、どのようにして意識的に変えるかという、

<自他>の自をこの身体だけに入っているものでなく、自はもっとフレキシブルに他者や小説、映画、過去、未来に自由に行き来できる存在としてとらえるということである。このことは、小説、映画においてはすでにやっていることであり、他者についてもまたやっていることであるが、この行き来のなかに、<思いやり>の気持ちというものを持ち込むことである。

この<思いやり>の気持ちをたずさえて、この時空の<自他>の関係を空間的にも時間的にもトラベルする——それはまた創造であるが——ということである。(なお、この他には、人間の他だけでなく、生き物の他だけでなく、モノの他も含まれる。)

それは、個と個の生き方ということではなく、関係性としての生き方ということである。動詞の生き方ということである。動詞として世界を生きていこうとすると、あるいは、人が実は動詞の存在である——プロセスに参画する存在である——ということに気づくと、どうしてもこの〈思いやり〉という気持ちなしには生きることができないということである。

思いやることを声高に言うことは好きではないし、人生に思いやりや愛や慈悲を持ち込むことを推奨することは好みではない。前段で持ち込むようなことを書いたが、自分の場合は、持ち込むというより、

〈動詞としての生き方〉

〈プロセスとしての生き方〉

をしようとする、その〈思いやり〉のまなざしは不可欠のものとなるという結果でしかない。だから、正確には、もっと今現在している動詞としての存在を意識的に広げていていただきたいということである。その際に、〈思いやり〉というファクターに少しでも目をやることができれば、きっと大きくふくらんできて、動詞の生き方そのものも画期的に変わってくるであろうということである。

書きなぐりで恐縮です。

(1月2日 2010年掲示板)



>味も素っ気もない書き方なので、「ハトホルの書」から引用させていただく。なお、「神との対話」にもまるで同じ話がある。

「ハトホルの書」の引用の前に「神との対話」シリーズの「明日の神」からわたしの言いたいことの助けとなるような記述を引用させていただく。

宇宙がビッグバンから始まり、そのビッグバンでバラバラになるのではなく、秩序ある銀河系のような存在が生じる確率は「10の10乗の123乗分の1」であるという。これはとんでもない確率であるが、確率である以上、宇宙が「10の10乗の123乗回」爆発して、あるいは、宇宙が「10の10乗の123乗個」存在して、そのうちのひとつが我々の宇宙であったとしてもおかしくはない。何せ宇宙に関しては知らないことだらけだから、どんなことがあったとしてもおかしくはない。

ただ、少なくともこの地球が岩の固まりからできて、単細胞生物が生まれ、我々人間が生

じたことを考えると、「10 の 10 乗の 123 乗分の 1」というのは確率の問題ではないということが分かる。岩石から人間が生じるのを確率だという方もいらっしゃると思うが、論争する気持ちは毛頭ない。感性の違い、直観の違いは論争によっては歩み寄ることはないからである。

では、ビッグバンから銀河系が生じる確率、岩の固まりから人間が生じる確率——すなわち、それはありえないことであるということ——を説明するものは何かというと、それは<意志>である。銀河系が生じるプロセス、人間が生じるプロセスを統御する<意志>である。

私は今阿佐ヶ谷の「上島珈琲」でこの原稿を書いているが、私が千葉の「自宅」を出発してこの「上島珈琲」に来る確率は「1 分の 1」である。もちろん、突発的な事故でもあるので、完全に 1 ではないが、限りなく 1 に近い確率である。だが、亀が千葉の団地から「上島珈琲」に来る確率、ベランダの花粉が来る確率、ベランダのほこりが来る確率は限りなく 0 である。

両者で違うことは何かというと、来る手立てを知っているか知っていないかということもあるが、何よりもまず、この「上島珈琲」に来ると意志があるかないかということが大きな違いである。

銀河系の成立、人間存在の成立を<意志>に帰することだけが唯一の方法とは言わないが、わたしとしては今一番じっくりしている説明であると思っている。

以下は引用である。

「ほとんどの人間は、地球や太陽や太陽系などの宇宙の物質を「死んだ」ものとして想像している。無生物が——要するに「岩」だ——最初の爆発……いわゆるビッグ・バンで始まったパターンどおりに時空のなかを動いていると思っている。」

「ええ、そうですね。少なくともそういうことを考えているひとたちのほとんどは、そう信じているでしょうね。」

「それは幻想だよ。そして、その幻想を生きているあいだは、その「死んだ」物質をできるだけたくさん搾取して「良い暮らし」をしようとする。それ以外の行動をとる理由がないからね。」

しかし宇宙の物質が「生きたシステム」の一部だと考えて、そう体験するようになれば——実際にそれが現実だから——その「システム」とあなたがた「自身」との関係に対する考え方は変わる。

いまあなたがたは自分が生きていることを知っているが、ほかの万物も生きていると考えようになれば、自分を「もっと大きな全体」の一部として、大きなエネルギー・パッケージのなかのひとつのエネルギー・パッケージ、大きな「生命体」のなかのひとつの「生命体」、「大きな自分」の一部である「小さな自分」として体験するだろう。」

(「明日の神」118 ページ)  
(1月3日 2011年掲示板)

#### ■アニミズム・プロセスとしての生命

山、川、海、生き物、人々との関係に神仏を見るというのは、元来日本人にあった感性ではなかったのか。少なくともわたしは幼時そのように世界を見ていた。ただ、そこに欠けていたのは、ただ神仏が宿っているだけでなく、その山、川、海、生き物、人々との関係がダイナミックに成長しているという観点である。

以下は、また「神との対話」のシリーズの一冊「明日の神」からの引用である。西洋での神の見方をもとにしての話なので、違和感があるかもしれないが、少なくとも神は超弩級の存在であるというイメージを払拭するのに役立つかも知れない。

「明日の神」はこれまでの神への見方、昨日までの神の見方を変えて、新しい神の見方をすることを提唱している。その5番目の話しである。

「神はプロセスなんですか？」

「そのとおり」

「それはたしかに、いままでとは違う定義ですね。」

「『明日の神』については、いままでと違うことがたくさんあるよ。」

「そういう神を人びとが受け入れるとお考えになりますか？」

「今日は受け入れないかもしれない。だが明日は、そう明日は受け入れるだろう。明日と言う近い未来には、受け入れるだろうね。」

「神はどんなプロセスなんですか？」

「生命だ。」

「これじゃ堂々めぐりですよ。」

「そうだよ。それが「昨日の神」と「明日の神」の重要な違いの五番目だ。

5 <「明日の神」とは、単一の超弩級（どきゅう）の存在ではなく、「生命」というとてつもないプロセスである。>」

「それは簡単なことじゃあないですね。神学で簡単に扱える変化じゃないです。あるひとたちにとってはとても大きな存在だし、あるひとたちにとってはやはり冒瀆だな。」

「そう、神の見方、理解の仕方についてのこの変化は世界を救うことができる。あなたがたの生命のあり方を維持することができる。」

人類の昨日においては、神を信じるひとたちのほとんどが神を超弩級の存在だと信じて、人間に似た神を心のなかに創り出した。言い換えれば、自分たちの拡大ヴァージョンだね。神についてそんなふう考えた人びとは、人間をかたどって人間に似せた神を生み出した——彼らが神の行いと言うもののちょうど正反対だ。

多くの人間たちは、神が神をかたどって神に似せた人間を創り出したと世界に語った、と言う。もちろん神が人間と同じで、ただもっと大きく、もっと壮大で、もっと強力なヴァージョンだと想像するなら、あなたがたがいまのようであるのも——不完全だが——当然であり、神は超弩級の存在、あるいは超弩級のヴァージョンのあなたがただというのは筋が通っている。

だが、神は超弩級の存在などではなく、生命と呼ばれるプロセスだとわたしが言ったら、あなたがたの神学はひっくり返ってしまう。< **神をかたどって神に似せて創られたのは人間だけではなく、万物すべてだということになる。** >

<すると、あなたがたとすべてのものとの関係が変化する。すべてが一体であり、神と呼ばれるひとつのものだからだ。>

これは新しい考え方ではない。「新しい考え（ニューソート）」でも「ニューエイジ」でもない。あなたがたの仲間の科学者や哲学者は、何世紀も前から同じことを言ってきた。それどころか、こここそ科学と哲学と宗教が会う十字路だ。それぞれはこの十字路を越えて、またそれぞれの道を進んで行くだろうが、ここで交差したという事実を忘れて、無視したりすれば、その影響は自分たちに跳ね返ってくるだろう。それぞれの専門分野が不完全になり、役に立たなくなる。

「新しい霊性（スピリチュアリティ）」はこの十字路を無視するどころか、その真ん中に堂々と立っている。

この「新しい霊性」がひろく採用されれば世界が変わることは疑いない。世界を自滅から救うことができるだろう。」

（ニール・ドナルド・ウォルツシュ著「明日の神」86 ページ サンマーク出版）

付言すると、明日の神の新しい定義は人間にも置きかえるができる。置きかえて生きることができる。置き換えると、こうなる。

<「明日のわたし」とは、単一の超弩級（どきゅう）の存在ではなく、「生命」というとてつもないプロセスである。>

超弩級と思う人は少ないので、より現実的にはこうなる。

<「明日のわたし」とは、単一の存在ではなく、「生命」というとてつもないプロセスである。>

このプロセスが何度も言ってきた

<人間とは名詞でなく動詞である>

ということであり、

<体にいる私が行動するのでなく、行動が私を使うのである>

ということである。この行動を個人のレベルにとどめるのではなく、生命のプロセスに視野

を広げて生きていこうというのが、「神との対話」の神、「ハトホルの書」のハトホルがすすめている生き方である。

(1月4日 2011年掲示板)

ついている時の麻雀パイの手触りはパイが活着ているようである。

クリア

「弓と禪」での師がさわった弓は使いやすくなる。

#### ■「日本の面影」(月)

>山、川、海、生き物、人々との関係に神仏を見るというのは、元来日本人にあった感性ではなかったのか。

幕末から明治時代にかけて日本を訪れた西洋人の多くが日本の自然、建物、生活、そこで暮らす人々に感動したのは、当時の日本人が自然と一体となって生活をし、また自然を敬い、自然の中に神仏を見て、それゆえ、その神仏を生かし、その自然がまた西洋人の目にも美しいと映るようなおのれの美を内面から表現していたからではないのか。

以下は、この自然を敬う気持ちを表現した記述である。さすがに幼時の私の時代には月に手を合わせるというようなことはなかった。

出雲に暮らしていたラフカディオ・ハーンが見た精霊流しの日の日本の風景である。

「私は家に戻ってから、もう一度、わが家の家の小さな障子を開け放って夜の景色を望む。橋の上を、まるで長い光の尾を引く蛍のように、提灯の光が軽やかに渡ってゆく。黒い水面には、その無数の提影（ほかげ）がゆらゆらと揺らめいている。川向こうの家では、部屋の中の照明が幅広い障子を柔らかな黄色に染め、その明るい紙のおもてに、すらりとした女の影がしとやかに動いている。私は心から、日本にはガラス窓が普及しないしてほしいと願っている。そうなれば、このような美しい影を見ることはできなくなるからである。

しばらくの間、私は町の声に耳を傾ける。暗闇の中に、洞光寺（とうこうじ）の柔らかい梵鐘（ぼんしょう）の音が轟（とどろ）いている。それから、お酒でほろ酔い気分になっ



た人たちの歌声が聞こえてくる。夜の物売りも、朗々と声を響かせている。

「うどんやーい、そばやーい」

温かい蕎麦（そば）を売る商人が、最後のひと回りをしているところだ。

「占い判断、待ち人、縁談、失（う）せ物、人相、家相、吉凶占い」

流しの易者の声である。

「あめー湯」

子供の大好きな甘い琥珀（こはく）色の水飴（みずあめ）を売る飴屋の抑揚に富む呼び声である。

「甘いつ、甘いつ」

これは、甘酒売りの甲高い声だ。

「河内（かわち）の国、ひょうたん山、恋の辻占（つじうら）」

きれいな色紙にぼやけた小さな絵のついた、恋占いの紙を売り歩く人の声である。その紙を火や明かりに近づけると、目に見えないインクで書いた文字が現れてくるのだ。その占いは、たいてい恋人について書いてあり、ときには本人が知りたくないことが書かれていたりする。幸せな人がさらに自分の幸運を確信することもあるだろうし、凶と出て、すべての希望を失う運の悪い人もいるだろう。嫉妬深い人は、さらに嫉妬の炎を燃やすこともある。

町のあちらこちらから、沼に住む大きな蛙の鳴く声に似た音が、夜の闇に沸（わ）き起こってくる。舞妓（まいこ）や芸者の打ち鳴らす小太鼓の響きである。滝が落ちる音のように途切れることなく、橋の上を行き交う無数の下駄の音が木霊（こだま）し合っている。東の空から、新たな光が昇ってきた。山の頂の背後から、とても大きくて不気味な青白い月が、白い霧の中を抜けて出てきたのである。

ちょうどそのとき、多くの人たちの拍手（かしわで）を打つ音が聞こえてきた。道行く人々が、お月さんを拝んでいるのである。長い橋の上から、白い月姫の到来を讃（たた）えているのである。

さて、私もそろそろ床について、どこか古びた苔蒸（こけむ）す寺の境内で、影鬼の遊びなどをしている幼い子供たちの夢でも見ることにしよう。

(ラフカディオ・ハーン著 池田雅之訳「新編・日本の面影」111 ページ 角川ソフィア文庫)

この世界との関わり方は今ではまるで異なる。月に拍手を打つことはできない。たとえしたとしても、それはハーンが見た世界の中での拍手とは異なる。深さが違うし——本気でないということだ——、人数が異なる。皆がみな月に拍手を打つ世界とただひとり月に手を合わせる世界とはまるで異なる。

ただ、今は今のよさがある。それは、ただの爆発であるビッグバンから今の月ができたということを知ることができるというありがたさである。そして、ただの爆発から今の月ができたということは、ただの爆発ではなかったということである。

今、平成の時代に生きるわれわれがハーンの記事、明治時代の人々の暮らしから学ぶべきことは、神秘的な月の美しさだけでなく、ある意志、ある意図が働いて見上げる月があるということである。このことに触れるということである。すなわち、プロセスとしての月、動詞としての月、ある意図の下で千変万化のしてきた末にできてきた月、その動きの中で存在している月を知り、なおかつただ知るだけでなく、明治時代の人々のように月に深く接するということである。この掲示板、あるいは、ペーパーの本で知るだけでなく、月からその力を感じとるということである。

(1月6日 2011年掲示板)

#### ■ 「ハトホルの書」～月・三つの時間

なお、月に拍手を打つことがナンセンスでないこと、月と人との関係について「ハトホルの書」でふれられている。長文となるが、ご紹介させていただく。

V 「現在、時間ならびに時間の測定や加速について、またマヤ暦の概念などについて多くの議論があります。計測された時間と運命とはどう関わっているのでしょうか。」

「非常に大きなテーマに入りましたね。これを説明するにはかなりの時間がかかりそうですが、できるだけ簡単にするように努めましょう。＜意外に思われると思いますが、これには言語が関わってきます＞。人が何かを体験した場合、それを言語を用いて描写あるいは説明することで、体験の把握や保存がより十全になります。さらに言語には体験の再確認にも役立ちます。たしかに人には言語抜きでの体験もありますが、意識は言語によって体験を記録し、言語によってそれを引き出します。たとえば、過去の出来事を思い出す必要

があるときを考えてみましょう。本を引き出しにしまったまま家を出て、街の遠くまで来たとします。そこで本が必要だったことに気づき、家に電話をしてパートナーに、上から二番目の引き出しに本があることを告げて、特定のページを読んでもらうとしましょう。ここでは言語が意思の伝達を助け、体験のために役立っていたこととなります（この話が有効なのは再び人がテレパシー能力を取り戻すまでのあいだですが）。現時点では、言語なしではパートナーに本のありかを知らせることは難しかったでしょう。したがって言語は体験の経緯やすじみちを示してくれるもので、それが言語の役割であり、**<くわえて言うなら言語の限界でもあるのです>**。

時間もそれに似ています。地球の社会や文化は時間を事実上の流れとして直線的に計測しますが、時間とはそれよりずっと複雑なものです。時間は実際には螺旋状のもので直線的に進むものではありませんし、また三次元的でなく多次元的な性質を有しています。ご理解いただきたいのは、**<直線的な時間の計測単位や計測装置を用いた瞬間に、人の知覚作用には影響が生じてくるということです>**。さて、時間には三つの資質ないしレベルがありますが、それについてお話したいと思います。

第一の資質は「生物的時間」すなわち有機的時間です。それはあなたの体、呼吸や脈や鼓動のリズムであり、地球上の風や水のリズムでもあります。こうした地球や人体の生物のリズムはみな有機的なものです。人は時計を使っていますが、それは時間を順次的かつ断片的に計測する目的で発明されたものですから、すべての人間社会が生物的叡智でなく、機械的に計られた時間にしたがって暮らしています。このことは個人に膨大なストレスを生み出していますが、十分に認識されていません。社会の都合に合わせて時計に則して生きることは、ある意味では役立ちますが、生物学的レベルから見ると非常にストレスの多いことなのです。**<なぜなら人を生物学的叡智から引き離してしまうからです>**。

自然のリズムそって生物的な時間を計っていくと、二つ目のレベルである月の時間につながります。おおよそ一年間に満月が十三回めぐってきますが、そうした「月の運行に合わせた時間」は、現在特に欧米社会をはじめとする世界中の多くの国々で使われているグレゴリオ暦よりも、より有機的で事実即した時間の計測法であると言えます。一年が十二月から成るグレゴリオ暦は、月の生物的な時間感覚から人を切り離すために作られたものです。グレゴリオ暦の考案者はその算出過程において抜け目がありませんでした。その行為は、率直な言い方をすれば地上での「詐欺行為」にも匹敵します。つながりを断ってしまったのですから。それは人類の意識を地球の「偉大なる母」の気づきから引き離し、抽象的なものに結びつけてしまったのです。したがってグレゴリオ暦で時間を計るとき、**<人は文字どおり本来の時間の流れとの同時性を失います>**。この暦はいうなれば帽子からウサギを取り出す手品のように安易に割り出された恣意的な測定法で、自然から生まれ

たものではありません。グレゴリオ暦は体のリズムを反映するものでもなければ地球のリズムを反映するものでもありません。ですから、＜本来の時間は月の位相に立ち戻ることで知覚できるのです＞。

最後になりますが、時間の三つ目のレベルは「超銀河的な時間」の感覚で、これは「大なる中心太陽」との関係における各銀河どうしの流れと相互関係、そしてまたそれぞれの銀河とこの太陽系の恒星であるあなたがたの太陽との関係におけるものです。これはまだ人類にはほとんど知られていない時間のレベルです。したがって人類には（1）生物的時間（2）月の時間（3）超銀河的な時間 という、真の時間の三つのレベルがあるのです。

人は時間を順次的かつ機械的に計測できるため、自分たちが地球を支配しているかのよう  
に思えます。実際、時間の流れにしたがってものごとを起こすことができるのですから。  
たしかに意識のなかでもう一つの時間の流れを作っているのです、その意味では真実と言え  
ます。しかし宇宙とつながった時間を精確に描き出すことを習得したければ、その時間を使  
うときにはあなたの意識を時計やカレンダーから外し、＜自分の体や月や太陽に向ける  
ように＞していただきたいと思っています。」

（中略）

V 「それでは二分論的な現代社会において、どう時間を使っていくのがベストなのでしょう  
うか。」

「いわゆる「世捨て人」でないかぎり、どこかでバランスを確保する必要はあるでしょう。  
大多数の人がそうであるように社会に適応する必要があるなら、時計に敬意を示し、決め  
られた時間は守るべきでしょう。しかし時計に合わせる一方で、自分の体にも意識を向け  
てください。ほかのみんなが食事をしていても、あなたにとっては食べる時間ではないか  
もしれません。あなたはむしろ休息したり読書をしたり散歩をするための時間で、食事時  
間はもっと後なのかもしれません。

リズムには相当個人差がありますから、＜自分独自のリズムに敏感になり＞、時計やグレ  
ゴリオ暦にも注意を向ける一方で、＜自分の体の叡智にもとづいた選択を心がける＞必要  
があります。あなたがたには、＜月の位相に注目し、新月から次の新月までの運行を感じ  
てみる＞ことだけでもお薦めしたいと思います。もし二つの世界に同時に生きることがで  
ければ、グレゴリオ暦や時計の物差しによってものごとをたどって考えたりという社会に  
暮らしながら、＜同時に自然の深いリズムに気づき、そのなかでも生きることができ  
しょう＞。」

(トム・ケニオン&ヴァージニア・エッセン著「ハトホルの書」265 ページ ナチュラルスピリット刊)

簡単にまとめると、われわれが使っている直線的な時間というのは、言語のように便利なものではあるが、言語のようにその限界もある。限界とは、本来の時間である一人ひとりに固有な生物のリズムに足かせをかけることであり、自分の体の叡智にふたをしてしまうことである。また、月の運行にしたがってこの体の叡智は現われてくるのであるが、グレゴリオ暦を用いる限り、月の生物的時間感覚からも切り離されてしまう。

だから、

<自分独自のリズムに敏感になり>

<自分の体の叡智にもとづいた選択を心がけ>

<月の位相に注目し、新月から次の新月までの運行を感じてみる>

ことである。このことにより、自然の深いリズムに気づき、そのなかでも生きることができるといふことである。

ただ、以上の記述からは具体的にどのようにすればよいかはほとんど書かれていない。書かれていないことは自分自身が関心を持ち続けなければならずインスピレーションとして小さな声が語りかけてくると思っているのと、とりあえずはまず毎日お月様を見上げることから始めたいと思っている。

(1月7日 2011年掲示板)

#### ■意志・ベクトル

ゲーテの詩集など読んだことはないが、シュタイナーの本の裏表紙に出ていた詩である。こころが鼓舞される言葉であり、日記でもこの掲示板でも何回か引用したことがある。

ゲーテ「芸術家礼賛」

「高貴な人間が何百年にもわたって  
自らに等しいものに働きかける。  
善き人間が目指すものは、  
人生という狭い空間の中では到達できない。

それゆえに人間は死ののちも生きて  
生きていたときと同じように働く。  
善き行い、美しい言葉を求めて、死ぬほど努力したように、  
いまや死ぬことなく努力する。  
芸術家よ、君は限りない時を貫いて生きる。  
不死を楽しむがよい。」

いつまでもいつまでも自らに等しいものに働きかけること、その等しいものこそがまさにわたしのようであり、だから芸術家はみな——ものにしろ、人生にしろ創り出して生きようとする人はみな、生きているときだけでなく、死後もまたその等しきものに働きかけるのである。

この働きかけに終わりはない。これこそが、グルジェフが「印象が一瞬でも途切れてしまつては生きていけない」というときの印象の自ら固有の印象だからである。人はその印象によって生きるからである。

ただ、この印象というのは個人の中だけで継承されるものではない。最近読んでいるハーソンの文章は遠い昔からわたしのところに流れていた気持ちをさらに表現してくれている。

「ここであつて日本の大火のことを耳にした、ある実利的なアメリカ人の発した言葉を思い出した。「ああ、日本人なら火事にあつても大丈夫だ。日本の家は、とても安く建てられているから」。庶民のもろい木造家屋は、たしかに費用はかからないし、すぐに建て替えはきくだろう。しかし、もとの家にあつた美しさは、もう取り戻すことはできない。それを考えると、どんな火事であろうと芸術にとっては悲劇である。さまざまなものが無限に手作りされてきた国だからこそ、それはなおさらのことだ。機械はまだ、(諸外国の需要に応じて、低俗な市場に合わせた悪趣味なものを作ることを除いては)、廉価商品に見られる画一化と、実用のみを求めた醜さを生み出すまでには至っていない。工匠や職人が作ったものは、他人の作品とは違っており、たとえそれが、自分の作品であっても、ひとつひとつ異なっている。だから、何か美しいものが火事で焼けるたびに、たったひとつしかない意匠も消えてゆくことになるのだ。

幸いにも、この火災の多い国では、芸術への衝動自体が、代々の芸術家を越えて生き残る生命力を秘めており、それゆえ、かつての名匠の労作を灰燼と帰し、ぶざまに解かしてしまう炎にも、敢然と立ち向かってきた。意匠というのは、たとえそれを表現した作品が消滅したとしても、おそらく一世紀ほどの時の流れを経て、再び違う創作の形で甦（よみが

え)るものである。実際には、姿形に変更はあるだろうが、過去の思想の流れを汲(く)んだ作品であることは、容易に判別できるであろう。

もともと芸術家とは、みな霊的なものに導かれた職人なのだ。本人が何年もの歳月を模索し、犠牲にすることによって、高度な表現を会得するのではない。犠牲的な過去は、すでに本人の中に潜んでいるものであり、技芸はすでに受け継がれている。その指が、死者の導きにより、飛ぶ鳥、山々の霞(かすみ)、朝や夕暮れの色、小枝や春に咲き乱れる花々を描いてゆくのだ。何世代もの有能な職人たちから受け継がれた熟練が、今ここにひとりの芸術家の傑作の中へと甦るのである。最初のうち意識していた努力は、数世紀後には無意識となり、現存の作家にはほとんど反射的といえるような、直観の芸術となるのである。それゆえに、もともと何銭という安値で売られていた北斎や広重の色版画には、日本の町全体を買い取る以上に高いといわれる多くの西洋画よりも、それ自体ずっと本物の芸術味が詰まっているといえる。」

(ラフカディオ・ハーン著 池田雅之訳「新編・日本の面影」20 ページ 角川ソフィア文庫)

この世界に貢献しているものは歴史に残る大発明や何億円で売買される絵画だけではない。日常で作り出されるひとつひとつの手工芸品が実はこの世界で連綿と引き継がれているのである。それら日常のものは直接的な継承を経ずに灰燼に帰するとも、決して消え去ることのないものである。

いや、もしかしたら灰燼に帰してこそよみがえるものなのかもしれない。

(1月10日 2011年掲示板)

#### ■灰・プロセス

——ずいぶん長くなってしまい、テーマが分からなくなってしまいそうであるが、一応今何を書いているのかと言うと、一生の抱負、この二年の抱負、今日一日の抱負、一瞬後の抱負を書き、そのうちの抱負に関して<プロセス>、<一体>に関わることを書いている——

>いや、もしかしたら灰燼に帰してこそよみがえるものなのかもしれない。

「弓と禪」で阿波師範が帰国する弟子のオイゲン・ヘリゲルに弓を手渡し、

「あなたがこの弓で射る時には、名人の精神が現在していることを感じられるでしょう。この弓は決して物好きな人の手に渡さないで下さい。そしてこの弓を引きこなしてしまわれても、それを記念に保存しないで下さい。ひとかたまりの灰の外は何も残らないようにそれを葬って下さい。」

と語ったのは、そういうことを内包しているのかもしれない。この世界で目に見えるものとして表現されたものは、そのものが表現しつくされた時に姿形なきものに帰する運命にあるのかもしれない。それがこの世界の〈もの〉の本質かもしれない（また、それゆえ、先進諸国と呼ばれる国の人々がものを使い切らずにためこむというのもまたものの逆の意味での本質かもしれない。使い切れないものは灰に帰すことできないということである）。

作品にしろ、道具にしろ、行為にしろ、達成されたあかつきには、それらはその頂点で灰に返すべきものではなかろうか。以下はヘリゲル婦人の回想である。

「…彼が七十一歳も生き延びることができたということはほとんど奇蹟のように思われます。これはおそらくただあの“わたし”のない態度、忍耐と自己放棄によってのみできたことなのでしょう。晩年にはある楽しいな平静がいやまに現れてきました。彼はこの質素な隠棲の家で、幾重もの悩みがあるにもかかわらず、しごく瞑想的にまた献身的に暮らしていました——まるで、私共の考え方によりますとただいわゆる賢者だけができるような仕方で。

彼は身をもってする実例を通じて、ひとり人間が与えるすべてのものを与え続けてきました。それに反して、彼の書いたものは、彼にとってそんなに重要ではありませんでした。多くの人が期待していた著作を彼は後の世に残しませんでした。彼は草稿を焼き捨ててしまったのです。

おそらくこれは、窮極的なもの全汎性<sup>はん</sup>に対する畏敬の念からであったのでしょう。この全汎性は言葉の中に呪縛<sup>じゅばく</sup>されると体験の力を失うものなのです。またおそらくこれは言葉というもの一般が重要さのないためであったのでしょう。…」

(オイゲン・ヘリゲル著 稲富栄次郎・上田武訳「弓と禅」139 ページ 福村出版)

この回想の言葉によるのであれば、〈全汎性<sup>はん</sup>〉にふれることにより、われわれの作品、行



為の結果というものはどれほど天才的にあるいは精根使い果たして<為されたもの>であれ、それは残すべきものではないということではないだろうか。

達成された作品、行為というのは、それは常に通過点なのである。<全汎性>——それはこの世界のプロセスと知っているが——のある一側面に達し、その側面を行為し終えたならば、人はそこにしばしたたずみ、また新たなプロセスを進めるのである。このプロセスは私個人のプロセスでもあり、同時に世界のプロセスでもある。そのプロセスに参画する中で達成されたものはモノとしてのこの世界に残らずとも、達成されたのであればプロセス全体の中で常にとどまっているものなのである。なぜなら、世界(=生命=神仏)はその達成されたものを土台として次のプロセスに進んでいくからである。

(1月13日 2011年掲示板)

■<一回性だけがある世界>・<為すべき時>

人はどうしても永遠に残るモノにこだわり続ける。だから、ちょっとやそつとでは消え去らぬ立派な墓石を作るし、その墓石を守ってくれるためとして子孫の心配をするし、また、読み終えた本をいつまでも手元に残し、旅行に行けば記念に写真を残しておくし、私自身もまたこのホームページが死後も残り、いつか誰かの目にふれることを期待する。

だが、世界のモノ、出来事とは所詮一回性のものなのである。

だから、いつまでも残る何かを追い求め続けるよりも、

<今は何の時であるのか>

<その時のことを今する>

という、ただこのことだけが大切なことなのである。

グルジェフは今日することと明日することとはまるで異なると言った。今日することは今日してこそ意味があるのであり、明日しては意味がなくなるのである。

今日本棚を片付けようと思い、うっかり忘れていて、あるいは違う用事ができて、明日にのぼし、明日行こう。これは永遠の時間から見れば同じである。十年の時間から見ても同じである。同じであるが、あるところの世界では全く異なることなのである。

あるところの世界を何と表現するのは難しいが、今のテーマでいけば<一回性だけがあ

る世界>ということであり、<プロセスの世界>ということである。この世界では一回性だけがあり、同じことは何もないのである。

だからまた、いつまでも残るものなど何もないのであるが、いつまでも続くものがありそうな、この仮想世界に目をくらまされて、この仮想世界に永遠性を求めるのではなく、<一回性だけがある世界>に住み、そこで一回性だけの人生を日々送ることこそ人生の要であると考えている。

(1月14日 2011年掲示板)

こちらの世界では十年、二十年、永続するようにみえても、あちらのプロセスの世界では一回性である。

▲時・直観・小さな声・生命

一瞬後に為すことを意識していること。

<今は何の時であるのか>。

<瞑想の時>には、瞑想だけをしていること。

<食事の時>には、生命を感じながら食事だけをしていること。

<気功体操の時>には、体の動きとできる気と呼吸だけに注意を向けていること。

<NOTEの整理の時>には、内なる声だけにこころを傾け、こころを小さな声にシンクロさせること。

<宴会の時>には、ただただ闇鍋の世界を楽しむこと。一体をこころがけ一体でいることを楽しむこと。

<就寝の時>には、完全に寝ること、そして、大きな夢を見ること。

<今は何の時であるのか>。

60年間やり続けてきたこと、60年間反応してきた感情パターンをたった今変えるそういう時かもしれない。

<今は何の時であるのか>。

いつもいつも、直観、小さな声、生命の声に耳を傾けてみることである。

(1月15日 2011年掲示板)

## ■ グルジェフの時空

人間関係とは不思議である。過去にあった人間関係のシンクロシティの具体例をあげるのもよいかもしれないが、単純な驚きだけで終わるようなことをあげつらっても仕方ない。ここでは、グルジェフがとらえている人間関係、時空のとらえ方をあげておこう。

グルジェフが開いていた「」に当時まだ 11 歳の子どもであったフリッツ・ピーターズが入所してくる。グルジェフが命じた最初の仕事は芝刈りであった。まあ、それは半端な量の芝刈りではなかったのだが、その芝刈りには実はグルジェフの生命がかかっていたのである。というか、その子どもの芝刈りにグルジェフは自らの生命をかけたのである。自らの生命をかけてピーターズに約束を守ることを教えたのである。

ピーターズは芝刈りをやめざるをえない状況に追い込まれるが、自分の芝刈りがグルジェフの生命に関わるのではないかという予感がしてその芝刈りをやり遂げる。この世的には芝刈りとグルジェフの生命とは無関係に思われるが、あの世的にはしっかりと関係していたことなのである。

グルジェフは拳で卓上をもう一度叩いた。

「自分の神に約束しなければならない。」

厳粛そのものの声であった。

「何が起ころうとも、このことをすると約束しなければならない。」

「ただ約束するだけではない。」

グルジェフは繰り返して言った。

「何が起ころうとも、だれかが止めるようにと言おうとも、これをすると約束しなければならない。人生では多くのことが起こり得る。」

(フリッツ・ピーターズ著「魁偉の残像」13 ページ めるくまーる社)

芝刈りをやり遂げることと彼が自動車事故で瀕死の状態から助かることなどの関連性など誰も信じられないであろう。だが、何かをやり遂げるということは、自分自身のみならず実はこの世界へと貢献している行為なのである。グルジェフとピーターズの関係のように普通ははっきりとみえるものでないだけなのである。

(掲示板記入予定)

本を捨てるのではなく、知識を身体化し終わったということ。

本を捨てるのではなく、知識を身体化し終えることに付随して生じること。

そのものが使い切られた時に姿形なきものに帰することにより新たな表現をまた産み出す力となるのかもしれない。

伊勢神宮が20年毎に建て替えるというのももしかしたらそういうことかもしれない。

そして、オイゲン・ヘリゲルが臨終に際し妻に原稿を焼くように指示したことも、一遍上人が同様に

さらにまた、南無阿弥陀仏の一声で救われることもそういうことかもしれない。一回性だけで成り立つものがある。成就されるものがある。それは、その一回性だけでよいのである。ただ、その一回性のために人は多大な努力をせざるを得ないのである。

また、柳宗悦はさらにもっと踏み込んだ話しをしている。



灰燼に帰したからこそ新たな創造が可能となっているのかもしれない。



身体1、2、3

の身体3として生きていくこと。

■意識のある人生

印象の側面

表現の側面

どちらの場合も、この全体性への奉仕という側面から感じ、表現すること。



4～今は何の時であるか

■ハトホルの「いまだ問われざる問い」

——結論に至らずに中断したままの書き込みは数多くあるが、この「今年の抱負」だけはさすがに中断のままというわけにはいかない。結論に至るまでに書きたいことはまだまだあるが、それは後回しということで、結論の「ハトホルの書」から引用させていただく。

世に精神世界に関わる本は無数に出ている。おそらくは多くの本にわたしが役立つことが書かれているであろう。だが、それらすべての本をこの一回の人生で読み終えたとしてもそれが何になるろうか。以下は、スリ・ユクテスワが弟子のヨガナンダに語った話である。同様の読書法は、シュタイナーも勧めている。

以下、引用です。

先生はまた別の機会に、単なる読書のみの無益さを強調された。

「聖典の言葉をたくさん覚えることと理解することとは全く別だ。聖典は、一句一句じっくりと味わって身に着けるならば、靈的悟りを得るための意欲を刺激するうえに役立つが、単なる物知りになるための研究はいくら積み重ねても、なまはんかな知識と偽りの満足が得られるだけで、悟りを得るための役には立たない」

スリ・ユクテスワは、聖典の教え方に関する彼自身の体験談を語ってくれた。所は東ベンガルの森の中の僧院で、彼はそこで著名な教師ダブル・バラヴの教授法を見学した。それは一見単純ではあるがむずかしい方法で、古代のインドではふつうに行なわれていた教授法である。

ダブル・バラヴは、生徒たちを森の静かな場所に集めてすわっていた。彼らの前には、聖典バガヴァッド・ギーターが開かれていた。彼らは約三十分間、一つのページにじっと目を注いでいた。それから目を閉じた。こうしてまた三十分が過ぎた。すると先生は短い注釈をほどこした。彼らは身動きもせずに、また一時間瞑想した。そして最後に先生が言った。

「どうだ、この一節の意味がわかったかね？」

「はい、わかりました、先生」生徒の一人が答えた。

「いやいや、まだ十分にはわかっていない。これらの言葉の中には、幾世紀にもわたってインドをたえず若返らせてきた靈的活力が秘められている。それを探みなさい」

沈黙のうちにまた一時間が過ぎた。ダブル・バラヴは生徒たちを解散させると、スリ・ユ

クテスワに向かって尋ねた。

「あなたはバガヴァッド・ギーターをご存知ですか？」

「いいえ、まだほんとうには……。目と心では何度も読んだことがあります」

「この問いに対して、わたしは十人十色の答えを聞きました」

偉大な賢者は、スリ・ユクテスワを祝福しながらほほえんだ。

「聖典の表面的な言葉をただ数多く覚え込むことにのみ熱中していると、内なる真の宝を瞑想の静寂の中に探し出す余裕がなくなってしまう」

スリ・ユクテスワも自分の弟子たちを指導するにあたって、これと同様の精神集中による方法を用いた。

「英知は目によって理解されるものではなく、全身の原子に同化されるべきものだ」

先生は言われた。

「一つの真理に対する確信が、単に頭脳だけでなく自分の全存在の中に浸透したとき、はじめてその真理は自分のものになったといえる」。

先生はまた、靈的悟りを得るためにはまず多くの本を読まなければならないという一部の弟子たちの考え方を否定して言われた。」

「いにしへの聖賢たちは、一つの文章の中に、後世の学者たちが何代かかっても注釈しきれないほどの深遠な意味を含ませた。表面的な言葉だけを取り上げて、切りのない議論を続けることは鈍物のすること、このような方法から得られる進歩は遅々たるものだ。それよりも、“神が存在する”という確信、また、単純な、『神よ』とたえず語りかける気持ちこそ、よりすみやかに解脱をもたらすものだ」

しかし、このような単純さは、ひとたびそれを失った人間にとってはなかなか取り戻しがたいものである。理知偏重主義者たちは聖典を学んでも、ほとんど神とは無縁で、ただ学識がるという尊大さを身に着けるだけである。そのような学問的理解に満足を感じるのは、彼の自我意識なのである。

(パラマンハサ・ヨガナンダ著「あるヨギの自叙伝」136 ページ 森北出版)

——上述の引用にこころを動かされた方はぜひ同書をお買い求めください。4200 円と一見安くはない本ですが、二段組 524 ページの大部の本です。活字数だけからも高くはない本

です。――

ということで、以下は、一節一節の亀足の引用となる。「ハトホルの書」が聖典であるかどうかは別として、もしハトホルの言葉に感じるものがある方は、1時間とはいわないまでも読んだ後 10 分間瞑想しながら、その言葉の余韻、波動を感じて、わがもの、わが身体とすべく努められてははいかがでしょうか。

以下、引用です。

意識の領域や高次意識への可能性を探求してきたなかで、[あなたの問う質問が、あなたの受けとる答えを決定すること](#)におそらく気づかれたのではないのでしょうか。そこでこの最終章は「いまだ問われざる問い」と名付けたいと思います。答えは質問そのものに包含されていますから、もっとも得るところの大きな回答がそこにおのずと姿を現わすような的を射た質問をすることが大事です。わたしたちが人類の進化のパターンを見るかぎり、人類の大半が自分の小さな世界や欲望や願い、あるいは個人的なファンタジーの満足にはまり込んでいることは明らかです。いうなれば各人がばらばらに動いているかに見えます。したがって人々の中心的な関心事は「自分はここから何を受けとることができるか」という問いになります。

何かがあるとほとんどの場合、人が自問するのは「ここで私が得られるものは何か」というものです。そしてそれが人の最初の排除のプロセスです。むろん、なかには少数ですがこうした内的姿勢を卒業した人もおり、これには勇気づけられます。しかし、大多数の人はまだまだ多くの部分で気づきのない状態にあります。「ここで私が得られるものは何か」という問いは、ある一定の進化レベルにおいては適切な問いですが、今の人類が手のとどくところにある高次の意識レベルにおいては、あまりに偏狭であると言えるでしょう。

友であるみなさん、[いまだ問われざる問いとは、その回答があなたに最大の自由と、進化への最高の加速と、気づきの歴大な広がり、あなた自身の意識のもっとも偉大な統御をもたらすような問いのこと](#)です。生命に関するもっとも深遠で奥深い神秘への答えは、この重大な問いの中にあるのです。[その質問の文脈は、人は進みゆく大いなる生命体験の一部であるという悟りから生まれます。生命はみずからを生き、あなたを含め無数の形をとって必然的にみずからを表出させているのです。](#)

(トム・ケニオン&ヴァージニア・エッセン著「ハトホルの書」290 ページ ナチュラルスピリット刊)

(3月28日2011年掲示板)

▲人間とは質問のようなものだ。

▲魔法の質問

「これが本当のわたしだろうか」

「今、愛なら何をするだろうか」

▲四つの礎石をふまえて。

12月25日、27日 2010年

●意識のある人生～機会

人生では「自分がやりたいこと」と「与えられていること」とがあり、多くの場合、両者にへだたりがあるものである。その場合、

- 1 与えられていることは引き受けること。
- 2 受け入れ難い与えられているものに関しては、そのことが生じないように見方を変えること。

この二点を行動規範とすること。

1については、与えられていることが自分のやりたいことでなくとも自分のやりたいことに通じている可能性があるからである。

へぼ塚が夜勤の仕事をしながらペコペコ頭を下げている。。。こんなことより、ヒーリングに人生を費やしたいと思うのだが、、、この夜勤の仕事がヒーリングに関係しているということも大いにありうるのである。ヒーリングの今のレベルを越えるためには必要なのはこのころのコントロールであり、そのためにはヒーリング活動の世界でとどまっていた成長の進度が限られてしまうということもありうるのである。また、啓蒙活動のためには、地道な現場レベルの仕事をしているというのもまた大切なことである。普通の立場に立つことはいつも人が心得るべきことである。

2については、どうしても嫌だということがある。夜勤の仕事は胃潰瘍になるほど体が拒否するような仕事という場合もある。ただ、なぜかこの仕事の間において、やめるわけにはいかないという状況である。この世界のプロセス（＝道、創造主、生命）が意地悪をするわけではない。なぜか自分自身がこの仕事を引き寄せてやりたいと思っているところがあるのである。その場合、このころを変えなければならない。たとえば、、、



昼間働きたくないと思っている。  
人と接点を持つのを嫌がっている。  
ヒーリングは本当はやりたくないと思っている。  
などなどである。

わたしの場合、夜勤が1でありがたいと思うべきなのか2で改めるべきなのか、微妙なものがある。今は気持ちは1に傾いているが、これは反省すべき2について目をつぶっている可能性もある。正直なところ、まだ分からないではいる。

(12月27日2010年掲示板)

### ●呼吸

スウェデンボルグの幼時、呼吸しないで考えたこと～小さな声を聞くこと。

ヨガナンダの

#### 152～呼吸と心

この宇宙的幻を見たことは、私に多くの不滅の教訓を残してくれた。日々心をしずめることによって私は、自分が骨と肉で出来たからだそのもので、固い地面の上を右往左往しながら生きている物質的存在である、という誤った観念から解放されるようになった。私はまた、呼吸と揺れ動く心は光の海にさまざまな物質的形態の波——地球、大空、人間、鳥獣、草木——を生ぜしめる嵐のようなものであることを理解するようになった。この嵐をしずめることなしには、われわれは、無限なるものを一つの光として知覚することはできないのである。

私は、人間として持って生まれたこれら二つの動揺的要素をしずめるたびに、無数の創造物の波が光の海の中に溶け込んでゆくを見た。そのありさまはちょうど、海の嵐がしずまるときに、波がしだいに海中に没してついには完全に海と一体化して消滅するのとよく似ている。

高塚のゆるやかな呼吸に沿ったゆるやかな動き。

12月27日2010年



人生で最も多忙な半年間は、昼休みの「ユング自伝」を読むことにより、その満足感により灰となって、消えてしまった。

### ●麻雀漫画「天」

## 最終巻、要引用

12月28日2010年

### ●ヒーリング

沈黙の力を用いてヒーリングを行うこと。

沈黙の力は、

1 思いやりの集中力

2 無呼吸

から生じる。

### ●時空

発明はその視点が発明が実現可能な新たな時空全体を創り出す。

12月29日2010年

### ●意識のある人生

完全にやり終えること。

たとえば、ノートの整理にひと言たりとも残りを出さない。

下書きはその日のうちに灰とすること。

### ●日記コメントへの返信

こころの健康は大切ですね。

分かりやすいこころの病はまだいいとしたものです。

やっかいなのは、誰もそれがこころの病気だと思っていない病です。

たとえば、

人間は肉体的な死から逃れることはできない（人は死すべきものである）

食べ物を食べないと生きていけない（殺生をさけることはできない）

最も大切なものは自分取る（どうでもいいものだけを他人に与える）

それはできないと言う（自分にうそをつく）

誰でもできることを自分では決して行わずにバカにする

無価値なもの（相対的な優劣）に価値を置き争い、勝てば自慢する（価値あるもの（その人自身の絶対的なもの）を無視して隅に追いやる）

などなどです。

このような病を治すことがわたしの教室の目標ですが、本人が重病人なのでなかなかうまくいきません。

12月30日2010年、1月3日2011年

●時間

心配しないこと、それが最善。

時間は<仕事>におさまる。

■

受験は運と言われたが、それは「間違っただけ落ちることも、それが最善」ということがある。

12月31日2010年、1月3日2011年

●神の小さな声

グルジェフのいうところの良心とは、神の小さな声のことではないだろうか。

●意識のある人生～コンプレックス

仕事で5階に上がることは結構プレッシャーになっている。このコンプレックスをほどくこと、氷解させること。

逃げるのではなく、氷解させることに全力を尽くすこと。

●

煩惱はある。問題はそれをイエスと言うかどうかである。

いつも何を手に取っているかということである。

手に取らないためには、いつも何を手にしているかを知らなければならない。

●一体

仕事でも日常でも一度は完全に相手の立場に立つこと。

完全には今の自分にはありえないことであるが、一回一回可能な限り 1 ミリでも近づくことである。

●気功体操

体を作ることが最初で、  
そのあとに続くものがある。